
SEWB+/STANDARD-SUBROUTINE
標準サブルーチン
使用の手引

手引書

3020-3-725-30

HITACHI

■対象製品

- P-2651-F234 SEWB+／STANDARD - SUBROUTINE 03-01
(適用 OS : Windows 2000, Windows XP, Windows Server 2003, Windows Vista,
Windows Server 2008)
- P-9V51-FD21 SEWB+／STANDARD - SUBROUTINE 02-00
(適用 OS : RHEL AS 4 (IPF), RHEL 5 AP (IPF))
- P-9W51-FD21 SEWB+／STANDARD - SUBROUTINE (64) 02-00
(適用 OS : RHEL 5 AP (EM64T))
- P-1J51-FD21 SEWB+／STANDARD - SUBROUTINE (64) 02-00
(適用 OS : HP-UX 11i V2 (IPF), HP-UX 11i V3 (IPF))

■輸出時の注意

本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法並びに米国の輸出管理関連法規などの規制を御確認の上、必要な手続きをお取りください。

なお、御不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

■商標類

AIX は、米国における米国 International Business Machines Corp. の登録商標です。

AMD は、Advanced Micro Devices, Inc. の商標です。

HP-UX は、米国 Hewlett-Packard Company のオペレーティングシステムの名称です。

Intel、Itanium は、米国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における登録商標あるいは商標です。

Microsoft は、米国およびその他の国における米国 Microsoft Corp. の登録商標です。

PA-RISC は、米国 Hewlett-Packard Company の商標です。

Red Hat は、米国およびその他の国で Red Hat, Inc. の登録商標若しくは商標です。

UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

Windows は、米国およびその他の国における米国 Microsoft Corp. の登録商標です。

Windows Server は、米国 Microsoft Corporation の米国及びその他の国における登録商標です。

Windows Vista は、米国 Microsoft Corporation の米国及びその他の国における登録商標です。

■発行

平成 8 年 9 月 (第 1 版)	3 0 2 0 - 3 - 7 2 5 (廃版)
平成 1 9 年 8 月 (第 2 版)	3 0 2 0 - 3 - 7 2 5 - 1 0
平成 2 0 年 4 月 (第 3 版)	3 0 2 0 - 3 - 7 2 5 - 2 0
平成 2 1 年 3 月 (第 4 版)	3 0 2 0 - 3 - 7 2 5 - 3 0

■著作権

All Rights Reserved, Copyright (C) 1996, 2009, Hitachi, Ltd.

変更内容

変更内容 (3020-3-725-30) SEWB+/STANDARD-SUBROUTINE

追加・変更内容	変更箇所
Linux (EM64T), HP-UX (IPF64) 用標準サブルーチンに関する記述を追加した。	1.2.3, 1.2.4

変更内容 (3020-3-725-20) SEWB+/STANDARD-SUBROUTINE

追加・変更内容	変更箇所
Linux 用標準サブルーチンに関する記述を追加した。	1.2.2

変更内容 (3020-3-725-10) SEWB+/STANDARD-SUBROUTINE

追加・変更内容	変更箇所
EUC 対応版に関する記述を追加した。	1.2, 1.3, 2.1, 付録A
Unicode 対応版に関する記述を追加した。	1.2, 1.3, 2.1, 付録C
COBOL2002 での利用に合せ適用方法の記述を変更した。	1.3
付録Aとして, EUC 対応版の仕様に関する記述を追加した。	付録A
付録Bとして, 祝祭日・休日の有効期間に関する記述を追加した。	付録B
付録Cとして, Unicode 対応版の仕様に関する記述を追加した。	付録C

単なる誤字・脱字などは, お断りなく訂正しました。

はじめに

このマニュアルは、次に示すプログラムプロダクトの機能と使用方法について説明したものです。

P-2651-F234	SEWB+ / STANDARD - SUBROUTINE
P-9V51-FD21	SEWB+ / STANDARD - SUBROUTINE
P-9W51-FD21	SEWB+ / STANDARD - SUBROUTINE (64)
P-1J51-FD21	SEWB+ / STANDARD - SUBROUTINE (64)

■対象読者

このマニュアルは、COBOL2002 を使用したアプリケーションプログラムを作成する方を対象としています。また、COBOL の基本文法を理解していることを前提としています。

■マニュアルの構成

このマニュアルは、次に示す2つの章と付録から構成されています。

第1章 標準サブルーチンの概要

標準サブルーチンの特徴、提供形態、適用方法、分類と命名基準について説明しています。

第2章 標準サブルーチンの仕様

標準サブルーチンの一覧および仕様書を示しています。

付録A EUCコード対応版の仕様

付録B Unicode対応版の仕様

付録C 祝祭日・休日の有効期間

■関連マニュアル

このマニュアルの関連マニュアルを次に示します。必要に応じてお読みください。

- COBOL2002 操作ガイド (3020-3-D41)
- COBOL2002 ユーザーズガイド (3020-3-D42)
- COBOL2002 言語 標準仕様編 (3020-3-D44)
- COBOL2002 言語 拡張仕様編 (3020-3-D45)
- COBOL2002 操作入門 (3020-3-D46)

■マニュアル体系

SEWB+ クライアントサーバシステム開発ガイド	概	(3020-3-N83)
--------------------------	---	--------------

《リポジトリ管理》

SEWB+/REPOSITORY 運用ガイド	解手	(3020-3-N81)
SEWB+/REPOSITORY 辞書設計ガイド	手	(3020-3-N82)
Groupmax Object Server Version 6 システム管理者ガイド	解手	(3020-3-B56)
SEWB+/STANDARD-DICTIONARY 標準データ項目辞書 使用の手引	手	(3020-3-719)

《オブジェクト指向分析・設計》

SEWB+ オブジェクト指向分析・設計支援 使用の手引	手操	(3020-3-581)
-----------------------------	----	--------------

《分散オブジェクト設計支援》

SEWB+/CS - DESIGN ユーザーズガイド	手操	(3020-3-770)
----------------------------	----	--------------

《クライアントサーバシステム設計支援》

SEWB+/OLTP DEFINER ユーザーズガイド	手操	(3020-3-909)
-----------------------------	----	--------------

《アプリケーション開発》

SEWB+/CONSTRUCTION アプリケーション開発ガイド	手文	(3020-3-N84)
SEWB+/RECORD DEFINER ユーザーズガイド	手操	(3020-3-N85)
SEWB+/REPORT MANAGER ドキュメント作成支援 使用の手引	手	(3020-3-720)
SEWB+/CODE-ANALYZER ユーザーズガイド	手操	(3020-3-820)
SEWB+/CODE-DESIGN コード設計支援 使用の手引	手	(3020-3-721)
SEWB+ バッチシステム向けアプリケーションフレームワーク・部品 使用の手引	手	(3020-3-711)
SEWB+/STANDARD-SUBROUTINE 標準サブルーチン 使用の手引	手	(3020-3-725)
SEWB+ COBOL 構造化エディタ 使用の手引き	手	(3020-3-811)

〈記号〉 概：概説書
 解：解説書
 手：手引書
 文：文法書
 操：操作書

■このマニュアルでの表記

このマニュアルでは、製品名を次のように表記しています。

表記	正式名称		
Windows	Windows Server 2008	Windows Server 2008 Enterprise	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise 32-bit 日本語版
		Windows Server 2008 Standard	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard 32-bit 日本語版
	Windows Vista	Windows Vista Ultimate	Microsoft(R) Windows Vista(R) Ultimate 日本語版
		Windows Vista Enterprise	Microsoft(R) Windows Vista(R) Enterprise 日本語版
		Windows Vista Business	Microsoft(R) Windows Vista(R) Business 日本語版
	Windows Server 2003	Windows Server 2003 Standard	Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard Edition 日本語版
		Windows Server 2003 Enterprise	Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise Edition 日本語版
		Windows Server 2003 R2 Standard	Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard Edition 日本語版
		Windows Server 2003 R2 Enterprise	Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise Edition 日本語版
	Windows XP	Windows XP Home Edition	Microsoft(R) Windows(R) XP Home Edition Operating System
		Windows XP Professional	Microsoft(R) Windows(R) XP Professional Operating System
	Windows 2000	Windows 2000 Professional	Microsoft(R) Windows(R) 2000 Professional Operating System
		Windows 2000 Server	Microsoft(R) Windows(R) 2000 Server Operating System
	Linux (IPF64)	RHEL (IPF64)	RHEL AS 4 (IPF)
RHEL 5 AP (IPF)			Red Hat Enterprise Linux 5 Advanced Platform (Intel Itanium)
Linux (EM64T)	RHEL (EM64T)	RHEL 5 AP (EM64T)	Red Hat Enterprise Linux 5 Advanced Platform (AMD/Intel 64)
HP-UX	HP-UX (IPF64)		HP-UX 11i V3 (IPF)
			HP-UX 11i V2 (IPF)
IPF			Itanium(R) Processor Family

はじめに

■常用漢字以外の漢字の使用について

このマニュアルでは、常用漢字を使用することを基本としていますが、次に示す用語については、常用漢字以外の漢字を使用しています。

箇所（かしよ） 全て（すべて） 貼り付け（はりつけ） 必須（ひつす） 又は（または）

■KB（キロバイト）などの単位表記について

1KB（キロバイト），1MB（メガバイト），1GB（ギガバイト），1TB（テラバイト）はそれぞれ $1,024$ バイト， $1,024^2$ バイト， $1,024^3$ バイト， $1,024^4$ バイトです。

目次

1	標準サブルーチンの概要	1
1.1	標準サブルーチンの特徴	2
1.2	標準サブルーチンの適用方法	4
1.2.1	Windows 用標準サブルーチンの適用方法	4
1.2.2	Linux (IPF64) 用標準サブルーチンの適用方法	9
1.2.3	Linux (EM64T) 用標準サブルーチンの適用方法	13
1.2.4	HP-UX (IPF64) 用標準サブルーチンの適用方法	18
1.3	標準サブルーチンの呼び出し方法	21
1.4	標準サブルーチンの分類と命名基準	23
2	標準サブルーチンの仕様	25
2.1	標準サブルーチン一覧表	26
2.2	標準サブルーチン仕様書	33
	付録	231
	付録 A EUC 対応版の仕様	232
A.1	SJIS 対応版との処理の違い	232
A.2	インタフェーステーブルの変更	234
A.3	注意事項	234
	付録 B Unicode 対応版の仕様	235
B.1	SJIS 対応版との処理の違い	235
B.2	インタフェーステーブルの変更	237
B.3	注意事項	237
	付録 C 祝祭日・休日の有効期間	238
C.1	祝祭日・休日	238
C.2	春分の日・秋分の日	239
C.3	国民の休日	241
C.4	その他休日	241

図表目次



図 1.4-1 標準サブルーチンの命名基準

23

表

表 1.1-1 標準サブルーチンがサポートする文字コード	3
表 1.2-1 SJIS 対応版の提供形態	4
表 1.2-2 EUC 対応版の提供形態	5
表 1.2-3 Unicode 対応版の提供形態	5
表 1.2-4 コンパイルオプションとリンク対象ライブラリファイルとの対応	8
表 1.2-5 Linux (IPF64) 用標準サブルーチンの提供形態	9
表 1.2-6 lib ディレクトリの内容	9
表 1.2-7 コンパイルオプションとリンク対象ライブラリファイルとの対応	11
表 1.2-8 Linux (EM64T) 用標準サブルーチンの提供形態	13
表 1.2-9 lib ディレクトリの内容	14
表 1.2-10 コンパイルオプションとリンク対象ライブラリファイルとの対応 (シングルスレッド対応ライブラリの場合)	16
表 1.2-11 コンパイルオプションとリンク対象ライブラリファイルとの対応 (マルチスレッド対応ライブラリの場合)	17
表 1.2-12 HP-UX (IPF64) 用標準サブルーチンの提供形態	18
表 1.2-13 lib ディレクトリの内容	18
表 1.2-14 コンパイルオプションとリンク対象ライブラリファイルとの対応	20
表 1.4-1 標準サブルーチンの分類	23
表 2.1-1 文字列チェック／編集サブルーチン	26
表 2.1-2 漢字チェック／編集サブルーチン	27
表 2.1-3 文字列コード変換サブルーチン	27
表 2.1-4 日付チェック／編集サブルーチン(1)	28
表 2.1-5 日付チェック／編集サブルーチン(2)	29
表 2.1-6 日付チェック／編集サブルーチン(3)	29
表 2.1-7 日付チェック／編集サブルーチン(4)	30
表 2.1-8 時間チェック／編集サブルーチン	31
表 2.1-9 項目チェック／編集サブルーチン	31
表 2.1-10 コードチェック／編集サブルーチン	32
表 2.1-11 その他の変換編集サブルーチン	32
表 2.2-1 標準サブルーチン仕様書の記載内容	33
表 A.1-1 文字コードチェックの範囲	232
表 A.1-2 長さを入力するサブルーチン	233
表 A.1-3 長さを出力するサブルーチン	233
表 A.2-1 インタフェーステーブルを変更したサブルーチン	234
表 B.1-1 属性別の符号化方式	235
表 B.1-2 文字コードチェックの範囲	235
表 B.1-3 長さを入力するサブルーチン	236
表 B.1-4 長さを出力するサブルーチン	236
表 B.2-1 インタフェーステーブルを変更したサブルーチン	237
表 C.1-1 祝祭日・休日の有効期間	238
表 C.2-1 サブルーチンが保持する春分の日	239
表 C.2-2 サブルーチンが保持する秋分の日	240

目次

表 C.3-1 9月の「国民の休日」	241
表 C.4-1 その他休日	241

1 標準サブルーチンの概要

標準サブルーチンは、データ項目単位のチェック処理、入力編集処理、出力編集処理を行う COBOL 外部サブルーチンです。

この章では、標準サブルーチンの特徴、適用方法、呼び出し方法、分類と命名基準について説明します。

1.1 標準サブルーチンの特徴

1.2 標準サブルーチンの適用方法

1.3 標準サブルーチンの呼び出し方法

1.4 標準サブルーチンの分類と命名基準

1. 標準サブルーチンの概要

1.1 標準サブルーチンの特徴

標準サブルーチンの特徴は以下の通りです。

(1) 標準データ項目に対する処理を行う部品（COBOL外部サブルーチン）の提供

データ項目に対応するチェック処理，入力編集処理，出力編集処理を COBOL 外部サブルーチンとして提供しています。これらを利用することでサブルーチンの設計・製造の手間を省くことができ，さらには単体テスト工程からサブルーチンを連動してテストすることができます。これにより，プログラム開発の生産性および品質を向上できます。

(2) プラットフォーム間で互換性のあるサブルーチンの提供

プラットフォームによる差異（文字コードやエンディアンの違い，機能キャラクタの有無）を吸収した形で COBOL 外部サブルーチンを提供しています。したがって，開発環境が PC で，実行環境が VOS3 という場合でも，容易に移行することができます。標準サブルーチンが対応しているプラットフォームを以下に示します。

①PC

Windows Server 2008, Windows Vista, Windows Server 2003, Windows XP,
Windows 2000

②UNIX

HI-UX/WE2, HP-UX 11i, HP-UX 11i V2, HP-UX 11i V3, AIX 5L, AIX 6.1,
RHEL 4 AS, RHEL 5 AP

③VOS3

VOS3

標準サブルーチンがサポートしている文字コードの一覧を表 1.1-1に示します。

表 1.1-1 標準サブルーチンがサポートする文字コード

型名	プラットフォーム	文字コード			
		KEIS	EUC	SJIS	Unicode
C-174R-010	VOS3	○	×	×	×
P-1651-F21	HI-UX/WE2	×	○	○	×
P-2651-F234	Windows	×	○	○	○
P-9V51-FD21	Linux (IPF64)	×	○	×	×
P-9W51-FD21	Linux (EM64T)	×	×	×	○
P-1B51-FC21	HP-UX (PA-RISC)	×	○	○	×
P-1J51-FC21	HP-UX (IPF32)	×	○	○	×
P-1J51-FD21	HP-UX (IPF64)	×	○	○	×
P-1M51-FC21	AIX	×	○	○	×

(3) データ中心アプローチに基づく部品化・再利用の推進

データ項目単位に処理を行うように設計してあるので、データ中心アプローチに基づく部品化・再利用を推進できます。

1. 標準サブルーチンの概要

1.2 標準サブルーチンの適用方法

1.2.1 Windows用標準サブルーチンの適用方法

■提供形態

Windows 用標準サブルーチンは、SJIS 対応版と EUC 対応版ではそれぞれにビッグエンディアン形式用 (WS 版) とリトルエンディアン形式用 (PC 版)、ライブラリファイル形式と DLL 形式の 4 種類が提供されます。また、Unicode 対応版では文字データとバイナリデータのエンディアンの組み合わせにより、ライブラリファイル形式と DLL 形式についてそれぞれ 4 種類 (全 8 種類) のライブラリが提供されます。これらを正しく使い分けないと、サブルーチンが正常に動作しない場合がありますので、ご注意ください。

表 1.2-1 ~ 表 1.2-3 にそれぞれの提供形態を示します。なお、各ライブラリは以下の場所を基点に格納されています。

(インストールパスは C:\Program Files\Hitachi\SEWB+STD_SUB とする)

SJIS 対応版 : C:\Program Files\Hitachi\SEWB+STD_SUB

EUC 対応版 : C:\Program Files\Hitachi\SEWB+STD_SUB\EUC

Unicode 対応版 : C:\Program Files\Hitachi\SEWB+STD_SUB\UNICODE

なお、各ライブラリにある JIS 規格版では、実在日チェック (和暦) [LXRPID02]、年月日変換 (西暦→和暦) [LXRPID05]において各年号の期間が異なります。年号の詳細な期間については、2.1 の標準サブルーチンの仕様書を参照してください。

表 1.2-1 SJIS 対応版の提供形態

格納場所	構成物	提供形態
└─COPY	コピークローズ	テキストファイル
└─BIG └─BIN └─LIB	ビッグエンディアン形式のライブラリ	ライブラリファイル
└─JISBIN └─JISLIB	上記の JIS 規格版	
└─LITTLE └─BIN └─LIB	リトルエンディアン形式のライブラリ	DLL
└─JISBIN └─JISLIB	上記の JIS 規格版	

表 1.2-2 EUC 対応版の提供形態

格納場所	構成物	提供形態
EUC ├─COPY	コピークローズ (EUC エンコード)	テキストファイル
└─CopySjis	コピークローズ (SJIS エンコード) ※	
├─BIG │ ├─BIN │ └─LIB	ビッグエンディアン形式のライブラリ	ライブラリファイル
└─JISBIN └─JISLIB	上記の JIS 規格版	
└─LITTLE │ ├─BIN │ └─LIB	リトルエンディアン形式のライブラリ	
└─JISBIN └─JISLIB	上記の JIS 規格版	
		DLL

※ COBOL エディタでの参照用でコンパイルには利用しません。

表 1.2-3 Unicode 対応版の提供形態

格納場所	構成物	提供形態
UNICODE ├─COPY	コピークローズ	テキストファイル
├─UNI_BIG │ ├─BIG │ │ ├─BIN │ │ └─LIB	文字データ、バイナリデータが共にビッグエンディアン形式のライブラリ	ライブラリファイル
└─JISBIN └─JISLIB	上記の JIS 規格版	
├─LITTLE │ ├─BIN │ └─LIB	文字データがビッグ、バイナリデータがリトルエンディアン形式のライブラリ	
└─JISBIN └─JISLIB	上記の JIS 規格版	
└─UNI_LITTLE │ ├─BIG │ │ ├─BIN │ │ └─LIB	文字データがリトル、バイナリデータがビッグエンディアン形式のライブラリ	DLL
└─JISBIN └─JISLIB	上記の JIS 規格版	
├─LITTLE │ ├─BIN │ └─LIB	文字データ、バイナリデータが共にリトルエンディアン形式のライブラリ	
└─JISBIN └─JISLIB	上記の JIS 規格版	

(a) コピークローズ

標準サブルーチンのインタフェーステーブルが記述されています。標準サブルーチンを使用して作成したプログラムをコンパイルするときに使用します。

1. 標準サブルーチンの概要

(b) ビッグエンディアン形式のライブラリ

標準サブルーチンを使用して作成したプログラムを、ビッグエンディアン環境で実行するときに使用します。

(c) リトルエンディアン形式のライブラリ

標準サブルーチンを使用して作成したプログラムを、リトルエンディアン環境で実行するときに使用します。

(d) 文字データ、バイナリデータ (Unicode 対応版のみ)

ここでの文字データとは日本語文字列定数、バイナリデータとは2進および浮動小数点のデータ項目を示します。文字データおよびバイナリデータの形式は、コンパイラオプションの使用によって変わります。詳細は1.2.1(3)を参照してください。

■適用方法

Windows 用標準サブルーチンを使用してユーザアプリケーションプログラムを作成する手順を以下に示します。

(1) 前提条件

Windows 用標準サブルーチンで Unicode 対応版を利用する場合、下記に示すプログラムプロダクトのうちいずれか1つが必要となります。

- ・日立コード変換 - Server Runtime (02-01 以降)
- ・日立コード変換 - Client Runtime (02-01 以降)

(2) 環境変数の設定

(a) PATH, LIB

環境変数 PATH に標準サブルーチンの DLL 格納パス、環境変数 LIB に標準サブルーチンのスタティックライブラリ及び、インポートライブラリの格納パスを追加する必要があります。格納パスについては、インストール時にユーザが任意に決定できるので、インストールした場所を指定してください。追加する環境変数の例を以下に示します。

(例1) SJIS 対応版ビッグエンディアン形式のライブラリを使用する場合

(格納パスは C:\Program Files\Hitachi\SEWB+STD_SUB\)

PATH=%PATH%;C:\Program Files\Hitachi\SEWB+STD_SUB\BIG\BIN

LIB=%LIB%;C:\Program Files\Hitachi\SEWB+STD_SUB\BIG\LIB

(例2) EUC 対応版リトルエンディアン形式のライブラリを使用する場合
(格納パスは C:¥Program Files¥Hitachi¥SEWB+STD_SUB¥)
PATH=%PATH%;C:¥Program Files¥Hitachi¥SEWB+STD_SUB¥EUC¥LITTLE¥BIN
LIB=%LIB%;C:¥Program Files¥Hitachi¥SEWB+STD_SUB¥EUC¥LITTLE¥LIB

(b) CBLLIB

環境変数 CBLLIB に標準サブルーチンのインタフェーステーブル格納パスを設定する必要があります。したがって、CBLLIB に追加するパスは、そのインタフェーステーブルを格納した場所ということになります。

(例) SJIS 対応版を使用する場合
(格納パスは C:¥Program Files¥Hitachi¥SEWB+STD_SUB¥)
CBLLIB=%CBLLIB%;C:¥Program Files¥Hitachi¥SEWB+STD_SUB¥COPY

(c) CBLLANG, CBLUNIENDIAN

EUC 対応版, または Unicode 対応版を使用する場合は, それぞれ環境変数 CBLLANG に 'EUCHJ', または 'UNICODE' を設定する必要があります。さらに, Unicode 対応版を使用する場合は, 環境変数 CBLUNIENDIAN に 'BIG', または 'LITTLE' を指定する必要があります。

(例1) EUC 対応版の場合
CBLLANG=EUCHJ

(例2) Unicode 対応版 (文字データがリトルエンディアン形式) の場合
CBLLANG=UNICODE
CBLUNIENDIAN=LITTLE

(3) コンパイル・リンケージ

(a) コンパイル

「開発マネージャ for COBOL2002」を使用して, メニューから [ビルド]-[ビルド] をクリックしてコンパイル及び, リンケージを行います。

なお, コンパイルオプションの設定方法については, マニュアル「COBOL2002 操作入門」(資料番号 3020-3-D46), 「COBOL2002 操作ガイド」(資料番号 3020-3-D41) をご参照ください。また, Unicode 対応版をご利用の場合は, マニュアル「COBOL2002 ユーザーズガイド(28章)」(資料番号 3020-3-D42) もあわせてご参照ください。

ユーザアプリケーションでのコンパイルオプションの使用の有無によって, リンクの対象となる標準サブルーチンのライブラリファイルが変わります。使用するコンパイルオプションと, リンクの対象となるライブラリファイルの対応を表 1.2-4 に示

1.2.2 Linux(IPF64)用標準サブルーチンの適用方法

■提供形態

Linux(IPF64)用標準サブルーチンは、シングルスレッド対応用とマルチスレッド対応用、ビッグエンディアン形式用とリトルエンディアン形式用、アーカイブ形式と共用ライブラリ形式の8種類が提供されます。

これらを正しく使い分けないと、サブルーチンが正常に動作しない場合がありますので、ご注意ください。

なお、各ライブラリにある JIS 規格版では、実在日チェック（和暦）[LXRPID02]、年月日変換（西暦→和暦）[LXRPID05]において各年号の期間が異なります。年号の詳細な期間については、2.1の標準サブルーチンの仕様書を参照してください。

表 1.2-5～表 1.2-6 に EUC 対応版の提供形態を示します。

表 1.2-5 Linux(IPF64)用標準サブルーチンの提供形態

格納場所	構成物	提供形態
/opt/SEWB64		
├─ja_JP.eucJP │ ┌─COMMON │ └─RTSP └─Cbl_Source	コピークローズ	テキストファイル
├─lib	シングルスレッド対応ライブラリ	表 1.2-6を参照
└─mthread └─lib	マルチスレッド対応ライブラリ	

表 1.2-6 lib ディレクトリの内容

	規格	バイナリデータ形式	ライブラリ形式
libLxEucSB.a	標準版	ビッグエンディアン形式	アーカイブ形式
libLxEucSB.so			共用ライブラリ形式
libLxEucSL.a		リトルエンディアン形式	アーカイブ形式
libLxEucSL.so			共用ライブラリ形式
libLxEucJB.a	JIS 規格版	ビッグエンディアン形式	アーカイブ形式
libLxEucJB.so			共用ライブラリ形式
libLxEucJL.a		リトルエンディアン形式	アーカイブ形式
libLxEucJL.so			共用ライブラリ形式

(a) コピークローズ

標準サブルーチンのインタフェーステーブルが記述されています。標準サブルーチンを使用して作成したプログラムをコンパイルするときに使用します。

1. 標準サブルーチンの概要

- (b) シングルスレッド対応ライブラリ
シングルスレッド対応プログラムで標準サブルーチンを使用するときに使用します。
- (c) マルチスレッド対応ライブラリ
マルチスレッド対応プログラムで標準サブルーチンを使用するときに使用します。
- (d) ビッグエンディアン形式のライブラリ
標準サブルーチンを使用して作成したプログラムを、ビッグエンディアン環境で実行するときに使用します。
- (e) リトルエンディアン形式のライブラリ
標準サブルーチンを使用して作成したプログラムを、リトルエンディアン環境で実行するときに使用します。

■適用方法

Linux (IPF64) 用標準サブルーチンを使用してユーザアプリケーションプログラムを作成する手順を以下に示します。

(1) 環境変数の設定

- (a) PATH, LD_LIBRARY_PATH

環境変数 PATH 及び LD_LIBRARY_PATH に標準サブルーチンのライブラリの格納パスを追加する必要があります。sh (B シェル) を例に、環境変数の設定例を以下に示します。

(例 1) シングルスレッド対応版ライブラリを使用する場合

```
PATH=${PATH}:/opt/SEWB64/lib
LD_LIBRARY_PATH=${LD_LIBRARY_PATH}:/opt/SEWB64/lib
export PATH LD_LIBRARY_PATH
```

(例 2) マルチスレッド対応版ライブラリを使用する場合

```
PATH=${PATH}:/opt/SEWB64/mthread/lib
LD_LIBRARY_PATH=${LD_LIBRARY_PATH}:/opt/SEWB64/mthread/lib
export PATH LD_LIBRARY_PATH
```

- (b) CBLIB

環境変数 CBLIB に標準サブルーチンのインタフェーステーブル格納パスを設定する必要があります。

(例) EUC 対応版を使用する場合

```
CBLLIB=${CBLLIB}:/opt/SEWB64/ja_JP.eucJP/COMMON/RTSP/Cbl_Source
export CBLLIB
```

(c) LANG

環境変数 LANG に使用するロケールを設定する必要があります。

(例) EUC 対応版を使用する場合

```
LANG=ja_JP.eucJP
export LANG
```

(2) コンパイル・リンケージ

ccbl2002 または ccb1 コマンドを使用して、コンパイル及びリンケージを行います。コンパイルオプションの設定方法については、マニュアル「COBOL2002 使用の手引 手引編」(資料番号 3000-3-D42) をご参照ください。

ユーザアプリケーションでのコンパイルオプションの使用の有無によって、リンクの対象となる標準サブルーチンのライブラリファイルが変わります。使用するコンパイルオプションと、リンクの対象となるライブラリファイルの対応を表 1.2-7 に示します。各コンパイルオプションの機能につきましては、上記マニュアルをご参照ください。

表 1.2-7 コンパイルオプションとリンク対象ライブラリファイルとの対応

オプション名	シングルスレッド				マルチスレッド			
	BIG		LITTLE		BIG		LITTLE	
	.a	.so	.a	.so	.a	.so	.a	.so
-DynamicLink, IdentCall または -DynamicLink, Call	×	○	×	○	×	○	×	○
-BigEndian, Bin	○	○	×	×	○	○	×	×
-BigEndian, Float	○	○	×	×	○	○	×	×
-MultiThread	×	×	×	×	○	○	○	○
-lpthread	×	×	×	×	○	○	○	○

※ ○ : 指定する × : 指定しない 空白 : 問わない

1. 標準サブルーチンの概要

コンパイルオプションの指定例を以下に示します。

(例) シングルスレッド対応版, ビッグエンディアン形式のアーカイブ形式ライブラリを使用する場合

```
ccbl2002 -BigEndian, Bin -BigEndian, Float -OutputFile ABC ABC.o  
-L/opt/SEWB64/lib -Link, -Bstatic -lxEucSB -Link, -Bdynamic
```

(例) シングルスレッド対応版, ビッグエンディアン形式の共有ライブラリを使用する場合

```
ccbl2002 -DynamicLink, IdentCall -BigEndian, Bin -BigEndian, Float  
-OutputFile ABC ABC.o -L/opt/SEWB64/lib -lxEucSB
```


1.2.3 Linux(EM64T)用標準サブルーチンの適用方法

■提供形態

Linux(EM64T)用標準サブルーチンは、シングルスレッド対応用とマルチスレッド対応用、アーカイブ形式と共用ライブラリ形式、および文字データとバイナリデータのエンディアンの組み合わせにより、全16種類のライブラリが提供されます。

これらを正しく使い分けないと、サブルーチンが正常に動作しない場合がありますので、ご注意ください。

なお、各ライブラリにある JIS 規格版では、実在日チェック（和暦）[LXRPID02]、年月日変換（西暦→和暦）[LXRPID05]において各年号の期間が異なります。年号の詳細な期間については、2.1の標準サブルーチンの仕様書を参照してください。

表 1.2-8～表 1.2-9に Unicode 対応版の提供形態を示します。

表 1.2-8 Linux(EM64T)用標準サブルーチンの提供形態

格納場所	構成物	提供形態
/opt/SEWB64		
—ja_JP.UTF-8 —COMMON —RTSP —Cbl_Source	コピークローズ	テキストファイル
—lib	シングルスレッド対応ライブラリ	表 1.2-9を参照
—mthread —lib	マルチスレッド対応ライブラリ	

1. 標準サブルーチンの概要

表 1.2-9 lib ディレクトリの内容

	形式	ライブラリ形式
libLxUniBSB.a	文字データ、バイナリデータが共にビッグエンディアン形式のライブラリ	アーカイブ形式
libLxUniBSB.so		共用ライブラリ形式
libLxUniBJB.a	上記の JIS 規格版	アーカイブ形式
libLxUniBJB.so		共用ライブラリ形式
libLxUniBSL.a	文字データがビッグ、バイナリデータがリトルエンディアン形式のライブラリ	アーカイブ形式
libLxUniBSL.so		共用ライブラリ形式
libLxUniBJL.a	上記の JIS 規格版	アーカイブ形式
libLxUniBJL.so		共用ライブラリ形式
libLxUniLSB.a	文字データがリトル、バイナリデータがビッグエンディアン形式のライブラリ	アーカイブ形式
libLxUniLSB.so		共用ライブラリ形式
libLxUniLJB.a	上記の JIS 規格版	アーカイブ形式
libLxUniLJB.so		共用ライブラリ形式
libLxUniLSL.a	文字データ、バイナリデータが共にリトルエンディアン形式のライブラリ	アーカイブ形式
libLxUniLSL.so		共用ライブラリ形式
libLxUniLJL.a	上記の JIS 規格版	アーカイブ形式
libLxUniLJL.so		共用ライブラリ形式

(a) コピークローズ

標準サブルーチンのインタフェーステーブルが記述されています。標準サブルーチンを使用して作成したプログラムをコンパイルするときに使用します。

(b) シングルスレッド対応ライブラリ

シングルスレッド対応プログラムで標準サブルーチンを使用するときに使用します。

(c) マルチスレッド対応ライブラリ

マルチスレッド対応プログラムで標準サブルーチンを使用するときに使用します。

(d) ビッグエンディアン形式のライブラリ

標準サブルーチンを使用して作成したプログラムを、ビッグエンディアン環境で実行するときに使用します。

(e) リトルエンディアン形式のライブラリ

標準サブルーチンを使用して作成したプログラムを、リトルエンディアン環境で実行するときに使用します。

(f) 文字データ、バイナリデータ

ここでの文字データとは日本語文字列定数、バイナリデータとは2進および浮動小数点のデータ項目を示します。文字データおよびバイナリデータの形式は、コンパイルオプションの使用によって変わります。詳細は1.2.3(3)を参照してください。

■適用方法

Linux(EM64T)用標準サブルーチンを使用してユーザアプリケーションプログラムを作成する手順を以下に示します。

(1) 前提条件

Linux(EM64T)用標準サブルーチンで Unicode 対応版を利用する場合、下記に示すプログラムプロダクトが必要となります。

- ・日立コード変換 - Runtime(64) (02-05 以降)

(2) 環境変数の設定

(a) PATH, LD_LIBRARY_PATH

環境変数 PATH 及び LD_LIBRARY_PATH に標準サブルーチンのライブラリの格納パスを追加する必要があります。sh(B シェル)を例に、環境変数の設定例を以下に示します。

(例1) シングルスレッド対応版ライブラリを使用する場合

```
PATH=${PATH}:/opt/SEWB64/lib
LD_LIBRARY_PATH=${LD_LIBRARY_PATH}:/opt/SEWB64/lib
export PATH LD_LIBRARY_PATH
```

(例2) マルチスレッド対応版ライブラリを使用する場合

```
PATH=${PATH}:/opt/SEWB64/mthread/lib
LD_LIBRARY_PATH=${LD_LIBRARY_PATH}:/opt/SEWB64/mthread/lib
export PATH LD_LIBRARY_PATH
```

(b) CBLLIB

環境変数 CBLLIB に標準サブルーチンのインタフェーステーブル格納パスを設定する必要があります。

(例) Unicode 対応版を使用する場合

```
CBLLIB=${CBLLIB}:/opt/SEWB64/ja_JP.UTF-8/COMMON/RTSP/Cbl_Source
export CBLLIB
```

(c) LANG

環境変数 LANG に使用するロケールを設定する必要があります。

(例) Unicode 対応版を使用する場合

```
LANG=ja_JP.UTF-8
export LANG
```

1. 標準サブルーチンの概要

(d) CBLLANG, CBLUNIENDIAN

Unicode 対応版を使用する場合は、環境変数 CBLLANG に'UNICODE'を設定し、さらに、環境変数 CBLUNIENDIAN に'BIG', または'LITTLE'を指定する必要があります。

(例) Unicode 対応版 (文字データがリトルエンディアン形式) を使用する場合

```
CBLLANG=UNICODE
export CBLLANG
CBLUNIENDIAN=LITTLE
export CBLUNIENDIAN
```

(3) コンパイル・リンケージ

ccbl2002 コマンドを使用して、コンパイル及びリンケージを行います。コンパイルオプションの設定方法については、マニュアル「COBOL2002 使用の手引 手引編」(資料番号 3000-3-D42)をご参照ください。

ユーザアプリケーションでのコンパイルオプションの使用の有無によって、リンクの対象となる標準サブルーチンのライブラリファイルが変わります。使用するコンパイルオプションと、リンクの対象となるライブラリファイルの対応を表 1.2-10～表 1.2-11に示します。各コンパイルオプションの機能につきましては、上記マニュアルをご参照ください。

表 1.2-10 コンパイルオプションとリンク対象ライブラリファイルとの対応
(シングルスレッド対応ライブラリの場合)

オプション名	UNI_BIG				UNI_LITTLE			
	BIG		LITTLE		BIG		LITTLE	
	.a	.so	.a	.so	.a	.so	.a	.so
-DynamicLink, IdentCall または -DynamicLink, Call	×	○	×	○	×	○	×	○
-UniObjGen	○	○	○	○	○	○	○	○
-UniEndian, Big	○	○	○	○	×	×	×	×
-UniEndian, Little	×	×	×	×	○	○	○	○
-BigEndian, Bin	○	○	×	×	○	○	×	×
-BigEndian, Float	○	○	×	×	○	○	×	×

※ ○ : 指定する × : 指定しない 空白 : 問わない

UNI_BIG : 文字データがビッグエンディアン UNI_LITTLE : 文字データがリトルエンディアン
BIG : バイナリデータがビッグエンディアン LITTLE : バイナリデータがリトルエンディアン

表 1.2-11 コンパイルオプションとリンク対象ライブラリファイルとの対応
(マルチスレッド対応ライブラリの場合)

オプション名	UNI_BIG				UNI_LITTLE			
	BIG		LITTLE		BIG		LITTLE	
	.a	.so	.a	.so	.a	.so	.a	.so
-DynamicLink, IdentCall または -DynamicLink, Call	×	○	×	○	×	○	×	○
-UniObjGen	○	○	○	○	○	○	○	○
-UniEndian, Big	○	○	○	○	×	×	×	×
-UniEndian, Little	×	×	×	×	○	○	○	○
-BigEndian, Bin	○	○	×	×	○	○	×	×
-BigEndian, Float	○	○	×	×	○	○	×	×
-MultiThread	○	○	○	○	○	○	○	○
-lpthread	○	○	○	○	○	○	○	○

※ ○：指定する ×：指定しない 空白：問わない

UNI_BIG：文字データがビッグエンディアン UNI_LITTLE：文字データがリトルエンディアン

BIG：バイナリデータがビッグエンディアン LITTLE：バイナリデータがリトルエンディアン

コンパイルオプションの指定例を以下に示します。

(例) シングルスレッド対応版，文字データがリトル，バイナリデータがビッグエンディアン形式のアーカイブ形式ライブラリを使用する場合

```
ccbl2002 -UniObjGen -UniEndian, Little -BigEndian, Bin -BigEndian, Float
-OutputFile ABC ABC.o -L/opt/SEWB64/lib -Link, -Bstatic
-lLxUniLSB -Link, -Bdynamic
```

(例) シングルスレッド対応版，文字データがリトル，バイナリデータがビッグエンディアン形式の共有ライブラリを使用する場合

```
ccbl2002 -DynamicLink, IdentCall -UniObjGen -UniEndian, Little
-BigEndian, Bin -BigEndian, Float -OutputFile ABC ABC.o
-L/opt/SEWB64/lib -lLxUniLSB
```

1. 標準サブルーチンの概要

1.2.4 HP-UX (IPF64) 用標準サブルーチンの適用方法

■提供形態

HP-UX (IPF64) 用標準サブルーチンは、SJIS 対応版と EUC 対応版の 2 種類が提供されます。

これらを正しく使い分けないと、サブルーチンが正常に動作しない場合がありますので、ご注意ください。

なお、各ライブラリにある JIS 規格版では、実在日チェック（和暦）[LXRPID02]、年月日変換（西暦→和暦）[LXRPID05]において各年号の期間が異なります。年号の詳細な期間については、2.1 の標準サブルーチンの仕様書を参照してください。

表 1.2-12～表 1.2-13に提供形態を示します。

表 1.2-12 HP-UX (IPF64) 用標準サブルーチンの提供形態

格納場所	構成物	提供形態
/opt/SEWB64		
├─ja_JP.SJIS ┌─COMMON ┌─RTSP └─Cbl_Source	SJIS 対応版のコピークローズ	テキストファイル
├─ja_JP.eucJP ┌─COMMON ┌─RTSP └─Cbl_Source	EUC 対応版のコピークローズ	テキストファイル
└─lib	シングルスレッド対応ライブラリ	表 1.2-13を参照

表 1.2-13 lib ディレクトリの内容

	文字コード形式	規格	ライブラリ形式
libLx2000.a	SJIS	標準版	アーカイブ形式
libLx2000.so			共用ライブラリ形式
libLxJIS.a		JIS 規格版	アーカイブ形式
libLxJIS.so			共用ライブラリ形式
libLxeuc2000.a	EUC	標準版	アーカイブ形式
libLxeuc2000.so			共用ライブラリ形式
libLxeucJIS.a		JIS 規格版	アーカイブ形式
libLxeucJIS.so			共用ライブラリ形式

(a) コピークローズ

標準サブルーチンのインタフェーステーブルが記述されています。標準サブルーチンを使用して作成したプログラムをコンパイルするときに使用します。

■適用方法

HP-UX (IPF64) 用標準サブルーチンを使用してユーザアプリケーションプログラムを作成する手順を以下に示します。

(1) 環境変数の設定

(a) PATH, LIBPATH

環境変数 PATH 及び LIBPATH に標準サブルーチンのライブラリの格納パスを追加する必要があります。sh (B シェル) を例に、環境変数の設定例を以下に示します。

(例) シングルスレッド対応版ライブラリを使用する場合

```
PATH=${PATH}:/opt/SEWB64/lib
LIBPATH=${LIBPATH}:/opt/SEWB64/lib
export PATH LIBPATH
```

(b) CBLLIB

環境変数 CBLLIB に標準サブルーチンのインタフェーステーブル格納パスを設定する必要があります。

(例) SJIS 対応版を使用する場合

```
CBLLIB=${CBLLIB}:/opt/SEWB64/ja_JP.SJIS/COMMON/RTSP/Cb1_Source
export CBLLIB
```

(c) LANG

環境変数 LANG に使用するロケールを設定する必要があります。

(例) SJIS 対応版を使用する場合

```
LANG=ja_JP.SJIS
export LANG
```

(2) コンパイル・リンケージ

ccb12002 または ccb1 コマンドを使用して、コンパイル及びリンケージを行います。コンパイルオプションの設定方法については、マニュアル「COBOL2002 使用の手引 手引編」(資料番号 3000-3-D42) をご参照ください。

ユーザアプリケーションでのコンパイルオプションの使用の有無によって、リンクの対象となる標準サブルーチンのライブラリファイルが変わります。使用するコンパイルオプションと、リンクの対象となるライブラリファイルの対応を表 1.2-14 に示します。各コンパイルオプションの機能につきましては、上記マニュアルをご参照ください。

1. 標準サブルーチンの概要

表 1.2-14 コンパイルオプションとリンク対象ライブラリファイルとの対応

オプション名	. a	. so
-DynamicLink, IdentCall または -DynamicLink, Call	×	○

※ ○：指定する ×：指定しない 空白：問わない

コンパイルオプションの指定例を以下に示します。

(例) SJIS 対応版のアーカイブ形式ライブラリを使用する場合

```
ccbl2002 -OutputFile ABC ABC.o -L/opt/SEWB64/lib -Link, -a, archive  
-lLx2000 -Link, -a, shared
```

(例) SJIS 対応版の共有ライブラリを使用する場合

```
ccbl2002 -DynamicLink, IdentCall -OutputFile ABC ABC.o -L/opt/SEWB64/lib  
-lLx2000
```


1.3 標準サブルーチンの呼び出し方法

標準サブルーチンの呼び出しをソースプログラム中に直接コーディングする場合は、以下のように記述してください。

(WORKING-STORAGE SECTION に)

```
COPY インタフェースID PREFIXING プレフィックス-
```

(PROCEDURE DIVISION に)

```
MOVE ..... TO プレフィックス-I-xxx
```

```
MOVE ..... TO プレフィックス-I-yyy
```

```
:
```

```
CALL 'サブルーチンID' USING プレフィックス-TBL
```

```
IF プレフィックス-O-RTN-CD = SPACE
```

```
THEN
```

```
MOVE プレフィックス-O-zzz TO .....
```

```
:
```

(例) 年月日変換 (西暦→和暦) (LXRPID05) を呼び出す場合

(WORKING-STORAGE SECTION に)

```
COPY LXRCID05 PREFIXING D05-
```

(PROCEDURE DIVISION に)

```
MOVE ..... TO D05-I-YMD
```

```
CALL 'LXRPID05' USING D05-TBL
```

```
IF D05-O-RTN-CD = SPACE
```

```
THEN
```

```
MOVE D05-O-YMDWA TO .....
```

```
:
```

標準サブルーチンの呼び出しに関しては以下の点に注意して記述してください。

- 提供しているインタフェーステーブル以外を使用して呼び出した場合、あるいはインタフェーステーブルの 01 レベルの項目名 (プレフィックス-TBL) 以外に引数を指定した場合、結果は保証しません。

1. 標準サブルーチンの概要

(例1) 不正な利用例：提供しているインタフェーステーブル以外を使用した場合
(WORKING-STORAGE SECTION に)

```
COPY LXRCIX99 PREFIXING X99-.
```

(PROCEDURE DIVISION に)

```
CALL 'LXRPID01' USING X99-TBL.
```

(例2) 不正な利用例：01 レベル以外の項目名を引数に使用した場合
(WORKING-STORAGE SECTION に)

```
COPY LXRCID05 PREFIXING D05-.
```

(PROCEDURE DIVISION に)

```
MOVE ..... TO D05-I-YY
```

```
CALL 'LXRPID05' USING D05-I-YY.
```

:

- 提供しているインタフェーステーブルの 01 レベルの項目名は全て 'TBL' なので、標準サブルーチンを2つ以上使うときは、COPY 文に異なるプレフィックスを指定してください。

1.4 標準サブルーチンの分類と命名基準

標準サブルーチンの分類を表 1.4-1 に示します。

表 1.4-1 標準サブルーチンの分類

分類	分類コード	機能
文字列チェック／編集	A	半角の文字列に対するチェック，編集処理
漢字チェック／編集	B	全角の文字列に対するチェック，編集処理
文字列コード変換	C	文字コードの変換
日付チェック／編集	D	日付（年月日，年月など）のチェック，編集処理
時間チェック／編集	E	時刻，時間のチェック，編集処理
項目チェック／編集	F	データ項目（日付，時刻，コードは除く）のチェック，編集処理
コードチェック／編集	G	業務に用いるコードのチェック，編集処理
その他の変換編集	Z	その他の変換，編集

標準サブルーチンのサブルーチン ID（プログラム ID），インタフェース ID（コピークローズ名），リターンコードの命名基準を図 1.4-1 に示します。

サブルーチン ID	L	X	R	P	I	分類 コード	連	番
インタフェース ID	L	X	R	C	I	分類 コード	連	番
リターンコード ID	L	X	R	E		分類 コード	連	番

図 1.4-1 標準サブルーチンの命名基準

(備考) サブルーチン ID とインタフェース ID は 1 : 1 対応になっています。
サブルーチン ID の 4 桁目を 'P' → 'C' とすると，そのサブルーチンのインタフェース ID になります。

2 標準サブルーチンの仕様

この章では、標準サブルーチンで提供しているサブルーチンの一覧および仕様を説明します。

2.1 標準サブルーチン一覧表

2.2 標準サブルーチン仕様書

2.1 標準サブルーチン一覧表

標準サブルーチンの一覧表を表 2.1-1 ～ 表 2.1-11に示します。

表 2.1-1 文字列チェック／編集サブルーチン

サブルーチンID	サブルーチン名	処 理 概 要
LXRPIA01	文字コードチェック	入力されたデータが全て半角文字であるかチェックする
LXRPIA03	文字属性チェック	入力データの属性をチェックし、チェック結果を返す
LXRPIA05	文字列シフト	文字データの内容を指定文字数分指定方向へシフトする
LXRPIA06	文字列左詰め	文字データを左に詰める
LXRPIA07	文字列右詰め	文字データを右に詰める
LXRPIA08	文字列中央揃え	文字データをセンタリング編集する
LXRPIA09	文字列有効桁数算出	文字データの有効桁数を求める
LXRPIA10	数字文字列チェック／入力編集	Xタイプの数字文字列をチェックし、内部10進数値に変換する
LXRPIA11	数字チェック／右詰め編集	入力エリア中の文字をNUMERICチェックし右詰めに編集する
LXRPIA12	数字文字列カンマ挿入	数値データをカンマ付きの文字列に変換し、右詰めにする
LXRPIA13	文字列前後反転	文字列データの前後を反転する
LXRPIA14	指定文字削除	文字データの中から指定された文字を削除し左または右に詰める
LXRPIA15	空白削除	文字データ中の空白を削除する
LXRPIA16	不要空白削除	文字データ中の不要な空白を削除する
LXRPIA17	第1文字列取得	スペースで区切られた第1文字列とその長さを取得する
LXRPIA19	文字列交互挿入	文字列1のスペースに文字列2の文字列を順次セットし編集する
LXRPIA20	EBCDIC/KEIS 混在文字列出力編集	入力文字データを指定データ長に合わせて編集する
LXRPIA21	後方スペース機能キャラクタ置換	文字列の後方のスペースを機能キャラクタに置換する
LXRPIA22	半角カナ文字入力チェック	入力された文字が半角カナ文字であるかをチェックする
LXRPIA23	混在文字列チェック	入力された文字が半角、全角の混在文字であることをチェックする
LXRPIA24	混在文字列チェック (含外字)	LXRPIA23の外字対応
LXRPIA25	英数字チェック／編集	入力された文字に対し、パラメータで指定されたチェック／編集を行う
LXRPIA26	数字チェック／数値変換	入力された文字に対し、パラメータで指定されたチェック／変換を行う
LXRPIA27	数字範囲チェック／数値変換	入力された文字に対し、パラメータで指定された範囲チェック／変換を行う
LXRPIA28	文字列切断	文字データを指定された長さで切断する

表 2.1-2 漢字チェック／編集サブルーチン

サブルーチンID	サブルーチン名	処 理 概 要
LXRP1B01	漢字コードチェック	入力されたデータが全て全角文字であるかチェックする
LXRP1B02	漢字コードチェック (含外字)	LXRP1B01 の外字対応
LXRP1B03	漢字シフト	漢字データの内容を指定文字数分指定方向へシフトする
LXRP1B04	漢字データ左詰め	漢字データを左に詰める
LXRP1B05	漢字データ右詰め	漢字データを右に詰める
LXRP1B06	漢字データ中央揃え	漢字データをセンタリング編集する
LXRP1B07	漢字データ有効桁数算出	漢字データの有効桁数を求める
LXRP1B08	空白削除 (漢字データ)	漢字データ中の空白を削除する
LXRP1B09	不要空白削除 (漢字データ)	漢字データ中の不要な空白を削除する
LXRP1B10	漢字交互挿入	全角文字列1のスペースに全角文字列2の文字列を順次セットし編集する
LXRP1B11	不当漢字コード置換	全角文字列の不当な文字コードを指定された文字コードに置換する
LXRP1B12	機能キャラクタ削除	全角文字列の機能キャラクタを削除する
LXRP1B13	全角空白→半角空白置換	入力された漢字データの中の全角空白を半角空白に置換する
LXRP1B14	半角空白→全角空白置換	入力された漢字データの中の半角空白を全角空白に置換する
LXRP1B15	漢字交互挿入 (含外字)	LXRP1B10 の外字対応
LXRP1B16	不当漢字コード置換 (含外字)	LXRP1B11 の外字対応

表 2.1-3 文字列コード変換サブルーチン

サブルーチンID	サブルーチン名	処 理 概 要
LXRPC01	半角→全角変換	半角文字を対応する全角文字に変換する
LXRPC02	全角→半角変換	全角文字を対応する半角文字に変換する
LXRPC03	EBCDIK→JIS変換	EBCDIKコードをJIS8単位文字コードに変換する
LXRPC04	JIS→EBCDIK変換	JIS8単位文字コードをEBCDIKコードに変換する
LXRPC05	JIS漢字→KEIS変換	JIS漢字コードをKEISコードに変換する
LXRPC06	KEIS→JIS漢字変換	KEISコードをJIS漢字コードに変換する
LXRPC07	16進文字列→バイナリ変換	16進文字列をキャラクタ文字列に変換する
LXRPC08	バイナリ→16進文字列変換	キャラクタ文字列を16進文字列に変換する
LXRPC09	2進文字列→バイナリ変換	2進文字列を内部2進数値に変換する
LXRPC10	バイナリ→2進文字列変換	内部2進数値を2進文字列に変換する
LXRPC11	KEIS83→KEIS78変換	KEIS83の漢字コードをKEIS78に変換する
LXRPC12	KEIS78→KEIS83変換	KEIS78の漢字コードをKEIS83に変換する

2. 標準サブルーチンの仕様

表 2.1-4 日付チェック／編集サブルーチン(1)

サブルーチンID	サブルーチン名	処 理 概 要
LXRPID01	実在日チェック (西暦)	西暦日付の妥当性をチェックし、リターンコードを返す
LXRPID02	実在日チェック (和暦)	和暦日付の妥当性をチェックし、リターンコードを返す
LXRPID03	年月日範囲内チェック (西暦)	西暦日付が指定された開始日付と終了日付の間の日付かチェックする
LXRPID04	年月日範囲内チェック (和暦)	和暦日付が指定された開始日付と終了日付の間の日付かチェックする
LXRPID05	年月日変換 (西暦→和暦)	西暦日付を和暦日付に変換する
LXRPID06	年月日変換 (和暦→西暦)	和暦日付を西暦日付に変換する
LXRPID07	年月日算出 (西暦年月日±年数)	西暦日付と年数の加減算を行い、西暦日付を返す
LXRPID08	年月日算出 (和暦年月日±年数)	和暦日付と年数の加減算を行い、和暦日付を返す
LXRPID09	年月日算出 (西暦年月日±月数)	西暦日付と月数の加減算を行い、西暦日付を返す
LXRPID10	年月日算出 (和暦年月日±月数)	和暦日付と月数の加減算を行い、和暦日付を返す
LXRPID11	年月日算出 (西暦年月日±日数)	西暦日付と日数の加減算を行い、西暦日付を返す
LXRPID12	年月日算出 (和暦年月日±日数)	和暦日付と日数の加減算を行い、和暦日付を返す
LXRPID13	期間算出 (西暦年月日間日数)	2つの西暦日付の期間を日数で求める
LXRPID14	期間算出 (和暦年月日間日数)	2つの和暦日付の期間を日数で求める
LXRPID15	期間算出 (西暦年月日間年月日)	2つの西暦日付の期間を年月日で求める
LXRPID16	期間算出 (和暦年月日間年月日)	2つの和暦日付の期間を年月日で求める
LXRPID17	月末日算出 (西暦年月日)	西暦年月の月末日を求める
LXRPID18	月末日算出 (和暦年月日)	和暦年月の月末日を求める
LXRPID19	通算週算出 (年始～西暦年月日)	西暦日付が入力された西暦年の通算第何週か求める
LXRPID20	通算週算出 (年始～和暦年月日)	和暦日付が入力された和暦年の通算第何週か求める

表 2.1-5 日付チェック／編集サブルーチン(2)

サブルーチンID	サブルーチン名	処 理 概 要
LXRPID21	年月日分類 (西暦)	西暦日付を平日, 土曜, 日曜および祝祭日に分類する
LXRPID22	年月日分類 (和暦)	和暦日付を平日, 土曜, 日曜および祝祭日に分類する
LXRPID23	年月日出力編集 (西暦)	西暦日付を指定された処理形式に従い編集する
LXRPID24	年月日出力編集 (和暦)	和暦日付を指定された処理形式に従い編集する
LXRPID25	うるう年判定 (西暦)	当該年がうるう年か否かを判定する
LXRPID26	うるう年判定 (和暦)	当該年がうるう年か否かを判定する
LXRPID27	年月日 (西暦) → 一貫日変換	西暦 1 年 1 月 1 日から西暦日付までの一貫日を求める
LXRPID28	年月日 (和暦) → 一貫日変換	西暦 1 年 1 月 1 日から和暦日付までの一貫日を求める
LXRPID29	一貫日 → 年月日 (西暦) 変換	指定された一貫日に対応する西暦年月日を求める
LXRPID30	一貫日 → 年月日 (和暦) 変換	指定された一貫日に対応する和暦年月日を求める
LXRPID31	日数算出 (西暦年月日～月末日)	西暦日付から月末日までの日数を求める
LXRPID32	日数算出 (和暦年月日～月末日)	和暦日付から月末日までの日数を求める
LXRPID33	年月日 (西暦) → 曜日算出	西暦日付に対応する曜日を求める
LXRPID34	年月日 (和暦) → 曜日算出	和暦日付に対応する曜日を求める
LXRPID35	曜日コードチェック／編集	曜日コードをチェックし, 曜日名に変換する
LXRPID36	年号コードチェック／編集	年号コードをチェックし, 年号名に変換する
LXRPID37	年号コード変換 (英字→数字)	年号 (M, T, S, H) を年号コード (1~4) に変換する
LXRPID38	年号コード変換 (数字→英字)	年号コード (1~4) を年号 (M, T, S, H) に変換する
LXRPID39	年齢計算 (慣習)	入力された生年月日及び現在年月日より年齢を求める (誕生日当日に 1 歳増)
LXRPID40	年齢計算 (法律)	入力された生年月日及び現在年月日より年齢を求める (誕生日前日に 1 歳増)

表 2.1-6 日付チェック／編集サブルーチン(3)

サブルーチンID	サブルーチン名	処 理 概 要
LXRPID41	年月日 (西暦) 過去チェック	システム日付と比較し, 過去である事をチェックする
LXRPID42	年月日 (和暦) 過去チェック	システム日付と比較し, 過去である事をチェックする
LXRPID43	年月日 (西暦) 未来チェック	システム日付と比較し, 未来である事をチェックする
LXRPID44	年月日 (和暦) 未来チェック	システム日付と比較し, 未来である事をチェックする
LXRPID45	年月日 (西暦) 編集	西暦日付を指定された処理形式に従い編集する
LXRPID46	年月日 (和暦) 編集	和暦日付を指定された処理形式に従い編集する
LXRPID47	年月日変換 (西暦→和暦) 編集	西暦を和暦に変換し, 指定された処理形式に従い編集する
LXRPID48	年月 (西暦) チェック	年月 (西暦) の妥当性チェックを行う
LXRPID49	年月 (和暦) チェック	年月 (和暦) の妥当性チェックを行う
LXRPID50	年月 (西暦) 過去チェック	システム日付と比較し, 過去である事をチェックする
LXRPID51	年月 (和暦) 過去チェック	システム日付と比較し, 過去である事をチェックする
LXRPID52	年月 (西暦) 未来チェック	システム日付と比較し, 未来である事をチェックする
LXRPID53	年月 (和暦) 未来チェック	システム日付と比較し, 未来である事をチェックする
LXRPID54	年月 (西暦) 編集	年月 (西暦) を, 指定された処理形式に従い編集する
LXRPID55	年月 (和暦) 編集	年月 (和暦) を, 指定された処理形式に従い編集する
LXRPID56	年月変換 (西暦→和暦) 編集	西暦年月を和暦年月に変換し, 指定された処理形式に従い編集する
LXRPID57	年月変換 (西暦→和暦)	西暦年月を和暦年月に変換する
LXRPID58	年月変換 (和暦→西暦)	和暦年月を西暦年月に変換する

2. 標準サブルーチンの仕様

表 2.1-7 日付チェック／編集サブルーチン(4)

サブルーチンID	サブルーチン名	処 理 概 要
LXRPID59	年度（西暦）チェック	年度（西暦）の妥当性チェックを行い、リターンコードを返す
LXRPID60	年度（和暦）チェック	年度（和暦）の妥当性チェックを行い、リターンコードを返す
LXRPID61	年度（西暦）過去チェック	システム日付と比較し、過去である事をチェックする
LXRPID62	年度（和暦）過去チェック	システム日付と比較し、過去である事をチェックする
LXRPID63	年度（西暦）未来チェック	システム日付と比較し、未来である事をチェックする
LXRPID64	年度（和暦）未来チェック	システム日付と比較し、未来である事をチェックする
LXRPID65	年度（西暦）編集	年度（西暦）を指定された処理形式に従い編集する
LXRPID66	年度（和暦）編集	年度（和暦）を指定された処理形式に従い編集する
LXRPID67	年度変換（西暦→和暦）編集	西暦年度を和暦年度に変換し、指定された処理形式に従い編集する
LXRPID68	年度変換（西暦→和暦）	西暦年度を和暦年度に変換する
LXRPID69	年度変換（和暦→西暦）	和暦年度を西暦年度に変換する
LXRPID70	年（西暦）チェック	年（西暦）の妥当性チェックを行う
LXRPID71	年（和暦）チェック	年（和暦）の妥当性チェックを行う
LXRPID72	年（西暦）過去チェック	システム日付と比較し、過去である事をチェックする
LXRPID73	年（和暦）過去チェック	システム日付と比較し、過去である事をチェックする
LXRPID74	年（西暦）未来チェック	システム日付と比較し、未来である事をチェックする
LXRPID75	年（和暦）未来チェック	システム日付と比較し、未来である事をチェックする
LXRPID76	年変換（西暦→和暦）編集	西暦年を和暦年に変換し、指定された処理形式に従い編集する
LXRPID77	年変換（西暦→和暦）	西暦年を和暦年に変換する
LXRPID78	年変換（和暦→西暦）	和暦年を西暦年に変換する
LXRPID80	年度基準日取得	西暦→和暦年度変換を行う際に必要な年度基準日を取得する
LXRPID81	年基準日取得	西暦→和暦年変換を行う際に必要な年基準日を取得する
LXRPID88	システム日付取得変換（8桁）	システム日付を取得し、8桁に変換する
LXRPID90	処理期限年月日算出（西暦）	入力された締日から次の締日を西暦年月日で取得する
LXRPID91	処理期限年月日算出（和暦）	入力された締日から次の締日を和暦年月日で取得する
LXRPID92	通算日算出（年始～西暦年月日）	1月1日から入力した西暦年月日までの通算日を算出する
LXRPID93	通算日算出（年始～和暦年月日）	1月1日から入力した和暦年月日までの通算日を算出する
LXRPID94	年齢（年月）算出（慣習）	入力された生年月日及び現在年月日より年齢を年月単位で求める （誕生日当日に1歳増）
LXRPID95	年齢（年月）算出（法律）	入力された生年月日及び現在年月日より年齢を年月単位で求める （誕生日前日に1歳増）

表 2.1-8 時間チェック／編集サブルーチン

サブルーチンID	サブルーチン名	処 理 概 要
LXRPIE01	時刻妥当性チェック (24 時間)	24 時間単位の時刻の妥当性をチェックする
LXRPIE02	時刻妥当性チェック (12 時間)	12 時間単位の時刻の妥当性をチェックする
LXRPIE05	24 時間単位→12 時間単位時刻変換	24 時間単位の時刻を 12 時間単位の時刻に変換する
LXRPIE06	12 時間単位→24 時間単位時刻変換	12 時間単位の時刻を 24 時間単位の時刻に変換する
LXRPIE07	経過時間算出 (24 時間単位)	入力された 2 つの時刻 (24 時間単位) の差を時分秒で求める
LXRPIE08	経過時間算出 (12 時間単位)	入力された 2 つの時刻 (12 時間単位) の差を時分秒で求める
LXRPIE09	時間加算	入力された 2 つの時間の加算を行う
LXRPIE10	時間差算出	入力された 2 つの時間の差を時分秒で求める
LXRPIE11	時刻編集	時刻を指定された処理形式に従い編集する
LXRPIE12	日時加減算 (西暦 12 時間単位)	12 時間単位の西暦日時と日時の加算または減算を行う
LXRPIE13	日時加減算 (西暦 24 時間単位)	24 時間単位の西暦日時と日時の加算または減算を行う
LXRPIE14	日時加減算 (和暦 12 時間単位)	12 時間単位の和暦日時と日時の加算または減算を行う
LXRPIE15	日時加減算 (和暦 24 時間単位)	24 時間単位の和暦日時と日時の加算または減算を行う
LXRPIE16	時間チェック	時間の妥当性をチェックする
LXRPIE17	時間 (秒) →時間変換編集	秒単位の時間を時間に交換し、指定された処理形式に従い編集する
LXRPIE18	時間→時間 (秒) 変換	時間を秒単位の時間に交換する
LXRPIE19	時間 (秒) →時間変換	秒単位の時間を時間に交換する
LXRPIE20	時間編集	時間を指定された処理形式に従い編集する

表 2.1-9 項目チェック／編集サブルーチン

サブルーチンID	サブルーチン名	処 理 概 要
LXRPIF01	氏名 (漢字) チェック	氏名 (漢字) のチェックをする
LXRPIF02	氏名 (半角カナ) チェック	氏名 (半角カナ) のチェックをする
LXRPIF03	氏名 (漢字) 分離編集	氏名 (漢字) の分離編集をする
LXRPIF04	氏名 (半角カナ) 分離編集	氏名 (半角カナ) の分離編集をする
LXRPIF05	氏名 (漢字) 結合編集	氏名 (漢字) の結合編集をする
LXRPIF06	氏名 (半角カナ) 結合編集	氏名 (半角カナ) の結合編集をする
LXRPIF07	郵便番号チェック／入力編集	郵便番号のチェックを行い格納形式に変換する
LXRPIF08	郵便番号チェック／出力編集	郵便番号のチェックを行い表示形式に変換する
LXRPIF09	金額編集	金額を指定された処理形式に従い編集する
LXRPIF10	郵便番号チェック／入力編集 (5桁及び7桁)	郵便番号のチェックを行い格納形式に変換する (5桁及び7桁)
LXRPIF11	郵便番号チェック／出力編集 (5桁及び7桁)	郵便番号のチェックを行い表示形式に変換する (5桁及び7桁)
LXRPIF12	郵便番号チェック／入力編集(7桁)	郵便番号のチェックを行い格納形式に変換する (7桁)
LXRPIF13	郵便番号チェック／出力編集(7桁)	郵便番号のチェックを行い表示形式に変換する (7桁)
LXRPIF14	氏名 (漢字) チェック (含外字)	LXRPIF01 の外字対応
LXRPIF15	氏名 (漢字) 分離編集 (含外字)	LXRPIF03 の外字対応
LXRPIF16	氏名 (漢字) 結合編集 (含外字)	LXRPIF05 の外字対応

2. 標準サブルーチンの仕様

表 2.1-10 コードチェック／編集サブルーチン

サブルーチンID	サブルーチン名	処 理 概 要
LXRPIG01	性別コードチェック／変換	J I Sコード表により性別コードを変換する (JIS X 0303)
LXRPIG02	学歴区分コードチェック／変換	J I Sコード表により学歴区分コードを変換する (旧 JIS X 0407)
LXRPIG04	地目コードチェック／変換	J I Sコード表により地目コードを変換する (JIS X 0411)
LXRPIG05	勘定科目コードチェック／変換	J I Sコード表により勘定科目コードを変換する (JIS X 0406)
LXRPIG09	フラグチェック／変換	入力されたフラグ (スペース, 0, 1) を英字, 漢字に変換する
LXRPIG10	都道府県コードチェック／変換	入力された都道府県コードを都道府県名に変換する (JIS X 0401)
LXRPIG11	有無チェック／変換	入力された有無 (スペース, 0, 1) を漢字に変換する
LXRPIG12	可否チェック／変換	入力された可否 (スペース, 0, 1) を英字, 漢字に変換する

表 2.1-11 その他の変換編集サブルーチン

サブルーチンID	サブルーチン名	処 理 概 要
LXRPIZ01	電話番号編集	電話番号の市外局番, 市内局番, 加入者番号をハイフンで編集する
LXRPIZ03	平方根算出	入力された数値データの平方根を求める
LXRPIZ04	チェックディジット計算	入力された数字文字列のチェックディジットを求める
LXRPIZ05	インチ→センチメートル変換	インチ単位の数値データをセンチメートル単位の数値データに変換する
LXRPIZ06	センチメートル→インチ変換	センチメートル単位の数値データをインチ単位の数値データに変換する
LXRPIZ07	ヤード→メートル変換	ヤード単位の数値データをメートル単位の数値データに変換する
LXRPIZ08	メートル→ヤード変換	メートル単位の数値データをヤード単位の数値データに変換する
LXRPIZ09	キログラム→ポンド変換	キログラム単位の数値データをポンド単位の数値データに変換する
LXRPIZ10	ポンド→キログラム変換	ポンド単位の数値データをキログラム単位の数値データに変換する
LXRPIZ11	パラメータ解析	入力パラメータを解析し, 各項目とその値を出力する

2.2 標準サブルーチン仕様書

標準サブルーチン仕様書を、次頁以降に示します。また、VOS3 版と PC 版・UNIX 版で処理が異なるサブルーチンの場合、それぞれどのような処理を行うかを記述しています。仕様書に記載してある項目と内容を表 2.2-1 に示します。

表 2.2-1 標準サブルーチン仕様書の記載内容

項 目	内 容
サブルーチン ID	サブルーチンのプログラム ID
機能分類	サブルーチンの機能分類
サブルーチン名	サブルーチンの日本語名
テーブル名	インタフェーステーブル ID
入 力	呼び出し前に設定すべきデータ項目とその説明
レベル	データ項目のレベル番号
項目名	データ項目名
属 性	データ項目のタイプと桁数
説明及び設定値	データ項目の説明
区 分	I : INPUT-PARM C : CONSTANT IL : INPUT-IN-LENGTH IT : INPUT-IN-TYPE OL : INPUT-OUT-LENGTH OT : INPUT-OUT-TYPE
出 力	サブルーチンが設定するデータ項目とその説明
レベル	データ項目のレベル番号
項目名	データ項目名
属 性	データ項目のタイプと桁数
説明及び設定値	データ項目の説明及びリターンコードの設定値
区 分	O : OUTPUT-PARM R : RTN-CODE
処理基準	サブルーチンの処理内容 リターンコードの設定値（出力の欄に入らない場合）
例	サブルーチンの使用例 特に断りのない限り、SJIS 対応版の例を掲載しています。
注意事項	使用上の注意事項 全角文字列を入力した機能キャラクタに関する処理は、VOS3 環境と PC・UNIX 環境とで動作が異なることがあります。 各サブルーチンのインタフェーステーブルは SJIS 対応版のものを基準に掲載しています。

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRP1A03

サブブルーチンID	機能分類	サブブルーチン名	テーブル名																					
LXRP1A03	文字列処理	文字属性チェック	LXRC1A03																					
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)																								
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分																				
03	I-STR	X(200)	入力文字列	I																				
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)																								
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分																				
03	O-STR-BN	X(5)	チェック結果	O																				
処 理 基 準		例																						
<p>1. 入力文字列の属性をチェックし、チェック結果を返す。</p> <p>1.1 英字 (英大文字 A~Z および空白。英小文字は除く)</p> <p>1.2 数字 (0~9)</p> <p>1.3 半角カナ (ア~, 濁点, 半濁点, 長音符。特殊な半角カナ (ゃょっアイエオ「」・。)) は除く)</p> <p>1.4 COBOL 特殊文字 (+-*/=¥, ;:.'") (<>)</p> <p>1.5 その他 (上記以外。特殊な半角カナ, 英小文字, 非文字含む)</p> <p>2. チェック結果は以下の形式とする。</p> <p>X(5)</p> <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr> <td>英</td> <td>数</td> <td>半</td> <td>特</td> <td>そ</td> </tr> <tr> <td>字</td> <td>字</td> <td>角</td> <td>殊</td> <td>の</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>カ</td> <td>文</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>ナ</td> <td>字</td> <td>他</td> </tr> </table> <p>1: 入力文字列中にその属性が存在する。 0: 入力文字列中にその属性が存在しない。</p>		英	数	半	特	そ	字	字	角	殊	の			カ	文				ナ	字	他	<p>1. I-STR : 'ABC123' ↓ O-STR-BN : '11000'</p> <p>2. I-STR : 'アイ/*:' ↓ O-STR-BN : '00110'</p>		
英	数	半	特	そ																				
字	字	角	殊	の																				
		カ	文																					
		ナ	字	他																				
<p><注意事項></p> <p>(1) 入力文字列の属性は X(200) とする。</p> <p>(2) 本サブルーチンから、(文字列有効桁数算出: LXRP1A09) を呼び出す。</p> <p>(3) チェックは右の空白を除いた部分に対して行う。</p> <table border="1" style="margin: 10px auto; text-align: center;"> <tr> <td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td><td>E</td><td>F</td><td>△</td><td>△</td><td>△</td><td>△</td><td>△</td><td>△</td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">チェック対象</p> <p>(4) 入力文字列が全て数字であることのチェックに使用する場合は、性能の観点から本サブルーチン呼び出すよりも COBOL 言語が提供する IS NUMERIC 命令を使用することを推奨する。</p>					A	B	C	D	E	F	△	△	△	△	△	△								
A	B	C	D	E	F	△	△	△	△	△	△													

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRP1A05

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRP1A05	文字列処理	文字列シフト	LXRC1A05	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-STR	X(200)	文字列	I
03	I-SHFT-LENG	P(3)	シフトする文字数 正数: 右方向にシフト 負数: 左方向にシフト ゼロ: シフトしない	C
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=O , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-STR	X(200)	出力文字列	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード SPACE: 正常終了 LXREA024: NUMERIC エラー LXREA020: シフトする文字数が範囲外	R
処 理 基 準			例	
<p>1. 入力文字列の内容を指定文字数シフトする。</p> <p>1.1 シフトする文字数 (I-SHFT-LENG) により, 以下の処理をおこなう。</p> <p>正数: I-SHFT-LENG の値だけ, 右方向にシフトする。</p> <p>負数: I-SHFT-LENG の絶対値だけ, 左方向にシフトする。</p> <p>ゼロ: 入力文字列をそのまま出力文字列とする。</p>			<p>1. I-STR : 'ABCDE' I-SHFT-LENG : 2 ↓ O-STR : '△△ABCDE' O-RTN-CD : SPACE</p> <p>2. I-STR : 'ABCDE' I-SHFT-LENG : -2 ↓ O-STR : 'CDE' O-RTN-CD : SPACE</p>	
<p><注意事項></p> <p>(1) I-SHFT-LENG について NUMERIC チェックを行い, 数値でない時はエラーコード' LXREA024' をリターンコードとして返す。出力文字列は入力文字列をそのまま転記する。</p> <p>(2) $-200 \leq I-SHFT-LENG \leq 200$ でなければ, I-SHFT-LENG を 200 として処理を続行する。エラーコード' LXREA020' をリターンコードとして返す。</p> <p>(3) シフトした結果が出力文字列 X(200) の範囲からはみだす時は切り捨てる。リターンコードには, スペースを出力する。</p> <p>(4) EUC 対応版, Unicode 対応版で半角カナを編集する場合, 文字数は実バイト長 (EUC: 2バイト/文字, Unicode: 3バイト/文字) で指定する。</p>				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPIA06

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRPIA06	文字列処理	文字列左詰め	LXRCIA06	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-LENG	P(3)	長さ	O L
03	I-STR	X(200)	文字列	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-STR	X(200)	文字列	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
			SPACE: 正常終了	
			LXREA024: NUMERIC エラー	
			LXREA020: 入力長さが範囲外	
			LXREA008: 入力文字列がスペース	
			LXREA018: 切り捨てが発生した	
処 理 基 準			例	
<p>1. 入力文字列を左に詰める。</p> <p>1.1 (文字列有効桁数算出: LXRPIA09) によって、入力文字列の最右文字位置を求める。</p> <p>1.2 入力文字列の最左文字位置 (半角空白以外の最初の文字の位置) を求める。</p> <p>1.3 入力文字列の最左文字位置から最右文字位置までの文字を、出力文字列の第1文字目から右側へ転送する。</p> <p>1.4 編集結果文字列が、出力フィールドの長さより長い場合は、エラーコード' LXREA018' をリターンコードとして返し、処理を続行する。出力文字列の切り捨てはしない。</p>			<p>1. I-STR : '△△△△AB△C△△DE△F'</p> <p>I-LENG : 13</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>O-STR : 'AB△C△△DE△F'</p> <p>O-RTN-CD : SPACE</p> <p>2. I-STR : '△△△△12345'</p> <p>I-LENG : 3</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>O-STR : '12345'</p> <p>O-RTN-CD : ' LXREA018'</p>	
<p><注意事項></p> <p>(1) I-LENG について NUMERIC チェックをおこない、数値でなければエラーコード' LXREA024' をリターンコードとして返す。出力文字列は入力文字列をそのまま転記する。</p> <p>(2) $1 \leq I-LENG \leq 200$ でなければエラーとし、エラーコード' LXREA020' をリターンコードとして返す。出力文字列は入力文字列をそのまま転記する。</p> <p>(3) 入力文字列がスペースの場合、エラーコード' LXREA008' をリターンコードとして返す。出力はスペースとする。</p> <p>(4) 本サブルーチンから、(文字列有効桁数算出: LXRPIA09) を呼び出す。</p> <p>(5) EUC 対応版, Unicode 対応版で半角カナを編集する場合、文字列長は実バイト長 (EUC: 2バイト/文字, Unicode: 3バイト/文字) で指定する。</p>				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPIA07

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRPIA07	文字列処理	文字列右詰め	LXRCIA07	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-LENG	P(3)	長さ	O L
03	I-STR	X(200)	文字列	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=O , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-STR	X(200)	文字列	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
			SPACE: 正常終了	
			LXREA024: NUMERIC エラー	
			LXREA020: 入力長さが範囲外	
			LXREA008: 入力文字列がスペース	
			LXREA018: 切り捨てが発生した	
処 理 基 準			例	
<p>1. 入力文字列を右に詰める。</p> <p>1.1 (文字列有効桁数算出: LXRPIA09) により, 入力文字列の最右文字位置を求める。</p> <p>1.2 入力文字列の最左文字位置 (半角空白以外の最初の文字の位置) を求める。</p> <p>1.3 入力文字列の最右文字位置から最左文字位置までの文字を, 出力フィールドの長さによって示される出力文字列の最後の文字の位置から左側へ転送する。</p> <p>1.4 出力文字列の左側が余る場合は, 半角空白によって充填する。</p> <p>1.5 入力文字列をすべて転送できない場合は, そこまでの文字列を出力文字列とする。エラーコード`LXREA018`をリターンコードとして返す。</p>			<p>1. I-STR : 'AB△C△△DE△F'</p> <p>I-LENG : 13</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>O-STR : '△△△AB△C△△DE△F'</p> <p>O-RTN-CD : SPACE</p> <p>2. I-STR : '△△△12345'</p> <p>I-LENG : 3</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>O-STR : '345'</p> <p>O-RTN-CD : 'LXREA018'</p>	
<p><注意事項></p> <p>(1) I-LENG について NUMERIC チェックをおこない, 数値でなければエラーコード`LXREA024`をリターンコードとして返す。入力文字列をそのまま出力とする。</p> <p>(2) $1 \leq I-LENG \leq 200$ でなければエラーとし, エラーコード`LXREA020`をリターンコードとして返す。入力文字列をそのまま出力とする。</p> <p>(3) 入力文字列がスペースの場合, エラーコード`LXREA008`をリターンコードとして返す。出力はスペースとする。</p> <p>(4) 本サブルーチンから, (文字列有効桁数算出: LXRPIA09) を呼び出す。</p> <p>(5) EUC 対応版, Unicode 対応版で半角カナを編集する場合, 文字列長は実バイト長 (EUC: 2バイト/文字, Unicode: 3バイト/文字) で指定する。</p>				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPIA08

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRPIA08	文字列処理	文字列中央揃え	LXRCIA08	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-LENG	P(3)	出力フィールドの長さ	O L
03	I-STR	X(200)	入力文字列	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-STR	X(200)	出力文字列	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
			SPACE: 正常終了	
			LXREA024: NUMERIC エラー	
			LXREA020: 入力長さが範囲外	
			LXREA008: 入力文字列がスペース	
			LXREA018: 切り捨てが発生した	
処 理 基 準			例	
<p>1. 入力文字列をセンタリング編集する。</p> <p>1.1 (文字列有効桁数算出: LXRPIA09) により, 入力文字列の最右文字位置を求める。</p> <p>1.2 入力文字列の最左文字位置 (半角空白以外の最初の文字の位置) を求める。</p> <p>1.3 入力文字列の最右文字位置から最左文字位置より実文字数を求め, (出力フィールドの長さ: I-LENG) に収まらなければ, エラーコード' LXREA018' をリターンコードとして返し, 左詰めを行なう。</p> <p>1.4 (出力フィールドの長さ - 実文字数) を2で割り (余り切り捨て), その商で表される出力文字列上の位置に 入力文字列の最左文字位置からの文字列を転送する。</p>			<p>1. I-STR : 'AΔBΔCΔΔΔΔΔΔΔ'</p> <p>I-LENG : 10</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>O-STR : 'ΔΔAΔBΔCΔΔΔ'</p> <p>O-RTN-CD : SPACE</p>	
<p><注意事項></p> <p>(1) 左右の空白が等しくならないときは, 左側の空白を1つ少なくする。</p> <p>(2) I-LENG について NUMERIC チェックをおこない, 数値でなければエラーコード' LXREA024' をリターンコードとして返す。入力文字列をそのまま出力とする。</p> <p>(3) $1 \leq I-LENG \leq 200$ でなければエラーとし, エラーコード' LXREA020' をリターンコードとして返す。入力文字列をそのまま出力とする。</p> <p>(4) 入力文字列がスペースの場合, エラーコード' LXREA008' をリターンコードとして返す。出力はスペースとする。</p> <p>(5) 本サブルーチンから, (文字列有効桁数算出: LXRPIA09) を呼び出す。</p> <p>(6) EUC 対応版, Unicode 対応版で半角カナを編集する場合, 文字列長は実バイト長 (EUC: 2バイト/文字, Unicode: 3バイト/文字) で指定する。</p>				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPIA10

サブルーチンID		機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIA10		文字列処理	数字文字列チェック/入力編集	LXRCIA10
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項 目 名	属性	説 明 及 び 設 定 値	区分
03	I-STR-NU	X(24)	文字列 (数字)	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=O , RTN-CODE=R)				
レベル	項 目 名	属性	説 明 及 び 設 定 値	区分
03	O-NUM	P(12, 6)	数値	O
03	O-INTP	P(2)	整数部	O
03	O-DECP	P(2)	小数部	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
処 理 基 準			例	
<p>1. Xタイプ的小数, コンマ, 符号付きの数字文字列をチェック後, 表意記号通りの内部10進数数値に変換する。</p> <p>1.1 ニューメリックチェック処理 (0~9, . +-およびSPACE)</p> <p>1.2 符号変更</p> <p>1.3 コンマ読みとばし</p> <p>1.4 10進変換</p> <p>1.5 小数部処理 (仮想小数への変換)</p> <p>1.6 リターンコード, 小数桁数, 整数桁数の出力 (リターンコード)</p> <p>SPACE: 正常終了</p> <p>LXREA009: '+' の後に ' ', '+', '-', ', ' がある</p> <p>LXREA010: '-' の後に ' ', '+', '-', ', ' がある</p> <p>LXREA011: ' ' の後に ' ' がある</p> <p>LXREA013: ', ' の後に ' ', '+', '-', ', ', ', ' がある</p> <p>LXREA014: ', ' の後に ' ', '+', '-', ', ', ', ' がある</p> <p>LXREA015: 数字の後に '+', '-' がある</p> <p>LXREA016: 0~9, . +-およびSPACE以外の文字がある</p> <p>LXREA017: 整数部が13桁以上または小数部が7桁以上ある</p> <p>LXREA018: 入力文字列がスペース</p>			<p>1. I-STR-NU : '+123.4567'</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>O-NUM : +123.4567</p> <p>O-INTP : +3</p> <p>O-DECP : +4</p> <p>O-RTN-CD : SPACE</p>	
<p><注意事項></p> <p>(1) 出力される数値の属性およびサイズはS9(12)V9(6)COMP-3とする。</p> <p>(2) エラーとなった場合, 出力数値, 整数部, 小数部は0を返す。</p>				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPIA11

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRPIA11	文字列処理	数字チェック/右詰め編集	LXRCIA11	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-STR-NU	X(15)	文字列(数字)	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-STR-NU	X(15)	文字列(数字)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード SPACE:正常終了 LXREA008:入力文字列がスペース LXREA026:第一文字列内に数字以外の データあり	R
処 理 基 準		例		
1. 入力文字列中の初めの文字列群に対して、ニューメリックチェックを行い、数値以外のものがあればO-STR-NUにスペースを送り、リターンコードに'LXREA026'を送る。 2. 文字列群が数字であれば、右詰めに編集して出力エリアにセットする。 3. ゼロサプレスを行う。		1. I-STR-NU : '△△12345△△67' ↓ O-STR-NU : '△△△△△△△△△△12345' O-RTN-CD : SPACE 2. I-STR-NU : '010101' ↓ O-STR-NU : '△△△△△△△△△△10101' O-RTN-CD : SPACE 3. I-STR-NU : '△△A12△△34' ↓ O-STR-NU : SPACE O-RTN-CD : 'LXREA026'		
<注意事項> (1) 文字列群の位置は入力文字列中のどこでもよいが、文字列群が複数個存在する場合、前方の文字列群についてのみ解析を行う。 (2) 入力文字列がスペースだった時は、リターンコードに'LXREA008'を送る。 (3) エラーとなった場合、出力文字列にはスペースを返す。				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPIA12

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRPIA12	文字列処理	数字文字列カンマ挿入	LXRPIA12	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-NUM	X(18)	数値	I
03	I-LENG	P(2)	長さ	OL
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-STR-NU	X(24)	文字列(数字)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
			SPACE:正常終了	
			LXREA024:NUMERICエラー	
			LXREA020:入力長さが範囲外	
			LXREA018:切り捨てが発生した	
処 理 基 準		例		
1. 入力された数値データを右詰めに編集する。 2. 編集の際、3ケタおきにカンマ(,)を挿入する。		1. I-NUM : 1234567 I-LENG : 19 ↓ O-STR-NU : '△△△△△△△△△△1,234,567'		
<注意事項> (1) 本サブルーチンから、(文字列右詰め:LXRPIA07)を呼び出す。 (2) I-NUM, I-LENG について NUMERIC チェックを行い、数値でないときは、リターンコードに'LXREA024'を返し、出力文字列にスペースを転送する。 (3) 1 ≤ I-LENG ≤ 24 以外の時はリターンコードに'LXREA020'を返し、出力文字列にスペースを転送する。 (4) 編集結果が I-LENG で指定した長さに入り切らないときは、リターンコードに'LXREA018'を返し、出力文字列の1文字目に*を、2文字目以降に編集結果を左詰めで転送する。				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPIA13

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRPIA13	文字列処理	文字列前後反転	LXRCIA13	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-LENG	P(3)	長さ	OL
03	I-STR	X(200)	文字列	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-STR	X(200)	文字列	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード SPACE: 正常終了 LXREA024: NUMERIC エラー LXREA020: 出力フィールド範囲外 LXREA008: 入力文字列がスペース LXREA018: 切り捨てが発生した	R
処 理 基 準			例	
<p>1. 文字列データの前後を置換する。</p> <p>1.1 エラーチェックを行う。</p> <p>1.2 入力文字列の有効桁数を取得し、 入力文字列 (有効桁数) → 出力文字列 (1) 入力文字列 (有効桁数-1) → 出力文字列 (2) . . . 入力文字列 (1) → 出力文字列 (有効桁数) のようにして出力文字列を得る。</p>			<p>1. I-STR : 'ABCD' I-LENG : 4 ↓ O-STR : 'DCBA' O-RTN-CD : SPACE</p> <p>2. I-STR : 'ABCDEF' I-LENG : 4 ↓ O-STR : 'FEDCBA' O-RTN-CD : 'LXREA018'</p> <p>3. I-STR : 'アイウエ' I-LENG : 5 ↓ O-STR : 'エウイア' O-RTN-CD : SPACE</p>	
<p><注意事項></p> <p>(1) I-LENG について NUMERIC チェックを行い、数値でないときはリターンコードに 'LXREA024' を返し、出力文字列にスペースを転送する。</p> <p>(2) $1 \leq I-LENG \leq 200$ 以外の時はリターンコードに 'LXREA020' を返し、出力文字列にスペースを転送する。</p> <p>(3) 入力文字列がスペースの場合、リターンコードに 'LXREA008' を返す。出力文字列にスペースを転送する。</p> <p>(4) 入力文字列の有効桁数 > I-LENG のとき、リターンコードに 'LXREA018' を返す。出力文字列には処理基準に従って編集した結果を返す。</p> <p>(5) 本サブルーチンから、(文字列有効桁数算出: LXRPIA09) を呼び出す。</p> <p>(6) EUC 対応版, Unicode 対応版で半角カナ含む場合でも例と同一の結果が得られる。</p> <p>(7) EUC 対応版, Unicode 対応版で半角カナを編集する場合、文字列長は実バイト長 (EUC: 2 バイト/文字, Unicode: 3 バイト/文字) で指定する。</p>				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPIA14

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRPIA14	文字列処理	指定文字削除	LXRCIA14	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-LENG	P(3)	長さ	O L
03	I-STR	X(200)	文字列	I
03	I-DEL-STR	X(200)	削除文字	C
03	I-DEL-LENG	P(3)	削除文字数	C
03	I-SHFT-KBN	X(1)	シフト方向	C
			'L': 左詰め	
			'R': 右詰め	
			上記以外: シフトしない	
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-STR	X(200)	文字列	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
			SPACE: 正常終了	
			LXREA024: NUMERIC エラー	
			LXREA020: 入力長さが範囲外	
			LXREA008: 入力文字列がスペース	
			LXREA018: 切り捨てが発生した	
処 理 基 準		例		
<p>1. 入力文字列中から指定された文字を削除する。シフトする方向が指定された場合、左または右に詰める。</p> <p>1.1 削除する方向は、以下の通り。 シフトする方向が、 'L' のとき 削除対象文字より右の文字列を左に詰める。 'R' のとき 削除対象文字より左の文字列を右に詰める。 上記以外 削除対象文字を半角空白 1 個に置換する。 (置換した空白は、編集結果の文字列長に含む。)</p>		<p>1. I-STR : '¥123△456,789.12' I-LENG : 15 I-DEL-STR : '△¥,.' I-DEL-LENG : 4 I-SHFT-KBN : 'R' ↓ O-STR : '△△△△12345678912' O-RTN-CD : SPACE</p>		
<p><注意事項></p> <p>(1) 削除文字は、入力文字列から削除する文字を直接指定する。(上記例では、'△¥,.'と指定する)</p> <p>(2) I-LENG および I-DEL-LENG について NUMERIC チェックを行い、数値でないときはリターンコード 'LXREA024' を返す。出力文字列は入力文字列をそのまま転記する。</p> <p>(3) $1 \leq I-LENG \leq 200$ かつ $1 \leq I-DEL-LENG \leq 200$ でなければ、リターンコードに 'LXREA020' を返す。出力文字列には入力文字列をそのまま転記する。</p> <p>(4) 編集結果の文字列長が、I-LENG より長いとき、エラーコード 'LXREA018' を返す。出力文字列には編集結果を返す。</p> <p>(5) 本サブルーチンから、(文字列有効桁数算出: LXRPIA09) を呼び出す。</p> <p>(6) EUC 対応版, Unicode 対応版で文字列, 削除文字に半角カナを入力する場合, 文字数は実バイト長 (EUC: 2バイト/文字, Unicode: 3バイト/文字) で指定する。</p>				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPIA15

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRPIA15	文字列処理	空白削除	LXRCIA15	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-LENG	P(3)	長さ	O L
03	I-STR	X(200)	文字列	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=O , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-STR	X(200)	文字列	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
			SPACE:正常終了	
			LXREA024:NUMERIC エラー	
			LXREA020:入力長さが範囲外	
			LXREA008:入力文字列がスペース	
			LXREA018:切り捨てが発生した	
処 理 基 準		例		
1. 文字データ中の半角空白を削除する。		1. I-STR : 'A△△B△C△△△D' I-LENG : 10 ↓ O-STR : 'ABCD△△△△△△' O-RTN-CD : SPACE		
<p><注意事項></p> (1) I-LENG について NUMERIC チェックを行い、数値でないときはエラーコード' LXREA024' をリターンコードとして返す。処理は続行する。 (2) $1 \leq I-LENG \leq 200$ でなければ、エラーコードに' LXREA020' を返し、処理を続行する。 (3) 編集結果の文字列長が、I-LENG より長いとき、エラーコード' LXREA018' を返し、処理を続行する。出力は編集結果文字列をそのまま返す。 (4) 本サブルーチンから、(文字列有効桁数算出: LXRPIA09) を呼び出す。 (5) EUC 対応版, Unicode 対応版で文字列に半角カナを入力する場合、文字数は実バイト長(EUC: 2バイト/文字, Unicode: 3バイト/文字)で指定する。				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPIA16

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRPIA16	文字列処理	不要空白削除	LXRPIA16	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-LENG	P(3)	長さ	O L
03	I-STR	X(200)	文字列	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-STR	X(200)	文字列	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード SPACE:正常終了 LXREA024:NUMERIC エラー LXREA020:入力長さが範囲外 LXREA008:入力文字列がスペース LXREA018:切り捨てが発生した	R
処 理 基 準		例		
1. 文字データ中の2個以上連続する空白を1個の空白に置き換える。 2. 先頭の空白も同様に1個の空白とする。		1. I-STR : 'A△△B△C△△△D' I-LENG : 10 ↓ O-STR : 'A△B△C△D△△△' O-RTN-CD : SPACE		
<注意事項> (1) I-LENG について NUMERIC チェックを行い、数値でないときはエラーコード' LXREA024' をリターンコードとして返す。処理は続行する。 (2) 1 ≤ I-LENG ≤ 200 でなければ、エラーコードに' LXREA020' を返し、処理を続行する。 (3) 編集結果の文字列長が、I-LENG より長いとき、エラーコード' LXREA018' を返し、処理を続行する。出力は編集結果文字列をそのまま返す。 (4) 本サブルーチンから、(文字列有効桁数算出: LXRPIA09) を呼び出す。 (5) EUC 対応版, Unicode 対応版で文字列に半角カナを入力する場合、文字数は実バイト長(EUC: 2バイト/文字, Unicode: 3バイト/文字)で指定する。				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPIA17

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRPIA17	文字列処理	第1文字列取得	LXRCIA17	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-LENG	P(3)	長さ	O L
03	I-STR	X(200)	文字列	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=O , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-LENG	P(3)	長さ	O
03	O-STR	X(200)	文字列	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード SPACE:正常終了 LXREA024:NUMERICエラー LXREA020:入力長さが範囲外 LXREA008:入力文字列がスペース LXREA018:切り捨てが発生した	R
処 理 基 準			例	
1. 入力文字列からスペースで囲まれた第一文字列を取得し、その長さと文字をセットする。			1. I-STR : ' ABCDEFGHΔΔIJK' I-LENG : 14 ↓ O-LENG : 8 O-STR : ' ABCDEFGH' O-RTN-CD : SPACE 2. I-STR : ' 12345ΔABC' I-LENG : 3 ↓ O-LENG : 5 O-STR : ' 12345' O-RTN-CD : ' LXREA018'	
<注意事項> (1) 入力でエラーが発生した場合は、該当するリターンコードを返し、O-STRとO-LENGにスペースとOを返す。(下記(5)は例外) (2) 本サブルーチンから、(文字列有効桁数算出:LXRPIA09)を呼び出す。 (3) 出力フィールドの長さと文字列有効桁数を比較する時の文字列有効桁数の長さは、第一文字列の長さとする。 (4) 初めがスペースの時、スペースの次の文字列を取得する。 (5) 出力で文字の切り捨てが発生した場合、第一文字列をそのまま出力してリターンコード'LXREA018'を返す。 (6) EUC対応版、Unicode対応版で文字列に半角カナを入力する場合、文字数は実バイト長(EUC:2バイト/文字、Unicode:3バイト/文字)で指定する。				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPIA19

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRPIA19	文字列処理	文字列交挿入	LXRCIA19	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-1ST-LENG	P(3)	第1文字列長さ	I L
03	I-1ST-STR	X(200)	第1文字列	I
03	I-2ND-LENG	P(3)	第2文字列長さ	I L
03	I-2ND-STR	X(200)	第2文字列	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-STR	X(200)	文字列	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
			SPACE:正常終了	
			LXREA024:NUMERIC エラー	
			LXREA020:入力長さが範囲外	
			LXREA007:半角文字コード以外あり	
			LXREA008:入力文字列がスペース	
			LXREA018:切り捨てが発生した	
処 理 基 準		例		
<ol style="list-style-type: none"> 第1文字列のスペースエリアに第2文字列の文字（スペース以外）を順次セットし、編集する。 スペースの文字への置き換えは、第2文字列の文字数（スペースを除く）分だけ行い処理を終了する。 入力文字列の先頭がスペースの場合は、入力文字列の先頭がスペースでなくなった所から始める。 		<ol style="list-style-type: none"> I-1ST-LENG : 7 I-1ST-STR : 'カヅ△カ' I-2ND-LENG : 1 I-2ND-STR : 'ト' ↓ O-STR : 'カヅトカ' O-RTN-CD : SPACE 		
<p><注意事項></p> <ol style="list-style-type: none"> 第1文字列長さ、第2文字列長さの各々について NUMERIC チェックを行い、数字でなければリターンコード'LXREA024'を返す。出力文字列にはスペースを返す。 1 ≤ 第1（第2）文字列長さ ≤ 200 以外はエラーとし、出力文字列にスペースを返し、リターンコードに'LXREA020'を返す。 第1文字列、第2文字列の各々についてサブルーチン'LXRPIA01'を用いてチェックを行い、エラーの場合リターンコード'LXREA007'または'LXREA007'を返す。出力文字列にはスペースを返す。 第1（第2）文字列長さより各々の文字列の有効桁数が長い場合と、出力文字列が200を超えた場合は、リターンコードに'LXREA018'を返す。処理は続行する。 本サブルーチンから、(文字コードチェック:LXRPIA01)、(文字列有効桁数算出:LXRPIA09)を呼び出す。 EUC 対応版、Unicode 対応版で文字列に半角カナを入力する場合、文字数は実バイト長(EUC: 2バイト/文字、Unicode: 3バイト/文字)で指定する。 				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRP1A20

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRP1A20	文字列処理	EBCDIK/KEIS 混在文字列出力編集	LXRC1A20	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-STR	X(200)	文字列	I
03	I-LENG	P(3)	長さ	OL
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-STR	X(200)	文字列	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード SPACE: 正常終了 LXREA024: NUMERIC エラー LXREA020: 入力長さが範囲外 LXREA018: 切り捨てが発生した	R
処 理 基 準			例	
<p>PC・UNIX 版</p> <ol style="list-style-type: none"> NUMERIC チェックで、エラーの場合は、リターンコードに 'LXREA024' を返し、出力文字列にはスペースを返す。 $1 \leq I-LENG \leq 200$ とし、それ以外の場合は、リターンコードに 'LXREA020'、出力文字列にはスペースを返す。 エラーでない場合はリターンコードにスペースを返し、入力文字列を出力文字列に転記する。 <p>VOS3 版</p> <ol style="list-style-type: none"> PC・UNIX 版の 1. および 2. の処理を行う。 エラーでない場合は、入力文字列を実データ長^{※1}が指定した長さと等しくなるように編集し、出力文字列に入れる。入力文字列の実データ長が、指定した長さより短い場合は、後ろに X' 40' を追加して調整する。入力文字列の実データ長が、指定した長さより長い場合は、X' 0A41' で置換して調整する。出力文字列の最後は必ず 1 個以上の '0A41' で終わるようにする。 <p>※1 機能キャラクタ分を除いたバイト数のこと</p>			<ol style="list-style-type: none"> <p>I-LENG : 6 I-STR : X' 0A42A3B10A41F10A42A3B1 0A41F1F140404040.....' ↓ O-STR : X' 0A42A3B10A41F10A42A3B1 0A41F10A41.....0A41' O-RTN-CD : SPACE</p> <p>I-LENG : 198 I-STR : X' 0A42B0ABBOAB..... ...BOABBOAB0A41' ↓ O-STR : X' 0A42B0ABBOAB..... ...BOABBOAB0A41' O-RTN-CD : 'LXREA018'</p> 	
<p><注意事項></p> <p>(1) 処理基準に従った編集結果文字列の実データ長が指定した長さより短くなった場合は、リターンコード 'LXREA018' を返す。出力文字列には編集結果を返す。</p>				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRP1A21

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRP1A21	文字列処理	後方スペース機能キャラクタ置換	LXRC1A21	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-STR	X(200)	入力文字列	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-STR	X(200)	出力文字列	O
処 理 基 準		例		
<p>PC・UNIX版</p> <p>1. 置換処理は行わず、入力文字列を出力文字列に転記する。</p> <p>VOS3版</p> <p>1. 入力文字列中に空白(X' A1A1', X' 40')よりも後方にある機能キャラクタ(X' 0A41')を前方に置き換える。処理方法は以下の通り</p> <p>1.1 入力文字列中の X' 400A41', X' A1A10A41' を検索し、無くなるまで以下の処理を繰り返す。</p> <p>(1) X' 400A41' を X' 0A4140' に置き換える。</p> <p>(2) X' A1A10A41' を X' 0A414040' に置き換える。</p>		<p>1. I-STR :</p> <p style="padding-left: 40px;">X' D8D8D84040400A41'</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>O-STR :</p> <p style="padding-left: 40px;">X' D8D8D80A41404040'</p> <p>2. I-STR :</p> <p style="padding-left: 40px;">X' 0A42A3D8A3D8A1A10A41'</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>O-STR :</p> <p style="padding-left: 40px;">X' 0A42A3D8A3D80A414040'</p>		
<p><注意事項></p> <p>(1) 置換対象が複数存在していても全て置換する。</p>				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPIA22

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRPIA22	文字列処理	半角カナ文字入力チェック	LXRCIA22	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-STR-KN	X(200)	文字列(半角カナ)	I
03	I-SHR-KBN	X(1)	処理区分 '1': 半角カナ小文字をエラーにしない '2': 半角カナ小文字をエラーとする 上記以外は, '1' とみなす。	C
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード SPACE: 正常終了 LXREA025: 半角カナ以外 LXREA008: 入力データなし	R
処 理 基 準		例		
1. 入力文字列(半角カナ)中に半角カナ以外の文字が含まれているかを判定する。		1. I-STR-KN : 'サブ'ルチン I-SHR-KBN : '1' ↓ O-RTN-CD : SPACE 2. I-STR-KN : 'コト'△チェック I-SHR-KBN : '2' ↓ O-RTN-CD : 'LXREA025' 3. I-STR-KN : SPACE I-SHR-KBN : '1' ↓ O-RTN-CD : 'LXREA008' 4. I-STR-KN : 'コホ'ル2 I-SHR-KBN : '1' ↓ O-RTN-CD : 'LXREA025'		
<注意事項> (1) 入力文字列(半角カナ)中において半角カナ文字と半角スペースの混在は許される。 (2) 入力文字列(半角カナ)中においてスペースしか存在しない場合, リターンコードに'LXREA008'を返す。 (3) 本サブルーチンから, (文字列有効桁数算出: LXRPIA09)を呼び出す。 (4) 半角カナ小文字とは特殊な半角カナ(ヤヅツアィウヱヲ「」,、。)のことを指す。				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPIA23

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRPIA23	文字列処理	混在文字列チェック	LXRCIA23	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-LGC-LENG	P(3)	論理長さ	C
03	I-PHSC-LENG	P(3)	物理長さ	IL
03	I-STR	X(200)	文字列	I
03	I-SHR-KBN	X(1)	処理区分	C
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード SPACE: 正常 LXREA024: NUMERIC エラー LXREA020: 入力長さが範囲外 LXREA008: 入力文字列がスペース LXREA022: 入力論理長誤り LXREA021: 入力物理長誤り LXREA023: 機能キャラクタ誤り	R
処 理 基 準		例		
<p>PC・UNIX 版</p> <p>1. NUMERIC チェック, 長さ範囲チェック, スペースチェックのみ行なう。</p> <p>VOS3 版</p> <p>1. 以下のチェックを行ない, 該当するエラーコードまたはスペースをリターンコードに返す。</p> <p>1.1 入力文字列の論理長と物理長が, 入力論理長, 入力物理長を超えていないことをチェックする。</p> <p>1.2 入力文字列中において, X'0A42'がある(KEIS状態になる)と, その後方にはX'0A42'よりも前に必ず1つ以上のX'0A41'がある(EBCDIK状態に戻る)ことをチェックする。</p> <p>1.3 処理区分が'N'の場合, 入力文字列の先頭からX'0A41'の直前までの文字と, X'0A42'~X'0A41'間の文字に対してKEISコードチェックを行なう。</p> <p>1.4 項番1.3のKEISコードチェックにおいて, 対象となる文字列が奇数個である場合エラーとなり, リターンコードに'LXREB001'を返す。</p> <p>1.5 処理区分が'N'以外の場合, 入力文字列の先頭からX'0A42'の直前までの文字と, X'0A42'~X'0A41'間の文字に対してEBCDIKコードチェックを行う。</p>		<p>1. I-LGC-LENG : 6 I-PHSC-LENG : 5 I-STR : X'414243444546' ↓ O-RTN-CD : 'LXREA021'</p> <p>2. I-LGC-LENG : 5 I-PHSC-LENG : 1 I-STR : X'0A42A1A10A42' ↓ O-RTN-CD : 'LXREA022'</p> <p>3. I-LGC-LENG : 4 I-PHSC-LENG : 2 I-STR : X'0A42A1A1' ↓ O-RTN-CD : 'LXREA023'</p>		
<p><注意事項></p> <p>(1) 入力論理長, 入力物理長の妥当性をチェックし, 該当するリターンコードを返す。</p> <p>(2) KEISコードチェックで, エラーと判明した場合, 'LXREB001'をリターンコードに転送する。</p> <p>(3) EBCDIKコードチェックで, エラーと判明した場合, 'LXREA007'をリターンコードに転送する。</p> <p>(4) このサブルーチンから(文字コードチェック:LXRPIA01), (文字列有効桁数算出:LXRPIA09), (漢字コードチェック:LXRPIB01)を呼び出す。</p> <p>(5) X'40'は, KEISコードチェックの対象となる文字列中に, 奇数個存在することを許される。</p>				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPIA24

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRPIA24	文字列処理	混在文字列チェック (含外字)	LXRCIA24	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-LGC-LENG	P(3)	論理長さ	C
03	I-PHSC-LENG	P(3)	物理長さ	IL
03	I-STR	X(200)	文字列	I
03	I-SHR-KBN	X(1)	処理区分	C
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード SPACE: 正常 LXREA024: NUMERIC エラー LXREA020: 入力長さが範囲外 LXREA008: 入力文字列がスペース LXREA022: 入力論理長誤り LXREA021: 入力物理長誤り LXREA023: 機能キャラクタ誤り	R
処 理 基 準		例		
PC・UNIX 版 1. NUMERIC チェック, 長さ範囲チェック, スペースチェックのみ行なう。 VOS3 版 1. 以下のチェックを行ない, 該当するエラーコードまたはスペースをリターンコードに返す。 1.1 入力文字列の論理長と物理長が, 入力論理長, 入力物理長を超えていないことをチェックする。 1.2 入力文字列中において, X'0A42'がある(KEIS 状態になる)と, その後方には X'0A42'よりも前に必ず1つ以上の X'0A41'がある(EBCDIK 状態に戻る)ことをチェックする。 1.3 処理区分が'N'の場合, 入力文字列の先頭から X'0A41'の直前までの文字と, X'0A42'~X'0A41'間の文字に対して, KEIS コードチェックを行なう。 1.4 処理区分が'N'以外の場合, 入力文字列の先頭から X'0A42'の直前までの文字と, X'0A42'~X'0A41'間の文字に対して, EBCDIK コードチェックを行なう。		1. I-LGC-LENG : 6 I-PHSC-LENG : 5 I-STR : X'414243444546' ↓ O-RTN-CD : 'LXREA021' 2. I-LGC-LENG : 5 I-PHSC-LENG : 1 I-STR : X'0A42A1A10A42' ↓ O-RTN-CD : 'LXREA022' 3. I-LGC-LENG : 4 I-PHSC-LENG : 2 I-STR : X'0A42A1A1' ↓ O-RTN-CD : 'LXREA023'		
<注意事項> (1) 入力論理長, 入力物理長の妥当性をチェックし, 該当するリターンコードを返す。 (2) KEIS コードチェックで, エラーと判明した場合, 'LXREB006'をリターンコードに転送する。 (3) EBCDIK コードチェックで, エラーと判明した場合, 'LXREA007'をリターンコードに転送する。 (4) このサブルーチンから(文字コードチェック:LXRPIA01), (文字列有効桁数算出:LXRPIA09), (漢字コードチェック(含外字):LXRPIB02)を呼び出す。 (5) X'40'は, KEIS コードチェックの対象となる文字列中に, 奇数個存在することを許される。				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRP1A25

サブブルーチンID	機能分類	サブブルーチン名	テーブル名	
LXRP1A25	項目編集	英数字チェック/編集	LXRC1A25	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-LENG	P(3)	長さ	I L
03	I-STR	X(200)	文字列	I
03	I-CHK-PARM	X(50)	チェック条件パラメータ	C
			'ENT=入力モード指定, CHK=(文字指定 [, 文字指定])' (詳細はLXRPIZ11及びP58を参照)	
03	I-EDIT-PARM	X(50)	編集条件パラメータ	C
			'CHG=変換指定, SHT=シフト指定' (詳細はLXRPIZ11及びP58を参照)	
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=O , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-STR	X(200)	文字列	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
			SPACE: 正常終了	
			LXREA024: NUMERIC エラー	
			LXREA020: 入力長さが範囲外	
			LXREA008: 入力文字列がスペース	
			LXREA027: 全桁満たされていない	
			LXREA030: 指定以外の文字あり	
処 理 基 準		例		
<p>1. 注意事項(1)(2)(3)に従ってチェックする。</p> <p>2. I-STR を以下のように変換した結果を作業領域 W-STR-1, W-STR-2(ともにPIC X(200))にセットする。</p> <p>2.1 LOW-VALUE を SPACE に置き換えて, その結果を W-STR-1 にセットする。</p> <p>2.2 更に左詰め処理を行った結果を W-STR-2 にセットする。</p> <p>3. W-STR-1 に対して I-EDIT-PARM で指定した編集を行い, 結果を O-STR にセットする。</p> <p>4. I-CHK-PARM に 'ENT=MENT' または 'ENT=MFILL' の指定があり, かつ W-STR-1 が SPACE の時, O-RTN-CD に 'LXREA008' を返す。</p> <p>5. その他の時, 以下の処理を行う。</p> <p>5.1 I-CHK-PARM に 'ENT=MFILL' の指定があり, かつ I-LENG が W-STR-2 の有効桁数より大きい時, O-RTN-CD に 'LXREA027' を返す。</p> <p>5.2 その他の時, W-STR-2(1:有効桁数)に対して I-CHK-PARM の CHK パラメータで指定したチェックを行う。</p> <p>(1) エラーの時, O-RTN-CD に 'LXREA030' を返す。</p> <p>(2) エラーでない時, O-RTN-CD に SPACE を返す。</p>		<p>1. I-LENG : 6 I-STR : 'ΔA11ΔΔ' I-CHK-PARM : 'CHK=(ALPHA, ALNUM)' I-EDIT-PARM : 'SFT=LEFT' ↓ O-STR : 'A11ΔΔΔ' O-RTN-CD : SPACE</p> <p>2. I-LENG : 6 I-STR : 'Δa11ΔΔ' I-CHK-PARM : 'CHK=CAPS, ENT=MENT' I-EDIT-PARM : 'SET=LEFT, CHG=STOC' ↓ O-STR : 'A11ΔΔΔ' O-RTN-CD : 'LXREA030'</p>		
<p><注意事項></p> <p>(1) I-LENG について NUMERIC チェックを行い, 数値でないときはリターンコードに 'LXREA024' を返す。O-STR には SPACE をそのまま返す。</p> <p>(2) 1 ≤ I-LENG ≤ 200 でなければリターンコードに 'LXREA020' を返す。O-STR には SPACE を返す。</p> <p>(3) (パラメータ解析: LXRPIZ11) を呼び出して I-CHK-PARM, I-EDIT-PARM をチェックする。エラーの時は, リターンコードをそのまま返し, O-STR には SPACE を返す。</p> <p>(4) I-STR 中の LOW-VALUE は, 半角空白と同様に扱う。</p> <p>(5) 本サブブルーチンから, (3)の他に (文字列左詰め: LXRPIA06), (文字列右詰め: LXRPIA07), (文字列有効桁数算出: LXRPIA09) を呼び出す。</p>				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPIA26

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRPIA26	項目編集	数字チェック/数値変換	LXRCIA26	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-LENG	P(3)	長さ	I L
03	I-STR-NU	X(18)	文字列(数字)	I
03	I-CHK-PARM	X(50)	チェック条件パラメータ 'ENT=入力モード指定' (詳細はLXRPIZ11及び補足説明(P58を参照))	C
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-NUM	9(18)	数値	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード SPACE: 正常終了 LXREA024: NUMERIC エラー LXREA020: 入力長さが範囲外 LXREA008: 入力文字列がスペース LXREA027: 全桁満たされていない LXREA026: 指定以外の文字あり	R
処 理 基 準		例		
<ol style="list-style-type: none"> 注意事項(1)(2)(3)に従ってチェックする。 I-STR-NU を以下のように変換した結果を作業領域 W-STR-NU-1, W-STR-NU-2(共にPIC X(18))にセットする。 <ol style="list-style-type: none"> LOW-VALUE を SPACE に置き換えて、その結果を W-STR-NU-1 にセットする。 更に右詰め処理を行い、前方の SPACE を'0'に置き換えた結果を W-STR-NU-2 にセットする。 I-CHK-PARM に'ENT=MENT'または'ENT=MFILL'の指定があり、かつ W-STR-NU-1 が SPACE の時、O-NUM に0を、O-RTN-CD に' LXREA008' を返す。 その他の時、以下の処理を行う。 <ol style="list-style-type: none"> I-CHK-PARM に'ENT=MFILL'の指定があり、かつ I-LENG が W-STR-NU-1 の有効桁数より大きい時、O-NUM に0を、O-RTN-CD に' LXREA027' を返す。 その他の時、W-STR-NU-2 に対して NUMERIC チェックを行う。 <ol style="list-style-type: none"> エラーの時、O-NUM に0を、O-RTN-CD に' LXREA026' を返す。 エラーでない時、W-STR-NU-2 を O-NUM に転送し、O-RTN-CD に SPACE を返す。 		<ol style="list-style-type: none"> <p>I-LENG : 6 I-STR-NU : ' Δ123ΔΔ' I-CHK-PARM : ' ENT=MENT' ↓ O-NUM : 123 O-RTN-CD : SPACE</p> <p>I-LENG : 2 I-STR-NU : ' Δ123456' I-CHK-PARM : ' ENT=MMENT' ↓ O-NUM : 123456 O-RTN-CD : SPACE</p> <p>I-LENG : 6 I-STR-NU : ' 123ΔΔΔ' I-CHK-PARM : ' ENT=MFILL' ↓ O-NUM : 0 O-RTN-CD : ' LXREA027'</p> 		
<p><注意事項></p> <ol style="list-style-type: none"> I-LENG について NUMERIC チェックを行い、数値でないときはリターンコードに' LXREA024' を返す。O-NUM には0を返す。 1 ≤ I-LENG ≤ 18 でなければリターンコードに' LXREA020' を返す。O-NUM には0を返す。 (パラメータ解析: LXRPIZ11) を呼び出して I-CHK-PARM をチェックする。エラーの時は、リターンコードをそのまま返し、O-NUM には0を返す。 I-LENG が W-STR-NU-1 の有効桁数より小さくても、数値変換の結果は切り捨てない。 I-STR-NU の中の LOW-VALUE は、半角空白と同様に扱う。 本サブルーチンから、(3)の他に(文字列右詰め: LXRPIA07), (文字列有効桁数算出: LXRPIA09) を呼び出す。 				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPIA27

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRPIA27	項目編集	数字範囲チェック/数値変換	LXRPIA27	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-LENG	P(3)	長さ	I L
03	I-STR-NU	X(18)	文字列(数字)	I
03	I-CHK-PARM	X(50)	チェック条件パラメータ 'ENT=入力モード指定' (詳細はLXRPIZ11及び補足説明(P58を参照))	C
03	I-RNG-PARM	X(50)	範囲パラメータ '1:3,11:13,99'の形式で指定 (詳細は処理基準,注意事項参照)	C
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=O , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-NUM	9(18)	数値	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード SPACE: 正常終了 LXREA028: 範囲パラメータエラー LXREA029: 数値が指定範囲外 (その他の内容はLXRPIA26の項を参照)	R
処 理 基 準		例		
<ol style="list-style-type: none"> 注意事項(1)(2)に従ってチェックする。 I-LENG, I-STR-NU, I-CHK-PARM の値をそのまま渡して(数字チェック/数値変換: LXRPIA26)を呼び出す。 LXRPIA26 の出力数値(O-NUM)をO-NUM に転送する。 LXRPIA26 のリターンコード(O-RTN-CD)がSPACE の時, 以下の処理を行う。 <ol style="list-style-type: none"> I-RNG-PARM の値が以下の範囲パラメータの文法に合っているかをチェックする。 範囲パラメータ=範囲 [, 範囲] ... 範囲=数字並び [: [数字並び]] または : 数字並び 数字並び=1個以上18個以下の数字(0~9)の並び チェック結果がエラーの時, O-RTN-CD に'LXREA028'を返す。 チェック結果がエラーでない時, 以下の処理を行う。 <ol style="list-style-type: none"> O-NUM の値が範囲パラメータで指定する範囲に含まれていれば, O-RTN-CD にSPACE を返す。 その他の時, O-RTN-CD に'LXREA029'を返す。 その他の時, LXRPIA26 のリターンコード(O-RTN-CD)をそのままO-RTN-CD に返す。 		<ol style="list-style-type: none"> <pre> I-LENG : 6 I-STR-NU : 'Δ123ΔΔ' I-CHK-PARM : 'ENT=MENT' I-RNG-PARM : '1:200,999' ↓ O-NUM : 123 O-RTN-CD : SPACE </pre> <pre> I-LENG : 2 I-STR-NU : 'Δ123ΔΔ' I-CHK-PARM : 'ENT=MMENT' I-RNG-PARM : ':99' ↓ O-NUM : 123 O-RTN-CD : 'LXREA029' </pre> 		
<p><注意事項></p> <ol style="list-style-type: none"> I-LENG について NUMERIC チェックを行い, 数値でないときはリターンコード(O-RTN-CD)に'LXREA024'を返す。O-NUM には0を返す。 $1 \leq I-LENG \leq 18$ でなければ, リターンコードに'LXREA020'を返す。O-NUM には0を返す。 範囲パラメータで指定する範囲の例を以下に示す(O-NUM の値 x とする)。 <ol style="list-style-type: none"> I-RNG-PARM='1:3,11:13,90' の時 $1 \leq x \leq 3$ OR $11 \leq x \leq 13$ OR $90 \leq x$ I-RNG-PARM=':5,9' の時 $x \leq 5$ OR $x=9$ I-RNG-PARM=':9,5:' の時 $x \leq 9$ OR $5 \leq x$ 範囲が重複していてもエラーにはならない。 範囲'a:b'は, a と b の大小関係に係わらず, 常に $a \leq x$ AND $x \leq b$ と解釈される。 本サブルーチンから, (数字チェック/数値変換: LXRPIA26), (文字列有効桁数算出: LXRPIA09)を呼び出す。 				

2. 標準サブルーチンの仕様

補足説明

<補足説明>

1. チェック条件パラメータ

1.1 'ENT=入力モード指定'

入力必須、全桁入力の区分を指定する。

(1) 入力モード指定

MNENT 空白可 入力データが SPACE の時、エラーにしない。

MENT 入力必須 入力データが SPACE の時、エラーにする。

MFILL 全桁入力 入力データの有効桁数が I-LENG で指定した長さより短い場合、エラーにする。

1.2 'CHK=(文字指定 [, 文字指定])'

文字種別で指定した文字のみで構成されているかチェックする。チェックの範囲は、SPACE 以外の最初の文字から SPACE 以外の最後の文字までとする。

文字指定を 2 つ指定した場合、1 つ目の文字指定は先頭 1 文字に、2 つ目の文字指定は 2 文字目以降に適用する。

文字指定を 1 つ指定した場合、この指定を全文字に適用する。

(1) 文字指定

ALNUM 英数字 A-Z, a-z, 0-9 (62 文字)

ALPHA 英字 A-Z, a-z (52 文字)

CAPS 英大文字 A-Z (26 文字)

SMLS 英小文字 a-z (26 文字)

NUM 数字 0-9 (10 文字)

CAPSNUM 英大文字または数字 A-Z, 0-9 (36 文字)

SMLSNUM 英小文字または数字 a-z, 0-9 (36 文字)

1.3 デフォルト値

'ENT=MNENT, CHK=(ALNUM, ALNUM)'

2. 編集条件パラメータ

2.1 'CHG=変換指定'

文字変換を指定する。

(1) 変換指定

NOCHG 変換しない

STOC 英小文字を英大文字に変換

CTOC 英大文字を英小文字に変換

2.2 'SFT=シフト指定'

左詰め、右詰めするかを指定する。

(1) シフト指定

NOSFT シフトしない

LEFT 左詰めする

RIGHT 右詰めする

2.3 デフォルト値

'CHG=NOCHG, SFT=NOSFT'

<注意事項>

(1) キーワード (CHK, ENT, CHG, SFT) の指定がない時、あるいは等号の右側の値が上記以外の場合、デフォルト値が指定されたと解釈する。

(2) 各サブルーチンの入力パラメータとして必要としないキーワードが入力されも無視する。エラーとしない。

(3) キーワードを重複して指定した場合、エラーとしないで以下の例のように解釈する。

'CHK=ALNUM, CHK=ALPHA' → 'CHK=(ALNUM, ALPHA)' と同等

'CHK=ALNUM, CHK=(CAPS, NUM)' → 'CHK=(ALNUM, CAPS)' と同等

(CHK の場合、括弧の付き方に関係なく、前から 2 つが有効となる)

'SFT=(LEFT, RIGHT)' → 'SFT=LEFT' と同等

'SFT=LEFT, SFT=RIGHT' → 'SFT=LEFT' と同等

(ENT, CHG, SFT の場合、括弧の付き方に関係なく、前から 1 つが有効となる)

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPIA28

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRPIA28	文字列処理	文字列切断	LXRCIA28	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-LENG	P(3)	長さ	O L
03	I-STR	X(200)	文字列	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-STR	X(200)	文字列	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード SPACE:正常 LXREA024:NUMERICエラー LXREA020:入力長さが範囲外	R
処 理 基 準			例	
<p>PC・UNIX版</p> <ol style="list-style-type: none"> I-LENGについてNUMERICチェックを行い、エラーのときはリターンコードに'LXREA024'を返す。 $1 \leq I-LENG \leq 200$とし、それ以外はリターンコードに'LXREA020'を返す。 文字データをI-LENGで指定された長さで切断する。 <p>VOS3版</p> <ol style="list-style-type: none"> PC・UNIX版の1.および2.の処理を行う。 文字列中に機能キャラクタが正しく配置されていることを確認する。エラーの場合は、そのままリターンコードを返す。 文字データをI-LENGで指定された長さで切断する。 			<ol style="list-style-type: none"> I-LENG : 10 I-STR : X' 0A42A4A2A4A4 A4A6A4A80A414040...' ↓ O-STR : X' 0A42A4A2A4A4 A4A60A414040...' O-RTN-CD : SPACE 	
<p><注意事項></p> <ol style="list-style-type: none"> 切断点が全角文字のコードの途中になる場合は、その前で切断する。 本サブルーチンから、(文字列有効桁数算出:LXRPIA09)、(漢字コードチェック:LXRPIB01)、(混在文字列チェック:LXRPIA23 VOS3版のみ)を呼び出す。 EUC対応版, Unicode対応版で文字列に半角カナを入力する場合、文字列長は実バイト長(EUC: 2バイト/文字, Unicode: 3バイト/文字)で指定する。 				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRP1B02

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRP1B02	漢字処理	漢字コードチェック (含外字)	LXRC1B02	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-STR-KJ	N(100)	文字列(漢字)	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード SPACE: 正常 LXREB006: 全角文字(含外字)コード以外あり LXREB003: 入力文字列がスペース	R
処 理 基 準		例		
1. 入力されたデータが全て全角文字コード(外字領域を含む)であるかチェックする。(チェックする文字コードの範囲は付録Aおよび付録Bを参照)		1. I-STR-KJ: NC'あ' ↓ O-RTN-CD: SPACE		
<p><注意事項></p> <p>(1) 半角空白2個は全角空白1個とみなす。(Unicode対応版では半角空白1個は全角空白1個)</p> <p>(2) VOS3版の場合、機能キャラクタは全角コードに含まない。従って機能キャラクタを含む場合はエラーとなる。</p> <p>(3) 本サブルーチンから、(漢字データ有効桁数算出: LXRP1B07)を呼び出す。</p> <p>(4) EUC対応版の場合、EUC-HJ(日立自治体用外字)はエラーとしない。</p>				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPB03

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRPB03	漢字処理	漢字シフト	LXRCB03	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-STR-KJ	N(100)	文字列(漢字)	I
03	I-SHFT-LENG	P(3)	シフトする文字数 正数: 右方向にシフト 負数: 左方向にシフト ゼロ: シフトしない	C
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=O , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-STR-KJ	N(100)	文字列(漢字)	O R
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード SPACE: 正常終了 LXREB005: NUMERIC エラー LXREB004: シフトする文字数が範囲外	
処 理 基 準			例	
<p>1. 漢字データの内容を指定文字数分シフトする。</p> <p>1.1 シフトする文字数(I-SHFT-LENG)により、以下の処理を行う。</p> <p>正数: I-SHIFT-LENG の値だけ、右方向にシフトする。</p> <p>負数: I-SHIFT-LENG の絶対値だけ、左方向にシフトする。</p> <p>ゼロ: 入力文字列をそのまま出力文字列とする。</p>			<p>1. I-STR-KJ : 'あいうえお' I-SHFT-LENG : 2 ↓ O-STR-KJ : '△△あいうえお' O-RTN-CD : SPACE</p> <p>2. I-STR-KJ : 'あいうえお' I-SHFT-LENG : -2 ↓ O-STR-KJ : 'うえお' O-RTN-CD : SPACE</p>	
<p><注意事項></p> <p>(1) I-SHFT-LENG について NUMERIC チェックを行い、数値でない時はエラーコード' LXREB005' をリターンコードとして返し、出力文字列は入力文字列をそのまま転記する。</p> <p>(2) $-100 \leq I-SHFT-LENG \leq 100$ でなければ、I-SHFT-LENG を 100 として処理を続行し、エラーコード' LXREB004' をリターンコードとして返す。</p> <p>(3) シフトした結果が出力文字列 N(100) の範囲からはみだす時は切り捨てる。リターンコードには、スペースを出力する。</p>				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRP1B04

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名																						
LXRP1B04	漢字処理	漢字データ左詰め	LXRC1B04																						
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)																									
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分																					
03	I-LENG	P(3)	長さ	O L																					
03	I-STR-KJ	N(100)	文字列(漢字)	I																					
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=O , RTN-CODE=R)																									
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分																					
03	O-STR-KJ	N(100)	文字列(漢字)	O																					
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R																					
			SPACE:正常終了																						
			LXREB005:NUMERICエラー																						
			LXREB004:入力長さが範囲外																						
			LXREB003:入力文字列がスペース																						
			LXREB002:切り捨てが発生した																						
処 理 基 準			例																						
<p>1. 漢字データを左に詰める。</p> <p>入力データ <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"><tr><td> </td><td> </td><td> </td><td>N</td><td>N</td><td> </td><td> </td><td>N</td><td>N</td><td> </td><td> </td></tr></table> ~ <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"><tr><td> </td><td> </td></tr></table> <div style="text-align: center; margin-left: 100px;">↓</div> <p>出力データ <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"><tr><td>N</td><td>N</td><td> </td><td> </td><td>N</td><td>N</td><td> </td><td> </td></tr></table></p> <p style="text-align: right; margin-right: 50px;">(100桁)</p> </p>						N	N			N	N					N	N			N	N			<p>1. I-STR-KJ : '△△△あい△う△△えお' I-LENG : 11 ↓ O-STR-KJ : 'あい△う△△えお△△△' O-RTN-CD : SPACE</p>	
			N	N			N	N																	
N	N			N	N																				
<p><注意事項></p> <p>(1) 半角空白2個は全角空白1個とみなす。(Unicode対応版では半角空白1個は全角空白1個)</p> <p>(2) I-LENGについてNUMERICチェックを行い、数値でないときはエラーコード'LXREB005'をリターンコードとして返し、出力文字列は入力文字列をそのまま転記する。</p> <p>(3) 1 ≤ I-LENG ≤ 100以外はエラーとし、エラーコード'LXREB004'をリターンコードとして返し、出力文字列は入力文字列をそのまま転記する。</p> <p>(4) 編集結果文字列長 > 出力フィールドの長さの場合、エラーコード'LXREB002'をリターンコードとして返し、処理を続行する。出力は編集結果文字列をそのまま転記する。</p> <p>(5) 本サブルーチンから、(漢字データ有効桁数算出:LXRP1B07)を呼び出す。</p> <p>(6) Unicode対応版では、サロゲートペアで表現される文字は1ペア2文字で指定する。</p>																									

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRP1B06

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRP1B06	漢字処理	漢字データ中央揃え	LXRC1B06	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-LENG	P(3)	長さ	O L
03	I-STR-KJ	N(100)	文字列(漢字)	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-STR-KJ	N(100)	文字列(漢字)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード SPACE:正常終了 LXREB005:NUMERIC エラー LXREB004:入力長さが範囲外 LXREB003:入力文字列がスペース LXREB002:切り捨てが発生した	R
処 理 基 準		例		
<p>1. 入力文字列をセンタリング編集する。</p> <p>1.1 (漢字データ有効桁数算出: LXRP1B07)により, 入力文字列の最右文字位置を求める。</p> <p>1.2 入力文字列の最左文字位置(空白以外の最初の文字の位置)を求める。</p> <p>1.3 入力文字列の最右文字位置と最左文字位置より実文字数を求め, (出力フィールドの長さ: I-LENG) に収まらなければエラーコード' LXREB002' をリターンコードとして返し, 左詰めを行う。</p> <p>1.4 (出力フィールドの長さ-実文字数)を2で割り(余り切り捨て), その商で表される出力文字列上の位置に入力文字列の最左文字位置からの文字列を転送する。</p>		<p>1. I-STR-KJ : ' あ△い△う△え△△△△' I-LENG : 11 ↓ O-STR-KJ : ' △△あ△い△う△え△△' O-RTN-CD : SPACE</p>		
<p><注意事項></p> <p>(1) 左右の空白が等しくならないときは, 左側の空白を1つ少なくする。</p> <p>(2) I-LENGについて NUMERIC チェックを行い, 数値でなければエラーコード' LXREB005' をリターンコードとして返し, 入力文字列はそのまま出力する。</p> <p>(3) $1 \leq I-LENG \leq 100$ でなければエラーとし, エラーコード' LXREB004' をリターンコードとして返し入力文字列をそのまま出力する。</p> <p>(4) 入力文字列がスペースの場合, エラーコード' LXREB003' をリターンコードとして返し, 入力文字列をそのまま出力する。</p> <p>(5) 本サブルーチンから, (漢字データ有効桁数算出: LXRP1B07) を呼び出す。</p> <p>(6) Unicode 対応版では, サロゲートペアで表現される文字は1ペア2文字で指定する。</p>				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPB09

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名																					
LXRPB09	漢字処理	不要空白削除 (漢字データ)	LXRCB09																					
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)																								
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分																				
03	I-LENG	P(3)	長さ	O L																				
03	I-STR-KJ	N(100)	文字列 (漢字)	I																				
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)																								
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分																				
03	O-STR-KJ	N(100)	文字列 (漢字)	O																				
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード SPACE: 正常終了 LXREB005: NUMERIC エラー LXREB004: 入力長さが範囲外 LXREB003: 入力文字列がスペース LXREB002: 切り捨てが発生した	R																				
処 理 基 準			例																					
<p>1. 漢字データ中の2個以上連続する空白の2個目以降を削除する。</p> <p>入力データ</p> <table border="1" style="margin-left: 40px;"> <tr> <td>N</td><td></td><td></td><td>N</td><td>N</td><td></td><td></td><td></td><td>N</td><td>N</td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>出力データ</p> <table border="1" style="margin-left: 40px;"> <tr> <td>N</td><td></td><td>N</td><td></td><td>N</td><td>N</td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> </table> <p>2. 先頭の空白も同様に1個の空白とする。</p>			N			N	N				N	N	N		N		N	N					<p>1. I-STR-KJ :</p> <p>'あ△△い△う△△△えお'</p> <p>I-LENG : 11</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>O-STR-KJ :</p> <p>'あ△い△う△えお△△△'</p> <p>O-RTN-CD : SPACE</p>	
N			N	N				N	N															
N		N		N	N																			
<p><注意事項></p> <p>(1) 左右の空白2個は全角空白1個とみなす。(Unicode対応版では半角空白1個は全角空白1個)</p> <p>(2) I-LENGについてNUMERICチェックを行い、数値でないときはエラーコード'LXREB005'をリターンコードとして返す。処理は続行する。</p> <p>(3) 1 ≤ I-LENG ≤ 100以外はエラーとし、エラーコード'LXREB004'をリターンコードとして返す。処理は続行する。</p> <p>(4) 編集結果文字列長 > 出力フィールドの長さの場合、エラーコード'LXREB002'をリターンコードとして返し、処理を続行する。出力は編集結果文字列をそのまま返す。</p> <p>(5) 本サブルーチンから、(漢字データ有効桁数算出:LXRPB07)、(全角空白→半角空白置換:LXRPB13)を呼び出す。</p> <p>(6) Unicode対応版では、サロゲートペアで表現される文字は1ペア2文字で指定する。</p>																								

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRP1B10

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRP1B10	漢字処理	漢字交互挿入	LXRC1B10	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-1ST-LENG	P(3)	第一文字列長さ	I L
03	I-1ST-STR	N(100)	第一文字列	I
03	I-2ND-LENG	P(3)	第二文字列長さ	I L
03	I-2ND-STR	N(100)	第二文字列	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=O , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-STR	N(100)	文字列 (漢字)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
			SPACE: 正常終了	
			LXREB005: NUMERIC エラー	
			LXREB004: 入力長さが範囲外	
			LXREB001: 漢字コード範囲外	
			LXREB003: 入力文字列がスペース	
			LXREB002: 切り捨てが発生した	
処 理 基 準		例		
<p>1. I-1ST-STR を (文字コードチェック (漢字): LXRP1B01) を呼びチェックする。</p> <p>1.1 リターンコードがスペースの時 I-1ST-LENG の NUMERIC チェックを行い, I-2ND-STR と I-2ND-LENG に対しても同じ処理を行う。</p> <p>1.2 リターンコードがスペースでない時 (漢字コードチェック: LXRP1B01) のリターンコードを返す。</p> <p>2. 入力データが全て正常だった場合, 入力漢字データ 1 のスペースエリアに入力漢字データ 2 がスペースになるまで順次セットし編集する。</p> <p>2.1 出力する時に切り捨てが発生した時と, 入力漢字データの長さが入力漢字データ数より短かった場合は, エラーコードに 'LXREB002' を返し, 出力は編集結果文字列をそのまま返す。</p>		<p>1. I-1ST-LENG : 8 I-1ST-STR : '世帯主△長男△子' I-2ND-LENG : 3 I-2ND-STR : 'の△の' ↓ O-STR '世帯主の長男の子' O-RTN-CD : SPACE</p>		
<p><注意事項></p> <p>(1) 第一文字列長さと第二文字列長さが, $1 \leq I-1ST-LENG, I-2ND-LENG \leq 100$ の範囲外だった時リターンコードに 'LXREB004' を返す。</p> <p>(2) NUMERIC エラーが起こった時は, リターンコードに 'LXREB005' を返す。</p> <p>(3) 本サブルーチンから, (漢字データ有効桁数算出: LXRP1B01) と (全角空白→半角空白置換: LXRP1B07) を呼び出す。</p> <p>(4) Unicode 対応版では, サロゲートペアで表現される文字は 1 ペア 2 文字で指定する。</p>				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPB11

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRPB11	漢字処理	不当漢字コード置換	LXRCIB11	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-LENG	P(3)	長さ	O L
03	I-STR-KJ	N(100)	文字列(漢字)	I
03	I-CHAR-KJ	N(1)	文字(漢字)	C
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=O , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-STR-KJ	N(100)	出力文字列(漢字)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード SPACE: 正常終了 LXREB005: NUMERIC エラー LXREB004: 入力長さが範囲外	R
処 理 基 準			例	
<p>1. 長さのNUMERICチェックと範囲チェックを行う。</p> <p>1.1 リターンコードがスペースの時一文字ずつ漢字データを(漢字コードチェック: LXRPB01)を使ってチェックしリターンコードが'LXREB001'のとき置換する漢字を出力する。</p>			<p>1. I-STR-KJ: X'AOA1A2A3' I-LENG: 2 I-CHAR-KJ: X'A1A1' ↓ O-STR-KJ: X'A1A1A2A3' O-RTN-CD: SPACE (本例はVOS3版の例です)</p>	
<p><注意事項></p> <p>(1) I-LENGに数字以外が入力された時は、リターンコードに'LXREB005'を返す。出力文字列にはスペースを返す。</p> <p>(2) $1 \leq I-LENG \leq 100$ 以外はエラーとし、出力文字列にスペースをリターンコードに'LXREB004'を返す。</p> <p>(3) 置換の範囲はI-LENGで指定した長さの範囲のみとする。</p> <p>(4) 本サブルーチンから、(漢字コードチェック: LXRPB01)を呼び出す。</p> <p>(5) 入力文字列中のスペースは、正常データとして処理する。</p> <p>(6) Unicode対応版では、サロゲートペアで表現される文字は1ペア2文字で指定する。</p>				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRP1B12

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRP1B12	漢字処理	機能キャラクタ削除	LXRC1B12	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-LENG	P(3)	長さ	O L
03	I-STR	X(200)	文字列	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-STR	X(200)	文字列	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード SPACE: 正常終了 LXREB005: NUMERIC エラー LXREB004: 入力長さが範囲外 LXREB002: 切り捨てが発生した	R
処 理 基 準		例		
PC・UNIX 版 1. I-LENG の NUMERIC チェックと範囲チェックを行う。 VOS3 版 1. I-LENG の NUMERIC チェックと範囲チェックを行う。 2. リターンコードがスペースの場合、機能キャラクタを削除する。		1. I-LENG : 6 I-STR : X' 0A41C3C20A42C3A10A410A42' ↓ O-STR : X' C3C2C3A1' O-RTN-CD : SPACE 2. I-LENG : 3 I-STR : X' 0A42' 1234X' 0A41' ↓ O-STR : 1234 O-RTN-CD : ' LXREB002'		
<注意事項> (1) I-LENG に数字以外が入力されたときは、出力文字列にスペース、リターンコードに' LXREB005' を返す。 (2) 1 ≤ I-LENG ≤ 200 でない場合、出力文字列にスペース、リターンコードに' LXREB004' を返す。 (3) 編集結果の有効桁数が出力フィールドの長さを超えていた場合はリターンコードに' LXREB002' を返す。 (4) 本サブルーチンから、(文字列有効桁数算出: LXRP1A09) を呼び出す。				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPB13

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRPB13	漢字処理	全角空白→半角空白置換	LXRCIB13	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-LENG	P(3)	長さ	O L
03	I-STR-KJ	N(100)	文字列(漢字)	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=O , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-STR-KJ	N(100)	文字列(漢字)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
			SPACE:正常終了	
			LXREB005:NUMERIC エラー	
			LXREB004:入力長さが範囲外	
			LXREB003:入力文字列がスペース	
			LXREB002:切り捨てが発生した	
処 理 基 準			例	
1. 入力された漢字データの中の全角空白1個を半角空白2個に置換する。(Unicode 対応版では全角空白1個を半角空白1個に置換する)			1. I-STR-KJ: 'あ△い△う' I-LENG : 5 ↓ O-STR-KJ 'あ△△い△△う' O-RTN-CD: SPACE △:全角空白1個 △:半角空白1個	
<注意事項> (1) 半角空白2個は全角空白1個とみなす。(Unicode 対応版では半角空白1個は全角空白1個) (2) I-LENG について NUMERIC チェックを行い、数値でないときはエラーコード' LXREB005' をリターンコードとして返す。処理は続行する。 (3) 1 ≤ I-LENG ≤ 100 以外はエラーとし、エラーコード' LXREB004' をリターンコードとして返す。処理を続行する。 (4) 編集結果文字列長 > 出力フィールドの長さの場合、エラーコード' LXREB002' をリターンコードとして返す。出力は編集結果文字列をそのまま返す。 (5) 本サブルーチンから、(漢字データ有効桁数算出: LXRPB07) を呼び出す。 (6) Unicode 対応版では、サロゲートペアで表現される文字は1ペア2文字で指定する。				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRP1B14

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRP1B14	漢字処理	半角空白→全角空白置換	LXRC1B14	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-LENG	P(3)	長さ	O L
03	I-STR-KJ	N(100)	文字列(漢字)	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=O , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-STR-KJ	N(100)	文字列(漢字)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
			SPACE:正常終了	
			LXREB005:NUMERIC エラー	
			LXREB004:入力長さが範囲外	
			LXREB003:入力文字列がスペース	
			LXREB002:切り捨てが発生した	
処 理 基 準			例	
<p>1. 入力された漢字データの中の半角空白2個を全角空白1個に置換する。(Unicode対応版では半角空白1個を全角空白1個に置換する)</p>			<p>1. I-STR-KJ: 'あ△△い△△う' I-LENG : 5 ↓ O-STR-KJ: 'あ△い△う' O-RTN-CD: SPACE</p> <p>△:半角空白1個 △:全角空白1個</p>	
<p><注意事項></p> <p>(1) 半角空白2個は全角空白1個とみなす。(Unicode対応版では半角空白1個は全角空白1個)</p> <p>(2) I-LENGについてNUMERICチェックを行い、数値でないときはエラーコード'LXREB005'をリターンコードとして返す。処理は続行する。</p> <p>(3) 1 ≤ I-LENG ≤ 100以外はエラーとし、エラーコード'LXREB004'をリターンコードとして返す。処理は続行する。</p> <p>(4) 編集結果文字列長>出力フィールドの長さの場合、エラーコード'LXREB002'をリターンコードとして返す。出力は編集結果文字列をそのまま返す。</p> <p>(5) 本サブルーチンから、(漢字データ有効桁数算出:LXRP1B07)を呼び出す。</p> <p>(6) Unicode対応版では、サロゲートペアで表現される文字は1ペア2文字で指定する。</p>				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRP1B15

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRP1B15	漢字処理	漢字交互挿入 (含外字)	LXRC1B15	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-1ST-LENG	P(3)	第一文字列長さ	I L
03	I-1ST-STR	N(100)	第一文字列	I
03	I-2ND-LENG	P(3)	第二文字列長さ	I L
03	I-2ND-STR	N(100)	第二文字列	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=O , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-STR	N(100)	文字列	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード SPACE: 正常 LXREB005: NUMERIC エラー LXREB004: 入力長さが範囲外 LXREB002: 切り捨てが発生した	R
処 理 基 準			例	
1. 注意事項(1), (2), (3)に従ってチェックする。 2. リターンコードがスペースの場合, 入力第一文字列のスペースエリアに入力第二文字列をスペースが現れるまで順次セットし編集する。 2.1 出力する時に切り捨てが発生した場合, また, 入力文字列の文字数が入力長さより短かった場合は, エラーコード' LXREB002' をリターンコードに設定し, 出力は結果文字列をそのまま返す。			1. I-1ST-LENG : 8 I-1ST-STR : '世帯主△長男△子' I-2ND-LENG : 3 I-2ND-STR : 'の△の' ↓ O-STR : '世帯主の長男の子' O-RTN-CD : SPACE	
<注意事項> (1) I-1ST-STR, I-2ND-STR について(漢字コードチェック(含外字): LXRP1B02) を呼び出し, チェックする。 (2) I-1ST-LENG, I-2ND-LENG について NUMERIC チェックを行い, エラーのときはエラーコード' LXREB005' をリターンコードに設定する。 (3) $1 \leq I-1ST-LENG \leq 100$, $1 \leq I-2ND-LENG \leq 100$ でなければエラーコード' LXREB004' をリターンコードに設定する。 (4) 文字サブルーチンから, (漢字コードチェック(含外字): LXRP1B02) と(漢字データ有効桁数算出: LXRP1B07) を呼び出す。 (5) Unicode 対応版では, サロゲートペアで表現される文字は1ペア2文字で指定する。				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRP1B16

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRP1B16	漢字処理	不当漢字コード置換 (含外字)	LXRC1B16	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-LENG	P(3)	長さ	O L
03	I-STR-KJ	N(100)	文字列(漢字)	I
03	I-CHAR-KJ	N(1)	文字(漢字)	C
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-STR-KJ	N(100)	出力文字列(漢字)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード SPACE:正常 LXREB005:NUMERICエラー LXREB004:入力長さが範囲外	R
処 理 基 準			例	
1. 注意事項(1),(2)に従ってチェックする。 2. リターンコードがスペースの場合、入力文字列を1文字づつ(漢字コードチェック(含外字):LXRP1B02)を呼び出してチェックし、リターンコードが'LXREB006'のとき、置換する漢字に置き換える。			1. I-STR-KJ : X'AOA1A2A3' I-LENG : 2 I-CHAR-KJ : X'A1A1' ↓ O-STR-KJ : X'A1A1A2A3' O-RTN-CD : SPACE (本例はVOS3版の例です)	
<注意事項> (1) I-LENGについてNUMERICチェックを行ない、エラーのときはエラーコード'LXREB005'をリターンコードに設定する。 (2) 1≤I-LENG≤100でなければエラーコード'LXREB004'をリターンコードに設定する。 (3) 置換の範囲はI-LENGで指定した長さの範囲のみとする。 (4) 本サブルーチンから(漢字コードチェック(含外字):LXRP1B02)を呼出す。 (5) 入力文字列中のスペースは、正常データとして処理する。 (6) Unicode対応版では、サロゲートペアで表現される文字は1ペア2文字で指定する。				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPIC01

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRPIC01	コード変換	半角→全角変換	LXRCIC01	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-LENG	P(3)	長さ	O L
03	I-STR	X(200)	文字列	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-STR-KJ	N(200)	文字列 (漢字)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード SPACE: 正常終了 LXREC005: NUMERIC エラー LXREC004: 入力長さが範囲外	R
処 理 基 準			例	
1. 半角 1 文字を全角 1 文字に変換する。 2. 濁音・半濁音は、半角 2 文字を全角 1 文字に変換する。 3. 空白文字・制御文字および未使用コードは空白 (2 バイト) に変換する。			1. I-STR : 'ヒヂ' I-LENG : 3 ↓ O-STR-KJ : 'ヒタチ' O-RTN-CD : SPACE 2. I-STR : 'ゼンカク' I-LENG : 5 ↓ O-STR-KJ : 'ゼンカク' O-RTN-CD : SPACE	
<注意事項> (1) VOS3 版の場合、機能キャラクタも通常の半角 2 バイトとして扱う。 (2) I-LENG について NUMERIC チェックを行い、数値でないときはリターンコード 'LXREC005' を返す。出力文字列にはスペースを返す。 (3) $1 \leq I-LENG \leq 200$ でなければ、エラーコード 'LXREC004' をリターンコードとして返す。出力文字列にはスペースを返す。 (4) I-LENG で指定した長さの範囲のみが変換の対象となる。 (5) EUC 対応版、Unicode 対応版で半角カナを変換する場合、文字数は実バイト長 (EUC: 2 バイト/文字, Unicode: 3 バイト/文字) で指定する。				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPIC02

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRPIC02	コード変換	全角→半角変換	LXRCIC02	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-LENG	P(3)	長さ	O L
03	I-STR-KJ	N(100)	文字列(漢字)	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=O , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-STR	X(200)	文字列	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
			SPACE:正常終了	
			LXREC005:NUMERIC エラー	
			LXREC004:入力長さが範囲外	
			LXREC008:変換できない文字がある	
			LXREC009:切り捨てが発生した	
処 理 基 準			例	
1. 全角1文字を半角1文字に変換する。 2. 濁音・半濁音は、全角1文字を半角2文字に変換する。			1. I-LENG : 10 I-STR-KJ : 'ヴァイオリン' ↓ O-STR : 'ヴァイリン' O-RTN-CD : SPACE	
<注意事項> (1) 対応する半角文字コードがない場合は空白文字に変換する。 (2) I-LENG について NUMERIC チェックを行い、数値でないときはリターンコード' LXREC005' を返す。出力文字列にはスペースを返す。 (3) 1 ≤ I-LENG ≤ 100 以外はエラーとし、リターンコード' LXREC004' を返す。出力文字列にはスペースを返す。 (4) I-LENG で指定した長さの範囲のみが変換の対象となる。 (5) 編集結果が出力文字列に入りきらないときは、リターンコードに' LXREC009' を返し、超えた分は切り捨てて出力文字列にセットする。 (6) Unicode 対応版では、サロゲートペアで表現される文字は1ペア2文字で指定する。				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPC03

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRPC03	コード変換	EBCDIK→JIS変換	LXRCIC03	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-LENG	P(3)	長さ	OL
03	I-STR	X(200)	文字列	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-STR	X(200)	文字列	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード SPACE:正常終了 LXREC005:NUMERICエラー LXREC004:入力長さが範囲外	R
処 理 基 準		例		
1. EBCDIKコードをJIS8単位コードに変換する。		1. I-STR : X'F1F2F3F4' I-LENG : 04 ↓ O-STR : X'31323334' O-RTN-CD : SPACE		
<p><注意事項></p> <p>(1) 文字が未定義の場合、空白に変換する。</p> <p>(2) I-LENG について NUMERIC チェックを行い、数値でないときはリターンコード' LXREC005' を返す。出力文字列にはスペースを返す。</p> <p>(3) 1 ≤ I-LENG ≤ 200 以外はエラーとし、リターンコード' LXREC004' を返す。出力文字列にはスペースを返す。</p> <p>(4) I-LENG で指定した長さの範囲のみが変換の対象となる。</p>				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPC04

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRPC04	コード変換	JIS→EBCDIK変換	LXRCIC04	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-LENG	P(3)	長さ	OL
03	I-STR	X(200)	文字列	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-STR	X(200)	文字列	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード SPACE:正常終了 LXREC005:NUMERICエラー LXREC004:入力長さが範囲外	R
処 理 基 準			例	
1. JIS8単位コードをEBCDIKコードに変換する。			1. I-STR : X'31323334' I-LENG : 04 ↓ O-STR : X'F1F2F3F4' O-RTN-CD : SPACE	
<p><注意事項></p> (1) 文字が未定義の場合、空白に変換する。 (2) I-LENG について NUMERIC チェックを行い、数値でないときはリターンコード' LXREC005' を返す。出力文字列にはスペースを返す。 (3) 1 ≤ I-LENG ≤ 200 以外はエラーとし、リターンコード' LXREC004' を返す。出力文字列にはスペースを返す。 (4) I-LENG で指定した長さの範囲のみが変換の対象となる。				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPIC05

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRPIC05	コード変換	JIS漢字→KEIS変換	LXRCIC05	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-LENG	P(3)	長さ	OL
03	I-STR-KJ	N(100)	文字列(漢字)	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-STR-KJ	N(100)	文字列(漢字)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード SPACE:正常終了 LXREC005:NUMERICエラー LXREC004:入力長さが範囲外	R
処 理 基 準			例	
1. JIS漢字コードをKEISコードに変換する。			1. I-STR-KJ : X' 234123422343' I-LENG : 3 ↓ O-STR-KJ : X' A3C1A3C2A3C3' O-RTN-CD : SPACE	
<p><注意事項></p> <p>(1) KEISコードはNタイプで出力する。</p> <p>(2) 変換データの長さは文字数(バイト数/2)で指定する。</p> <p>(3) I-LENG について NUMERIC チェックを行い、数値でないときはリターンコード' LXREC005' を返す。出力文字列にはスペースを返す。</p> <p>(4) 1 ≤ I-LENG ≤ 100 以外はエラーとし、リターンコード' LXREC004' を返す。出力文字列にはスペースを返す。</p> <p>(5) I-LENG で指定した長さの範囲のみが変換の対象となる。</p>				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPIC06

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRPIC06	コード変換	KEIS→JIS漢字変換	LXRCIC06	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-LENG	P(3)	長さ	OL
03	I-STR-KJ	N(100)	文字列(漢字)	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-STR-KJ	N(100)	文字列(漢字)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
			SPACE:正常終了	
			LXREC005:NUMERICエラー	
			LXREC004:入力長さが範囲外	
処 理 基 準		例		
1. KEISコードをJIS漢字コードに変換する。		1. I-STR-KJ : X' A3C1A3C2A3C3' I-LENG : 3 ↓ O-STR-KJ : X' 234123422343' O-RTN-CD : SPACE		
<注意事項> (1) 変換データの長さは文字数(バイト数/2)で指定する。 (2) I-LENG について NUMERIC チェックを行い、数値でないときはリターンコード' LXREC005' を返す。出力文字列にはスペースを返す。 (3) 1 ≤ I-LENG ≤ 100 以外はエラーとし、リターンコード' LXREC004' を返す。出力文字列にはスペースを返す。 (4) I-LENG で指定した長さの範囲のみが変換の対象となる。				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPIC07

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRPIC07	コード変換	16進文字列→バイナリ変換	LXRCIC07	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-STR-HX	X(400)	文字列(16進)	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=O , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-BNRY	X(200)	文字列	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
			SPACE:正常終了	
			LXREC001:入力データ中に不当な文字がある	
			LXREC002:入力データスペース	
			LXREC003:入力データが奇数桁	
処 理 基 準		例		
1. 16進文字列をキャラクタ文字列に変換する。		1. I-STR-HX : 'C5C1C7D3C5' ↓ O-BNRY : X' C5C1C7D3C5' O-RTN-CD : SPACE		
<p><注意事項></p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 左端から最初の空白までを変換する。 (2) 入力データの長さは、400バイトとする。 (3) 入力データ中に0~9, A~F以外の文字があった場合、リターンコードを返し、変換は行わない。 (4) 入力データが奇数桁の場合は、最後の1桁を無視して変換し、リターンコードを返す。 (5) 変換結果が、200バイトに充たない場合は、後方に空白をセットする。 (6) エラーの場合、出力の文字列にはスペースを返す。 				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPC08

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRPC08	コード変換	バイナリ→16進文字列変換	LXRCIC08	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-BNRY	X(200)	文字列	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-STR-HX	X(400)	文字列(16進)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード SPACE:正常終了	R
処 理 基 準		例		
1. キャラクタ文字列を16進文字列に変換する。		1. I-BNRY : X' C5C1C7D3C5' ↓ O-STR-HX : ' C5C1C7D3C5' O-RTN-CD : SPACE		
<注意事項> (1) 200バイト全てを変換する。				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPIC09

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRPIC09	コード変換	2進文字列→バイナリ変換	LXRCIC09	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-STR-BN	X(64)	文字列(2進)	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-BNRY	B(18)	内部2進	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
			SPACE:正常終了	
			LXREC001:入力データ中に不当な文字がある	
			LXREC002:入力データがスペース	
処 理 基 準		例		
1. 2進文字列を2進数値に変換する。		1. I-STR-BN : '11000' ↓ O-BNRY : +24 O-RTN-CD : SPACE		
<p><注意事項></p> <p>(1) 後方の空白を除いた部分を変換する。</p> <p>(2) 入力データ中に、1, 0以外の文字があった場合、リターンコードを返し、変換は行わない。</p>				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPIC10

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRPIC10	コード変換	バイナリ→2進文字列変換	LXRCIC10	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-BNRY	B(18)	内部2進	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-STR-BN	X(64)	文字列(2進)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード SPACE:正常終了	R
処 理 基 準		例		
1. 2進数値を2進文字列に変換する。		1. I-BNRY : +24 ↓ O-STR-BN : '00 _____ 0011000' O-RTN-CD : SPACE		
<注意事項>				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPIC11

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRPIC11	コード変換	KEIS83→KEIS78 変換	LXRCIC11	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-LENG	P(3)	長さ	OL
03	I-STR	X(200)	文字列	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-STR	X(200)	文字列	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード SPACE:正常終了 LXREC005:NUMERICエラー LXREC004:入力長さが範囲外	R
処 理 基 準			例	
1. KEIS83の漢字コードをKEIS78に変換する			1. I-LENG : 3 I-STR : X'A8A3A1A1B0B3' ↓ O-STR : X'AFA1A1A1F2CD' O-RTN-CD : SPACE	
<p><注意事項></p> <p>(1) KEIS83に対するコードチェックは行わない。</p> <p>(2) 変換データの長さは文字数(バイト数/2)で指定する。</p> <p>(3) I-LENG について NUMERIC チェックを行い、数値でないときはリターンコード' LXREC005' を返す。出力文字列にはスペースを返す。</p> <p>(4) 1 ≤ I-LENG ≤ 100 以外はエラーとし、リターンコード' LXREC004' を返す。出力文字列にはスペースを返す。</p> <p>(5) I-LENG で指定した長さの範囲のみが変換の対象となる。</p>				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPIC12

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRPIC12	コード変換	KEIS78→KEIS83 変換	LXRCIC12	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-LENG	P(3)	長さ	OL
03	I-STR	X(200)	文字列	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-STR	X(200)	文字列	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード SPACE:正常終了 LXREC005:NUMERICエラー LXREC004:入力長さが範囲外	R
処 理 基 準			例	
1. KEIS78の漢字コードをKEIS83に変換する。			1. I-LENG : 3 I-STR : X' AFA1A1A1F2CD' ↓ O-STR : X' A8A3A1A1B0B3' O-RTN-CD : SPACE	
<注意事項> (1) KEIS78に対するコードチェックは行わない。 (2) 変換データの長さは文字数(バイト数/2)で指定する。 (3) I-LENG について NUMERIC チェックを行い、数値でないときはリターンコード' LXREC005' を返す。出力文字列にはスペースを返す。 (4) 1 ≤ I-LENG ≤ 100 以外はエラーとし、リターンコード' LXREC004' を返す。出力文字列にはスペースを返す。 (5) I-LENG で指定した長さの範囲のみが変換の対象となる。				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPID01

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名																						
LXRPID01	日付処理	実在日チェック (西暦)	LXRCID01																						
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)																									
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分																					
03	I-YMD		年月日	I																					
05	I-YY	9(4)	年	I																					
05	I-MM	9(2)	月	I																					
05	I-DD	9(2)	日	I																					
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)																									
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分																					
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R																					
処 理 基 準		例																							
<p>1. 以下の順でチェックを行い、エラーの場合リターンコードを返す。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>NO</th> <th>チェック</th> <th>リターンコード</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>年月日が数字のみである</td> <td>LXRED017</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>年月日≠ALL ZERO</td> <td>LXRED016</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>年≠ZERO</td> <td>LXRED001</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>月=1~12</td> <td>LXRED007</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>実在する月日である</td> <td>LXRED009</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>月日=2月29日ならば年=閏年</td> <td>LXRED008</td> </tr> </tbody> </table>		NO	チェック	リターンコード	1	年月日が数字のみである	LXRED017	2	年月日≠ALL ZERO	LXRED016	3	年≠ZERO	LXRED001	4	月=1~12	LXRED007	5	実在する月日である	LXRED009	6	月日=2月29日ならば年=閏年	LXRED008	<p>1. I-YMD : 00000229 ↓ O-RTN-CD : 'LXRED001'</p> <p>2. I-YMD : 19901329 ↓ O-RTN-CD : 'LXRED007'</p> <p>3. I-YMD : 19900229 ↓ O-RTN-CD : 'LXRED008'</p> <p>4. I-YMD : 19900431 ↓ O-RTN-CD : 'LXRED009'</p> <p>5. I-YMD : QQQQ0229 ↓ O-RTN-CD : 'LXRED017'</p>		
NO	チェック	リターンコード																							
1	年月日が数字のみである	LXRED017																							
2	年月日≠ALL ZERO	LXRED016																							
3	年≠ZERO	LXRED001																							
4	月=1~12	LXRED007																							
5	実在する月日である	LXRED009																							
6	月日=2月29日ならば年=閏年	LXRED008																							
<p><注意事項> (1) 年だけが0の場合, 'LXRED001' をリターンコードに返す。</p>																									

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPID02

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRPID02	日付処理	実在日チェック (和暦)	LXRCID02	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-YMDWA		年月日 (和暦)	I
05	I-NNG	X(1)	年号	I
05	I-YY	9(2)	年	I
05	I-MM	9(2)	月	I
05	I-DD	9(2)	日	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=O , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード (処理基準参照)	R
処 理 基 準		例		
(次紙参照)		1. I-YMDWA : 1450731 ↓ O-RTN-CD : 'LXRED006' 2. I-YMDWA : S640108 ↓ O-RTN-CD : 'LXRED004'		
<注意事項> (1) 本サブルーチンから (年号コード変換 (英字→数字) :LXRPID37) を呼び出す。 (2) 年号がエラーのときは、年号=平成を仮定してチェックを続行し、他のエラーに該当するときは、他のエラーのリターンコードを返す。				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPID02

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPID02	日付処理	実在日チェック（和暦）	LXRCID02

1. 以下の順でチェックを行い、エラーの場合リターンコードを返す。

NO	チェック	リターンコード
1	年月日が数字のみである	LXRED017
2	年月日≠ALL ZERO	LXRED016
3	年号=1, 2, 3, 4, M, T, S, H	LXRED002
4	年≠ZERO	LXRED001
5	月=1~12	LXRED007
6	実在する月日である	LXRED009
7	月日=2月29日ならば年=閏年	LXRED008
8	明治:元年9月8日~45年7月30日	LXRED006
9	大正:元年7月30日~15年12月25日	LXRED005
10	昭和:元年12月25日~64年1月7日	LXRED004
11	平成:元年1月8日~	LXRED010

2. JIS規格版では、以下の順でチェックを行い、エラーの場合リターンコードを返す。

NO	チェック	リターンコード
1	年月日が数字のみである	LXRED017
2	年月日≠ALL ZERO	LXRED016
3	年号=1, 2, 3, 4, M, T, S, H	LXRED002
4	年≠ZERO	LXRED001
5	月=1~12	LXRED007
6	実在する月日である	LXRED009
7	月日=2月29日ならば年=閏年	LXRED008
8	明治:元年9月8日~45年7月30日	LXRED006
9	大正:元年7月31日~15年12月25日	LXRED005
10	昭和:元年12月26日~64年1月7日	LXRED004
11	平成:元年1月8日~	LXRED010

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPID03

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRPID03	日付処理	年月日範囲内チェック (西暦)	LXRCID03	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-YMD	9(8)	年月日 (YYYYMMDD)	I
03	I-STT-YMD	9(8)	開始年月日 (YYYYMMDD)	I
03	I-END-YMD	9(8)	終了年月日 (YYYYMMDD)	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード SPACE: 指定範囲内 LXRED012: 年月日が指定範囲外	R
処 理 基 準		例		
<p>1. 入力された年月日, 開始年月日及び終了年月日のチェックを(実在日チェック(西暦):LXRPID01)を用いて行い, エラーの場合リターンコードを返す。</p> <p>2. リターンコードがスペースの時, 西暦年月日が, 指定された開始年月日と終了年月日の間の年月日かチェックする。</p>		<p>1. I-YMD : 19890131 I-STT-YMD : 19890101 I-END-YMD : 19890201 ↓ O-RTN-CD : SPACE</p>		
<p><注意事項></p> <p>(1) 本サブルーチンから(実在日チェック(西暦):LXRPID01)を呼び出す。</p> <p>(2) 開始年月日と, 終了年月日は, 西暦年月日とする。</p> <p>(3) 開始年月日>終了年月日と指定すると, リターンコード'LXRED012'を返す。</p> <p>(4) 年月日, 開始年月日, 終了年月日が実在日でないと, LXRED001のリターンコードを返す。</p>				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPID04

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRPID04	日付処理	年月日範囲内チェック (和暦)	LXRCID04	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-YMDWA		年月日 (和暦)	I
05	I-NNG	X(1)	年号	
05	I-YY	9(2)	年	
05	I-MM	9(2)	月	
05	I-DD	9(2)	日	
03	I-STT-YMDWA		開始年月日 (和暦)	I
05	I-S-NNG	X(1)	年号	
05	I-S-YY	9(2)	年	
05	I-S-MM	9(2)	月	
05	I-S-DD	9(2)	日	
03	I-END-YMDWA		終了年月日 (和暦)	I
05	I-E-NNG	X(1)	年号	
05	I-E-YY	9(2)	年	
05	I-E-MM	9(2)	月	
05	I-E-DD	9(2)	日	
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード SPACE: 指定範囲内 LXRED012: 年月日が指定範囲外	R
処 理 基 準		例		
1. 和暦年月日が、指定された開始年月日と終了年月日の間の年月日か (年月日範囲内チェック (西暦): LXRPID03) を用いてチェックする。		1. I-YMDWA : 3631224 I-STT-YMDWA : 4020101 I-END-YMDWA : 4030101 ↓ O-RTN-CD : 'LXRED012'		
<p><注意事項></p> <p>(1) 本サブルーチンから (年月日変換 (和暦→西暦): LXRPID06) , (年月日範囲内チェック (西暦): LXRPID03) を呼び出す。</p> <p>(2) 開始年月日と終了年月日は、和暦年月日とする。</p> <p>(3) 開始年月日 > 終了年月日と指定すると、リターンコード 'LXRED012' を返す。</p> <p>(4) 年月日、開始年月日、終了年月日が実在日でないと、LXRED002 のリターンコードを返す。</p>				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPID05

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRPID05	日付処理	年月日変換（西暦→和暦）	LXRCID05	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-YMD		年月日	I
05	I-YY	9(4)	年	I
05	I-MM	9(2)	月	I
05	I-DD	9(2)	日	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=O , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-YMDWA	9(7)	年月日（和暦） 年号 (1:明治, 2:大正, 3:昭和, 4:平成)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード SPACE:正常 LXRED011:和暦日付が許容範囲外	R
処 理 基 準		例		
(次紙参照)		1. I-YMD : 19661224 ↓ O-YMDWA : 3411224 O-RTN-CD : SPACE 2. I-YMD : 18680907 ↓ O-YMDWA : 0000000 O-RTN-CD : 'LXRED011' 3. I-YMD : 20871231 ↓ O-YMDWA : 4991231 O-RTN-CD : SPACE 4. I-YMD : 20880101 ↓ O-YMDWA : 0000000 O-RTN-CD : 'LXRED011'		
<注意事項> (1) 本サブルーチンから（実在日チェック（西暦）:LXRPID01）を呼び出す。 (2) エラーの場合、年月日（和暦）には0を返す。				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPID05

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPID05	日付処理	年月日変換（西暦→和暦）	LXRCID05

1. （実在日チェック（西暦）：LXRPID01）を呼び、年月日（I-YMD）をチェックする。

- 1.1 リターンコードがスペースの時
年月日を年月日（和暦）に変換する。
年号の範囲は以下の通り。

年号	西暦範囲
	和暦範囲
明治	1868年 9月 8日～ 1912年 7月 29日
	元年 9月 8日～ 45年 7月 29日
大正	1912年 7月 30日～ 1926年 12月 24日
	元年 7月 30日～ 15年 12月 24日
昭和	1926年 12月 25日～ 1989年 1月 7日
	元年 12月 25日～ 64年 1月 7日
平成	1989年 1月 8日～ 2087年 12月 31日
	元年 1月 8日～ 99年 12月 31日

- 1.2 リターンコードがスペースでない時,
（実在日チェック（西暦）：LXRPID01）のリターンコードを出力する。

2. JIS規格版における年号の範囲は以下の通り。

年号	西暦範囲
	和暦範囲
明治	1868年 9月 8日～ 1912年 7月 30日
	元年 9月 8日～ 45年 7月 30日
大正	1912年 7月 31日～ 1926年 12月 25日
	元年 7月 31日～ 15年 12月 25日
昭和	1926年 12月 26日～ 1989年 1月 7日
	元年 12月 26日～ 64年 1月 7日
平成	1989年 1月 8日～ 2087年 12月 31日
	元年 1月 8日～ 99年 12月 31日

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPID06

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名													
LXRPID06	日付処理	年月日変換（和暦→西暦）	LXRCID06													
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)																
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分												
03	I-YMDWA		年月日（和暦）	I												
05	I-NNG	X(1)	年号 (1:明治, 2:大正, 3:昭和, 4:平成) or (M:明治, T:大正, S:昭和, H:平成)	I												
05	I-YY	9(2)	年	I												
05	I-MM	9(2)	月	I												
05	I-DD	9(2)	日	I												
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=O , RTN-CODE=R)																
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分												
03	O-YMD	9(8)	年月日	O												
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R												
処 理 基 準		例														
<p>1. (実在日チェック（和暦）:LXRPID02) を呼び、年月日（I-YMDWA）をチェックする。</p> <p>1.1 リターンコードがスペースの時 以下の方法で和暦年月日を西暦年月日に変換する。</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>入力年号</th> <th>出力年月日（西暦）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>'1', 'M'</td> <td>入力年月日（年号除く）+ 18670000</td> </tr> <tr> <td>'2', 'T'</td> <td>入力年月日（年号除く）+ 19110000</td> </tr> <tr> <td>'3', 'S'</td> <td>入力年月日（年号除く）+ 19250000</td> </tr> <tr> <td>'4', 'H'</td> <td>入力年月日（年号除く）+ 19880000</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>入力年月日（年号除く）+ 19880000</td> </tr> </tbody> </table> <p>1.2 リターンコードがスペースでない時 (実在日チェック（和暦）:LXRPID02) のリターンコードを出力する。</p>		入力年号	出力年月日（西暦）	'1', 'M'	入力年月日（年号除く）+ 18670000	'2', 'T'	入力年月日（年号除く）+ 19110000	'3', 'S'	入力年月日（年号除く）+ 19250000	'4', 'H'	入力年月日（年号除く）+ 19880000	その他	入力年月日（年号除く）+ 19880000	<p>1. I-YMDWA : 3411224 ↓ O-YMD : 19661224 O-RTN-CD : SPACE</p>		
入力年号	出力年月日（西暦）															
'1', 'M'	入力年月日（年号除く）+ 18670000															
'2', 'T'	入力年月日（年号除く）+ 19110000															
'3', 'S'	入力年月日（年号除く）+ 19250000															
'4', 'H'	入力年月日（年号除く）+ 19880000															
その他	入力年月日（年号除く）+ 19880000															
<p><注意事項></p> <p>(1) 誤った年号に対しては、平成（'4', 'H'）と同様の処理を行う。ただしリターンコードには 'LXRED002' を返す。</p> <p>(2) 本サブルーチンから、（年号コード変換（英字→数字）:LXRPID37）、（実在日チェック（和暦）:LXRPID02）を呼び出す。</p> <p>(3) 入力年月日（和暦）が実在日でない場合、年月日には0を返す。</p>																

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPID07

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRPID07	日付処理	年月日算出 (西暦年月日±年数)	LXRCID07	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-YMD		年月日	I
05	I-YY	9(4)	年	
05	I-MM	9(2)	月	
05	I-DD	9(2)	日	
03	I-YEARS	P(5)	年数	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=O , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-YMD	9(8)	年月日	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード SPACE:正常 LXRED019:年が1~9999の範囲外 LXRED017:年数が数値でない	R
処 理 基 準		例		
<p>1. 年数が+か-かを判断する。</p> <p>1.1 年数が+の場合 入力西暦年月日に年数を加算し、出力西暦年月日にセットする。</p> <p>1.2 年数が-の場合 入力西暦年月日から年数を減算し、出力西暦年月日にセットする。</p>		<p>1. I-YMD : 19929229 I-YEARS : -1 ↓ O-YMD : 19910228 O-RTN-CD : SPACE</p>		
<p><注意事項></p> <p>(1) 本サブルーチンから（実在日チェック（西暦）:LXRPID01）,（月末日算出（西暦年月日）:LXRPID17）を呼び出す。</p> <p>(2) 入力年月日が実在日でないと、LXRPID01のリターンコードを返す。</p> <p>(3) $1 \leq \text{入力西暦年} + \text{経過年数} \leq 9999$の範囲外になる場合、結果は不正とする。リターンコード'LXRED019'を返す。</p> <p>(4) 入力年月日がうるう年の2月29日のとき、年を加減した結果が平年の場合は2月28日を返す。</p> <p>(5) エラーの場合、出力年月日には0を返す。</p>				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPID08

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRPID08	日付処理	年月日算出 (和暦年月日±年数)	LXRCID08	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-YMDWA		年月日(和暦)	I
05	I-NNG	X(1)	年号 (1:明治, 2:大正, 3:昭和, 4:平成) or (M:明治, T:大正, S:昭和, H:平成)	
05	I-YY	9(2)	年	
05	I-MM	9(2)	月	
05	I-DD	9(2)	日	
03	I-YEARS	P(5)	年数	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-YMDWA	9(7)	年月日(和暦)(NYMMDD) N:出力年号 (1:明治, 2:大正, 3:昭和, 4:平成)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード SPACE:正常 LXRED017:年数が数値でない	R
処 理 基 準		例		
<p>1. 年数が+か-かを判断する。</p> <p>1.1 年数が+の場合 入力年暦年月日に年数を加算し、出力和暦年月日にセットする。</p> <p>1.2 年数が-の場合 入力年暦年月日から年数を減算し、出力和暦年月日にセットする。</p>		<p>1. I-YMDWA : 3470229 I-YEARS : +19 ↓ O-YMDWA : 4030228 O-RTN-CD : SPACE</p>		
<p><注意事項></p> <p>(1) 本サブルーチンから(年月日変換(西暦→和暦):LXRPID05), (年月日変換(和暦→西暦):LXRPID06), (年月日算出(西暦年月日±年数):LXRPID07)を呼び出す。</p> <p>(2) 入力年月日が実在日でないと, LXRPID02のリターンコードを返す。</p> <p>(3) 明治元年≤入力年+経過年数≤平成99年の範囲外になる場合, 結果は不正とする。リターンコード'LXRED011'を返す。</p> <p>(4) 入力年月日がうるう年の2月29日のとき, 年を加減した結果が平年の場合は2月28日を返す。</p>				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPID09

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRPID09	日付処理	年月日算出 (西暦年月日±月数)	LXRCID09	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-YMD		入力西暦年月日 (YYYYMMDD)	I
05	I-YY	9(4)	西暦年	
05	I-MM	9(2)	月	
05	I-DD	9(2)	日	
03	I-MNTHS	P(6)	月数	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=O , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-YMD	9(8)	出力西暦年月日 (YYYYMMDD)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード SPACE:正常 LXRED019:年が1~9999の範囲外 LXRED017:月数が数値でない	R
処 理 基 準		例		
<p>1. 月数が+か-かを判断する。</p> <p>1.1 月数が+の場合 入力西暦年月日に月数を加算し、出力西暦年月日にセットする。</p> <p>1.2 月数が-の場合 入力西暦年月日から月数を減算し、出力西暦年月日にセットする。</p>		<p>1. I-YMD : 19890131 I-MNTHS : +1 ↓ O-YMD : 19890228 O-RTN-CD : SPACE</p>		
<p><注意事項></p> <p>(1) 入力年月日が実在日でないと、LXRPID01のリターンコードを返す。</p> <p>(2) 1か月後とは、入力西暦年月日の月に1を加えた同日、1か月前とは、入力西暦年月日の月から1を引いた同日とする。</p> <p>(3) 加減算処理の結果、月末日を超えた場合は、月末日に合わせる。</p> <p>(4) 1 ≤ 年 ≤ 9999の範囲外になる場合、結果は不正とする。リターンコード'LXRED019'を返す。</p> <p>(5) 本サブルーチンから、(実在日チェック(西暦):LXRPID01)、(月末日算出(西暦年月日):LXRPID17)を呼び出す。</p>				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPID10

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRPID10	日付処理	年月日算出 (和暦年月日±月数)	LXRCID10	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-YMDWA		入力と暦年月日	I
05	I-NNG	X(1)	和暦年号 (1:明治, 2:大正, 3:昭和, 4:平成) or (M:明治, T:大正, S:昭和, H:平成)	
05	I-YY	9(2)	和暦年	
05	I-MM	9(2)	月	
05	I-DD	9(2)	日	
03	I-MNTHS	P(6)	月数	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=O , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-YMDWA	9(7)	出力と暦年月日 和暦年号 (1:明治, 2:大正, 3:昭和, 4:平成)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード SPACE:正常 LXRED017:月数が数値でない	R
処 理 基 準		例		
<p>1. 月数が+か-かを判断する。</p> <p>1.1 月数が+の場合 入力と暦年月日に月数を加算し、出力と暦年月日にセットする。</p> <p>1.2 月数が-の場合 入力と暦年月日から月数を減算し、出力と暦年月日にセットする。</p>		<p>1. I-YMDWA : 4010131 I-MNTHS : +1 ↓ O-YMDWA : 4010228 O-RTN-CD : SPACE</p>		
<p><注意事項></p> <p>(1) 入力年月日が実在日でないと、LXRPID02のリターンコードを返す。</p> <p>(2) 1か月後とは、入力と暦年月日の月に1を加えた同日、1か月前とは、入力と暦年月日の月から1を引いた同日とする。</p> <p>(3) 加減算処理の結果、月末日を超えた場合は、月末日に合わせる。</p> <p>(4) 結果が和暦年月日の許容範囲外になる場合、結果は不正とする。リターンコード'LXRED011'を返す。</p> <p>(5) 本サブルーチンから、(年月日変換(和暦→西暦):LXRPID06)、(年月日算出(西暦年月日±月数):LXRPID09)、(年月日変換(西暦→和暦):LXRPID05)を呼び出す。</p>				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPID11

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRPID11	日付処理	年月日算出 (西暦年月日±日数)	LXRCID11	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-YMD		入力西暦年月日 (YYYYMMDD)	I
05	I-YY	9(4)	西暦年	
05	I-MM	9(2)	月	
05	I-DD	9(2)	日	
03	I-DAYS	P(7)	日数	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=O , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-YMD	9(8)	出力西暦年月日 (YYYYMMDD)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード SPACE:正常 LXRED017:日数が数値でない	R
処 理 基 準		例		
<p>1. 日数のNUMERICチェックを行う。</p> <p>1.1 リターンコードがスペースの時 (年月日(西暦)→一貫日変換:LXRPID27)を呼び、このサブルーチンのリターンコードをリターンコードに転送する。</p> <p>1.2 リターンコードがスペースでない時 リターンコードに'LXRED017'を出力する。</p> <p>2. リターンコードがスペースの時、算出した一貫日と入力日数を加算し、この結果を使って(一貫日→年月日(西暦)変換:LXRPID29)を呼ぶ。 このサブルーチンのリターンコードをリターンコードに転送する。</p>		<p>1. I-YMD : 19890530 I-DAYS : +1 ↓ O-YMD : 19890531 O-RTN-CD : SPACE</p>		
<p><注意事項></p> <p>(1) 本プログラムより、(年月日(西暦)→一貫日変換:LXRPID27)、(一貫日→年月日(西暦)変換:LXRPID29)を呼び出す。</p> <p>(2) 結果がエラーのときは、年月日には0を返す。</p>				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPID12

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRPID12	日付処理	年月日算出 (和暦年月日±日数)	LXRCID12	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-YMDWA		入力 ¹ 和暦年月日	I
05	I-NNG	X(1)	和暦年号 (1:明治, 2:大正, 3:昭和, 4:平成) or (M:明治, T:大正, S:昭和, H:平成)	
05	I-YY	9(2)	和暦年	
05	I-MM	9(2)	月	
05	I-DD	9(2)	日	
03	I-DAYS	P(8)	日数	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-YMDWA	9(7)	出力 ¹ 和暦年月日 (NYMMDD) N:和暦年号 (1:明治, 2:大正, 3:昭和, 4:平成)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
処 理 基 準		例		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 入力¹和暦年月日を (年月日変換 (和暦→西暦):LXRPID06) により西暦に変換する。このサブルーチンのリターンコードをリターンコードに転送する。 2. リターンコードがスペースのとき、以下の処理を行う。 <ol style="list-style-type: none"> 2.1 変換した西暦年月日と、入力日数を使って (年月日算出 (西暦年月日±日数):LXRPID11) を呼び、このサブルーチンのリターンコードをリターンコードに転送する。 3. リターンコードがスペースのとき、以下の処理を行う。 <ol style="list-style-type: none"> 3.1 2.1 で得た西暦年月日を (年月日変換 (西暦→和暦):LXRPID05) により和暦に変換する。このサブルーチンのリターンコードをリターンコードに転送する。 		<ol style="list-style-type: none"> 1. I-YMDWA : 4010131 I-DAYS : +1 ↓ O-YMDWA : 4010201 O-RTN-CD : SPACE 		
<p><注意事項></p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 本サブルーチンから (年月日変換 (西暦→和暦):LXRPID05) , (年月日変換 (和暦→西暦):LXRPID06) , 年月日算出 (西暦年月日±年数):LXRPID11) を呼び出す。 (2) 結果がエラーのときは、年月日には0を返す。 				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPID13

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRPID13	日付処理	期間算出 (西暦年月日間日数)	LXRCID13	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-STT-YMD	9(8)	開始年月日 (YYYYMMDD)	I
03	I-END-YMD	9(8)	終了年月日 (YYYYMMDD)	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-DAYS	P(8)	日数	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード SPACE: 正常 LXRED020: 比較エラー	R
処 理 基 準			例	
<p>1. (年月日 (西暦) → 一貫日変換:LXRPID27) を呼び、開始年月日を一貫日に変換する。</p> <p>1.1 リターンコードがスペースの時 終了年月日を一貫日に変換する。</p> <p>1.2 リターンコードがスペースでない時 (年月日 (西暦) → 一貫日変換:LXRPID27) のリターンコードを返す。</p> <p>2. 開始年月日の一貫日と終了年月日の一貫日を比較する。</p> <p>2.1 終了年月日の一貫日が大きいか等しい時 終了年月日の一貫日から開始年月日の一貫日を減算し、1を加えて出力日数に転送する。</p> <p>2.2 その他の時 0を日数 (O-DAYS) に出力し、'LXRED020' をリターンコード (O-RTN-CD) に出力する。</p>			<p>1. I-STT-YMD : 19890710 I-END-YMD : 19900710 ↓ O-DAYS : 366 O-RTN-CD : SPACE</p>	
<p><注意事項></p> <p>(1) 本サブルーチンから (年月日 (西暦) → 一貫日変換:LXRPID27) を呼び出す。</p> <p>(2) 終了年月日がエラーの時 (年月日 (西暦) → 一貫日変換:LXRPID27) のリターンコードを返す。</p> <p>(3) エラーのときは、出力日数には0を返す。</p>				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPID14

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRPID14	日付処理	期間算出 (和暦年月日間日数)	LXRCID14	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-STT-YMDWA		開始年月日(和暦)(NYMMDD)	I
05	I-S-NNG	X(1)	年号 (1:明治, 2:大正, 3:昭和, 4:平成) or (M:明治, T:大正, S:昭和, H:平成)	
05	I-S-YY	9(2)	年	
05	I-S-MM	9(2)	月	
05	I-S-DD	9(2)	日	
03	I-END-YMDWA		終了年月日(和暦)	I
05	I-E-NNG	X(1)	年号 (1:明治, 2:大正, 3:昭和, 4:平成) or (M:明治, T:大正, S:昭和, H:平成)	
05	I-E-YY	9(2)	年	
05	I-E-MM	9(2)	月	
05	I-E-DD	9(2)	日	
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=O , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-DAYS	P(8)	日数	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
処 理 基 準			例	
<p>1. 開始年月日を(年月日変換(和暦→西暦):LXRPID06)により西暦に変換し、このサブルーチンのリターンコードをリターンコードに転送する。</p> <p>2. リターンコードがスペースのとき以下の処理を行う。</p> <p>2.1 終了年月日を(年月日変換(和暦→西暦):LXRPID06)により西暦に変換し、このサブルーチンのリターンコードをリターンコードに転送する。</p> <p>3. リターンコードがスペースのとき以下の処理を行う。</p> <p>3.1 西暦に変換済みの開始年月日、終了年月日を用いて(期間算出(西暦年月日間日数):LXRPID13)を呼び、日数を得る。このサブルーチンのリターンコードをリターンコードに転送する。</p>			<p>1. I-STT-YMDWA : 4020721 I-END-YMDWA : 4020722 ↓ O-DAYS : 2 O-RTN-CD : SPACE</p>	
<p><注意事項></p> <p>(1) 本サブルーチンから(年月日変換(和暦→西暦):LXRPID06)、(期間算出(西暦年月日間日数):LXRPID13)を呼び出す。</p> <p>(2) エラーのときは、出力日数には0を返す。</p>				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPID15

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRPID15	日付処理	期間算出 (西暦年月日間年月日)	LXRCID15	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-STT-YMD	9(8)	開始年月日 (YYYYMMDD)	I
03	I-END-YMD	9(8)	終了年月日 (YYYYMMDD)	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-KKN	9(8)	期間 (YYYYMMDD)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード SPACE:正常 LXRED020:比較エラー	R
処 理 基 準			例	
1. (実在日チェック (西暦):LXRPID01) を呼び、開始年月日 (I-STT-YMD) と終了年月日 (I-END-YMD) をチェックする。 1.1 リターンコードがスペースの時 期間を算出する。 1.2 リターンコードがスペースでない時 (実在日チェック (西暦):LXRPID01) のリターンコードを返す。			1. I-STT-YMD : 19850101 I-END-YMD : 19901120 ↓ O-KKN : 00051020 O-RTN-CD : SPACE	
<注意事項> (1) 本サブルーチンから (実在日チェック (西暦):LXRPID01) を呼び出す。 (2) 期間には開始年月日、終了年月日を含む。従って開始=終了の時は1日となる。 (3) 開始年月日>終了年月日の時に、リターンコード' LXRED020' を返す。 (4) エラーの時、期間には0を返す。				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPID16

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRPID16	日付処理	期間算出 (和暦年月日間年月日)	LXRCID16	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-STT-YMDWA		開始年月日(和暦) (NYMMDD)	I
05	I-S-NNG	X(1)	年号 (1:明治, 2:大正, 3:昭和, 4:平成) or (M:明治, T:大正, S:昭和, H:平成)	
05	I-S-YY	9(2)	年	
05	I-S-MM	9(2)	月	
05	I-S-DD	9(2)	日	
03	I-END-YMDWA		終了年月日(和暦)	I
05	I-E-NNG	X(1)	年号 (1:明治, 2:大正, 3:昭和, 4:平成) or (M:明治, T:大正, S:昭和, H:平成)	
05	I-E-YY	9(2)	年	
05	I-E-MM	9(2)	月	
05	I-E-DD	9(2)	日	
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-KKN	P(8)	期間(年月日:YYYYMMDD)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
処 理 基 準			例	
<p>1. (年月日変換(和暦→西暦):LXRPID06)により, 開始年月日, 終了年月日を西暦に変換する。このサブルーチンのリターンコードをリターンコードに転送する。</p> <p>2. リターンコードがスペースのとき以下の処理を行う。</p> <p>2.1 西暦に変換した開始年月日, 終了年月日を用いて(期間算出(西暦年月日間年月日):LXRPID15)を呼び, 期間を得る。このサブルーチンのリターンコードをリターンコードに転送する。</p>			<p>1. I-STT-YMDWA : 3601121 I-END-YMDWA : 4021120 ↓ O-KKN : 00050000 O-RTN-CD : SPACE</p>	
<p><注意事項></p> <p>(1) 本サブルーチンから(年月日変換(和暦→西暦):LXRPID06), (期間算出(西暦年月日間年月日):LXRPID15)を呼び出す。</p> <p>(2) エラーの時, 期間には0を返す。</p>				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPID17

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRPID17	日付処理	月末日算出（西暦年月日）	LXRCID17	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-YMD		年月日	I
05	I-YY	9(4)	年	I
05	I-MM	9(2)	月	I
05	I-DD	9(2)	日	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-YMD	9(8)	年月日	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
処 理 基 準		例		
1. (実在日チェック (西暦) :LXRPID01) を呼び、年月日 (I-YMD) をチェックする。 1.1 リターンコードがスペースの時 年月日 (I-YMD) に対応する月末日を求める。 1.2 リターンコードがスペースでない時 (実在日チェック (西暦) :LXRPID01) のリターンコードを出力する。		1. I-YMD : 19920205 ↓ O-YMD : 19920229 O-RTN-CD : SPACE		
<注意事項> (1) 本サブルーチンから (実在日チェック (西暦) :LXRPID01) を呼び出す。				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPID18

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRPID18	日付処理	月末日算出（和暦年月日）	LXRCID18	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-YMDWA		年月日（和暦）	I
05	I-NNG	X(1)	年号 (1:明治, 2:大正, 3:昭和, 4:平成) or (M:明治, T:大正, S:昭和, H:平成)	I
05	I-YY	9(2)	年	I
05	I-MM	9(2)	月	I
05	I-DD	9(2)	日	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=O , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-YMDWA	9(7)	年月日（月末）	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
処 理 基 準		例		
<p>1. (年月日変換（和暦→西暦）:LXRPID06) を呼び、和暦年月日を西暦年月日に変換する。</p> <p>1.1 リターンコードがスペースまたは'LXRED002'の時 西暦年月日に対応する月末日を算出する。</p> <p>1.2 その他の時 (年月日変換（和暦→西暦）:LXRPID06) のリターンコードを出力する。</p>		<p>1. I-YMDWA : 4040205 ↓ O-YMDWA : 4040229 O-RTN-CD : SPACE</p>		
<p><注意事項></p> <p>(1) 年号は明治, 大正, 昭和, 平成とし, これ以外の指定は, 平成とみなす。</p> <p>(2) 本サブルーチンから (年月日変換（和暦→西暦）:LXRPID06), (月末日算出（西暦年月日）:LXRPID17), (年月日変換（西暦→和暦）:LXRPID05) を呼び出す。</p>				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPID19

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRPID19	日付処理	通算週算出 (年始～西暦年月日)	LXRCID19	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-YMD		年月日(西暦)	I
05	I-YY	9(4)	年	I
05	I-MM	9(2)	月	I
05	I-DD	9(2)	日	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-WKS	P(2)	通算週数	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
処 理 基 準			例	
1. 西暦年月日のチェックを(実在日チェック(西暦):LXRPID01)を用いて行い、エラーの場合リターンコードを返す。 2. リターンコードがスペースの時、西暦年月日が入力された西暦年の通算第何週かを求める。			1. I-YMD : 19900908 ↓ O-WKS : 36 O-RTN-CD : SPACE	
<注意事項> (1) 本サブルーチンから(実在日チェック(西暦):LXRPID01), (期間算出(西暦年月日間日数):LXRPID13), (年月日(西暦)→曜日算出:LXRPID33)を呼び出す。 (2) 月曜～日曜を1週とする。 (3) サブルーチン呼び出しでエラーとなった場合、リターンコードをそのまま返す。				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPID20

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRPID20	日付処理	通算週算出 (年始～和暦年月日)	LXRCID20	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-YMDWA		年月日(和暦)	I
05	I-NMG	X(1)	年号 (1:明治, 2:大正, 3:昭和, 4:平成) or (M:明治, T:大正, S:昭和, H:平成)	I
05	I-YY	9(2)	年	I
05	I-MM	9(2)	月	I
05	I-DD	9(2)	日	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=O , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-WKS	P(2)	通算週数	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
処 理 基 準		例		
1. 和暦年月日が入力された和暦年の通算第何週かを求める。		1. I-YMDWA : 4020908 ↓ O-WKS : 36 O-RTN-CD : SPACE		
<p><注意事項></p> <p>(1) 本サブルーチンから(年月日変換(和暦→西暦):LXRPID06), (通算週算出(年始～西暦年月日):LXRPID19)を呼び出す。</p> <p>(2) エラーの場合, 通算週数には0を返す。</p> <p>(3) サブルーチン呼び出しでエラーとなった場合, リターンコードをそのまま返す。</p>				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPID21

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRPID21	日付処理	年月日分類 (西暦)	LXRCID21	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-YMD		年月日 (西暦)	I
05	I-YY	9(4)	年	I
05	I-MM	9(2)	月	I
05	I-DD	9(2)	日	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=O , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-ORD-KBN	X(1)	平日・土日区分 ('0' : 平日, '1' : 土曜, '2' : 日曜)	O
03	O-FEST-KBN	X(1)	祝祭日区分 ('0' : 祝祭日ではない, '1' : 祝祭日, '2' : 休日)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
処 理 基 準			例	
1. 西暦年月日を平日, 土曜, 日曜, および祝祭日に分類する。 2. 各祝祭日・休日は, 2007年6月1日時点で公布されている「国民の祝日に関する法律」にもとづくものとする。 2.1 本法の施行年月日である1948年(昭和23年)7月20日より前の日付が入力された場合はエラーとし, 2101年1月1日より後の日付は動作保証外とする。 2.2 本法にもとづく各祝祭日・休日の有効期間は付録Cの通りとする。有効期間外の場合は平日に分類する。			1. I-YMD : 19901224 ↓ O-ORD-KBN : '0' O-FEST-KBN : '2' O-RTN-CD : SPACE	
<注意事項> (1) 本サブルーチンから (年月日 (西暦) → 曜日算出:LXRPID33) , (年月日算出 (西暦年月日±日数) :LXRPID11) を呼び出す。 (2) 振り替え休日は, 平日・土日区分が'0' (平日) で, 祝祭日区分が'2' (休日) となる。 (3) サブルーチンを呼んでエラーとなった時は, リターンコードをそのまま返し, O-ORD-KBN, O-FEST-KBN にはスペースを返す。 (4) 入力日付が1948年(昭和23年)7月20日より前の日付の場合, リターンコード'LXRED012' を返す。				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPID22

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRPID22	日付処理	年月日分類 (和暦)	LXRCID22	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-YMDWA		年月日 (和暦)	I
05	I-NNG	X(1)	年号 (1:明治, 2:大正, 3:昭和, 4:平成) or (M:明治, T:大正, S:昭和, H:平成)	I
05	I-YY	9(2)	和暦年	I
05	I-MM	9(2)	月	I
05	I-DD	9(2)	日	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-ORD-KBN	X(1)	平日・土日区分 ('0' : 平日, '1' : 土曜, '2' : 日曜)	O
03	O-FEST-KBN	X(1)	祝祭日区分 ('0' : 祝祭日ではない, '1' : 祝祭日, '2' : 休日)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
処 理 基 準		例		
<p>1. 和暦年月日を平日, 土曜, 日曜, および祝祭日に分類する。</p> <p>2. (年月日分類 (西暦) : LXRPID21) 処理基準 2. と同じ。</p>		<p>1. I-YMDWA : 4021224 ↓ O-ORD-KBN : '0' O-FEST-KBN : '2' O-RTN-CD : SPACE</p>		
<p><注意事項></p> <p>(1) 本サブルーチンから, (年月日変換 (和暦→西暦) : LXRPID06), (年月日分類 (西暦) : LXRPID21) を呼び出す。</p> <p>(2) 振り替え休日は, 平日・土日区分が'0' (平日) で, 祝祭日区分が'2' (休日) となる。</p> <p>(3) (前頁(3)と同じ)</p> <p>(4) (前頁(4)と同じ)</p>				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPID23

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPID23	日付処理	年月日出力編集 (西暦)	LXRCID23

入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-YMD		入力年月日	I
05	I-YY	9(4)	年 (西暦)	I
05	I-MM	9(2)	月 (西暦)	I
05	I-DD	9(2)	日 (西暦)	I
03	I-FORMAT	X(100)	年月日形式 (入力)	C

出 力 (区分: OUTPUT-PARM=O , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-YMD	X(100)	年月日形式 (出力)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R

処 理 基 準

1. 入力年月日のチェックを (実在日チェック (西暦):LXRPID01) を用いて行い, エラーの場合リターンコードを返す。
2. リターンコードがスペースの時 I-FORMAT に対して以下の順で置換処理を行う。

NO	置換規則
1	YYYY I-YY を全角変換
2	ZZZY I-YY を ZZ9 編集, 全角変換
3	YY I-YY 下2桁を全角変換
4	ZY I-YY 下2桁を Z9 編集, 全角変換
5	YYYY I-YY
6	ZZZY I-YY を ZZ9 編集
7	YY I-YY 下2桁
8	ZY I-YY 下2桁を Z9 編集
9	MM I-MM を全角変換
10	ZM I-MM を Z9 編集, 全角変換
11	MM I-MM
12	ZM I-MM を Z9 編集
13	DD I-DD を全角変換
14	ZD I-DD を Z9 編集, 全角変換
15	DD I-DD
16	ZD I-DD を Z9 編集

例

1. I-YMD : 19920401
I-FORMAT : 'YY年MM月DD日'
↓
O-YMD : '92年04月01日'
2. I-YMD : 19920401
I-FORMAT : 'YYYY-MM-DD'
↓
O-YMD : '1992-04-01'

<注意事項>

- (1) 本サブルーチンより, (半角→全角変換:LXRPC01), (実在日チェック (西暦):LXRPID01) を呼び出す。
- (2) 実在日チェックでエラーのときは, リターンコードをそのまま返し, I-FORMAT を O-YMD に転送する。

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPID24

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名																																																	
LXRPID24	日付処理	年月日出力編集 (和暦)	LXRCID24																																																	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)																																																				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分																																																
03	I-YMDWA		年月日 (和暦)	I																																																
05	I-NNG	X(1)	年号 (1:明治, 2:大正, 3:昭和, 4:平成) or (M:明治, T:大正, S:昭和, H:平成)	I																																																
05	I-YY	9(2)	年 (和暦)	I																																																
05	I-MM	9(2)	月 (和暦)	I																																																
05	I-DD	9(2)	日 (和暦)	I																																																
03	I-FORMAT	X(100)	出力形式指定のフォーマット	C																																																
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)																																																				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分																																																
03	O-YMDWA	X(100)	出力年月日 (M:明治, T:大正, S:昭和, H:平成)	O																																																
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R																																																
処 理 基 準			例																																																	
<p>1. 入力年月日のチェックを(実在日チェック (和暦):LXRPID02)を用いて行い、エラーの場合リターンコードを返す。</p> <p>2. リターンコードがスペースの時 I-FORMAT に対して以下の順で置換処理を行う。</p>			<p>1. I-YMDWA : 4040401 I-FORMAT : ' N N Y Y 年 M M 月 D D 日' ↓ O-YMDWA : ' 平成 0 4 年 0 4 月 0 1 日'</p> <p>2. I-YMDWA : 4040401 I-FORMAT : ' N Y Y . M M . D D ' ↓ O-YMDWA : ' H 0 4 . 0 4 . 0 1 '</p>																																																	
<table border="1"> <thead> <tr> <th>NO</th> <th colspan="2">置換処理</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>NN</td><td>I-NNG を全角変換</td></tr> <tr><td>2</td><td>N</td><td>I-NNG 上一桁を全角変換</td></tr> <tr><td>3</td><td>YY</td><td>I-YY を全角変換</td></tr> <tr><td>4</td><td>ZY</td><td>I-YY を Z9 編集, 全角変換</td></tr> <tr><td>5</td><td>MM</td><td>I-MM を全角変換</td></tr> <tr><td>6</td><td>ZM</td><td>I-MM を Z9 編集, 全角変換</td></tr> <tr><td>7</td><td>DD</td><td>I-DD を全角変換</td></tr> <tr><td>8</td><td>ZD</td><td>I-DD を Z9 編集, 全角変換</td></tr> <tr><td>9</td><td>N</td><td>I-NNG</td></tr> <tr><td>10</td><td>YY</td><td>I-YY</td></tr> <tr><td>11</td><td>ZY</td><td>I-YY を Z9 編集</td></tr> <tr><td>12</td><td>MM</td><td>I-MM</td></tr> <tr><td>13</td><td>ZM</td><td>I-MM を Z9 編集</td></tr> <tr><td>14</td><td>DD</td><td>I-DD</td></tr> <tr><td>15</td><td>ZD</td><td>I-DD を Z9 編集</td></tr> </tbody> </table>			NO	置換処理		1	NN	I-NNG を全角変換	2	N	I-NNG 上一桁を全角変換	3	YY	I-YY を全角変換	4	ZY	I-YY を Z9 編集, 全角変換	5	MM	I-MM を全角変換	6	ZM	I-MM を Z9 編集, 全角変換	7	DD	I-DD を全角変換	8	ZD	I-DD を Z9 編集, 全角変換	9	N	I-NNG	10	YY	I-YY	11	ZY	I-YY を Z9 編集	12	MM	I-MM	13	ZM	I-MM を Z9 編集	14	DD	I-DD	15	ZD	I-DD を Z9 編集		
NO	置換処理																																																			
1	NN	I-NNG を全角変換																																																		
2	N	I-NNG 上一桁を全角変換																																																		
3	YY	I-YY を全角変換																																																		
4	ZY	I-YY を Z9 編集, 全角変換																																																		
5	MM	I-MM を全角変換																																																		
6	ZM	I-MM を Z9 編集, 全角変換																																																		
7	DD	I-DD を全角変換																																																		
8	ZD	I-DD を Z9 編集, 全角変換																																																		
9	N	I-NNG																																																		
10	YY	I-YY																																																		
11	ZY	I-YY を Z9 編集																																																		
12	MM	I-MM																																																		
13	ZM	I-MM を Z9 編集																																																		
14	DD	I-DD																																																		
15	ZD	I-DD を Z9 編集																																																		
<p><注意事項></p> <p>(1) 本サブルーチンから (実在日チェック (和暦):LXRPID01), (年号コードチェック/編集:LXRPID36), (半角→全角変換:LXRPIC01), (年号コード変換(数字→英字):LXRPID38) を呼び出す。</p> <p>(2) 実在日チェックでエラーのときは, リターンコードをそのまま返し, I-FORMAT を O-YMDWA に転送する。</p>																																																				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPID26

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRPID26	日付処理	うるう年判定 (和暦)	LXRCID26	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-YYWA		年(和暦)	I
05	I-NNG	X(1)	年号 (1:明治, 2:大正, 3:昭和, 4:平成) or (M:明治, T:大正, S:昭和, H:平成)	I
05	I-YY	9(2)	年	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-LEAP-KBN	X(1)	うるう年判定フラグ うるう年.....1 平 年.....0	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
処 理 基 準		例		
<p>1. 当該年がうるう年か平年かをチェックし、うるう年であれば 1→O-LEAP-KBN 平年であれば 0→O-LEAP-KBN をセットする。</p>		<p>1. I-YYWA : 343 ↓ O-LEAP-KBN : '1' O-RTN-CD : SPACE</p>		
<p><注意事項> (1) 本サブルーチンから、(年変換(和暦→西暦):LXRPID78)、(うるう年判定(西暦):LXRPID25)を呼び出す。 (2) サブルーチンでエラーになったときは、リターンコードをそのまま返し、O-LEAP-KBNにスペースを返す。</p>				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPID27

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRPID27	日付処理	年月日（西暦）→一貫日変換	LXRCID27	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-YMD		年月日	I
05	I-YY	9(4)	年	I
05	I-MM	9(2)	月	I
05	I-DD	9(2)	日	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=O , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-DAYS	P(8)	日数	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
処 理 基 準			例	
1. (実在日チェック (西暦) :LXRPID01) で年月日 (I-YMD) をチェックする。 1.1 リターンコードがスペースの時 基準日 (西暦1年1月1日) から入力年月日 (西暦) までの一貫日を求める。 1.2 リターンコードがスペースでない時 (実在日チェック (西暦) :LXRPID01) のリターンコードを出力する。			1. I-YMD : 19910415 ↓ O-DAYS : 726937 O-RTN-CD : SPACE 2. I-YMD : 99991231 ↓ O-DAYS : 3652059 O-RTN-CD : SPACE 3. I-YMD : 00010101 ↓ O-DAYS : 1 O-RTN-CD : SPACE	
<注意事項> (1) 入力年月日が実在日でない場合、日数には0を返す。 (2) 本サブルーチンから、(実在日チェック (西暦) :LXRPID01) を呼び出す。				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPID28

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRPID28	日付処理	年月日（和暦）→一貫日変換	LXRCID28	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-YMDWA		年月日（和暦）	I
05	I-NNG	X(1)	年号 (1:明治, 2:大正, 3:昭和, 4:平成) or (M:明治, T:大正, S:昭和, H:平成)	I
05	I-YY	9(2)	年	I
05	I-MM	9(2)	月	I
05	I-DD	9(2)	日	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-DAYS	P(8)	日数	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
処 理 基 準		例		
1. (年月日変換（和暦→西暦）:LXRPID06)で和暦年月日（I-YMDWA）を西暦年月日に変換する。 1.1 リターンコードがスペースまたは'LXRED002'の時 基準日（西暦1年1月1日）から入力年月日（和暦）までの一貫日を求める。 1.2 その他の時 (年月日変換（和暦→西暦）:LXRPID06)のリターンコードを出力する。		1. I-YMDWA : 4030415 ↓ O-DAYS : 726937 O-RTN-CD : SPACE 2. I-YMDWA : 5030415 ↓ O-DAYS : 726937 O-RTN-CD : 'LXRED002' 3. I-YMDWA : 1010101 ↓ O-DAYS : 0 O-RTN-CD : 'LXRED006'		
<注意事項> (1) 本サブルーチンから、(年月日変換（和暦→西暦）:LXRPID06)、(年月日（西暦）→一貫日変換:LXRPID27)を呼び出す。 (2) サブルーチンでエラーとなった場合、リターンコードをそのまま返し、日数には0を返す。				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPID29

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRPID29	日付処理	一貫日→年月日（西暦）変換	LXRCID29	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-DAYS	P(8)	日数	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=O , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-YMD	9(8)	年月日 (YYYYMMDD)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード SPACE : 正常 LXRED021 : 一貫日が数字以外 LXRED022 : 一貫日がゼロ LXRED023 : 一貫日範囲外	R
処 理 基 準		例		
1. 一貫日 (I-DAYS) の NUMERIC チェックを行い、一貫日 (I-DAYS) の範囲 (0<一貫日<3652060) をチェックする。 1.1 エラーでない時 一貫日→年月日（西暦）変換を行う。 1.2 エラーの時 エラーに対応するリターンコードを出力する。		1. I-DAYS : 726937 ↓ O-YMD : 19910415 O-RTN-CD : SPACE 2. I-DAYS : 1 ↓ O-YMD : 00010101 O-RTN-CD : SPACE 3. I-DAYS : 0 ↓ O-YMD : 00000000 O-RTN-CD : 'LXRED022'		
<注意事項> (1) エラーの時は、O-YMD に0を返す。				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPID30

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRPID30	日付処理	一貫日→年月日（和暦）変換	LXRCID30	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-DAYS	P(8)	日数	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	0-YMDWA	9(7)	年月日（和暦）(NYMMDD) 年号 (1:明治, 2:大正, 3:昭和, 4:平成)	O
03	0-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
処 理 基 準		例		
1. (一貫日→年月日（西暦）変換：LXRPID29) を呼び、リターンコードを 0-RTN-CD に転送する。 2. 0-RTN-CD がスペースのとき、(年月日変換（西暦→和暦：LXRPID05)) を呼び、結果を 0-YMDWA, 0-RTN-CD に転送する。		1. I-DAYS : 726937 ↓ 0-YMDWA : 4030415 0-RTN-CD : SPACE 2. I-DAYS : 682158 ↓ 0-YMDWA : 0000000 0-RTN-CD : 'LXRED011' 3. I-DAYS : 762262 ↓ 0-YMDWA : 0000000 0-RTN-CD : 'LXRED011'		
<注意事項> (1) 本サブルーチンから、(年月日変換（西暦→和暦）:LXRPID05), (一貫日→年月日（西暦）変換：LXRPID29) を呼び出す。 (2) 日数の範囲は 682159（:明治元年 9 月 8 日）≤日数≤762261（:平成 99 年 12 月 31 日）とする。範囲外の日数が入力された場合、和暦年月日に 0 を、リターンコードに 'LXRED011' を返す。				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPID31

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRPID31	日付処理	日数算出 (西暦年月日～月末日)	LXRCID31	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-YMD		年月日(西暦)	I
05	I-YY	9(4)	西暦年	I
05	I-MM	9(2)	月	I
05	I-DD	9(2)	日	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-DAYS	P(8)	日数	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
処 理 基 準		例		
1. 西暦年月日から月末日までの日数を求める。		1. I-YMD : 19890528 ↓ O-DAYS : 3 O-RTN-CD : SAPCE		
<p><注意事項></p> <p>(1) 本サブルーチンから、(実在日チェック(西暦):LXRPID01)、(月末日算出(西暦年月日):LXRPID17)を呼び出す。</p> <p>(2) サブルーチンでエラーとなった場合、リターンコードをそのまま返し、日数には0を返す。</p> <p>(3) 当日は日数に含まない。従って月末日を入力すると日数は0となる。</p>				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPID32

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRPID32	日付処理	日数算出 (和暦年月日～月末日)	LXRCID32	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-YMDWA		年月日(和暦)	I
05	I-NNG	X(1)	年号 (1:明治, 2:大正, 3:昭和, 4:平成) or (M:明治, T:大正, S:昭和, H:平成)	I
05	I-YY	9(2)	和暦年	I
05	I-MM	9(2)	月	I
05	I-DD	9(2)	日	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-DAYS	P(8)	日数	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
処 理 基 準		例		
1. 和暦年月日から月末日までの日数を求める。		1. I-YMDWA : 4020205 ↓ O-DAYS : 23 O-RTN-CD : SPACE		
<p><注意事項></p> <p>(1) 本サブルーチンから, (実在日チェック(和暦):LXRPID02), (月末日算出(和暦年月日):LXRPID18)を呼び出す。</p> <p>(2) サブルーチンでエラーとなった場合, リターンコードをそのまま返し, 日数には0を返す。</p> <p>(3) 当日は日数に含まない。従って月末日を入力すると日数は0となる。</p>				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPID33

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRPID33	日付処理	年月日(西暦)→曜日算出	LXRCID33	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-YMD		年月日(西暦)	I
05	I-YY	9(4)	年	I
05	I-MM	9(2)	月	I
05	I-DD	9(2)	日	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-YB-CD	X(1)	曜日コード (1:月曜日, 2:火曜日, 3:水曜日, 4:木曜日, 5:金曜日, 6:土曜日, 7:日曜日)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
処 理 基 準		例		
1. 入力年月日(西暦)の曜日を求める。		1. I-YMD : 19910306 ↓ O-YB-CD : '3' O-RTN-CD : SPACE		
<p><注意事項></p> <p>(1) 本サブルーチンから, (年月日(西暦)→一貫日変換:LXRPID27) を呼び出す。</p> <p>(2) サブルーチンでエラーとなった場合, リターンコードをそのまま返し, 曜日にはスペースを返す。</p>				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPID34

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRPID34	日付処理	年月日（和暦）→曜日算出	LXRCID34	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-YMDWA		年月日（和暦）	I
05	I-NNG	X(1)	年号 (1:明治, 2:大正, 3:昭和, 4:平成) or (M:明治, T:大正, S:昭和, H:平成)	I
05	I-YY	9(2)	和暦年	I
05	I-MM	9(2)	月	I
05	I-DD	9(2)	日	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-YB-CD	X(1)	曜日コード (1:月曜日, 2:火曜日, 3:水曜日, 4:木曜日, 5:金曜日, 6:土曜日, 7:日曜日)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
処 理 基 準		例		
1. 入力年月日（和暦）の曜日を求める。		1. I-YMDWA : 4030415 ↓ O-YB-CD : '1' O-RTN-CD : SPACE		
<p><注意事項></p> <p>(1) 本サブルーチンから、（年月日（和暦）→一貫日変換:LXRPID28）を呼び出す。</p> <p>(2) サブルーチンでエラーとなった場合、リターンコードをそのまま返し、曜日にはスペースを返す。</p>				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPID35

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRPID35	日付処理	曜日コードチェック／編集	LXRCID35	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-YB-CD	X(1)	曜日コード (1:月曜日, 2:火曜日, 3:水曜日, 4:木曜日, 5:金曜日, 6:土曜日, 7:日曜日)	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=O , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-YB-KJ	N(3)	曜日 (漢字)	O
03	O-YB-KN	X(3)	曜日 (半角カナ)	O
03	O-YB-AL	X(3)	曜日 (英字)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード SPACE: 正常終了 LXRED013: 曜日コード範囲外	R
処 理 基 準			例	
1. 曜日コードをチェックし, 曜日名に変換する。			1. I-YB-CD : '1' ↓ O-YB-KJ : '月曜日' O-YB-KN : 'ゲツ' O-YB-AL : 'MON' O-RTN-CD : SPACE	
<p><注意事項></p> <p>(1) 曜日コードが'1'~'7'以外のときは, リターンコードに'LXRED013'を出力し, 曜日 (漢字), 曜日 (半角カナ), 曜日 (英字) にスペースを出力する。</p> <p>(2) 曜日 (半角カナ) の属性は, EUC 対応版では X(6), Unicode 対応版では X(9) である。</p>				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPID36

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRPID36	日付処理	年号コードチェック／編集	LXRCID36	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-NNG	X(1)	年号 (1:明治, 2:大正, 3:昭和, 4:平成) or (M:明治, T:大正, S:昭和, H:平成)	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=O , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-NNG-KJ	N(2)	年号 (漢字)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード SPACE: 正常終了 LXRED014: 年号コード範囲外	R
処 理 基 準		例		
1. 年号コードをチェックし、年号名に変換する。		1. I-NNG : '4' ↓ O-NNG-KJ : '平成' O-RTN-CD : SPACE		
<注意事項> (1) 年号コードは'1'~'4', 'M', 'T', 'S', 'H'とする。 (2) 誤った年号コードが入力された場合、O-NNG-KJにはスペースを返す。				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPID37

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名																															
LXRPID37	日付処理	年月日コード変換 (英字→数字)	LXRCID37																															
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)																																		
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分																														
03	I-YMDWA		年月日(和暦)	I																														
05	I-NNG	X(1)	年号 (M:明治, T:大正, S:昭和, H:平成)	I																														
05	I-YY	9(2)	年	I																														
05	I-MM	9(2)	月	I																														
05	I-DD	9(2)	日	I																														
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)																																		
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分																														
03	O-YMDWA	9(7)	年月日(和暦)(NYMMDD) N:年号 (1:明治, 2:大正, 3:昭和, 4:平成)	O																														
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード SPACE:正常終了 LXRED014:年号コード範囲外	R																														
処 理 基 準		例																																
<p>1. 年号コード'M'~'H'を入力し, '1'~'4'に変換して出力する。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>入力年号</th> <th>出力年号</th> <th>リターンコード</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>'M'</td><td>1</td><td>SPACE</td></tr> <tr><td>'T'</td><td>2</td><td>SPACE</td></tr> <tr><td>'S'</td><td>3</td><td>SPACE</td></tr> <tr><td>'H'</td><td>4</td><td>SPACE</td></tr> <tr><td>1</td><td>1</td><td>SPACE</td></tr> <tr><td>2</td><td>2</td><td>SPACE</td></tr> <tr><td>3</td><td>3</td><td>SPACE</td></tr> <tr><td>4</td><td>4</td><td>SPACE</td></tr> <tr><td>その他</td><td>4</td><td>'LXRED014'</td></tr> </tbody> </table>		入力年号	出力年号	リターンコード	'M'	1	SPACE	'T'	2	SPACE	'S'	3	SPACE	'H'	4	SPACE	1	1	SPACE	2	2	SPACE	3	3	SPACE	4	4	SPACE	その他	4	'LXRED014'	<p>1. I-YMDWA : M150320 ↓ O-YMDWA : 1150320 O-RTN-CD : SPACE</p> <p>2. I-YMDWA : A150320 ↓ O-YMDWA : 4150320 O-RTN-CD : 'LXRED014'</p>		
入力年号	出力年号	リターンコード																																
'M'	1	SPACE																																
'T'	2	SPACE																																
'S'	3	SPACE																																
'H'	4	SPACE																																
1	1	SPACE																																
2	2	SPACE																																
3	3	SPACE																																
4	4	SPACE																																
その他	4	'LXRED014'																																
<p><注意事項></p> <p>(1) 年号コードが'1'~'4'の場合そのまま出力する。</p> <p>(2) 年月日の妥当性は, チェックしない。</p> <p>(3) 誤った年号コードが入力された場合, 出力側の年号に'4', 年月日はそのまま出力し, リターンコードに'LXRED014'を出力する。</p>																																		

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPID38

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名																															
LXRPID38	日付処理	年号コード変換 (数字→英字)	LXRCID38																															
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)																																		
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分																														
03	I-YMDWA		年月日(和暦)	I																														
05	I-NNG	X(1)	年号 (1:明治, 2:大正, 3:昭和, 4:平成)	I																														
05	I-YY	9(2)	年	I																														
05	I-MM	9(2)	月	I																														
05	I-DD	9(2)	日	I																														
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)																																		
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分																														
03	O-YMDWA		年月日(和暦)	O																														
05	O-NNG	X(1)	年号	O																														
05	O-YY	9(2)	年	O																														
05	O-MM	9(2)	月	O																														
05	O-DD	9(2)	日	O																														
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード SPACE: 正常終了 LXRED014: 年号コード範囲外	R																														
処 理 基 準		例																																
<p>1. 入力年号コード'1', '2', '3', '4'に対し, 'M', 'T', 'S', 'H'を出力する。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>入力年号</th> <th>出力年号</th> <th>リターンコード</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>'M'</td><td>SPACE</td></tr> <tr><td>2</td><td>'T'</td><td>SPACE</td></tr> <tr><td>3</td><td>'S'</td><td>SPACE</td></tr> <tr><td>4</td><td>'H'</td><td>SPACE</td></tr> <tr><td>'M'</td><td>'M'</td><td>SPACE</td></tr> <tr><td>'T'</td><td>'T'</td><td>SPACE</td></tr> <tr><td>'S'</td><td>'S'</td><td>SPACE</td></tr> <tr><td>'H'</td><td>'H'</td><td>SPACE</td></tr> <tr><td>その他</td><td>'H'</td><td>'LXRED014'</td></tr> </tbody> </table>		入力年号	出力年号	リターンコード	1	'M'	SPACE	2	'T'	SPACE	3	'S'	SPACE	4	'H'	SPACE	'M'	'M'	SPACE	'T'	'T'	SPACE	'S'	'S'	SPACE	'H'	'H'	SPACE	その他	'H'	'LXRED014'	<p>1. I-YMDWA : 1150320 ↓ O-YMDWA : M150320 O-RTN-CD : SPACE</p> <p>2. I-YMDWA : 0150320 ↓ O-YMDWA : H150320 O-RTN-CD : 'LXRED014'</p>		
入力年号	出力年号	リターンコード																																
1	'M'	SPACE																																
2	'T'	SPACE																																
3	'S'	SPACE																																
4	'H'	SPACE																																
'M'	'M'	SPACE																																
'T'	'T'	SPACE																																
'S'	'S'	SPACE																																
'H'	'H'	SPACE																																
その他	'H'	'LXRED014'																																
<p><注意事項></p> <p>(1) 年号コードが'M'~'H'の場合そのまま出力する。</p> <p>(2) 年月日の妥当性は, チェックしない。</p> <p>(3) 誤った年号コードが入力された場合, O-NNGには'H', 年月日はそのまま出力し, リターンコードに'LXRED014'を出力する。</p>																																		

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPID39

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRPID39	日付処理	年齢計算 (慣習)	LXRCID39	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-BRTH-YMD	9(8)	生年月日 (YYYYMMDD)	I
03	I-KJN-YMD	9(8)	現在年月日 (YYYYMMDD)	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=O , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-NNR	9(4)	年齢	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード SPACE: 正常終了 LXRED020: 現在年月日が生年月日 より前の場合	R
処 理 基 準		例		
1. 入力された生年月日及び現在年月日より年齢を求める。		1. I-BRTH-YMD : 19671224 I-KJN-YMD : 19901223 ↓ O-NNR : 22 O-RTN-CD : SPACE 2. I-BRTH-YMD : 19671224 I-KJN-YMD : 19661223 ↓ O-NNR : 0 O-RTN-CD : 'LXRED020'		
<p><注意事項></p> (1) 年齢計算は慣習による (誕生日当日に1歳増える)。 (2) 本サブルーチンから, (年月日算出 (西暦年月日±日数) : LXRPID11), (期間算出 (西暦年月日間年月日) : LXRPID15) を呼び出す。 (3) サブルーチン呼び出しでエラーとなった場合, リターンコードをそのまま返し, 年齢に0を返す。				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPID40

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRPID40	日付処理	年齢計算（法律）	LXRCID40	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-BRTH-YMD	9(8)	生年月日 (YYYYMMDD)	I
03	I-KJN-YMD	9(8)	現在年月日 (YYYYMMDD)	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-NNR	9(4)	年齢	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード SPACE: 正常終了 LXRED020: 現在年月日が生年月日 より前の場合	R
処 理 基 準		例		
1. 入力された生年月日及び現在年月日より年齢を求める。		1. I-BRTH-YMD : 19671224 I-KJN-YMD : 19901223 ↓ O-NNR : 23 O-RTN-CD : SPACE 2. I-BRTH-YMD : 19671224 I-KJN-YMD : 19661223 ↓ O-NNR : 0 O-RTN-CD : 'LXRED020'		
<注意事項> (1) 年齢計算は法律による（誕生日前日に1歳増える）。 (2) 本サブルーチンから、（期間算出（西暦年月日間年月日）:LXRPID15）を呼び出す。 (3) サブルーチン呼び出しでエラーとなった場合、リターンコードをそのまま返し、年齢に0を返す。				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPID41

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名																									
LXRPID41	日付処理	年月日 (西暦) 過去チェック	LXRCID41																									
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)																												
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分																								
03	I-YMD		年月日 (西暦)	I																								
05	I-YY	9(4)	年	I																								
05	I-MM	9(2)	月	I																								
05	I-DD	9(2)	日	I																								
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)																												
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分																								
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R																								
処 理 基 準		例																										
<p>1. 実在日チェックを (実在日チェック (西暦) :LXRPID01) により以下の順で行う (項番 1~6)。</p> <p>2. 入力年月日がシステム日付よりも過去ではない場合、リターンコードに 'LXRED003' を返す (項番 7)。</p>		<p>1. I-YMD : 19920331 システム日付 : 920401 ↓ O-RTN-CD : SPACE</p> <p>2. I-YMD : 19920401 システム日付 : 920401 ↓ O-RTN-CD : SPACE</p> <p>3. I-YMD : 19920402 システム日付 : 920401 ↓ O-RTN-CD : 'LXRED003'</p> <p>4. I-YMD : 19920000 システム日付 : 920401 ↓ O-RTN-CD : 'LXRED017'</p>																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>NO</th> <th>チェック</th> <th>リターンコード</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>年月日が数字のみである</td> <td>LXRED017</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>年月日≠ALL ZERO</td> <td>LXRED016</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>年≠ZERO</td> <td>LXRED001</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>月=1~12</td> <td>LXRED007</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>実在する月日である</td> <td>LXRED009</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>月日=2月29日ならば年=閏年</td> <td>LXRED008</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>年月日<=システム日付</td> <td>LXRED003</td> </tr> </tbody> </table>		NO	チェック	リターンコード	1	年月日が数字のみである	LXRED017	2	年月日≠ALL ZERO	LXRED016	3	年≠ZERO	LXRED001	4	月=1~12	LXRED007	5	実在する月日である	LXRED009	6	月日=2月29日ならば年=閏年	LXRED008	7	年月日<=システム日付	LXRED003			
NO	チェック	リターンコード																										
1	年月日が数字のみである	LXRED017																										
2	年月日≠ALL ZERO	LXRED016																										
3	年≠ZERO	LXRED001																										
4	月=1~12	LXRED007																										
5	実在する月日である	LXRED009																										
6	月日=2月29日ならば年=閏年	LXRED008																										
7	年月日<=システム日付	LXRED003																										
<p><注意事項></p> <p>(1) 入力年月日がシステム日付と等しい場合、リターンコードにはスペースを返す。</p> <p>(2) 本サブルーチンより、(実在日チェック (西暦) :LXRPID01) , (システム日付取得変換 (8桁) :LXRPID88) を呼び出す。</p>																												

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPID42

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名																																								
LXRPID42	日付処理	年月日 (和暦) 過去チェック	LXRCID42																																								
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)																																											
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分																																							
03	I-YMDWA		年月日 (和暦)	I																																							
05	I-NNG	X(1)	年号	I																																							
05	I-YY	9(2)	年	I																																							
05	I-MM	9(2)	月	I																																							
05	I-DD	9(2)	日	I																																							
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)																																											
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分																																							
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R																																							
処 理 基 準		例																																									
<p>1. 実在日チェックを (実在日チェック (和暦) :LXRPID02) により以下の順で行う (項番 1 ~ 11)。</p> <p>2. 入力年月日 (和暦) がシステム日付よりも過去ではない場合, リターンコードに 'LXRED003' を返す (項番 1 2)。</p>		<p>1. I-YMDWA : H040331 システム日付 : 920401 ↓ O-RTN-CD : SPACE</p> <p>2. I-YMDWA : H040401 システム日付 : 920401 ↓ O-RTN-CD : SPACE</p> <p>3. I-YMDWA : H040402 システム日付 : 920401 ↓ O-RTN-CD : 'LXRED003'</p> <p>4. I-YMDWA : H040000 システム日付 : 920401 ↓ O-RTN-CD : 'LXRED017'</p>																																									
<table border="1"> <thead> <tr> <th>NO</th> <th>チェック</th> <th>リターンコード</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>年月日が数字のみである</td><td>LXRED017</td></tr> <tr><td>2</td><td>年月日≠ALL ZERO</td><td>LXRED016</td></tr> <tr><td>3</td><td>年号=1, 2, 3, 4, M, T, S, H</td><td>LXRED002</td></tr> <tr><td>4</td><td>年≠ZERO</td><td>LXRED001</td></tr> <tr><td>5</td><td>月=1~12</td><td>LXRED007</td></tr> <tr><td>6</td><td>実在する月日である</td><td>LXRED009</td></tr> <tr><td>7</td><td>月日=2月29日ならば年=閏年</td><td>LXRED008</td></tr> <tr><td>8</td><td>明治:元年9月8日~45年7月30日</td><td>LXRED006</td></tr> <tr><td>9</td><td>大正:元年7月30日~15年12月25日</td><td>LXRED005</td></tr> <tr><td>10</td><td>昭和:元年12月25日~64年1月7日</td><td>LXRED004</td></tr> <tr><td>11</td><td>平成:元年1月8日~</td><td>LXRED010</td></tr> <tr><td>12</td><td>年月日<=システム日付</td><td>LXRED003</td></tr> </tbody> </table>		NO	チェック	リターンコード	1	年月日が数字のみである	LXRED017	2	年月日≠ALL ZERO	LXRED016	3	年号=1, 2, 3, 4, M, T, S, H	LXRED002	4	年≠ZERO	LXRED001	5	月=1~12	LXRED007	6	実在する月日である	LXRED009	7	月日=2月29日ならば年=閏年	LXRED008	8	明治:元年9月8日~45年7月30日	LXRED006	9	大正:元年7月30日~15年12月25日	LXRED005	10	昭和:元年12月25日~64年1月7日	LXRED004	11	平成:元年1月8日~	LXRED010	12	年月日<=システム日付	LXRED003			
NO	チェック	リターンコード																																									
1	年月日が数字のみである	LXRED017																																									
2	年月日≠ALL ZERO	LXRED016																																									
3	年号=1, 2, 3, 4, M, T, S, H	LXRED002																																									
4	年≠ZERO	LXRED001																																									
5	月=1~12	LXRED007																																									
6	実在する月日である	LXRED009																																									
7	月日=2月29日ならば年=閏年	LXRED008																																									
8	明治:元年9月8日~45年7月30日	LXRED006																																									
9	大正:元年7月30日~15年12月25日	LXRED005																																									
10	昭和:元年12月25日~64年1月7日	LXRED004																																									
11	平成:元年1月8日~	LXRED010																																									
12	年月日<=システム日付	LXRED003																																									
<p><注意事項></p> <p>(1) 入力年月日がシステム日付と等しい場合, リターンコードにはスペースを返す。</p> <p>(2) システム日付との比較は, 入力年月日を (年月日変換 (和暦→西暦) :LXRPID06) を用いて変換し, 行う。</p> <p>(3) 本サブルーチンより, (年月日変換 (和暦→西暦) :LXRPID06), (システム日付取得変換 (8桁) :LXRPID88) を呼び出す。</p>																																											

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPID43

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名																									
LXRPID43	日付処理	年月日（西暦）未来チェック	LXRCID43																									
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)																												
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分																								
03	I-YMD		年月日（西暦）	I																								
05	I-YY	9(4)	年	I																								
05	I-MM	9(2)	月	I																								
05	I-DD	9(2)	日	I																								
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)																												
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分																								
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R																								
処 理 基 準		例																										
1. 実在日チェックを（実在日チェック（西暦）:LXRPID01）により以下の順で行う（項番1～6）。 2. 入力年月日がシステム日付よりも未来ではない場合、リターンコードに'LXRED015'を返す（項番7）。		1. I-YMD : 19920331 システム日付: 920401 ↓ O-RTN-CD : 'LXRED015' 2. I-YMD : 19920401 システム日付: 920401 ↓ O-RTN-CD : SPACE 3. I-YMD : 19920401 システム日付: 920402 ↓ O-RTN-CD : 'LXRED015' 4. I-YMD : 19920000 システム日付: 920402 ↓ O-RTN-CD : 'LXRED017'																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>NO</th> <th>チェック</th> <th>リターンコード</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>年月日が数字のみである</td> <td>LXRED017</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>年月日≠ALL ZERO</td> <td>LXRED016</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>年≠ZERO</td> <td>LXRED001</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>月=1～12</td> <td>LXRED007</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>実在する月日である</td> <td>LXRED009</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>月日=2月29日ならば年=閏年</td> <td>LXRED008</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>年月日>=システム日付</td> <td>LXRED015</td> </tr> </tbody> </table>		NO	チェック	リターンコード	1	年月日が数字のみである	LXRED017	2	年月日≠ALL ZERO	LXRED016	3	年≠ZERO	LXRED001	4	月=1～12	LXRED007	5	実在する月日である	LXRED009	6	月日=2月29日ならば年=閏年	LXRED008	7	年月日>=システム日付	LXRED015			
NO	チェック	リターンコード																										
1	年月日が数字のみである	LXRED017																										
2	年月日≠ALL ZERO	LXRED016																										
3	年≠ZERO	LXRED001																										
4	月=1～12	LXRED007																										
5	実在する月日である	LXRED009																										
6	月日=2月29日ならば年=閏年	LXRED008																										
7	年月日>=システム日付	LXRED015																										
<注意事項> (1) 入力年月日がシステム日付と等しい場合、リターンコードにはスペースを返す。 (2) 本サブルーチンより、（実在日チェック（西暦）:LXRPID01）、（システム日付取得変換（8桁）:LXRPID88）を呼び出す。																												

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPID44

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名																																								
LXRPID44	日付処理	年月日 (和暦) 未来チェック	LXRCID44																																								
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)																																											
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分																																							
03	I-YMDWA		年月日 (和暦)	I																																							
05	I-NNG	X(1)	年号	I																																							
05	I-YY	9(2)	年	I																																							
05	I-MM	9(2)	月	I																																							
05	I-DD	9(2)	日	I																																							
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)																																											
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分																																							
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R																																							
処 理 基 準		例																																									
<p>1. 実在日チェックを (実在日チェック (和暦) :LXRPID02) により以下の順で行う (項番 1 ~ 11)。 2. 入力年月日 (和暦) がシステム日付よりも未来ではない場合, リターンコードに 'LXRED015' を返す (項番 12)。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>NO</th> <th>チェック</th> <th>リターンコード</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>年月日が数字のみである</td><td>LXRED017</td></tr> <tr><td>2</td><td>年月日≠ALL ZERO</td><td>LXRED016</td></tr> <tr><td>3</td><td>年号=1, 2, 3, 4, M, T, S, H</td><td>LXRED002</td></tr> <tr><td>4</td><td>年≠ZERO</td><td>LXRED001</td></tr> <tr><td>5</td><td>月=1~12</td><td>LXRED007</td></tr> <tr><td>6</td><td>実在する月日である</td><td>LXRED009</td></tr> <tr><td>7</td><td>月日=2月29日ならば年=閏年</td><td>LXRED008</td></tr> <tr><td>8</td><td>明治:元年9月8日~45年7月30日</td><td>LXRED006</td></tr> <tr><td>9</td><td>大正:元年7月30日~15年12月25日</td><td>LXRED005</td></tr> <tr><td>10</td><td>昭和:元年12月25日~64年1月7日</td><td>LXRED004</td></tr> <tr><td>11</td><td>平成:元年1月8日~</td><td>LXRED010</td></tr> <tr><td>12</td><td>年月日>=システム日付</td><td>LXRED015</td></tr> </tbody> </table>		NO	チェック	リターンコード	1	年月日が数字のみである	LXRED017	2	年月日≠ALL ZERO	LXRED016	3	年号=1, 2, 3, 4, M, T, S, H	LXRED002	4	年≠ZERO	LXRED001	5	月=1~12	LXRED007	6	実在する月日である	LXRED009	7	月日=2月29日ならば年=閏年	LXRED008	8	明治:元年9月8日~45年7月30日	LXRED006	9	大正:元年7月30日~15年12月25日	LXRED005	10	昭和:元年12月25日~64年1月7日	LXRED004	11	平成:元年1月8日~	LXRED010	12	年月日>=システム日付	LXRED015	<p>1. I-YMDWA : H040331 システム日付 : 920401 ↓ O-RTN-CD : 'LXRED015'</p> <p>2. I-YMDWA : H040401 システム日付 : 920401 ↓ O-RTN-CD : SPACE</p> <p>3. I-YMDWA : H040401 システム日付 : 920402 ↓ O-RTN-CD : 'LXRED015'</p> <p>4. I-YMDWA : H040000 システム日付 : 920402 ↓ O-RTN-CD : 'LXRED017'</p>		
NO	チェック	リターンコード																																									
1	年月日が数字のみである	LXRED017																																									
2	年月日≠ALL ZERO	LXRED016																																									
3	年号=1, 2, 3, 4, M, T, S, H	LXRED002																																									
4	年≠ZERO	LXRED001																																									
5	月=1~12	LXRED007																																									
6	実在する月日である	LXRED009																																									
7	月日=2月29日ならば年=閏年	LXRED008																																									
8	明治:元年9月8日~45年7月30日	LXRED006																																									
9	大正:元年7月30日~15年12月25日	LXRED005																																									
10	昭和:元年12月25日~64年1月7日	LXRED004																																									
11	平成:元年1月8日~	LXRED010																																									
12	年月日>=システム日付	LXRED015																																									
<p><注意事項> (1) 入力年月日がシステム日付と等しい場合, リターンコードにはスペースを返す。 (2) システム日付との比較は, 入力年月日を (年月日変換 (和暦→西暦) :LXRPID06) を用いて変換し, 行う。 (3) 本サブルーチンより, (年月日変換 (和暦→西暦) :LXRPID06), (システム日付取得変換 (8桁) :LXRPID88) を呼び出す。</p>																																											

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPID45

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名																																			
LXRPID45	日付処理	年月日（西暦）編集	LXRCID45																																			
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)																																						
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分																																		
03	I-YMD		年月日（西暦）	I																																		
05	I-YY	9(4)	年	I																																		
05	I-MM	9(2)	月	I																																		
05	I-DD	9(2)	日	I																																		
03	I-FORMAT	X(100)	フォーマット	C																																		
03	I-TYP	X(1)	タイプ	OT																																		
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)																																						
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分																																		
03	O-YMD	X(100)	年月日（西暦）	O																																		
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R																																		
処 理 基 準		例																																				
<p>1. (年月日出力編集（西暦）:LXRPID23) を呼ぶ。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>NO</th> <th>置換処理</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>YYYYY I-YY を全角変換</td></tr> <tr><td>2</td><td>ZZZY I-YY を ZZZ9 編集, 全角変換</td></tr> <tr><td>3</td><td>YY I-YY 下 2 桁を全角変換</td></tr> <tr><td>4</td><td>ZY I-YY 下 2 桁を Z9 編集, 全角変換</td></tr> <tr><td>5</td><td>YYYY I-YY</td></tr> <tr><td>6</td><td>ZZZY I-YY を ZZZ9 編集</td></tr> <tr><td>7</td><td>YY I-YY 下 2 桁</td></tr> <tr><td>8</td><td>ZY I-YY 下 2 桁を Z9 編集</td></tr> <tr><td>9</td><td>MM I-MM を全角変換</td></tr> <tr><td>10</td><td>ZM I-MM を Z9 編集, 全角変換</td></tr> <tr><td>11</td><td>MM I-MM</td></tr> <tr><td>12</td><td>ZM I-MM を Z9 編集</td></tr> <tr><td>13</td><td>DD I-DD を全角変換</td></tr> <tr><td>14</td><td>ZD I-DD を Z9 編集, 全角変換</td></tr> <tr><td>15</td><td>DD I-DD</td></tr> <tr><td>16</td><td>ZD I-DD を Z9 編集</td></tr> </tbody> </table>		NO	置換処理	1	YYYYY I-YY を全角変換	2	ZZZY I-YY を ZZZ9 編集, 全角変換	3	YY I-YY 下 2 桁を全角変換	4	ZY I-YY 下 2 桁を Z9 編集, 全角変換	5	YYYY I-YY	6	ZZZY I-YY を ZZZ9 編集	7	YY I-YY 下 2 桁	8	ZY I-YY 下 2 桁を Z9 編集	9	MM I-MM を全角変換	10	ZM I-MM を Z9 編集, 全角変換	11	MM I-MM	12	ZM I-MM を Z9 編集	13	DD I-DD を全角変換	14	ZD I-DD を Z9 編集, 全角変換	15	DD I-DD	16	ZD I-DD を Z9 編集	<p>1. I-YMD : 19920401 I-FORMAT : '「YYYY年MM月DD日」' I-TYP : 'N' ↓ O-YMD : '92年04月01日' O-RTN-CD : SPACE</p> <p>2. I-YMD : 19920401 I-FORMAT : 'YYYY-MM-DD' I-TYP : 'N' ↓ O-YMD : '」1992-04-01' O-RTN-CD : SPACE</p> <p>(注) 例は VOS3 版の場合で, 'I':X'0A42', 'J':X'0A41' とする</p>		
NO	置換処理																																					
1	YYYYY I-YY を全角変換																																					
2	ZZZY I-YY を ZZZ9 編集, 全角変換																																					
3	YY I-YY 下 2 桁を全角変換																																					
4	ZY I-YY 下 2 桁を Z9 編集, 全角変換																																					
5	YYYY I-YY																																					
6	ZZZY I-YY を ZZZ9 編集																																					
7	YY I-YY 下 2 桁																																					
8	ZY I-YY 下 2 桁を Z9 編集																																					
9	MM I-MM を全角変換																																					
10	ZM I-MM を Z9 編集, 全角変換																																					
11	MM I-MM																																					
12	ZM I-MM を Z9 編集																																					
13	DD I-DD を全角変換																																					
14	ZD I-DD を Z9 編集, 全角変換																																					
15	DD I-DD																																					
16	ZD I-DD を Z9 編集																																					
<p>2. VOS3 版では編集された文字列に対して次の処理を行う。</p> <p>2.1 I-TYP が 'N' で文字列の先頭が機能キャラクタ(X'0A42') の場合, これを削除する。</p> <p>2.2 I-TYP が 'N' で文字列の先頭が機能キャラクタ(X'0A42') でない場合, 先頭に機能キャラクタ(X'0A41') を付加する。</p> <p>2.3 I-TYP が 'N' で文字列の最後の文字が機能キャラクタ(X'0A41') の場合, これを削除する。</p>																																						
<p><注意事項></p> <p>(1) 本サブルーチンより, (年月日出力編集（西暦）:LXRPID23) を呼び出す。</p> <p>(2) リターンコードには, (年月日出力編集（西暦）:LXRPID23) のリターンコードを出力する。</p> <p>(3) 2.3 において, 「文字列の最後の文字」とはその文字より後方にスペースしか存在していない文字を指す。</p>																																						

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPID46

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名																																																	
LXRPID46	日付処理	年月日(和暦)編集	LXRCID46																																																	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)																																																				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分																																																
03	I-YMDWA		年月日(和暦)	I																																																
05	I-NNG	X(1)	年号	I																																																
05	I-YY	9(2)	年	I																																																
05	I-MM	9(2)	月	I																																																
05	I-DD	9(2)	日	I																																																
03	I-FORMAT	X(100)	フォーマット	C																																																
03	I-TYP	X(1)	タイプ	OT																																																
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)																																																				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分																																																
03	O-YMDWA	X(100)	年月日(和暦)	O																																																
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R																																																
処 理 基 準		例																																																		
<p>1. (年月日出力編集(和暦):LXRPID24)を呼ぶ。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>NO</th> <th colspan="2">置換処理</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>NN</td><td>I-NNGを全角変換</td></tr> <tr><td>2</td><td>N</td><td>I-NNG上一桁を全角変換</td></tr> <tr><td>3</td><td>YY</td><td>I-YYを全角変換</td></tr> <tr><td>4</td><td>ZY</td><td>I-YYをZ9編集, 全角変換</td></tr> <tr><td>5</td><td>MM</td><td>I-MMを全角変換</td></tr> <tr><td>6</td><td>ZM</td><td>I-MMをZ9編集, 全角変換</td></tr> <tr><td>7</td><td>DD</td><td>I-DDを全角変換</td></tr> <tr><td>8</td><td>ZD</td><td>I-DDをZ9編集, 全角変換</td></tr> <tr><td>9</td><td>N</td><td>I-NNG</td></tr> <tr><td>10</td><td>YY</td><td>I-YY</td></tr> <tr><td>11</td><td>ZY</td><td>I-YYをZ9編集</td></tr> <tr><td>12</td><td>MM</td><td>I-MM</td></tr> <tr><td>13</td><td>ZM</td><td>I-MMをZ9編集</td></tr> <tr><td>14</td><td>DD</td><td>I-DD</td></tr> <tr><td>15</td><td>ZD</td><td>I-DDをZ9編集</td></tr> </tbody> </table> <p>2. VOS3版では編集された文字列に対して次の処理を行う。</p> <p>2.1 I-TYPが'N'で文字列の先頭が機能キャラクタ(X'0A42')の場合,これを削除する。</p> <p>2.2 I-TYPが'N'で文字列の先頭が機能キャラクタ(X'0A42')ではない場合,先頭に機能キャラクタ(X'0A41')を付加する。</p> <p>2.3 I-TYPが'N'で文字列の最後の文字が機能キャラクタ(X'0A41')の場合,これを削除する。</p>		NO	置換処理		1	NN	I-NNGを全角変換	2	N	I-NNG上一桁を全角変換	3	YY	I-YYを全角変換	4	ZY	I-YYをZ9編集, 全角変換	5	MM	I-MMを全角変換	6	ZM	I-MMをZ9編集, 全角変換	7	DD	I-DDを全角変換	8	ZD	I-DDをZ9編集, 全角変換	9	N	I-NNG	10	YY	I-YY	11	ZY	I-YYをZ9編集	12	MM	I-MM	13	ZM	I-MMをZ9編集	14	DD	I-DD	15	ZD	I-DDをZ9編集	<p>1. I-YMDWA : 4040401 I-FORMAT : '「NNYY年MM月DD日」' I-TYP : 'N' ↓ O-YMDWA : '平成04年04月01日' O-RTN-CD : SPACE</p> <p>2. I-YMDWA : 4040401 I-FORMAT : 'NYY.MM.DD' I-TYP : 'N' ↓ O-YMDWA : '」H04.04.01' O-RTN-CD : SPACE</p> <p>(注) 例はVOS3版の場合で, '「':X'0A42', '」':X'0A41'とする</p>		
NO	置換処理																																																			
1	NN	I-NNGを全角変換																																																		
2	N	I-NNG上一桁を全角変換																																																		
3	YY	I-YYを全角変換																																																		
4	ZY	I-YYをZ9編集, 全角変換																																																		
5	MM	I-MMを全角変換																																																		
6	ZM	I-MMをZ9編集, 全角変換																																																		
7	DD	I-DDを全角変換																																																		
8	ZD	I-DDをZ9編集, 全角変換																																																		
9	N	I-NNG																																																		
10	YY	I-YY																																																		
11	ZY	I-YYをZ9編集																																																		
12	MM	I-MM																																																		
13	ZM	I-MMをZ9編集																																																		
14	DD	I-DD																																																		
15	ZD	I-DDをZ9編集																																																		
<p><注意事項></p> <p>(1) 本サブルーチンより,(年月日出力編集(和暦):LXRPID24)を呼び出す。</p> <p>(2) リターンコードには,(年月日出力編集(和暦):LXRPID24)のリターンコードを出力する。</p> <p>(3) 2.3において,「文字列の最後の文字」とはその文字より後方にスペースしか存在していない文字を指す。</p>																																																				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPID47

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名																																																	
LXRPID47	日付処理	年月日変換（西暦→和暦）編集	LXRCID47																																																	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)																																																				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分																																																
03	I-YMD		年月日（西暦）	I																																																
05	I-YY	9(4)	年	I																																																
05	I-MM	9(2)	月	I																																																
05	I-DD	9(2)	日	I																																																
03	I-FORMAT	X(100)	フォーマット	C																																																
03	I-TYP	X(1)	タイプ	OT																																																
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=O , RTN-CODE=R)																																																				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分																																																
03	O-YMDWA	X(100)	年月日（和暦）	O																																																
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R																																																
処 理 基 準		例																																																		
1. （年月日変換（西暦→和暦）:LXRPID05）を用いて、入力年月日を和暦に変換する。 2. 変換された年月日（和暦）を、年月日（和暦）編集によって編集する。		1. I-YMD : 19920401 I-FORMAT : '「NNYY年MM月DD日」' I-TYP : 'N' ↓ O-YMDWA : '平成04年04月01日' O-RTN-CD : SPACE 2. I-YMD : 19920401 I-FORMAT : 'NYY-MM-DD' I-TYP : 'N' ↓ O-YMDWA : '」H04-04-01' O-RTN-CD : SPACE (注) 例は VOS3 版の場合で、 '「':X'0A42', '」':X'0A41' とする																																																		
<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>NO</th> <th colspan="2">置換処理</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>NN</td><td>年号を全角変換</td></tr> <tr><td>2</td><td>N</td><td>年号上一桁を全角変換</td></tr> <tr><td>3</td><td>YY</td><td>年を全角変換</td></tr> <tr><td>4</td><td>ZY</td><td>年を Z9 編集, 全角変換</td></tr> <tr><td>5</td><td>MM</td><td>月を全角変換</td></tr> <tr><td>6</td><td>ZM</td><td>月を Z9 編集, 全角変換</td></tr> <tr><td>7</td><td>DD</td><td>日を全角変換</td></tr> <tr><td>8</td><td>ZD</td><td>日を Z9 編集, 全角変換</td></tr> <tr><td>9</td><td>N</td><td>年号コード</td></tr> <tr><td>10</td><td>YY</td><td>年</td></tr> <tr><td>11</td><td>ZY</td><td>年を Z9 編集</td></tr> <tr><td>12</td><td>MM</td><td>月</td></tr> <tr><td>13</td><td>ZM</td><td>月を Z9 編集</td></tr> <tr><td>14</td><td>DD</td><td>日</td></tr> <tr><td>15</td><td>ZD</td><td>日を Z9 編集</td></tr> </tbody> </table>		NO	置換処理		1	NN	年号を全角変換	2	N	年号上一桁を全角変換	3	YY	年を全角変換	4	ZY	年を Z9 編集, 全角変換	5	MM	月を全角変換	6	ZM	月を Z9 編集, 全角変換	7	DD	日を全角変換	8	ZD	日を Z9 編集, 全角変換	9	N	年号コード	10	YY	年	11	ZY	年を Z9 編集	12	MM	月	13	ZM	月を Z9 編集	14	DD	日	15	ZD	日を Z9 編集			
NO	置換処理																																																			
1	NN	年号を全角変換																																																		
2	N	年号上一桁を全角変換																																																		
3	YY	年を全角変換																																																		
4	ZY	年を Z9 編集, 全角変換																																																		
5	MM	月を全角変換																																																		
6	ZM	月を Z9 編集, 全角変換																																																		
7	DD	日を全角変換																																																		
8	ZD	日を Z9 編集, 全角変換																																																		
9	N	年号コード																																																		
10	YY	年																																																		
11	ZY	年を Z9 編集																																																		
12	MM	月																																																		
13	ZM	月を Z9 編集																																																		
14	DD	日																																																		
15	ZD	日を Z9 編集																																																		
<p><注意事項></p> (1) 本サブルーチンから（年月日変換（西暦→和暦）:LXRPID05）と（年月日（和暦）編集:LXRPID46）を呼び出す。 (2) リターンコードには、（年月日変換（西暦→和暦）:LXRPID05）のリターンコードを出力する。 (3) 機能キャラクタ編集については、（年月日（和暦）編集:LXRPID46）に準ずる。																																																				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPID48

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名													
LXRPID48	日付処理	年月(西暦)チェック	LXRCID48													
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)																
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分												
03	I-YM		年月(西暦)	I												
05	I-YY	9(4)	年	I												
05	I-MM	9(2)	月	I												
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)																
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分												
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R												
処 理 基 準		例														
<p>1. 入力年月が数字のみでない場合、リターンコードに 'LXRED017' を返す(項番1)。</p> <p>2. リターンコードがスペースの時、入力年月のチェックを(実在日チェック(西暦):LXRPID01)を用いて行い、エラーの場合リターンコードを返す(項番2~3)。</p>		<p>1. I-YM : 000013 ↓ O-RTN-CD : 'LXRED001'</p> <p>2. I-YM : 199213 ↓ O-RTN-CD : 'LXRED007'</p> <p>3. I-YM : 000000 ↓ O-RTN-CD : 'LXRED001'</p> <p>4. I-YM : QQQQ13 ↓ O-RTN-CD : 'LXRED017'</p>														
<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>NO</th> <th>チェック</th> <th>リター-コード</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>年月日が数字のみである</td> <td>LXRED017</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>年≠ZERO</td> <td>LXRED001</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>月=1~12</td> <td>LXRED007</td> </tr> </tbody> </table>		NO	チェック	リター-コード	1	年月日が数字のみである	LXRED017	2	年≠ZERO	LXRED001	3	月=1~12	LXRED007			
NO	チェック	リター-コード														
1	年月日が数字のみである	LXRED017														
2	年≠ZERO	LXRED001														
3	月=1~12	LXRED007														
<p><注意事項> (1) 本サブルーチンから(実在日チェック(西暦):LXRPID01)を呼び出す。</p>																

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPID49

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名																									
LXRPID49	日付処理	年月(和暦)チェック	LXRCID49																									
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)																												
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分																								
03	I-YMWA		年月(和暦)	I																								
05	I-NNG	X(1)	年号	I																								
05	I-YY	9(2)	年	I																								
05	I-MM	9(2)	月	I																								
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)																												
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分																								
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R																								
処 理 基 準		例																										
<p>1. 以下の順でチェックを行い、エラーの場合リターンコードを返す。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>NO</th> <th>チェック</th> <th>リターンコード</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>年月日が数字のみである</td> <td>LXRED017</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>年号=1, 2, 3, 4, M, T, S, H</td> <td>LXRED002</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>年≠ZERO</td> <td>LXRED001</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>月=1~12</td> <td>LXRED007</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>明治:元年 9月~45年 7月</td> <td>LXRED006</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>大正:元年 7月~15年 12月</td> <td>LXRED005</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>昭和:元年 12月~64年 1月</td> <td>LXRED004</td> </tr> </tbody> </table>		NO	チェック	リターンコード	1	年月日が数字のみである	LXRED017	2	年号=1, 2, 3, 4, M, T, S, H	LXRED002	3	年≠ZERO	LXRED001	4	月=1~12	LXRED007	5	明治:元年 9月~45年 7月	LXRED006	6	大正:元年 7月~15年 12月	LXRED005	7	昭和:元年 12月~64年 1月	LXRED004	<p>1. I-YMWA : 14508 ↓ O-RTN-CD : 'LXRED006'</p> <p>2. I-YMWA : S6402 ↓ O-RTN-CD : 'LXRED004'</p>		
NO	チェック	リターンコード																										
1	年月日が数字のみである	LXRED017																										
2	年号=1, 2, 3, 4, M, T, S, H	LXRED002																										
3	年≠ZERO	LXRED001																										
4	月=1~12	LXRED007																										
5	明治:元年 9月~45年 7月	LXRED006																										
6	大正:元年 7月~15年 12月	LXRED005																										
7	昭和:元年 12月~64年 1月	LXRED004																										
<p><注意事項></p> <p>(1) 本サブルーチンから(年号コード変換(英字→数字):LXRPID37)を呼び出す。</p> <p>(2) 年号がエラーのときは、年号=平成を仮定してチェックを続行し、他のエラーに該当するときは、他のエラーのリターンコードを返す。</p>																												

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPID50

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名																
LXRPID50	日付処理	年月(西暦)過去チェック	LXRCID50																
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)																			
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分															
03	I-YM		年月(西暦)	I															
05	I-YY	9(4)	年	I															
05	I-MM	9(2)	月	I															
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)																			
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分															
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R															
処 理 基 準		例																	
<p>1. 入力年月のチェックを(年月(西暦)チェック:LXRPID48)を用いて以下の順で行う(項番1~3)。 2. 入力年月がシステム日付よりも過去ではない場合、リターンコードに'LXRED003'を返す(項番4)。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>NO</th> <th>チェック</th> <th>リターンコード</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>年月が数字のみである</td> <td>LXRED017</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>年≠ZERO</td> <td>LXRED001</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>月=1~12</td> <td>LXRED007</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>入力年月<=システム日付</td> <td>LXRED003</td> </tr> </tbody> </table>		NO	チェック	リターンコード	1	年月が数字のみである	LXRED017	2	年≠ZERO	LXRED001	3	月=1~12	LXRED007	4	入力年月<=システム日付	LXRED003	<p>1. I-YM : 199204 システム日付: 920401 ↓ O-RTN-CD : SPACE</p> <p>2. I-YM : 199203 システム日付: 920401 ↓ O-RTN-CD : SPACE</p> <p>3. I-YM : 199205 システム日付: 920401 ↓ O-RTN-CD : 'LXRED003'</p>		
NO	チェック	リターンコード																	
1	年月が数字のみである	LXRED017																	
2	年≠ZERO	LXRED001																	
3	月=1~12	LXRED007																	
4	入力年月<=システム日付	LXRED003																	
<p><注意事項> (1) システム日付の年月と入力年月が等しい場合、リターンコードにはスペースを返す。 (2) 本サブルーチンより、(年月(西暦)チェック:LXRPID48)、(システム日付取得変換(8桁):LXRPID88)を呼び出す。</p>																			

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPID51

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名																												
LXRPID51	日付処理	年月(和暦)過去チェック	LXRCID51																												
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)																															
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分																											
03	I-YMWA		年月(和暦)	I																											
05	I-NNG	X(1)	年号	I																											
05	I-YY	9(2)	年	I																											
05	I-MM	9(2)	月	I																											
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)																															
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分																											
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R																											
処 理 基 準		例																													
<p>1. (年月変換(和暦→西暦):LXRPID58)を用いて、西暦年月に変換する。</p> <p>1.1 リターンコードがスペースの時 システム日付と比較する。</p> <p>1.2 リターンコードがスペースでない時 (年月変換(和暦→西暦):LXRPID58)のリターンコードを出力する(項番1~7)。</p>		<p>1. I-YMWA : H0404 システム日付: 920401 ↓ O-RTN-CD : SPACE</p> <p>2. I-YMWA : H0403 システム日付: 920401 ↓ O-RTN-CD : SPACE</p> <p>3. I-YMWA : H0405 システム日付: 920401 ↓ O-RTN-CD : 'LXRED003'</p>																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th>NO</th> <th>チェック</th> <th>リターンコード</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>年月日が数字のみである</td> <td>LXRED017</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>年号=1, 2, 3, 4, M, T, S, H</td> <td>LXRED002</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>年≠ZERO</td> <td>LXRED001</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>月=1~12</td> <td>LXRED007</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>明治:元年 9月~45年 7月</td> <td>LXRED006</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>大正:元年 7月~15年 12月</td> <td>LXRED005</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>昭和:元年 12月~64年 1月</td> <td>LXRED004</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>年月<=システム日付</td> <td>LXRED003</td> </tr> </tbody> </table>		NO	チェック	リターンコード	1	年月日が数字のみである	LXRED017	2	年号=1, 2, 3, 4, M, T, S, H	LXRED002	3	年≠ZERO	LXRED001	4	月=1~12	LXRED007	5	明治:元年 9月~45年 7月	LXRED006	6	大正:元年 7月~15年 12月	LXRED005	7	昭和:元年 12月~64年 1月	LXRED004	8	年月<=システム日付	LXRED003			
NO	チェック	リターンコード																													
1	年月日が数字のみである	LXRED017																													
2	年号=1, 2, 3, 4, M, T, S, H	LXRED002																													
3	年≠ZERO	LXRED001																													
4	月=1~12	LXRED007																													
5	明治:元年 9月~45年 7月	LXRED006																													
6	大正:元年 7月~15年 12月	LXRED005																													
7	昭和:元年 12月~64年 1月	LXRED004																													
8	年月<=システム日付	LXRED003																													
<p><注意事項></p> <p>(1) システム日付の年月と変換後の年月(西暦)が等しい場合、リターンコードにスペースを返す。</p> <p>(2) システム日付よりも過去でない場合リターンコードに'LXRED003'を返す(項番8)。</p> <p>(3) 本サブルーチンより、(年月変換(和暦→西暦):LXRPID58)、(システム日付取得変換(8桁):LXRPID88)を呼び出す。</p>																															

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPID52

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名																
LXRPID52	日付処理	年月(西暦)未来チェック	LXRCID52																
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)																			
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分															
03	I-YM		年月(西暦)	I															
05	I-YY	9(4)	年	I															
05	I-MM	9(2)	月	I															
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)																			
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分															
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R															
処 理 基 準		例																	
<p>1. 入力年月のチェックを(年月(西暦)チェック:LXRPID48)を用いて以下の順で行う(項番1~3)。 2. 入力年月がシステム日付よりも未来ではない場合、リターンコードに'LXRED015'を返す(項番4)。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>NO</th> <th>チェック</th> <th>リターンコード</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>年月が数字のみである</td> <td>LXRED017</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>年≠ZERO</td> <td>LXRED001</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>月=1~12</td> <td>LXRED007</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>入力年月>=システム日付</td> <td>LXRED015</td> </tr> </tbody> </table>		NO	チェック	リターンコード	1	年月が数字のみである	LXRED017	2	年≠ZERO	LXRED001	3	月=1~12	LXRED007	4	入力年月>=システム日付	LXRED015	<p>1. I-YM : 199204 システム日付: 920401 ↓ O-RTN-CD: SPACE</p> <p>2. I-YM : 199203 システム日付: 920401 ↓ O-RTN-CD: 'LXRED015'</p> <p>3. I-YM : 199205 システム日付: 920401 ↓ O-RTN-CD: SPACE</p>		
NO	チェック	リターンコード																	
1	年月が数字のみである	LXRED017																	
2	年≠ZERO	LXRED001																	
3	月=1~12	LXRED007																	
4	入力年月>=システム日付	LXRED015																	
<p><注意事項> (1) システム日付の年月と入力年月が等しい場合、リターンコードにはスペースを返す。 (2) 本サブルーチンより、(年月(西暦)チェック:LXRPID48)、(システム日付取得変換(8桁):LXRPID88)を呼び出す。</p>																			

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPID53

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名																												
LXRPID53	日付処理	年月(和暦)未来チェック	LXRCID53																												
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)																															
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分																											
03	I-YMWA		年月(和暦)	I																											
05	I-NNG	X(1)	年号	I																											
05	I-YY	9(2)	年	I																											
05	I-MM	9(2)	月	I																											
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)																															
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分																											
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R																											
処 理 基 準		例																													
<p>1. (年月変換(和暦→西暦):LXRPID58)を用いて、西暦年月に変換する。</p> <p>1.1 リターンコードがスペースの時 システム日付と比較する。</p> <p>1.2 リターンコードがスペースでない時 (年月変換(和暦→西暦):LXRPID58)のリターンコードを出力する(項番1~7)。</p>		<p>1. I-YMWA : H0404 システム日付: 920401 ↓ O-RTN-CD : SPACE</p> <p>2. I-YMWA : H0403 システム日付: 920401 ↓ O-RTN-CD : 'LXRED015'</p> <p>3. I-YMWA : H0405 システム日付: 920401 ↓ O-RTN-CD : SPACE</p>																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th>NO</th> <th>チェック</th> <th>リターンコード</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>年月日が数字のみである</td><td>LXRED017</td></tr> <tr><td>2</td><td>年号=1, 2, 3, 4, M, T, S, H</td><td>LXRED002</td></tr> <tr><td>3</td><td>年≠ZERO</td><td>LXRED001</td></tr> <tr><td>4</td><td>月=1~12</td><td>LXRED007</td></tr> <tr><td>5</td><td>明治:元年 9月~45年 7月</td><td>LXRED006</td></tr> <tr><td>6</td><td>大正:元年 7月~15年 12月</td><td>LXRED005</td></tr> <tr><td>7</td><td>昭和:元年 12月~64年 1月</td><td>LXRED004</td></tr> <tr><td>8</td><td>年月>=システム日付</td><td>LXRED015</td></tr> </tbody> </table>		NO	チェック	リターンコード	1	年月日が数字のみである	LXRED017	2	年号=1, 2, 3, 4, M, T, S, H	LXRED002	3	年≠ZERO	LXRED001	4	月=1~12	LXRED007	5	明治:元年 9月~45年 7月	LXRED006	6	大正:元年 7月~15年 12月	LXRED005	7	昭和:元年 12月~64年 1月	LXRED004	8	年月>=システム日付	LXRED015			
NO	チェック	リターンコード																													
1	年月日が数字のみである	LXRED017																													
2	年号=1, 2, 3, 4, M, T, S, H	LXRED002																													
3	年≠ZERO	LXRED001																													
4	月=1~12	LXRED007																													
5	明治:元年 9月~45年 7月	LXRED006																													
6	大正:元年 7月~15年 12月	LXRED005																													
7	昭和:元年 12月~64年 1月	LXRED004																													
8	年月>=システム日付	LXRED015																													
<p><注意事項></p> <p>(1) システム日付の年月と変換後の年月(西暦)が等しい場合、リターンコードにスペースを返す。</p> <p>(2) システム日付よりも未来でない場合リターンコードに'LXRED015'を返す(項番8)。</p> <p>(3) 本サブルーチンより、(年月変換(和暦→西暦):LXRPID58)、(システム日付取得変換(8桁):LXRPID88)を呼び出す。</p>																															

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPID54

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名																											
LXRPID54	日付処理	年月(西暦)編集	LXRCID54																											
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)																														
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分																										
03	I-YM		年月日(西暦)	I																										
05	I-YY	9(4)	年	I																										
05	I-MM	9(2)	月	I																										
03	I-FORMAT	X(100)	フォーマット	C																										
03	I-TYP	X(1)	タイプ	OT																										
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)																														
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分																										
03	O-YM	X(100)	年月(西暦)	O																										
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R																										
処 理 基 準				例																										
<p>1. 入力年月の編集を以下のように行う。</p> <p>1.1 入力年月 → 年月 01 → 日</p> <p>1.2 年月日の編集を(年月日(西暦)編集:LXRPID45)を用いて以下の順で行う。</p> <p>1.2.1 置換処理</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>NO</th> <th>置換処理</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>YYYYY I-YYを全角変換</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ZZZYZ I-YYをZZZ9編集, 全角変換</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>YY I-YY下2桁を全角変換</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>ZY I-YY下2桁をZ9編集, 全角変換</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>YYYY I-YY</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>ZZZY I-YYをZZZ9編集</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>YY I-YY下2桁</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>ZY I-YY下2桁をZ9編集</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>MM I-MMを全角変換</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>ZM I-MMをZ9編集, 全角変換</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>MM I-MM</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>ZM I-MMをZ9編集</td> </tr> </tbody> </table> <p>1.2.1 機能キャラクタ処理 (LXRPID45参照)</p>				NO	置換処理	1	YYYYY I-YYを全角変換	2	ZZZYZ I-YYをZZZ9編集, 全角変換	3	YY I-YY下2桁を全角変換	4	ZY I-YY下2桁をZ9編集, 全角変換	5	YYYY I-YY	6	ZZZY I-YYをZZZ9編集	7	YY I-YY下2桁	8	ZY I-YY下2桁をZ9編集	9	MM I-MMを全角変換	10	ZM I-MMをZ9編集, 全角変換	11	MM I-MM	12	ZM I-MMをZ9編集	<p>1. I-YM : 199204 I-FORMAT : 'YY年MM月' I-TYP : 'N' ↓ O-YM : '92年04月' O-RTN-CD : SPACE</p> <p>2. I-YM : 199204 I-FORMAT : 'YYYY-MM' I-TYP : 'N' ↓ O-YM : '92-04' O-RTN-CD : SPACE</p> <p>(注) 例はVOS3版の場合で, 'I':X'0A42', 'J':X'0A41'とする</p>
NO	置換処理																													
1	YYYYY I-YYを全角変換																													
2	ZZZYZ I-YYをZZZ9編集, 全角変換																													
3	YY I-YY下2桁を全角変換																													
4	ZY I-YY下2桁をZ9編集, 全角変換																													
5	YYYY I-YY																													
6	ZZZY I-YYをZZZ9編集																													
7	YY I-YY下2桁																													
8	ZY I-YY下2桁をZ9編集																													
9	MM I-MMを全角変換																													
10	ZM I-MMをZ9編集, 全角変換																													
11	MM I-MM																													
12	ZM I-MMをZ9編集																													
<p><注意事項></p> <p>(1) 本サブルーチンより, (年月日(西暦)編集:LXRPID45)を呼び出す。</p> <p>(2) リターンコードには, (年月日(西暦)編集:LXRPID45)のリターンコードを返す。</p> <p>(3) I-FORMAT中において「日」項目(DD, ZD, DD, ZD等)を指定した場合, 01をそれぞれの形式に編集し, 置換する。</p>																														

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPID55

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名																																					
LXRPID55	日付処理	年月(和暦)編集	LXRCID55																																					
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)																																								
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分																																				
03	I-YMWA		年月(和暦)	I																																				
05	I-NNG	X(1)	年号	I																																				
05	I-YY	9(2)	年	I																																				
05	I-MM	9(2)	月	I																																				
03	I-TYP	X(1)	タイプ	OT																																				
03	I-FORMAT	X(100)	フォーマット	C																																				
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)																																								
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分																																				
03	O-YMWA	X(100)	年月(和暦)	O																																				
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R																																				
処 理 基 準		例																																						
<p>1. 入力年月のチェックを(実在日チェック(和暦):LXRPID02)を用いて行い、リターンコードがスペースの時、以下の処理を行う。</p> <p>1.1 年月日(和暦)の編集を(年月日(和暦)編集:LXRPID46)を用いて以下の順で行う。</p> <p>(1) 置換処理</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>NO</th> <th colspan="2">置換処理</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>NN</td> <td>年号を全角変換</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>N</td> <td>年号上一桁を全角変換</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>YY</td> <td>I-YYを全角変換</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>ZY</td> <td>I-YYをZ9編集, 全角変換</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>MM</td> <td>I-MMを全角変換</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>ZM</td> <td>I-MMをZ9編集, 全角変換</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>N</td> <td>I-NNG</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>YY</td> <td>I-YY</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>ZY</td> <td>I-YYをZ9編集</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>MM</td> <td>I-MM</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ZM</td> <td>I-MMをZ9編集</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 機能キャラクタ処理 (LXRPID46参照)</p>		NO	置換処理		1	NN	年号を全角変換	2	N	年号上一桁を全角変換	3	YY	I-YYを全角変換	4	ZY	I-YYをZ9編集, 全角変換	5	MM	I-MMを全角変換	6	ZM	I-MMをZ9編集, 全角変換	7	N	I-NNG	8	YY	I-YY	9	ZY	I-YYをZ9編集	10	MM	I-MM	11	ZM	I-MMをZ9編集	<p>1. I-YMWA : 40404 I-FORMAT : '「NNYY年MM月」' I-TYP : 'N' ↓ O-YMWA : '平成04年04月' O-RTN-CD : SPACE</p> <p>2. I-YMWA : 40404 I-FORMAT : 'NYY.MM' I-TYP : 'N' ↓ O-YMWA : '」H04.04' O-RTN-CD : SPACE</p> <p>(注) 例はVOS3版の場合で、 'I':X'0A42', 'J':X'0A41'とする</p>		
NO	置換処理																																							
1	NN	年号を全角変換																																						
2	N	年号上一桁を全角変換																																						
3	YY	I-YYを全角変換																																						
4	ZY	I-YYをZ9編集, 全角変換																																						
5	MM	I-MMを全角変換																																						
6	ZM	I-MMをZ9編集, 全角変換																																						
7	N	I-NNG																																						
8	YY	I-YY																																						
9	ZY	I-YYをZ9編集																																						
10	MM	I-MM																																						
11	ZM	I-MMをZ9編集																																						
<p><注意事項></p> <p>(1) 本サブルーチンより、(実在日チェック(和暦):LXRPID02)、(年月日(和暦)編集:LXRPID46)を呼び出す。</p> <p>(2) I-FORMAT 中において「日」項目(DD, ZD, DD, ZD等)を指定した場合、不定値に置き換える。</p> <p>(3) サブルーチン呼び出しでエラーとなった場合、リターンコードをそのまま返す。</p>																																								

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPID56

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名																																					
LXRPID56	日付処理	年月変換（西暦→和暦）編集	LXRCID56																																					
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)																																								
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分																																				
03	I-YM		年月（西暦）	I																																				
05	I-YY	9(4)	年	I																																				
05	I-MM	9(2)	月	I																																				
03	I-TYP	X(1)	タイプ	OT																																				
03	I-FORMAT	X(100)	フォーマット	C																																				
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=O , RTN-CODE=R)																																								
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分																																				
03	O-YMWA	X(100)	年月（和暦）	O																																				
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R																																				
処 理 基 準		例																																						
<p>1. (年月変換（西暦→和暦）:LXRPID57) を呼び、和暦年月に変換する。</p> <p>1.2. 年月の編集を、(年月（和暦）編集:LXRPID55) を用いて以下の順で行う。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>NO</th> <th colspan="2">置換処理</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>NN</td> <td>年号を全角変換</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>N</td> <td>年号上一桁を全角変換</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>YY</td> <td>年を全角変換</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>ZY</td> <td>年を Z9 編集, 全角変換</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>MM</td> <td>月を全角変換</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>ZM</td> <td>月を Z9 編集, 全角変換</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>N</td> <td>年号コード</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>YY</td> <td>年</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>ZY</td> <td>年を Z9 編集</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>MM</td> <td>月</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ZM</td> <td>月を Z9 編集</td> </tr> </tbody> </table>		NO	置換処理		1	NN	年号を全角変換	2	N	年号上一桁を全角変換	3	YY	年を全角変換	4	ZY	年を Z9 編集, 全角変換	5	MM	月を全角変換	6	ZM	月を Z9 編集, 全角変換	7	N	年号コード	8	YY	年	9	ZY	年を Z9 編集	10	MM	月	11	ZM	月を Z9 編集	<p>1. I-YM : 199204 I-FORMAT : '「NNYY年MM月」' I-TYP : 'N' ↓ O-YMWA : '平成04年04月' O-RTN-CD : SPACE</p> <p>2. I-YM : 199204 I-FORMAT : 'NYY-MM' I-TYP : 'N' ↓ O-YMWA : '」H04-04' O-RTN-CD : SPACE</p> <p>(注) 例は VOS3 版の場合で、 'I' : 'X' 0A42', 'J' : 'X' 0A41' とする</p>		
NO	置換処理																																							
1	NN	年号を全角変換																																						
2	N	年号上一桁を全角変換																																						
3	YY	年を全角変換																																						
4	ZY	年を Z9 編集, 全角変換																																						
5	MM	月を全角変換																																						
6	ZM	月を Z9 編集, 全角変換																																						
7	N	年号コード																																						
8	YY	年																																						
9	ZY	年を Z9 編集																																						
10	MM	月																																						
11	ZM	月を Z9 編集																																						
<p><注意事項></p> <p>(1) リターンコードは、(年月変換（西暦→和暦）:LXRPID57) のリターンコードを返す。</p> <p>(2) 本サブルーチンから、(年月（和暦）編集:LXRPID55)、(年月変換（西暦→和暦）:LXRPID57) を呼び出す。</p> <p>(3) 機能キャラクタ編集については、(年月（和暦）編集:LXRPID55) に準ずる。</p> <p>(4) I-FORMAT 中において「日」項目 (DD, ZD, DD, ZD 等) を指定した場合、01 をそれぞれの形式に編集し、置換する。</p>																																								

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPID57

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名														
LXRPID57	日付処理	年月変換（西暦→和暦）	LXRCID57														
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)																	
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分													
03	I-YM		年月（西暦）	I													
05	I-YY	9(4)	年	I													
05	I-MM	9(2)	月	I													
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)																	
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分													
03	O-YMWA		年月（和暦）	O													
05	O-NNG	X(1)	年号 (1:明治, 2:大正, 3:昭和, 4:平成)	O													
05	O-YY	9(2)	年	O													
05	O-MM	9(2)	月	O													
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R													
処 理 基 準			例														
<p>1. (年月（西暦）チェック:LXRPID48) を呼び、年月をチェックする。</p> <p>1.1 リターンコードがスペースの時 入力年月 → 年月 01 → 日 (年月日変換（西暦→和暦）:LXRPID05) を用いて年月日の変換を行う。処理基準は以下の通り。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>年号</th> <th>西暦範囲</th> <th>和暦範囲</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">明治</td> <td>1868年 9月 8日～ 1912年 7月 29日</td> <td>元年 9月 8日～ 45年 7月 29日</td> </tr> <tr> <td>1912年 7月 30日～ 1926年 12月 24日</td> <td>元年 7月 30日～ 15年 12月 24日</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">大正</td> <td>1926年 12月 25日～ 1989年 1月 7日</td> <td>元年 12月 25日～ 64年 1月 7日</td> </tr> <tr> <td>1989年 1月 8日～</td> <td>元年 1月 8日～</td> </tr> </tbody> </table> <p>1.2 リターンコードがスペースでない時, (年月（西暦）チェック:LXRPID48) のリターンコードを出力する。</p>			年号	西暦範囲	和暦範囲	明治	1868年 9月 8日～ 1912年 7月 29日	元年 9月 8日～ 45年 7月 29日	1912年 7月 30日～ 1926年 12月 24日	元年 7月 30日～ 15年 12月 24日	大正	1926年 12月 25日～ 1989年 1月 7日	元年 12月 25日～ 64年 1月 7日	1989年 1月 8日～	元年 1月 8日～	<p>1. I-YM : 196612 ↓ O-YMWA : 34112 O-RTN-CD : SPACE</p>	
年号	西暦範囲	和暦範囲															
明治	1868年 9月 8日～ 1912年 7月 29日	元年 9月 8日～ 45年 7月 29日															
	1912年 7月 30日～ 1926年 12月 24日	元年 7月 30日～ 15年 12月 24日															
大正	1926年 12月 25日～ 1989年 1月 7日	元年 12月 25日～ 64年 1月 7日															
	1989年 1月 8日～	元年 1月 8日～															
<p><注意事項></p> <p>(1) 本サブルーチンから(年月（西暦）チェック:LXRPID48), (年月日変換（西暦→和暦）:LXRPID05) を呼び出す。</p> <p>(2) (年月日変換（西暦→和暦）:LXRPID05) で範囲外だった場合リターンコードに'LXRED011'を返す。</p>																	

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPID58

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名													
LXRPID58	日付処理	年月変換（和暦→西暦）	LXRCID58													
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)																
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分												
03	I-YMWA		年月（和暦）	I												
05	I-NNG	X(1)	年号 (1:明治, 2:大正, 3:昭和, 4:平成) or (M:明治, T:大正, S:昭和, H:平成)	I												
05	I-YY	9(2)	年	I												
05	I-MM	9(2)	月	I												
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)																
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分												
03	O-YM		年月（西暦）	O												
05	O-YY	9(4)	年	O												
05	O-MM	9(2)	月	O												
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R												
処 理 基 準		例														
<p>1. 入力年月を（年月（和暦）チェック:LXRPID49）を用いて行い、エラーの場合リターンコードを返す。</p> <p>2. リターンコードがスペースの時、年月（和暦）→年月（西暦）変換を以下のように行う。</p>		<p>1. I-YMWA : 34112 ↓ O-YM : 196612 O-RTN-CD : SPACE</p>														
<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>入力年号</th> <th>年月（西暦）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>'1', 'M'</td> <td>年月（年号除く）+ 186700</td> </tr> <tr> <td>'2', 'T'</td> <td>年月（年号除く）+ 191100</td> </tr> <tr> <td>'3', 'S'</td> <td>年月（年号除く）+ 192500</td> </tr> <tr> <td>'4', 'H'</td> <td>年月（年号除く）+ 198800</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>年月（年号除く）+ 198800</td> </tr> </tbody> </table>		入力年号	年月（西暦）	'1', 'M'	年月（年号除く）+ 186700	'2', 'T'	年月（年号除く）+ 191100	'3', 'S'	年月（年号除く）+ 192500	'4', 'H'	年月（年号除く）+ 198800	その他	年月（年号除く）+ 198800			
入力年号	年月（西暦）															
'1', 'M'	年月（年号除く）+ 186700															
'2', 'T'	年月（年号除く）+ 191100															
'3', 'S'	年月（年号除く）+ 192500															
'4', 'H'	年月（年号除く）+ 198800															
その他	年月（年号除く）+ 198800															
<p><注意事項></p> <p>(1) 本サブルーチンから（年月（和暦）チェック:LXRPID49）,（年号コード変換（英字→数字）:LXRPID37）を呼び出す。</p> <p>(2) サブルーチン呼び出しでエラーとなった時は、リターンコードをそのまま返し、年月には0を返す。ただし、リターンコードが'LXRED002'の場合処理を続行する。</p>																

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPID60

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名																									
LXRPID60	日付処理	年度(和暦)チェック	LXRCID60																									
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)																												
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分																								
03	I-NNDWA	X(3)	年度(和暦) 形式: NYY N:年号コード YY:年	I																								
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)																												
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分																								
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R																								
処 理 基 準		例																										
<p>1. 入力年度のチェックを以下のように行う。</p> <p>1.1 (年度基準日取得:LXRPID80) を呼ぶ。</p> <p>1.2 入力年度(和暦) → 年号 → 年 年度基準日 → 月日</p> <p>1.3 年月日(和暦)のチェックを(実在日チェック(和暦):LXRPID02)を用いて行う。</p>		<p>1. I-NNDWA : '100' ↓ O-RTN-CD : 'LXRED001'</p> <p>2. I-NNDWA : 'A01' ↓ O-RTN-CD : 'LXRED002'</p> <p>3. I-NNDWA : 'S64' ↓ O-RTN-CD : 'LXRED004'</p>																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>NO</th> <th>チェック</th> <th>リターンコード</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>年が数字のみである</td> <td>LXRED017</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>年号=1, 2, 3, 4, M, T, S, H</td> <td>LXRED002</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>年≠ZERO</td> <td>LXRED001</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>明治:元年 9月 8日~45年 7月 30日</td> <td>LXRED006</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>大正:元年 7月 30日~15年 12月 25日</td> <td>LXRED005</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>昭和:元年 12月 25日~64年 1月 7日</td> <td>LXRED004</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>平成:元年 1月 8日~</td> <td>LXRED010</td> </tr> </tbody> </table>		NO	チェック	リターンコード	1	年が数字のみである	LXRED017	2	年号=1, 2, 3, 4, M, T, S, H	LXRED002	3	年≠ZERO	LXRED001	4	明治:元年 9月 8日~45年 7月 30日	LXRED006	5	大正:元年 7月 30日~15年 12月 25日	LXRED005	6	昭和:元年 12月 25日~64年 1月 7日	LXRED004	7	平成:元年 1月 8日~	LXRED010			
NO	チェック	リターンコード																										
1	年が数字のみである	LXRED017																										
2	年号=1, 2, 3, 4, M, T, S, H	LXRED002																										
3	年≠ZERO	LXRED001																										
4	明治:元年 9月 8日~45年 7月 30日	LXRED006																										
5	大正:元年 7月 30日~15年 12月 25日	LXRED005																										
6	昭和:元年 12月 25日~64年 1月 7日	LXRED004																										
7	平成:元年 1月 8日~	LXRED010																										
<p><注意事項></p> <p>(1) 本サブルーチンから(実在日チェック(和暦):LXRPID02), (年度基準日取得:LXRPID80) を呼び出す。</p> <p>(2) (年度基準日取得:LXRPID80) により取得される年度基準日とは、4月1日である。</p>																												

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPID61

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名													
LXRPID61	日付処理	年度(西暦)過去チェック	LXRCID61													
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)																
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分												
03	I-NND	9(4)	年度(西暦)	I												
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)																
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分												
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R												
処 理 基 準		例														
<p>1. 入力年度のチェックを(年度(西暦)チェック:LXRPID59)を用いて下表の順で行う(項番1, 2)。</p> <p>2. システム日付を取得し, 以下の処理を行う。</p> <p>2.1 システム日付の月が'1', '2', '3'の場合, システム日付の年から1を減じ, 入力年度と比較する。比較の結果, 入力年度がシステム日付よりも過去ではない場合リターンコードに'LXRED003'を返す(項番3)。</p> <p>2.2 システム日付の月が'1', '2', '3'以外の場合, システム日付の年を入力年度と比較する。比較の結果, 入力年度がシステム日付よりも過去ではない場合リターンコードに'LXRED003'を返す(項番3)。</p>		<p>1. I-NND : 1992 システム日付 : 920401 ↓ O-RTN-CD : SPACE</p> <p>2. I-NND : 1993 システム日付 : 920401 ↓ O-RTN-CD : 'LXRED003'</p> <p>3. I-NND : 1992 システム日付 : 920301 ↓ O-RTN-CD : 'LXRED003'</p> <p>4. I-NND : 1991 システム日付 : 920301 ↓ O-RTN-CD : SPACE</p>														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>NO</th> <th>チェック</th> <th>リターンコード</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>入力年度が数字のみである</td> <td>LXRED017</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>入力年度≠ZERO</td> <td>LXRED001</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>入力年度<=システム日付(年)</td> <td>LXRED003</td> </tr> </tbody> </table>		NO	チェック	リターンコード	1	入力年度が数字のみである	LXRED017	2	入力年度≠ZERO	LXRED001	3	入力年度<=システム日付(年)	LXRED003			
NO	チェック	リターンコード														
1	入力年度が数字のみである	LXRED017														
2	入力年度≠ZERO	LXRED001														
3	入力年度<=システム日付(年)	LXRED003														
<p><注意事項></p> <p>(1) システム日付の年と入力年度が等しい場合, リターンコードにはスペースを返す。(システム日付の月が'1', '2', '3'の場合を除く。)</p> <p>(2) 本サブルーチンより, (年度(西暦)チェック:LXRPID59), (システム日付取得変換(8桁):LXRPID88)を呼び出す。</p>																

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPID62

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPID62	日付処理	年度(和暦)過去チェック	LXRCID62

入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-NNDWA	X(3)	年度(和暦)	I

出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R

処 理 基 準	例																											
<p>1. 入力年度のチェックを(年度(和暦)チェック:LXRPID60)を用いて下表の順で行う(項番1~7)。</p> <p>2. システム日付を取得し、以下の処理を行う。</p> <p>2.1 システム日付の月が'1', '2', '3'の場合、システム日付の年から1を減じ、入力年度と比較する。比較の結果、入力年度(和暦)がシステム日付よりも過去ではない場合リターンコードに'LXRED003'を返す(項番8)。</p> <p>2.2 システム日付の月が'1', '2', '3'以外の場合、システム日付の年を入力年度と比較する。比較の結果、入力年度(和暦)がシステム日付よりも過去ではない場合リターンコードに'LXRED003'を返す(項番8)。</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>NO</th> <th>チェック</th> <th>リターンコード</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>入力年度が数字のみである</td><td>LXRED017</td></tr> <tr><td>2</td><td>年号=1, 2, 3, 4, M, T, S, H</td><td>LXRED002</td></tr> <tr><td>3</td><td>入力年度≠ZERO</td><td>LXRED001</td></tr> <tr><td>4</td><td>明治:元年 9月 8日~45年 7月 30日</td><td>LXRED006</td></tr> <tr><td>5</td><td>大正:元年 7月 30日~15年 12月 25日</td><td>LXRED005</td></tr> <tr><td>6</td><td>昭和:元年 12月 25日~64年 1月 7日</td><td>LXRED004</td></tr> <tr><td>7</td><td>平成:元年 1月 8日~</td><td>LXRED010</td></tr> <tr><td>8</td><td>入力年度<=システム日付(年)</td><td>LXRED003</td></tr> </tbody> </table>	NO	チェック	リターンコード	1	入力年度が数字のみである	LXRED017	2	年号=1, 2, 3, 4, M, T, S, H	LXRED002	3	入力年度≠ZERO	LXRED001	4	明治:元年 9月 8日~45年 7月 30日	LXRED006	5	大正:元年 7月 30日~15年 12月 25日	LXRED005	6	昭和:元年 12月 25日~64年 1月 7日	LXRED004	7	平成:元年 1月 8日~	LXRED010	8	入力年度<=システム日付(年)	LXRED003	<p>1. I-NNDWA : 'H04' システム日付: 920401 ↓ O-RTN-CD : SPACE</p> <p>2. I-NNDWA : 'H04' システム日付: 930301 ↓ O-RTN-CD : SPACE</p> <p>3. I-NNDWA : 'H04' システム日付: 920301 ↓ O-RTN-CD : 'LXRED003'</p>
NO	チェック	リターンコード																										
1	入力年度が数字のみである	LXRED017																										
2	年号=1, 2, 3, 4, M, T, S, H	LXRED002																										
3	入力年度≠ZERO	LXRED001																										
4	明治:元年 9月 8日~45年 7月 30日	LXRED006																										
5	大正:元年 7月 30日~15年 12月 25日	LXRED005																										
6	昭和:元年 12月 25日~64年 1月 7日	LXRED004																										
7	平成:元年 1月 8日~	LXRED010																										
8	入力年度<=システム日付(年)	LXRED003																										

<注意事項>

(1) システム日付の年度と変換後の年度(西暦)が等しい場合、リターンコードにスペースを返す。(システム日付の月が'1', '2', '3'の場合を除く。)

(2) システム日付との比較は、入力年度を(年度変換(和暦→西暦):LXRPID69)を用いて変換し、行う。

(3) 本サブルーチンより、(年度(和暦)チェック:LXRPID60)、(年度変換(和暦→西暦):LXRPID69)、(システム日付取得変換(8桁):LXRPID88)を呼び出す。

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPID63

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名													
LXRPID63	日付処理	年度（西暦）未来チェック	LXRCID63													
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)																
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分												
03	I-NND	9(4)	年度（西暦）	I												
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)																
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分												
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R												
処 理 基 準		例														
<p>1. 入力年度のチェックを（年度（西暦）チェック:LXRPID59）を用いて下表の順で行う（項番1, 2）。</p> <p>2. システム日付を取得し、以下の処理を行う。</p> <p>2.1 システム日付の月が'1', '2', '3'の場合、システム日付の年から1を減じ、入力年度と比較する。比較の結果、入力年度がシステム日付よりも未来ではない場合リターンコードに'LXRED015'を返す（項番3）。</p> <p>2.2 システム日付の月が'1', '2', '3'以外の場合、システム日付の年を入力年度と比較する。比較の結果、入力年度がシステム日付よりも未来ではない場合リターンコードに'LXRED015'を返す（項番3）。</p>		<p>1. I-NND : 1992 システム日付 : 920401 ↓ O-RTN-CD : SPACE</p> <p>2. I-NND : 1992 システム日付 : 920301 ↓ O-RTN-CD : SPACE</p> <p>3. I-NND : 1991 システム日付 : 920401 ↓ O-RTN-CD : 'LXRED015'</p> <p>4. I-NND : 1991 システム日付 : 920301 ↓ O-RTN-CD : SPACE</p>														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>NO</th> <th>チェック</th> <th>リターンコード</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>入力年度が数字のみである</td> <td>LXRED017</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>入力年度≠ZERO</td> <td>LXRED001</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>入力年度>=システム日付(年)</td> <td>LXRED015</td> </tr> </tbody> </table>		NO	チェック	リターンコード	1	入力年度が数字のみである	LXRED017	2	入力年度≠ZERO	LXRED001	3	入力年度>=システム日付(年)	LXRED015			
NO	チェック	リターンコード														
1	入力年度が数字のみである	LXRED017														
2	入力年度≠ZERO	LXRED001														
3	入力年度>=システム日付(年)	LXRED015														
<p><注意事項></p> <p>(1) システム日付の年と入力年度が等しい場合、リターンコードにはスペースを返す。（システム日付の月が'1', '2', '3'の場合を除く。）</p> <p>(2) 本サブルーチンより、（年度（西暦）チェック:LXRPID59）、（システム日付取得変換（8桁）:LXRPID88）を呼び出す。</p>																

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPID64

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名																												
LXRPID64	日付処理	年度(和暦)未来チェック	LXRCID64																												
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)																															
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分																											
03	I-NNDWA	X(3)	年度(和暦)	I																											
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)																															
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分																											
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R																											
処 理 基 準		例																													
<p>1. 入力年度のチェックを(年度(和暦)チェック:LXRPID60)を用いて下表の順で行う(項番1~7)。 2. システム日付を取得し、以下の処理を行う。 2.1 システム日付の月が'1', '2', '3'の場合、システム日付の年から1を減じ、入力年度と比較する。比較の結果、入力年度(和暦)がシステム日付よりも未来ではない場合リターンコードに'LXRED015'を返す(項番8)。 2.2 システム日付の月が'1', '2', '3'以外の場合、システム日付の年を入力年度と比較する。比較の結果、入力年度(和暦)がシステム日付よりも未来ではない場合リターンコードに'LXRED015'を返す(項番8)。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>NO</th> <th>チェック</th> <th>リターンコード</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>入力年度が数字のみである</td> <td>LXRED017</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>年号=1, 2, 3, 4, M, T, S, H</td> <td>LXRED002</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>入力年度≠ZERO</td> <td>LXRED001</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>明治:元年 9月 8日~45年 7月 30日</td> <td>LXRED006</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>大正:元年 7月 30日~15年 12月 25日</td> <td>LXRED005</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>昭和:元年 12月 25日~64年 1月 7日</td> <td>LXRED004</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>平成:元年 1月 8日~</td> <td>LXRED010</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>入力年度>=システム日付(年)</td> <td>LXRED015</td> </tr> </tbody> </table>		NO	チェック	リターンコード	1	入力年度が数字のみである	LXRED017	2	年号=1, 2, 3, 4, M, T, S, H	LXRED002	3	入力年度≠ZERO	LXRED001	4	明治:元年 9月 8日~45年 7月 30日	LXRED006	5	大正:元年 7月 30日~15年 12月 25日	LXRED005	6	昭和:元年 12月 25日~64年 1月 7日	LXRED004	7	平成:元年 1月 8日~	LXRED010	8	入力年度>=システム日付(年)	LXRED015	<p>1. I-NNDWA : 'H04' システム日付 : 920401 ↓ O-RTN-CD : SPACE</p> <p>2. I-NNDWA : 'H04' システム日付 : 930301 ↓ O-RTN-CD : 'LXRED015'</p> <p>3. I-NNDWA : 'H04' システム日付 : 930301 ↓ O-RTN-CD : SPACE</p>		
NO	チェック	リターンコード																													
1	入力年度が数字のみである	LXRED017																													
2	年号=1, 2, 3, 4, M, T, S, H	LXRED002																													
3	入力年度≠ZERO	LXRED001																													
4	明治:元年 9月 8日~45年 7月 30日	LXRED006																													
5	大正:元年 7月 30日~15年 12月 25日	LXRED005																													
6	昭和:元年 12月 25日~64年 1月 7日	LXRED004																													
7	平成:元年 1月 8日~	LXRED010																													
8	入力年度>=システム日付(年)	LXRED015																													
<p><注意事項></p> <p>(1) システム日付の年度と変換後の年度(西暦)が等しい場合、リターンコードにスペースを返す。(システム日付の月が'1', '2', '3'の場合を除く。)</p> <p>(2) システム日付との比較は、入力年度を(年度変換(和暦→西暦):LXRPID69)を用いて変換し、行う。</p> <p>(3) 本サブルーチンより、(年度(和暦)チェック:LXRPID60)、(年度変換(和暦→西暦):LXRPID69)、(システム日付取得変換(8桁):LXRPID88)を呼び出す。</p>																															

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPID65

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名																			
LXRPID65	日付処理	年度（西暦）編集	LXRCID65																			
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)																						
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分																		
03	I-NND	9(4)	年度（西暦）	I																		
03	I-TYP	X(1)	タイプ	O T																		
03	I-FORMAT	X(100)	フォーマット	C																		
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=O , RTN-CODE=R)																						
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分																		
03	O-NND	X(100)	年度（西暦）	O																		
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R																		
処 理 基 準			例																			
<p>1. 入力年度の編集を以下のように行う。</p> <p>1.1 (年度（西暦）チェック:LXRPID59) を呼ぶ。</p> <p>1.2 (年度基準日取得:LXRPID80) を呼ぶ。</p> <p>1.3 入力年度 → 年 年度基準日 → 月日</p> <p>1.4 年月日の編集を(年月日（西暦）編集:LXRPID45)を用いて以下の順で行う。</p> <p>(1) 置換処理</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>NO</th> <th>置換処理</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>YYYY 年を全角変換</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ZZZY 年をZZZ9編集, 全角変換</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>YY 年下2桁を全角変換</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>ZY 年下2桁をZ9編集, 全角変換</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>YYYY 年</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>ZZZY 年をZZZ9編集</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>YY 年下2桁</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>ZY 年下2桁をZ9編集</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 機能キャラクタ処理 (LXRPID45 参照)</p>			NO	置換処理	1	YYYY 年を全角変換	2	ZZZY 年をZZZ9編集, 全角変換	3	YY 年下2桁を全角変換	4	ZY 年下2桁をZ9編集, 全角変換	5	YYYY 年	6	ZZZY 年をZZZ9編集	7	YY 年下2桁	8	ZY 年下2桁をZ9編集	<p>1. I-NND : 1992 I-FORMAT : 'YY年' I-TYP : 'N' ↓ O-NND : '92年' O-RTN-CD : SPACE</p> <p>2. I-NND : 1992 I-FORMAT : 'YYYY' I-TYP : 'N' ↓ O-NND : '1992' O-RTN-CD : SPACE</p> <p>(注) 例はVOS3版の場合で, 'I':X'0A42', 'J':X'0A41'とする</p>	
NO	置換処理																					
1	YYYY 年を全角変換																					
2	ZZZY 年をZZZ9編集, 全角変換																					
3	YY 年下2桁を全角変換																					
4	ZY 年下2桁をZ9編集, 全角変換																					
5	YYYY 年																					
6	ZZZY 年をZZZ9編集																					
7	YY 年下2桁																					
8	ZY 年下2桁をZ9編集																					
<p><注意事項></p> <p>(1) 本サブルーチンより, (年月日（西暦）編集:LXRPID45), (年度基準日取得:LXRPID80), (年度（西暦）チェック:LXRPID59) を呼び出す。</p> <p>(2) I-FORMAT 中において「月」項目 (MM, ZM, MM, ZM 等) を指定した場合, 04 をそれぞれの形式に編集し, 置換する。</p> <p>(3) I-FORMAT 中において「日」項目 (DD, ZD, DD, ZD 等) を指定した場合, 01 をそれぞれの形式に編集し, 置換する。</p> <p>(4) サブルーチン呼び出しでエラーとなった場合, リターンコードをそのまま返す。</p>																						

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPID66

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名																									
LXRPID66	日付処理	年度(和暦)編集	LXRCID66																									
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)																												
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分																								
03	I-NNDWA	X(3)	年度(和暦) 形式: NYY N:年号コード YY:年	I																								
03	I-TYP	X(1)	タイプ	OT																								
03	I-FORMAT	X(100)	フォーマット	C																								
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)																												
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分																								
03	O-NNDWA	X(100)	年度(和暦)	O																								
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R																								
処 理 基 準			例																									
<p>1. 入力年度の編集を以下のように行う。</p> <p>1.1 (年度(和暦)チェック:LXRPID60)を呼ぶ。</p> <p>1.2 (年度基準日取得:LXRPID80)を呼ぶ。</p> <p>1.3 入力年度 → 年 年度基準日 → 月日</p> <p>1.4 年月日の編集を(年月日(和暦)編集:LXRPID46)を用いて以下の順で行う。</p> <p>(1) 置換処理</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>NO</th> <th colspan="2">置換処理</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>NN</td> <td>年号を全角変換</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>N</td> <td>年号上一桁を全角変換</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>YY</td> <td>年を全角変換</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>ZY</td> <td>年をZ9編集, 全角変換</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>N</td> <td>年号コード</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>YY</td> <td>年</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>ZY</td> <td>年をZ9編集</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 機能キャラクタ処理 (LXRPID46参照)</p>			NO	置換処理		1	NN	年号を全角変換	2	N	年号上一桁を全角変換	3	YY	年を全角変換	4	ZY	年をZ9編集, 全角変換	5	N	年号コード	6	YY	年	7	ZY	年をZ9編集	<p>1. I-NNDWA : 'H04' I-FORMAT : '「NNYY年」' I-TYP : 'N' ↓ O-NNDWA : '平成04年' O-RTN-CD : SPACE</p> <p>2. I-NNDWA : 'H04' I-FORMAT : 'NYY' I-TYP : 'N' ↓ O-NNDWA : '」H04' O-RTN-CD : SPACE</p> <p>(注) 例はVOS3版の場合で, '「':X'0A42', '」':X'0A41'とする</p>	
NO	置換処理																											
1	NN	年号を全角変換																										
2	N	年号上一桁を全角変換																										
3	YY	年を全角変換																										
4	ZY	年をZ9編集, 全角変換																										
5	N	年号コード																										
6	YY	年																										
7	ZY	年をZ9編集																										
<p><注意事項></p> <p>(1) 本サブルーチンより, (年月日(和暦)編集:LXRPID46), (年度基準日取得:LXRPID80), (年度(和暦)チェック:LXRPID60)を呼び出す。</p> <p>(2) I-FORMAT中において「月」項目(MM, ZM, MM, ZM等)を指定した場合, 04をそれぞれの形式に編集し, 置換する。</p> <p>(3) I-FORMAT中において「日」項目(DD, ZD, DD, ZD等)を指定した場合, 01をそれぞれの形式に編集し, 置換する。</p> <p>(4) 誤った年号を入力すると, 'NN', 'N', 'N'は入力したものをそのまま送る。</p> <p>(5) サブルーチン呼び出しでエラーとなった場合, リターンコードをそのまま返す。</p>																												

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPID67

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名																									
LXRPID67	日付処理	年度変換（西暦→和暦）編集	LXRCID67																									
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)																												
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分																								
03	I-NND	9(4)	年度（西暦）	I																								
03	I-FORMAT	X(100)	フォーマット	C																								
03	I-TYP	X(1)	タイプ	OT																								
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=O , RTN-CODE=R)																												
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分																								
03	O-NNDWA	X(100)	年度（和暦）	O																								
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R																								
処 理 基 準			例																									
<p>1. 入力年度の編集を以下のように行う。</p> <p>1.1 (年度変換（西暦→和暦）:LXRPID68) を呼ぶ。</p> <p>1.2 年月日の編集を（年度（和暦）編集:LXRPID66) を用いて以下の順で行う。</p> <p>(1) 置換処理</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>NO</th> <th colspan="2">置換処理</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>NN</td> <td>年号を全角変換</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>N</td> <td>年号上一桁を全角変換</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>YY</td> <td>年を全角変換</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>ZY</td> <td>年をZ9編集, 全角変換</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>N</td> <td>年号コード</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>YY</td> <td>年</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>ZY</td> <td>年をZ9編集</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 機能キャラクタ処理 (LXRPID46 参照)</p>			NO	置換処理		1	NN	年号を全角変換	2	N	年号上一桁を全角変換	3	YY	年を全角変換	4	ZY	年をZ9編集, 全角変換	5	N	年号コード	6	YY	年	7	ZY	年をZ9編集	<p>1. I-NND : 1992 I-FORMAT : 'NNYY年' I-TYP : 'N' ↓ O-NNDWA : '平成04年' O-RTN-CD : SPACE</p> <p>2. I-NND : 1992 I-FORMAT : 'NYY' I-TYP : 'N' ↓ O-NNDWA : 'JH04' O-RTN-CD : SPACE</p> <p>(注) 例は VOS3 版の場合で, 'I':X'0A42', 'J':X'0A41' とする</p>	
NO	置換処理																											
1	NN	年号を全角変換																										
2	N	年号上一桁を全角変換																										
3	YY	年を全角変換																										
4	ZY	年をZ9編集, 全角変換																										
5	N	年号コード																										
6	YY	年																										
7	ZY	年をZ9編集																										
<p><注意事項></p> <p>(1) 本サブルーチンより, (年度変換（西暦→和暦）:LXRPID68), (年度（和暦）編集:LXRPID66) を呼び出す。</p> <p>(2) I-FORMAT 中において「月」項目（MM, ZM, MM, ZM等）を指定した場合, 04をそれぞれの形式に編集し, 置換する。</p> <p>(3) I-FORMAT 中において「日」項目（DD, ZD, DD, ZD等）を指定した場合, 01をそれぞれの形式に編集し, 置換する。</p> <p>(4) サブルーチン呼び出しでエラーとなった場合, リターンコードをそのまま返す。</p>																												

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPID68

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名														
LXRPID68	日付処理	年度変換（西暦→和暦）	LXRCID68														
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)																	
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分													
03	I-NND	9(4)	年度（西暦）	I													
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=O , RTN-CODE=R)																	
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分													
03	O-NNDWA	9(3)	年度（和暦） 形式：NYY N：年号 YY：年 年号： (1:明治, 2:大正, 3:昭和, 4:平成)	O													
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R													
処 理 基 準			例														
<p>1. 年度（西暦）→年度（和暦）変換を以下のように行う。</p> <p>1.1 （年度（西暦）チェック:LXRPID59）を呼ぶ。 リターンコードがスペースの時 （年度基準日取得:LXRPID80）を呼ぶ。 入力年度 → 年 年度基準日 → 月日 （年月日変換（西暦→和暦）:LXRPID05）を用いて年月日の変換を行う。処理基準は以下の通り。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>年号</th> <th>西暦範囲</th> <th>和暦範囲</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">明治</td> <td>1868年 9月 8日～ 1912年 7月 29日</td> <td>元年 9月 8日～ 45年 7月 29日</td> </tr> <tr> <td>1912年 7月 30日～ 1926年 12月 24日</td> <td>元年 7月 30日～ 15年 12月 24日</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">大正</td> <td>1926年 12月 25日～ 1989年 1月 7日</td> <td>元年 12月 25日～ 64年 1月 7日</td> </tr> <tr> <td>1989年 1月 8日～</td> <td>元年 1月 8日～</td> </tr> </tbody> </table> <p>1.2 リターンコードがスペースでない時, O-NNDWA にOを返し, （年度（西暦）チェック:LXRPID59）のリターンコードを返す。</p>			年号	西暦範囲	和暦範囲	明治	1868年 9月 8日～ 1912年 7月 29日	元年 9月 8日～ 45年 7月 29日	1912年 7月 30日～ 1926年 12月 24日	元年 7月 30日～ 15年 12月 24日	大正	1926年 12月 25日～ 1989年 1月 7日	元年 12月 25日～ 64年 1月 7日	1989年 1月 8日～	元年 1月 8日～	<p>1. I-NND : 1966 ↓ O-NNDWA : 341 O-RTN-CD : SPACE</p>	
年号	西暦範囲	和暦範囲															
明治	1868年 9月 8日～ 1912年 7月 29日	元年 9月 8日～ 45年 7月 29日															
	1912年 7月 30日～ 1926年 12月 24日	元年 7月 30日～ 15年 12月 24日															
大正	1926年 12月 25日～ 1989年 1月 7日	元年 12月 25日～ 64年 1月 7日															
	1989年 1月 8日～	元年 1月 8日～															
<p><注意事項></p> <p>(1) 本サブルーチンから（年月日変換（西暦→和暦）:LXRPID05）, （年度基準日取得:LXRPID80）, （年度（西暦）チェック:LXRPID59）を呼ぶ。</p> <p>(2) （年月日変換（西暦→和暦）:LXRPID05）で西暦年月日が和暦年月日範囲外だった場合（年月日変換（西暦→和暦）:LXRPID05）のリターンコードを返す。</p>																	

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPID69

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名													
LXRPID69	日付処理	年度変換（和暦→西暦）	LXRCID69													
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)																
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分												
03	I-NNDWA	X(3)	年度（和暦）	I												
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)																
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分												
03	O-NND	9(4)	年度（西暦）	O												
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R												
処 理 基 準		例														
<p>1. 年度（和暦）→年度（西暦）変換を以下のように行う。</p> <p>1.1 （年度（和暦）チェック:LXRPID60）を呼ぶ。 リターンコードがスペースまたは' LXRED002' の時, 年の変換を行う。処理方法は以下の通り。</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>入力年号</th> <th>年月（西暦）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>'1', 'M'</td> <td>年（年号除く）+ 1867</td> </tr> <tr> <td>'2', 'T'</td> <td>年（年号除く）+ 1911</td> </tr> <tr> <td>'3', 'S'</td> <td>年（年号除く）+ 1925</td> </tr> <tr> <td>'4', 'H'</td> <td>年（年号除く）+ 1988</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>年（年号除く）+ 1988</td> </tr> </tbody> </table> <p>その他の時 年度（西暦）に0を返し, （年度（和暦）チェック:LXRPID60）のリターンコードを返す。</p>		入力年号	年月（西暦）	'1', 'M'	年（年号除く）+ 1867	'2', 'T'	年（年号除く）+ 1911	'3', 'S'	年（年号除く）+ 1925	'4', 'H'	年（年号除く）+ 1988	その他	年（年号除く）+ 1988	<p>1. I-NNDWA : 341 ↓ O-NND : 1966 O-RTN-CD : SPACE</p>		
入力年号	年月（西暦）															
'1', 'M'	年（年号除く）+ 1867															
'2', 'T'	年（年号除く）+ 1911															
'3', 'S'	年（年号除く）+ 1925															
'4', 'H'	年（年号除く）+ 1988															
その他	年（年号除く）+ 1988															
<p><注意事項> (1) 本サブルーチンから（年度（和暦）チェック:LXRPID60）, （年号コード変換（英字→数字）:LXRPID37）を呼ぶ。</p>																

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPID70

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名										
LXRPID70	日付処理	年(西暦)チェック	LXRCID70										
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)													
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分									
03	I-YY	9(4)	年(西暦)	I									
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)													
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分									
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R									
処 理 基 準		例											
<p>1. 年(西暦)のチェックを以下のように行う。</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>NO</th> <th>チェック</th> <th>リターンコード</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>年が数字のみである</td> <td>LXRED017</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>年≠ZERO</td> <td>LXRED001</td> </tr> </tbody> </table>		NO	チェック	リターンコード	1	年が数字のみである	LXRED017	2	年≠ZERO	LXRED001	<p>1. I-YY : QQQQ ↓ O-RTN-CD : 'LXRED017'</p> <p>2. I-YY : 0000 ↓ O-RTN-CD : 'LXRED001'</p> <p>3. I-YY : 1999 ↓ O-RTN-CD : SPACE</p>		
NO	チェック	リターンコード											
1	年が数字のみである	LXRED017											
2	年≠ZERO	LXRED001											
<注意事項>													

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPID71

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRPID71	日付処理	年(和暦)チェック	LXRCID71	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-YYWA	X(3)	年(和暦) 形式: NYY N: 年号コード YY: 年	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
処 理 基 準		例		
1. 入力年のチェックを以下のようにを行う。		1. I-YYWA : '100' ↓ O-RTN-CD : 'LXRED001' 2. I-YYWA : 'A01' ↓ O-RTN-CD : 'LXRED002' 3. I-YYWA : 'S65' ↓ O-RTN-CD : 'LXRED004'		
NO	チェック	リターンコード		
1	年が数字のみである	LXRED017		
2	年号=1, 2, 3, 4, M, T, S, H	LXRED002		
3	年≠ZERO	LXRED001		
4	明治: 元年 ~45 年	LXRED006		
5	大正: 元年 ~15 年	LXRED005		
6	昭和: 元年 ~64 年	LXRED004		
<p><注意事項></p> <p>(1) 本サブルーチンから, (年号コード変換(英字→数字):LXRPID37) を呼び出す。</p> <p>(2) 年号がエラーのときは, 年号=平成を仮定してチェックを続行し, 他のエラーに該当するときは, 他のエラーのリターンコードを返す。</p>				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPID72

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名													
LXRPID72	日付処理	年(西暦)過去チェック	LXRCID72													
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)																
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分												
03	I-YY	9(4)	年(西暦)	I												
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)																
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分												
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R												
処 理 基 準		例														
<p>1. 入力年のチェックを(年(西暦)チェック:LXRPID70)を用いて下表の順で行う(項番1, 2)。</p> <p>2. システム日付を取得し, 入力年と比較する。比較の結果, 入力年がシステム日付よりも過去ではない場合, リターンコードに'LXRED003'を返す(項番3)。</p>		<p>1. I-YY : 1992 システム日付: 920401 ↓ O-RTN-CD: SPACE</p> <p>2. I-YY : 1993 システム日付: 920401 ↓ O-RTN-CD: 'LXRED003'</p> <p>3. I-YY : 1992 システム日付: 920301 ↓ O-RTN-CD: SPACE</p> <p>4. I-YY : 1991 システム日付: 920301 ↓ O-RTN-CD: SPACE</p>														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>NO</th> <th>チェック</th> <th>リター-コード</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>入力年が数字のみである</td> <td>LXRED017</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>入力年≠ZERO</td> <td>LXRED001</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>入力年<=システム日付(年)</td> <td>LXRED003</td> </tr> </tbody> </table>		NO	チェック	リター-コード	1	入力年が数字のみである	LXRED017	2	入力年≠ZERO	LXRED001	3	入力年<=システム日付(年)	LXRED003			
NO	チェック	リター-コード														
1	入力年が数字のみである	LXRED017														
2	入力年≠ZERO	LXRED001														
3	入力年<=システム日付(年)	LXRED003														
<p><注意事項></p> <p>(1) システム日付の年と入力年が等しい場合, リターンコードにはスペースを返す。</p> <p>(2) 本サブルーチンより, (年(西暦)チェック:LXRPID70), (システム日付取得変換(8桁):LXRPID88)を呼び出す。</p>																

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPID73

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPID73	日付処理	年(和暦)過去チェック	LXRCID73

入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-YYWA	X(3)	年(和暦) 形式: NYY N: 年号コード YY: 年	I

出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R

処 理 基 準	例																								
<p>1. 入力年のチェックを(年(和暦)チェック:LXRPID71)を用いて下表の順で行う(項番1~6)。</p> <p>2. システム日付を取得し, 入力年と比較する。比較の結果, 入力年(和暦)がシステム日付よりも過去ではない場合, リターンコードに'LXRED003'を返す(項番7)。</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>NO</th> <th>チェック</th> <th>リターンコード</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>入力年が数字のみである</td><td>LXRED017</td></tr> <tr><td>2</td><td>年号=1, 2, 3, 4, M, T, S, H</td><td>LXRED002</td></tr> <tr><td>3</td><td>入力年≠ZERO</td><td>LXRED001</td></tr> <tr><td>4</td><td>明治:元年 ~45年</td><td>LXRED006</td></tr> <tr><td>5</td><td>大正:元年 ~15年</td><td>LXRED005</td></tr> <tr><td>6</td><td>昭和:元年 ~64年</td><td>LXRED004</td></tr> <tr><td>7</td><td>入力年<=システム日付(年)</td><td>LXRED003</td></tr> </tbody> </table>	NO	チェック	リターンコード	1	入力年が数字のみである	LXRED017	2	年号=1, 2, 3, 4, M, T, S, H	LXRED002	3	入力年≠ZERO	LXRED001	4	明治:元年 ~45年	LXRED006	5	大正:元年 ~15年	LXRED005	6	昭和:元年 ~64年	LXRED004	7	入力年<=システム日付(年)	LXRED003	<p>1. I-YYWA : 'H04' システム日付: 920401 ↓ O-RTN-CD : SPACE</p> <p>2. I-YYWA : 'H04' システム日付: 930301 ↓ O-RTN-CD : SPACE</p> <p>3. I-YYWA : 'H04' システム日付: 910301 ↓ O-RTN-CD : 'LXRED003'</p>
NO	チェック	リターンコード																							
1	入力年が数字のみである	LXRED017																							
2	年号=1, 2, 3, 4, M, T, S, H	LXRED002																							
3	入力年≠ZERO	LXRED001																							
4	明治:元年 ~45年	LXRED006																							
5	大正:元年 ~15年	LXRED005																							
6	昭和:元年 ~64年	LXRED004																							
7	入力年<=システム日付(年)	LXRED003																							

<注意事項>

(1) システム日付の年と西暦変換後の年が等しい場合, リターンコードにスペースを返す。

(2) システム日付との比較は, 入力年を(年変換(和暦→西暦):LXRPID78)を用いて西暦に変換し, 行う。

(3) 本サブルーチンより, (年変換(和暦→西暦):LXRPID78), (システム日付取得変換(8桁):LXRPID88)を呼び出す。

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPID75

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名																									
LXRPID75	日付処理	年(和暦)未来チェック	LXRCID75																									
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)																												
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分																								
03	I-YYWA	X(3)	年(和暦) 形式: NYY N: 年号コード YY: 年	I																								
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)																												
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分																								
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R																								
処 理 基 準		例																										
<p>1. 入力年のチェックを(年(和暦)チェック:LXRPID71)を用いて下表の順で行う(項番1~6)。 2. システム日付を取得し、入力年と比較する。比較の結果、入力年(和暦)がシステム日付よりも未来ではない場合、リターンコードに'LXRED015'を返す(項番7)。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>NO</th> <th>チェック</th> <th>リターンコード</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>入力年が数字のみである</td> <td>LXRED017</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>年号=1, 2, 3, 4, M, T, S, H</td> <td>LXRED002</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>入力年≠ZERO</td> <td>LXRED001</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>明治: 元年 ~45 年</td> <td>LXRED006</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>大正: 元年 ~15 年</td> <td>LXRED005</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>昭和: 元年 ~64 年</td> <td>LXRED004</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>入力年>=システム日付(年)</td> <td>LXRED015</td> </tr> </tbody> </table>		NO	チェック	リターンコード	1	入力年が数字のみである	LXRED017	2	年号=1, 2, 3, 4, M, T, S, H	LXRED002	3	入力年≠ZERO	LXRED001	4	明治: 元年 ~45 年	LXRED006	5	大正: 元年 ~15 年	LXRED005	6	昭和: 元年 ~64 年	LXRED004	7	入力年>=システム日付(年)	LXRED015	<p>1. I-YYWA : 'H04' システム日付: 920401 ↓ O-RTN-CD : SPACE</p> <p>2. I-YYWA : 'H05' システム日付: 920401 ↓ O-RTN-CD : SPACE</p> <p>3. I-YYWA : 'H04' システム日付: 930401 ↓ O-RTN-CD : 'LXRED015'</p> <p>4. I-YYWA : 'H04' システム日付: 930301 ↓ O-RTN-CD : 'LXRED015'</p>		
NO	チェック	リターンコード																										
1	入力年が数字のみである	LXRED017																										
2	年号=1, 2, 3, 4, M, T, S, H	LXRED002																										
3	入力年≠ZERO	LXRED001																										
4	明治: 元年 ~45 年	LXRED006																										
5	大正: 元年 ~15 年	LXRED005																										
6	昭和: 元年 ~64 年	LXRED004																										
7	入力年>=システム日付(年)	LXRED015																										
<p><注意事項></p> <p>(1) システム日付の年と西暦変換後の年が等しい場合、リターンコードにスペースを返す。 (2) システム日付との比較は、入力年を(年変換(和暦→西暦):LXRPID78)を用いて西暦に変換し、行う。 (3) 本サブルーチンより、(年変換(和暦→西暦):LXRPID78)、(システム日付取得変換(8桁):LXRPID88)を呼び出す。</p>																												

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPID76

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名																									
LXRPID76	日付処理	年変換（西暦→和暦）編集	LXRCID76																									
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)																												
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分																								
03	I-YY	9(4)	年（西暦）	I																								
03	I-FORMAT	X(100)	フォーマット	C																								
03	I-TYP	X(1)	タイプ	OT																								
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)																												
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分																								
03	O-YYWA	X(100)	年（和暦）	O																								
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R																								
処 理 基 準			例																									
<p>1. 入力年の編集を以下のように行う。</p> <p>1.1 (年変換（西暦→和暦）:LXRPID77) を呼ぶ。</p> <p>1.2 (年基準日取得:LXRPID81) を呼ぶ。</p> <p>1.3 入力年 → 年 年基準日 → 月日</p> <p>1.4. 年月日の編集を, (年月日（和暦）編集:LXRPID46) を用いて以下の順で行う。</p>			<p>1. I-YY : 1992 I-FORMAT : '「NNYY年」' I-TYP : 'N' ↓ O-YYWA : '平成04年' O-RTN-CD : SPACE</p> <p>2. I-YY : 1992 I-FORMAT : 'NYY' I-TYP : 'N' ↓ O-YMWA : '」H04' O-RTN-CD : SPACE</p> <p>(注) 例は VOS3 版の場合で, '「':X'0A42', '」':X'0A41' とする</p>																									
<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>NO</th> <th colspan="2">置換処理</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>NN</td> <td>年号を全角変換</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>N</td> <td>年号上一桁を全角変換</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>YY</td> <td>年を全角変換</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>ZY</td> <td>年を Z9 編集, 全角変換</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>N</td> <td>年号コード</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>YY</td> <td>年</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>ZY</td> <td>年を Z9 編集</td> </tr> </tbody> </table>					NO	置換処理		1	NN	年号を全角変換	2	N	年号上一桁を全角変換	3	YY	年を全角変換	4	ZY	年を Z9 編集, 全角変換	5	N	年号コード	6	YY	年	7	ZY	年を Z9 編集
NO	置換処理																											
1	NN	年号を全角変換																										
2	N	年号上一桁を全角変換																										
3	YY	年を全角変換																										
4	ZY	年を Z9 編集, 全角変換																										
5	N	年号コード																										
6	YY	年																										
7	ZY	年を Z9 編集																										
<p><注意事項></p> <p>(1) 本サブルーチンから, (年月日（和暦）編集:LXRPID46), (年基準日取得:LXRPID81), (年変換（西暦→和暦）:LXRPID77) を呼び出す。</p> <p>(2) 機能キャラクタ編集については, (年月日（和暦）編集:LXRPID46) に準ずる。</p> <p>(3) I-FORMAT 中において「月」項目 (MM, ZM, MM, ZM 等) を指定した場合, 01 をそれぞれの形式に編集し, 置換する。</p> <p>(4) I-FORMAT 中において「日」項目 (DD, ZD, DD, ZD 等) を指定した場合, 01 をそれぞれの形式に編集し, 置換する。</p> <p>(5) サブルーチン呼び出しでエラーとなった場合, リターンコードをそのまま返す。</p>																												

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPID77

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPID77	日付処理	年変換（西暦→和暦）	LXRCID77

入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)

レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-YY	9(4)	年（西暦）	I

出 力 (区分: OUTPUT-PARM=O , RTN-CODE=R)

レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-YYWA	9(3)	年（和暦） 形式: NYY N: 年号 YY: 年	O
			年号: (1:明治, 2:大正, 3:昭和, 4:平成)	
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R

処 理 基 準 例

1. 年（西暦）→年（和暦）変換を以下のように行う。
 - 1.1 年（西暦）チェック:LXRPID70）を呼ぶ。
リターンコードがスペースの時
（年基準日取得:LXRPID81）を呼ぶ。
入力年 → 年
年基準日 → 月日
（年月日変換（西暦→和暦）:LXRPID05）を用いて年月日の変換を行う。処理基準は以下の通り。

年号	西暦範囲
	和暦範囲
明治	1868年 9月 8日～ 1912年 7月 29日
	元年 9月 8日～ 45年 7月 29日
大正	1912年 7月 30日～ 1926年 12月 24日
	元年 7月 30日～ 15年 12月 24日
昭和	1926年 12月 25日～ 1989年 1月 7日
	元年 12月 25日～ 64年 1月 7日
平成	1989年 1月 8日～
	元年 1月 8日～

リターンコードがスペースでない時,
（年（西暦）チェック:LXRPID70）のリターンコード
を返し、年（和暦）には0を出力する。

1. I-YY : 1966
 ↓
 O-YYWA : 341
 O-RTN-CD : SPACE

<注意事項>

- (1) 本サブルーチンから（年月日変換（西暦→和暦）:LXRPID05）、（年基準日取得:LXRPID81）、（年（西暦）チェック:LXRPID70）を呼ぶ。
- (2) （年月日変換（西暦→和暦）:LXRPID05）で西暦年月日が和暦年月日範囲外だった場合（年月日変換（西暦→和暦）:LXRPID05）のリターンコードを返し、年（和暦）には0を出力する。

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPID78

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名													
LXRPID78	日付処理	年変換（和暦→西暦）	LXRCID78													
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)																
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分												
03	I-YYWA		入力年（和暦）	I												
05	I-NNG	X(1)	年号	I												
05	I-YY	9(2)	年（和暦）	I												
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)																
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分												
03	O-YY	9(4)	年（西暦）	O												
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R												
処 理 基 準		例														
<p>1. 年（和暦）→年（西暦）変換を以下のように行う。</p> <p>1.1 （年（和暦）チェック:LXRPID71）を呼ぶ。 リターンコードがスペースまたは'LXRED002'の時、年の変換を行う。</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>入力年号</th> <th>年（西暦）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>'1', 'M'</td> <td>年（年号除く）+ 1867</td> </tr> <tr> <td>'2', 'T'</td> <td>年（年号除く）+ 1911</td> </tr> <tr> <td>'3', 'S'</td> <td>年（年号除く）+ 1925</td> </tr> <tr> <td>'4', 'H'</td> <td>年（年号除く）+ 1988</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>年（年号除く）+ 1988</td> </tr> </tbody> </table> <p>その他の時 （年（和暦）チェック:LXRPID71）のリターンコードを返す。年（西暦）には0を返す。</p>		入力年号	年（西暦）	'1', 'M'	年（年号除く）+ 1867	'2', 'T'	年（年号除く）+ 1911	'3', 'S'	年（年号除く）+ 1925	'4', 'H'	年（年号除く）+ 1988	その他	年（年号除く）+ 1988	<p>1. I-YYWA : 341 ↓ O-YY : 1966 O-RTN-CD : SPACE</p>		
入力年号	年（西暦）															
'1', 'M'	年（年号除く）+ 1867															
'2', 'T'	年（年号除く）+ 1911															
'3', 'S'	年（年号除く）+ 1925															
'4', 'H'	年（年号除く）+ 1988															
その他	年（年号除く）+ 1988															
<p><注意事項> (1) 本サブルーチンから（年（和暦）チェック:LXRPID71）、（年号コード変換（英字→数字）:LXRPID37）を呼び出す。</p>																

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPID88

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRPID88	日付処理	システム日付取得変換(8桁)	LXRCID88	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=O , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	0-SYS-YMD		出力システム年月日(8桁)	○
05	0-SYS-YMD -YY	9(4)	出力システム年月日-年	○
05	0-SYS-YMD -MM	9(2)	出力システム年月日-月	○
05	0-SYS-YMD -DD	9(2)	出力システム年月日-日	○
処 理 基 準		例		
<ol style="list-style-type: none"> システム日付を取得する。 取得したシステム日付の「年」が92以上である場合、19を「年」の前方に付加し、0-SYS-YMD-YYに送る。 取得したシステム日付の「年」が92以上でない場合、20を「年」の前方に付加し、0-SYS-YMD-YYに送る。 システム日付の「月」、「日」を0-SYS-YMD-MM, 0-SYS-YMD-DDにそれぞれ送る。 		<ol style="list-style-type: none"> システム日付 : 920101 ↓ 0-SYS-YMD : 19920101 システム日付 : 010101 ↓ 0-SYS-YMD : 20010101 		
<p><注意事項></p> <p>(1) 本製品の01-07以降のバージョンでは、FUNCTION CURRENT-DATEを用いて直接8桁のシステム日付を取得する仕様の(システム日付取得変換(8桁):LXRPID88)を別ライブラリで提供している。</p>				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPID90

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRPID90	日付処理	処理期限年月日算出 (西暦)	LXRCID90	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-CLOSE-DAY	P(2)	締日	C
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=O , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-YMD	9(8)	出力西暦処理年月日 (YYYYMMDD)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード SPACE:正常 LXRED017:日が数字ではない LXRED009:実在する日ではない	R
処 理 基 準		例		
<p>1. 注意事項(1), (2)に従ってチェックする。</p> <p>2. リターンコードがスペースのとき, 以下の処理を行う。</p> <p>2.1 (システム日付取得変換(8桁):LXRPID88)によりシステム日付を取得する。</p> <p>2.2 処理年月日を以下のように設定する。</p> <p>(1) システム日付の「日」が締日より前の場合, その月の締日</p> <p>(2) システム日付の「日」が締日より後の場合, 次の月の締日</p> <p>2.3 設定した処理年月日の実在日チェックを行う。</p> <p>2.4 処理年月日実在しない場合, その月の月末日を処理年月日とする。</p>		<p>1. I-CLOSE-DAY : 20 システム日付 : 19960815 ↓ O-YMD : 19960820 O-RTN-CD : SPACE</p> <p>2. I-CLOSE-DAY : 31 システム日付 : 19960915 ↓ O-YMD : 19960930 O-RTN-CD : SPACE</p>		
<p><注意事項></p> <p>(1) I-CLOSE-DAYについて NUMERIC チェックを行い, 数値でないときはエラーコード' LXRED017' をリターンコードとして返す。</p> <p>(2) $1 \leq I-CLOSE-DAY \leq 31$ でなければエラーコード' LXRED009' をリターンコードとして返す。</p> <p>(3) 本サブルーチンから (システム日付取得変換(8桁):LXRPID88), (実在日チェック(西暦):LXRPID01), (年月日算出(西暦年月日±月数):LXRPID09), (月末日算出(西暦年月日):LXRPID17) を呼び出す。</p> <p>(4) エラーのときは, 出力年月日に0を返す。</p>				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPID91

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRPID91	日付処理	処理期限年月日算出 (和暦)	LXRCID91	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-CLOSE-DAY	P(2)	締日	C
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=O , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-YMDWA	9(7)	出力和暦処理年月日 (NYMMDD) 年号 (1:明治, 2:大正, 3:昭和, 4:平成)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード SPACE:正常 LXRED017:日が数字ではない LXRED009:実在する日ではない	R
処 理 基 準		例		
1. (処理期限年月日算出 (西暦):LXRPID90) を呼び、処理年月日 (西暦) を求め、このサブルーチンのリターンコードをチェックする。 2. リターンコードがスペースのとき以下の処理を行う。 2.1 処理年月日 (西暦) を (年月日変換 (西暦→和暦):LXRPID05) により和暦に変換する。		1. I-CLOSE-DAY : 20 システム日付 : H080815 ↓ O-YMD : 4080820 O-RTN-CD : SPACE 2. I-CLOSE-DAY : 31 システム日付 : H080915 ↓ O-YMD : 4080930 O-RTN-CD : SPACE		
<注意事項> (1) 本サブルーチンから (処理期限年月日算出 (西暦):LXRPID90) , (年月日変換 (西暦→和暦):LXRPID05) を呼び出す。 (2) サブルーチン呼び出しでエラーとなった場合、リターンコードをそのまま返し、出力年月日に0を返す。				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPID92

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRPID92	日付処理	通算日算出（年始～西暦年月日）	LXRCID92	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-YMD		年月日（西暦）	I
05	I-YY	9(4)	年	I
05	I-MM	9(2)	月	I
05	I-DD	9(2)	日	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-DAYS	P(8)	日数	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
処 理 基 準		例		
1. （実在日チェック（西暦）:LXRPID01）で年月日をチェックする。 2. リターンコードがスペースのとき、以下の処理を行う。 2.1 （年基準日取得:LXRPID81）でその年の基準日を求める。 2.2 基準日から入力年月日までの通算日を（期間算出（西暦年月日間日数）:LXRPID13）により求める。		1. I-YMD : 19960805 ↓ O-DAYS : 218 O-RTN-CD : SPACE 2. I-YMD : 19961231 ↓ O-DAYS : 366 O-RTN-CD : SPACE		
<注意事項> (1) 本サブルーチンから（実在日チェック（西暦）:LXRPID01）,（期間算出（西暦年月日間日数）:LXRPID13）,（年基準日取得:LXRPID81）を呼び出す。 (2) サブルーチン呼び出しでエラーとなった場合、リターンコードをそのまま返し、日数に0を返す。				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPID93

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRPID93	日付処理	通算日算出（年始～和暦年月日）	LXRCID93	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-YMDWA		年月日（和暦）	I
05	I-NNG	X(1)	年号 (1:明治, 2:大正, 3:昭和, 4:平成) or (M:明治, T:大正, S:昭和, H:平成)	I
05	I-YY	9(2)	和暦年	I
05	I-MM	9(2)	月	I
05	I-DD	9(2)	日	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=O , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-DAYS	P(8)	日数	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
処 理 基 準		例		
1. (年月日変換（和暦→西暦）:LXRPID06)により入力年月日を西暦に変換し、このサブルーチンのリターンコードをチェックする。 2. リターンコードがスペースのとき以下の処理を行う。 2.1 (通算日算出（年始～西暦年月日）:LXRPID92)を呼び、処理年月日（西暦）を求める。		1. I-YMDWA : H080805 ↓ O-DAYS : 218 O-RTN-CD : SPACE		
<注意事項> (1) 本サブルーチンから（年月日変換（和暦→西暦）:LXRPID06）,（通算日算出（年始～西暦年月日）:LXRPID92)を呼び出す。 (2) サブルーチン呼び出しでエラーとなった場合、リターンコードをそのまま返し、日数に0を返す。ただし、誤った年号に対しては、平成（'4', 'H'）と同様の処理を行い、リターンコードには'LXRED002'を返す。				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPID94

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRPID94	日付処理	年齢(年月)算出(慣習)	LXRCID94	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-BRTH-YMD	9(8)	生年月日(YYYYMMDD)	I
03	I-KJN-YMD	9(8)	現在年月日(YYYYMMDD)	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-NNR-YM		年齢(年月)	O
05	O-NNR-YY	9(4)	年齢(年)	O
05	O-NNR-MM	9(2)	年齢(月)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
処 理 基 準		例		
1. 入力された生年月日及び現在年月日より年齢(年月)を求める。		1. I-BRTH-YMD : 19710216 I-KJN-YMD : 19960815 ↓ O-NNR-YM : 002505 O-RTN-CD : SPACE		
<p><注意事項></p> (1) 年齢計算は慣習による(誕生日当日に1歳増える)。 (2) 本サブルーチンから、(年月日算出(西暦年月日±日数): LXRPID11)、(期間算出(西暦年月日間年月日): LXRPID15)を呼び出す。 (3) サブルーチン呼び出しでエラーとなった場合、リターンコードをそのまま返し、年齢に0を返す。				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPID95

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRPID95	日付処理	年齢(年月)算出(法律)	LXRCID95	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-BRTH-YMD	9(8)	生年月日(YYYYMMDD)	I
03	I-KJN-YMD	9(8)	現在年月日(YYYYMMDD)	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=O , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-NNR-YM		年齢(年月)	O
05	O-NNR-YY	9(4)	年齢(年)	O
05	O-NNR-MM	9(2)	年齢(月)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
処 理 基 準		例		
1. 入力された生年月日及び現在年月日より年齢(年月)を求める。		1. I-BRTH-YMD : 19900731 I-KJN-YMD : 19970130 ↓ O-NNR-YM : 000606 O-RTN-CD : SPACE		
<p><注意事項></p> (1) 年齢計算は法律による(誕生日前日に1歳増える)。 (2) 本サブルーチンから、(期間算出(西暦年月日間年月日): LXRPID15)を呼び出す。 (3) サブルーチン呼び出しでエラーとなった場合、リターンコードをそのまま返し、年齢に0を返す。				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPIE01

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRPIE01	時間処理	時間妥当性チェック (24時間)	LXRCIE01	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項 目 名	属性	説 明 及 び 設 定 値	区分
03	I-TIME	9(6)	時刻	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)				
レベル	項 目 名	属性	説 明 及 び 設 定 値	区分
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード SPACE:正常 LXREE005:入力が数字以外 LXREE002:時が不正 LXREE003:分が不正 LXREE004:秒が不正	R
処 理 基 準		例		
<p>1. 24時間単位の時刻の妥当性をチェックする。</p> <p>1.1 時のチェック (0 ≤ 時 ≤ 23)</p> <p>1.2 分のチェック (0 ≤ 分 ≤ 59)</p> <p>1.3 秒のチェック (0 ≤ 秒 ≤ 59)</p>		<p>1. I-TIME : 010161 (1時1分61秒) ↓ O-RTN-CD : 'LXREE004'</p>		
<p><注意事項></p>				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPIE02

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRPIE02	時間処理	時間妥当性チェック (12時間)	LXRCIE02	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-TMAP	9(6)	時刻(12時制)	I
03	I-AP-KBN	X(2)	AM・PM区分 'AM':午前, 'PM':午後	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=O , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード SPACE:正常 LXREE005:数字以外が入力された LXREE001:午前または午後ではない LXREE002:時が不正 LXREE003:分が不正 LXREE004:秒が不正	R
処 理 基 準			例	
<p>1. 12時制の時刻の妥当性をチェックする。</p> <p>1.1 午前・午後のチェック 1.2 時のチェック (0 ≤ 時 ≤ 11) 1.3 分のチェック (0 ≤ 分 ≤ 59) 1.4 秒のチェック (0 ≤ 秒 ≤ 59)</p>			<p>1. I-AP-KBN : 'AM' I-TMAP : 017010 (1時70分10秒) ↓ O-RTN-CD : 'LXREE003'</p>	
<p><注意事項> (1) AM・PMフラグに'AM', 'PM'以外の文字をセットした場合は, エラーとする。</p>				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRP1E05

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRP1E05	時間処理	24時間単位→12時間単位 時刻変換	LXRC1E05

入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)

レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-TIME	9(6)	時刻(24時制)	I

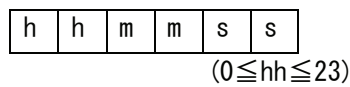
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)

レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-TMAP	9(6)	時刻(12時制)	O
03	O-AP-KBN	X(2)	AM・PM区分 AM:午前 PM:午後	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R

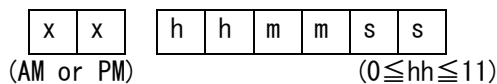
処 理 基 準

例

1. 入力時刻のチェックを(時刻妥当性チェック(24時間):LXRP1E01)を用いて行い、エラーの場合リターンコードを返す。
2. リターンコードがスペースの時24時間単位の時刻を12時間単位の時刻に変換する。



↓



1. I-TIME : 151515
(15時15分15秒)
↓
O-TMAP : 031515
(3時15分15秒)
O-AP-KBN : 'PM'
O-RTN-CD : SPACE

<注意事項>

- (1) 本サブルーチンから、(時刻妥当性チェック(24時間):LXRP1E01)を呼び出す。
- (2) サブルーチン呼び出しでエラーになった場合、リターンコードをそのまま返し、時刻にO, AM・PM区分にスペースを返す。

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPIE06

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名															
LXRPIE06	時間処理	12時間単位→24時間単位 時刻変換	LXRCIE06															
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)																		
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分														
03	I-TMAP	9(6)	時刻(12時制)	I														
03	I-AP-KBN	X(2)	AM・PM区分 'AM': 午前 'PM': 午後	I														
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)																		
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分														
03	O-TIME	9(6)	時刻(24時制)	O														
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R														
処 理 基 準			例															
<p>1. 入力時刻のチェックを(時刻妥当性チェック(12時間):LXRPIE02)を用いて行い、エラーの場合リターンコードを返す。</p> <p>2. リターンコードがスペースの時12時間単位の時刻を24時間単位の時刻に変換する。</p> <div style="text-align: center;"> <table border="1" style="display: inline-table; margin-right: 20px;"> <tr><td>x</td><td>x</td></tr> </table> <table border="1" style="display: inline-table; margin-right: 20px;"> <tr><td>h</td><td>h</td><td>m</td><td>m</td><td>s</td><td>s</td></tr> </table> <p>(AM or PM) (0 ≤ hh ≤ 11)</p> <p>↓</p> <table border="1" style="display: inline-table;"> <tr><td>h</td><td>h</td><td>m</td><td>m</td><td>s</td><td>s</td></tr> </table> <p>(0 ≤ hh ≤ 23)</p> </div>			x	x	h	h	m	m	s	s	h	h	m	m	s	s	<p>1. I-AP-KBN: 'PM' I-TMAP: 031515 (3時15分15秒) ↓ O-TIME: 151515 (15時15分15秒) O-RTN-CD: SPACE</p>	
x	x																	
h	h	m	m	s	s													
h	h	m	m	s	s													
<p><注意事項></p> <p>(1) 本サブルーチンから、(時刻妥当性チェック(12時間):LXRPIE02)を呼び出す。</p> <p>(2) サブルーチン呼び出しでエラーになった場合、リターンコードをそのまま返し、時刻に0を返す。</p>																		

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPIE07

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRPIE07	時間処理	経過時間算出 (24時間単位)	LXRCIE07	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-STT-TIME	9(6)	開始時刻	I
03	I-END-TIME	9(6)	終了時刻	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-HRS	9(6)	時間	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード SPACE:正常 LXREE008:開始時刻≤終了時刻 でない	R
処 理 基 準			例	
1. 入力された2つの時刻(24時間単位)のチェックを(時刻妥当性チェック(24時間):LXRPIE01)を用いて行い、エラーの場合はリターンコードを返す。 2. リターンコードがスペースの時、入力された2つの時刻(24時間単位)の差を時分秒で求める。			1. I-STT-TIME : 013030 I-END-TIME : 134545 ↓ O-HRS : 121515 O-RTN-CD : SPACE	
<注意事項> (1) 本サブルーチンから、(時刻妥当性チェック(24時間):LXRPIE01)を呼び出す。 (2) 開始時刻>終了時刻とすると、リターンコードに'LXREE008'を返す。 (3) エラーの場合、出力時間には0を返す。 (4) サブルーチン呼び出しでエラーとなった場合、リターンコードをそのまま返す。				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPIE08

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRPIE08	時間処理	経過時間算出 (12時間単位)	LXRCIE08	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-STT-TMAP	9(6)	開始時刻(12時制)	I
03	I-STT-AP-KBN	X(2)	開始AM・PM区分 'AM':午前 'PM':午後	I
03	I-END-TMAP	9(6)	終了時刻(12時制)	I
03	I-END-AP-KBN	X(2)	終了AM・PM区分 'AM':午前 'PM':午後	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-HRS	9(6)	時間	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
処 理 基 準			例	
1. 入力された2つの時刻(12時間単位)の差を時分秒で求める。			1. I-STT-TMAP : 'AM' I-STT-AP-KBN : 100000 I-END-TMAP : 'PM' I-END-AP-KBN : 033000 ↓ O-HRS : 053000 O-RTN-CD : SPACE	
<p><注意事項></p> (1) 本サブルーチンから、(12時間単位→24時間単位時刻変換:LXRPIE06)、(経過時間算出(24時間単位):LXRPIE07)を呼び出す。 (2) 開始時刻>終了時刻とすると、リターンコードに'LXREE008'を返す。 (3) エラーの場合、出力時間には0を返す。 (4) サブルーチン呼び出しでエラーとなった場合は、リターンコードをそのまま返す。				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPIE09

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRPIE09	時間処理	時間加算	LXRPIE09	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-1ST-HRS	9(8)	第一時間 (hhhhmmss)	I
03	I-2ND-HRS	9(8)	第二時間 (hhhhmmss)	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-HRS	9(8)	時間 (hhhhmmss)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード SPACE:正常 LXREE006:桁あふれ	R
処 理 基 準		例		
1. 入力された2つの時間のチェックを（時間チェック：LXRPIE16）を用いて行い、エラーの場合、リターンコードを返す。 2. リターンコードがスペースの時入力された2つの時間の加算を行う。		1. I-1ST-HRS : 00123456 I-2ND-HRS : 98765432 ↓ O-HRS : 98892928 O-RTN-CD : SPACE		
<注意事項> (1) 本サブルーチンから、（時間チェック：LXRPIE16）を呼び出す。 (2) サブルーチン呼び出しでエラーとなった場合、リターンコードをそのまま返す。 (3) エラーの場合、出力時間には0を返す。				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPIE10

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRPIE10	時間処理	時間差算出	LXRCIE10	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-STT-HRS	9(8)	開始時間 (hhhhmmss)	I
03	I-END-HRS	9(8)	終了時間 (hhhhmmss)	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-HRS	9(8)	時間 (hhhhmmss)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード SPACE : 正常 LXREE008 : 開始時間 ≤ 終了時間で ない	R
処 理 基 準			例	
1. (時間チェック: LXRPIE16) によって、開始時間および終了時間のチェックを行なう。エラーの場合、(時間チェック: LXRPIE16) のリターンコードをそのままリターンコードとする。出力時間は0とする。 2. 開始時間 ≤ 終了時間であることをチェックする。そうでないときはエラーコード' LXREE008' をリターンコードとして返す。出力時間は0とする。 3. 入力された2つの時間の差を時分秒で求める。			1. I-STT-HRS : 00123456 I-END-HRS : 98765432 ↓ O-HRS : 98641936 O-RTN-CD : SPACE 2. I-STT-HRS : 00001000 I-END-HRS : 00000959 ↓ O-HRS : 0 O-RTN-CD : ' LXREE008'	
<注意事項> (1) 本サブルーチンから (時間チェック: LXRPIE16) を呼び出す。				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPIE11

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRPIE11	時間処理	時刻編集	LXRCIE11	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-TIME	9(6)	時刻 形式: hhmmss hh:時(24時間単位) mm:分 ss:秒	I
03	I-TYP	X(1)	出力タイプ	O T
03	I-FORMAT	X(100)	出力フォーマット	C
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=O , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-TIME	X(100)	出力時刻	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
処 理 基 準			例	
(次紙参照)			1. I-TIME : 184500 I-TYP : 'X' I-FORMAT : '「午OZH時ZN分ZS秒」' ↓ O-TIME : '「午後△6時45分△0秒」'	
			2. I-TIME : 223000 I-TYP : 'N' I-FORMAT : 'APHH:MN:SS' ↓ O-TIME : '」PM10:30:00'	
			3. I-TIME : 223000 I-TYP : 'N' I-FORMAT : 'HH:MN:SS' ↓ O-TIME : '」23:30:00'	
			注:例は VOS3 版の場合で, 'I'はX'0A42', 'J'はX'0A41'を表す。	
<p><注意事項></p> <p>(1) 時刻の妥当性は, (時刻妥当性チェック(24時間):LXRPIE01)によりチェックする。返されたリターンコードをそのまま本サブルーチンのリターンコードとする。エラーの場合は, I-FORMATをそのままO-TIMEに転記する。</p> <p>(2) 本サブルーチンより, (時刻妥当性チェック(24時間):LXRPIE01) および(半角→全角変換:LXRPIC01)を呼び出す。</p>				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPIE11

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIE11	時間処理	時刻編集	LXRCIE11

1. I-FORMAT に対して以下の仕様で置換処理を行う。

NO	置換規則
1	AP 「時」が0~11: 'AM' 「時」12以上: 'PM'注(1)
2	○ 「時」が0~11: NC'前' 「時」12以上: NC'後'注(2)
3	HH 「時」を全角変換したもの
4	ZH 「時」をZ9編集し、全角変換したもの
5	HH 「時」
6	ZH 「時」をZ9編集したもの
7	MN 「分」を全角変換したもの
8	ZN 「分」をZ9編集し、全角変換したもの
9	MN 「分」
10	ZN 「分」をZ9編集したもの
11	SS 「秒」を全角変換したもの
12	ZS 「秒」をZ9編集し、全角変換したもの
13	SS 「秒」
14	ZS 「秒」をZ9編集したもの

注(1) I-FORMAT 中に 'AP' があり、「時」が12以上の場合、
「時」 = 「時」 - 12 とする。

注(2) I-FORMAT 中に '○' があり、'AP' がなく、「時」が12以上の場合、
「時」 = 「時」 - 12 とする。

2. VOS3 版では、編集された文字列に対して次の処理を行なう。

- 2.1 I-TYP が 'N' で文字列の先頭が機能キャラクタ (X'0A42') の場合、これを削除する。
- 2.2 I-TYP が 'N' で文字列の先頭が機能キャラクタ (X'0A42') ではない場合、先頭に機能キャラクタ (X'0A41') を付加する。
- 2.3 I-TYP が 'N' で、文字列の最後の文字（その文字より後方に半角空白しかない文字）が機能キャラクタ (X'0A41') の場合、これを削除する。

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPIE12

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRPIE12	日時処理	日時加減算 (西暦12時間単位)	LXRCIE12	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-YMD	9(8)	年月日 (YYYYMMDD)	I
03	I-TMAP	9(6)	時刻 (12 時制) (hhmmss)	I
03	I-AP-KBN	X(2)	AM・PM区分 'AM':午前, 'PM':午後	I
03	I-KKN	9(7)	期間 (DDDDDD)	I
03	I-HRS	9(6)	時間 (hhmmss)	I
03	I-SHR-KBN	X(1)	処理区分 '+' :加算, '-' :減算	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-YMD	9(8)	年月日 (YYYYMMDD)	O
03	O-TMAP	9(6)	時刻 (12 時制) (hhmmss)	O
03	O-AP-KBN	X(2)	AM・PM区分 'AM':午前, 'PM':午後	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
処 理 基 準		例		
1. 入力時刻のチェックを(時間妥当性チェック(12時間):LXRPIE02)を用いて行い、エラーの場合、リターンコードを返す。 2. リターンコードがスペースの時、12時間単位の西暦日時と日時の加算または減算を行う。		1. I-YMD : 19890701 I-TMAP : 012345 I-AP-KBN : 'AM' I-KKN : 0000005 I-HRS : 123456 I-SHR-KBN : '+' ↓ O-YMD : 19890706 O-TMAP : 015841 O-AP-KBN : 'PM' O-RTN-CD : SPACE		
<注意事項> (1) 本サブルーチンから、(時刻妥当性チェック(12時間):LXRPIE02)、(24時間単位→12時間単位時刻変換:LXRPIE05)、(12時間単位→24時間単位時刻変換:LXRPIE06)、(日時加減算(西暦24時間単位):LXRPIE13)を呼び出す。 (2) サブルーチン呼び出しでエラーとなった場合、リターンコードをそのまま返す。 (3) エラーの時、年月日、時刻には0、AM・PM区分にはスペースを返す。				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRP1E13

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRP1E13	日時処理	日時加減算 (西暦24時間単位)	LXRC1E13	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-YMD	9(8)	年月日 (YYYYMMDD)	I
03	I-TIME	9(6)	時刻 (hhmmss)	I
03	I-KKN	9(7)	期間 (DDDDDD)	I
03	I-HRS	9(6)	時間 (hhmmss)	I
03	I-SHR-KBN	X(1)	処理区分 '+' : 加算, '-' : 減算	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=O , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-YMD	9(8)	年月日 (YYYYMMDD)	O
03	O-TIME	9(6)	時刻 (hhmmss)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード SPACE : 正常 LXRED009 : 処理区分が '+' '-' 以外	R
処 理 基 準		例		
1. 入力年月日のチェックを(実在日チェック(西暦):LXRP1E01)を用いて行い、エラーの場合リターンコードを返す。 2. リターンコードがスペースの時、入力時刻及び入力時間のチェックを(時刻妥当性チェック(24時間):LXRP1E01)を用いて行い、エラーの場合リターンコードを返す。 3. リターンコードがスペースの時、24時間単位の西暦日時と日時の加算または減算を行う。		1. I-YMD : 19890701 I-TIME : 123456 I-KKN : 0000009 I-HRS : 012345 I-SHR-KBN : '+' ↓ O-YMD : 19890710 O-TIME : 135841 O-RTN-CD : SPACE		
<注意事項> (1) 本サブルーチンから、(実在日チェック(西暦):LXRP1D01)、(年月日算出(西暦年月日±日数):LXRP1D11)、(時刻妥当性チェック(24時間):LXRP1E01)、(時間加算:LXRP1E09)、(時間差算出:LXRP1E10)を呼び出す。 (2) サブルーチン呼び出しでエラーとなった場合、リターンコードをそのまま返す。 (3) エラーの時、年月日、時刻には0を返す。				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRP1E14

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRP1E14	日時処理	日時加減算 (和暦12時間単位)	LXRC1E14	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-YMDWA	9(7)	年月日(和暦)(NYMMDD) (1:明治,2:大正,3:昭和,4:平成)	I
03	I-TMAP	9(6)	時刻(12時制)(hhmmss)	I
03	I-AP-KBN	X(2)	AM・PM区分(AM:午前,PM:午後)	I
03	I-KKN	9(7)	期間(DDDDDD)	I
03	I-HRS	9(6)	時間(hhmmss)	I
03	I-SHR-KBN	X(1)	処理区分(+:加算,-:減算)	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-YMDWA	9(7)	年月日(和暦)(NYMMDD) (1:明治,2:大正,3:昭和,4:平成)	O
03	O-TMAP	9(6)	時刻(12時制)(hhmmss)	O
03	O-AP-KBN	X(2)	AM・PM区分(AM:午前,PM:午後)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
処 理 基 準				例
1. 入力年月日のチェックを(実在日チェック(和暦):LXRPID02)を用いて行い、エラーの場合リターンコードを返す。 2. リターンコードがスペースの時、12時間単位の和暦日時と日時の加算または減算を行う。			1. I-YMDWA : 3630101 I-TMAP : 111111 I-AP-KBN : 'AM' I-KKN : 0000031 I-HRS : 022222 I-SHR-KBN : '+' ↓ O-YMDWA : 3630201 O-TMAP : 013333 O-AP-KBN : 'PM' O-RTN-CD : SPACE	
<注意事項> (1) 本サブルーチンから、(実在日チェック(和暦):LXRPID02)、(年月日変換(西暦→和暦):LXRPID05)、(年月日変換(和暦→西暦):LXRPID06)、(日時加減算(西暦12時間単位):LXRP1E12)を呼び出す。 (2) サブルーチン呼び出しでエラーとなった場合、リターンコードをそのまま返す。 (3) エラーの時、年月日、時刻には0、AM・PM区分にはスペースを返す。				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRP1E15

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRP1E15	日時処理	日時加減算 (和暦24時間単位)	LXRC1E15	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-YMDWA	9(7)	年月日(和暦)(NYMMDD) (1:明治,2:大正,3:昭和,4:平成)	I
03	I-TIME	9(6)	時刻(hhmmss)	I
03	I-KKN	9(7)	期間(DDDDDD)	I
03	I-HRS	9(6)	時間(hhmmss)	I
03	I-SHR-KBN	X(1)	処理区分(+:加算,-:減算)	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-YMDWA	9(7)	年月日(和暦)(NYMMDD) (1:明治,2:大正,3:昭和,4:平成)	O
03	O-TIME	9(6)	時刻(hhmmss)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
処 理 基 準		例		
1. 入力年月日のチェックを(実在日チェック(和暦):LXRPID02)を用いて行い、エラーの場合リターンコードを返す。 2. リターンコードがスペースの時、24時間単位の和暦日時と日時の加算または減算を行う。		1. I-YMDWA : 3630101 I-TIME : 111111 I-KKN : 0000373 I-HRS : 022222 I-SHR-KBN : '+' ↓ O-YMDWA : 4010108 O-TIME : 133333 O-RTN-CD : SPACE		
<注意事項> (1) 本サブルーチンから、(実在日チェック(和暦):LXRPID02)、(年月日変換(西暦→和暦):LXRPID05)、(年月日変換(和暦→西暦):LXRPID06)、(日時加減算(西暦24時間単位):LXRP1E13)を呼び出す。 (2) サブルーチン呼び出しでエラーとなった場合、リターンコードをそのまま返す。 (3) エラーの時、年月日、時刻には0を返す。				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPIE16

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名													
LXRPIE16	時間処理	時間チェック	LXRCIE16													
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)																
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分												
03	I-HRS	9(8)	入力時間 形式: hhhhmmss hhhh:時 mm :分 ss :秒	I												
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)																
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分												
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード SPACE: 正常 LXREF005: 数字以外が入力された LXREF003: 分が不正 LXREF004: 秒が不正	R												
処 理 基 準		例														
<p>1. 以下の順でチェックを行い、エラーの場合リターンコードを返す。</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>NO</th> <th>チェック</th> <th>リターンコード</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>時間が数字のみである</td> <td>LXREE005</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>「分」<60</td> <td>LXREE003</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>「秒」<60</td> <td>LXREE004</td> </tr> </tbody> </table>		NO	チェック	リターンコード	1	時間が数字のみである	LXREE005	2	「分」<60	LXREE003	3	「秒」<60	LXREE004	<p>1. I-HRS : 0000QQQQ ↓ O-RTN-CD : 'LXREE005'</p> <p>2. I-HRS : 00006000 ↓ O-RTN-CD : 'LXREE003'</p> <p>3. I-HRS : 00000060 ↓ O-RTN-CD : 'LXREE004'</p>		
NO	チェック	リターンコード														
1	時間が数字のみである	LXREE005														
2	「分」<60	LXREE003														
3	「秒」<60	LXREE004														
<p><注意事項></p>																

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPIE17

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名																																															
LXRPIE17	時間処理	時間(秒) → 時間変換編集	LXRCIE17																																															
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)																																																		
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分																																														
03	I-TYP	X(1)	タイプ	O T																																														
03	I-SEC	P(9)	入力時間(秒)	I																																														
03	I-FORMAT	X(100)	フォーマット	C																																														
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)																																																		
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分																																														
03	O-HRS	X(100)	出力時間	O																																														
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R																																														
処 理 基 準		例																																																
<p>1. 以下の順でチェックを行い、エラーの場合該当するリターンコードを返す。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>NO</th> <th>チェック</th> <th>リターンコード</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>時間(秒)が数字のみである</td> <td>LXREE005</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>時間(秒) ≥ 0</td> <td>LXREE007</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>時間(秒) < 36000000</td> <td>LXREE006</td> </tr> </tbody> </table> <p>2. 上表項番 1 のチェックにおいてエラーでなければ時間(秒)を時間に変換する。</p> <p>3. 上表項目 2 と 3 のチェックにおいてエラーであっても、変換を行う(注意事項参照)。</p> <p>4. (時間編集:LXRPIE20)を用いて編集処理を行う。</p> <p>4.1 置換処理</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>NO</th> <th>置換規則</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>HHHH 「時」を全角変換</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ZZZZ 「時」をZZZ9編集, 全角変換</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>HHH 「時」</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>ZZZH 「時」をZ9編集</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>HH 「時」下2桁を全角変換</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>ZH 「時」下2桁をZ9編集, 全角変換</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>HH 「時」下2桁</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>ZH 「時」下2桁をZ9編集</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>MN 「分」を全角変換</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>ZN 「分」をZ9編集, 全角変換</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>MN 「分」</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>ZN 「分」をZ9編集</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>SS 「秒」を全角変換</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>ZS 「秒」をZ9編集, 全角変換</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>SS 「秒」</td> </tr> <tr> <td>16</td> <td>ZS 「秒」をZ9編集</td> </tr> </tbody> </table> <p>4.2 機能キャラクタ処理 (LXRPIE20参照)</p>		NO	チェック	リターンコード	1	時間(秒)が数字のみである	LXREE005	2	時間(秒) ≥ 0	LXREE007	3	時間(秒) < 36000000	LXREE006	NO	置換規則	1	HHHH 「時」を全角変換	2	ZZZZ 「時」をZZZ9編集, 全角変換	3	HHH 「時」	4	ZZZH 「時」をZ9編集	5	HH 「時」下2桁を全角変換	6	ZH 「時」下2桁をZ9編集, 全角変換	7	HH 「時」下2桁	8	ZH 「時」下2桁をZ9編集	9	MN 「分」を全角変換	10	ZN 「分」をZ9編集, 全角変換	11	MN 「分」	12	ZN 「分」をZ9編集	13	SS 「秒」を全角変換	14	ZS 「秒」をZ9編集, 全角変換	15	SS 「秒」	16	ZS 「秒」をZ9編集	<p>1. I-SEC : 00003661 I-TYP : 'N' I-FORMAT : '「HHHH:MN:SS」' ↓ O-HRS : '0001:01:01' O-RTN-CD : SPACE</p> <p>2. I-SEC : -03599999 I-TYP : 'N' I-FORMAT : '「HHHH:MN:SS」' ↓ O-HRS : '9999:59:59' O-RTN-CD : 'LXREE007'</p> <p>3. I-SEC : 036003661 I-TYP : 'N' I-FORMAT : '「ZZZH:ZN:ZS」' ↓ O-HRS : '△△△1:△1:△1' O-RTN-CD : 'LXREE006'</p>		
NO	チェック	リターンコード																																																
1	時間(秒)が数字のみである	LXREE005																																																
2	時間(秒) ≥ 0	LXREE007																																																
3	時間(秒) < 36000000	LXREE006																																																
NO	置換規則																																																	
1	HHHH 「時」を全角変換																																																	
2	ZZZZ 「時」をZZZ9編集, 全角変換																																																	
3	HHH 「時」																																																	
4	ZZZH 「時」をZ9編集																																																	
5	HH 「時」下2桁を全角変換																																																	
6	ZH 「時」下2桁をZ9編集, 全角変換																																																	
7	HH 「時」下2桁																																																	
8	ZH 「時」下2桁をZ9編集																																																	
9	MN 「分」を全角変換																																																	
10	ZN 「分」をZ9編集, 全角変換																																																	
11	MN 「分」																																																	
12	ZN 「分」をZ9編集																																																	
13	SS 「秒」を全角変換																																																	
14	ZS 「秒」をZ9編集, 全角変換																																																	
15	SS 「秒」																																																	
16	ZS 「秒」をZ9編集																																																	
<p><注意事項></p> <p>(1) 上表チェック項番2によってエラーと判定されると、入力データが正の数であるとして変換を行い、リターンコードに'LXREE007'を送る。</p> <p>(2) 上表チェック項番3によってエラーと判定されると、リターンコードに'LXREE006'を送った後に変換を行うが、その際桁あふれを生じる。</p> <p>(3) 本サブルーチンより、(時間(秒) → 時間変換:LXRPIE19) , (時間編集:LXRPIE20) を呼ぶ。</p>																																																		

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPIE18

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名													
LXRPIE18	時間処理	時間→時間(秒)変換	LXRCIE18													
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)																
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分												
03	I-HRS	9(8,2)	入力時間 形式: hhhmmssvv hhhh:時 mm :分 ss :秒 vv :1/100秒	I												
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)																
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分												
03	O-SEC	P(9,2)	出力時間(秒)	O												
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R												
処 理 基 準			例													
<p>1. 入力時間が数字のみでない場合、リターンコードに 'LXREE005' を返す。(項番1)</p> <p>2. リターンコードがスペースの時入力時間のチェックを(時間チェック:LXRPIE16)を用いて行い、エラーの場合リターンコードを返す(項番2~3)。</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>NO</th> <th>チェック</th> <th>リターンコード</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>時間が数字のみである</td> <td>LXREE005</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>「分」<60</td> <td>LXREE003</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>「秒」<60</td> <td>LXREE004</td> </tr> </tbody> </table> <p>3. エラーでなければ、入力時間を秒に変換する。</p>			NO	チェック	リターンコード	1	時間が数字のみである	LXREE005	2	「分」<60	LXREE003	3	「秒」<60	LXREE004	<p>1. I-HRS : 0000QQQQ.00 ↓ O-SEC : 000000000.00 O-RTN-CD : 'LXREE005'</p> <p>2. I-HRS : 00006000.00 ↓ O-SEC : 000000000.00 O-RTN-CD : 'LXREE003'</p> <p>3. I-HRS : 00000060.00 ↓ O-SEC : 000000000.00 O-RTN-CD : 'LXREE004'</p> <p>4. I-HRS : 00010101.01 ↓ O-SEC : 000003661.01 O-RTN-CD : SPACE</p>	
NO	チェック	リターンコード														
1	時間が数字のみである	LXREE005														
2	「分」<60	LXREE003														
3	「秒」<60	LXREE004														
<p><注意事項> (1) 本サブルーチンから(時間チェック:LXRPIE16)を呼び出す。</p>																

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPIE19

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名													
LXRPIE19	時間処理	時間(秒) → 時間変換	LXRCIE19													
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)																
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分												
03	I-SEC	P(9,2)	入力時間(秒)	O												
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=O , RTN-CODE=R)																
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分												
03	O-HRS	9(8,2)	出力時間 形式: hhhmmssvv hhhh:時 mm :分 ss :秒 vv :1/100秒	O												
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R												
処 理 基 準			例													
<p>1. 以下の順でチェックを行い、エラーの場合該当するリターンコードを返す。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>NO</th> <th>チェック</th> <th>リターンコード</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>時間(秒)が数字のみである</td> <td>LXREE005</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>時間(秒) ≥ 0</td> <td>LXREE007</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>時間(秒) < 36000000.00</td> <td>LXREE006</td> </tr> </tbody> </table> <p>2. エラーでなければ時間(秒)を時間に変更する。</p>			NO	チェック	リターンコード	1	時間(秒)が数字のみである	LXREE005	2	時間(秒) ≥ 0	LXREE007	3	時間(秒) < 36000000.00	LXREE006	<p>1. I-SEC : 036003661.01 ↓ O-HRS : 00000000.00 O-RTN-CD : 'LXREE006'</p> <p>2. I-SEC : -035999999.99 ↓ O-HRS : 00000000.00 O-RTN-CD : 'LXREE007'</p> <p>3. I-SEC : 0000QQQQ.00 ↓ O-HRS : 00000000.00 O-RTN-CD : 'LXREE005'</p> <p>3. I-SEC : 000003661.01 ↓ O-HRS : 00010101.01 O-RTN-CD : SPACE</p>	
NO	チェック	リターンコード														
1	時間(秒)が数字のみである	LXREE005														
2	時間(秒) ≥ 0	LXREE007														
3	時間(秒) < 36000000.00	LXREE006														
<p><注意事項></p> <p>(1) 上表項番2のチェックによってエラーと判定されると、変換せずに終了し、リターンコードに'LXREE007'を送る。出力時間には0を返す。</p> <p>(2) 上表項番3のチェックによってエラーと判定されると、変換せずに終了し、リターンコードに'LXREE006'を送る。出力時間には0を返す。</p>																

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPIE20

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名																																																				
LXRPIE20	時間処理	時間編集	LXRCIE20																																																				
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)																																																							
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分																																																			
03	I-TYP	X(1)	タイプ	O T																																																			
03	I-HRS	9(8)	入力時間 形式: hhhmmss hhhh:時 mm :分 ss :秒	I																																																			
03	I-FORMAT	X(100)	フォーマット	C																																																			
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)																																																							
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分																																																			
03	O-HRS	X(100)	出力時間	O																																																			
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R																																																			
処 理 基 準			例																																																				
1. I-FORMAT に対して以下の仕様で置換処理を行う。			1. I-HRS : 01234500 I-TYP : 'X' I-FORMAT : '「ZZZH:MN:SS」' ↓ O-HRS : '「123:45:00」' O-RTN-CD : SPACE																																																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>NO</th> <th>置換規則</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>HHHH</td><td>「時」を全角変換</td></tr> <tr><td>2</td><td>ZZZZ</td><td>「時」をZZZ9編集, 全角変換</td></tr> <tr><td>3</td><td>HHHH</td><td>「時」</td></tr> <tr><td>4</td><td>ZZZH</td><td>「時」をZ9編集</td></tr> <tr><td>5</td><td>HH</td><td>「時」下2桁を全角変換</td></tr> <tr><td>6</td><td>ZH</td><td>「時」下2桁をZ9編集, 全角変換</td></tr> <tr><td>7</td><td>HH</td><td>「時」下2桁</td></tr> <tr><td>8</td><td>ZH</td><td>「時」下2桁をZ9編集</td></tr> <tr><td>9</td><td>MN</td><td>「分」を全角変換</td></tr> <tr><td>10</td><td>ZN</td><td>「分」をZ9編集, 全角変換</td></tr> <tr><td>11</td><td>MN</td><td>「分」</td></tr> <tr><td>12</td><td>ZN</td><td>「分」をZ9編集</td></tr> <tr><td>13</td><td>SS</td><td>「秒」を全角変換</td></tr> <tr><td>14</td><td>ZS</td><td>「秒」をZ9編集, 全角変換</td></tr> <tr><td>15</td><td>SS</td><td>「秒」</td></tr> <tr><td>16</td><td>ZS</td><td>「秒」をZ9編集</td></tr> </tbody> </table>			NO	置換規則		1	HHHH	「時」を全角変換	2	ZZZZ	「時」をZZZ9編集, 全角変換	3	HHHH	「時」	4	ZZZH	「時」をZ9編集	5	HH	「時」下2桁を全角変換	6	ZH	「時」下2桁をZ9編集, 全角変換	7	HH	「時」下2桁	8	ZH	「時」下2桁をZ9編集	9	MN	「分」を全角変換	10	ZN	「分」をZ9編集, 全角変換	11	MN	「分」	12	ZN	「分」をZ9編集	13	SS	「秒」を全角変換	14	ZS	「秒」をZ9編集, 全角変換	15	SS	「秒」	16	ZS	「秒」をZ9編集	2. I-HRS : 00010101 I-TYP : 'N' I-FORMAT : 'HHHH:MN:SS' ↓ O-HRS : '」0001:01:01 O-RTN-CD : SPACE	
NO	置換規則																																																						
1	HHHH	「時」を全角変換																																																					
2	ZZZZ	「時」をZZZ9編集, 全角変換																																																					
3	HHHH	「時」																																																					
4	ZZZH	「時」をZ9編集																																																					
5	HH	「時」下2桁を全角変換																																																					
6	ZH	「時」下2桁をZ9編集, 全角変換																																																					
7	HH	「時」下2桁																																																					
8	ZH	「時」下2桁をZ9編集																																																					
9	MN	「分」を全角変換																																																					
10	ZN	「分」をZ9編集, 全角変換																																																					
11	MN	「分」																																																					
12	ZN	「分」をZ9編集																																																					
13	SS	「秒」を全角変換																																																					
14	ZS	「秒」をZ9編集, 全角変換																																																					
15	SS	「秒」																																																					
16	ZS	「秒」をZ9編集																																																					
2. VOS3版では、編集された文字列に対して次の処理を行う。			注: 例はVOS3版の場合で、 '「'は'X0A42', '」'は'X'0A41'を表す。																																																				
<p>2.1 I-TYPが'N'で文字列の先頭が機能キャラクタ(X'0A42')の場合、これを削除する。</p> <p>2.2 I-TYPが'N'で文字列の先頭が機能キャラクタ(X'0A41')ではない場合、先頭に機能キャラクタ(X'0A41)を付加する。</p> <p>2.3 I-TYPが'N'で文字列の最後の文字が機能キャラクタ(X'0A41')の場合、これを削除する。</p>																																																							
<注意事項>																																																							
<p>(1) (時間チェック:LXRPIE16)により、入力時間の妥当性をチェックし、リターンコードをそのまま本サブルーチンのリターンコードとする。エラーのときはフォーマットをそのまま出力時間に転記する。</p> <p>(2) 本サブルーチンより、(半角→全角変換:LXRPIC01)、(時間チェック:LXRPIE16)を呼び出す。</p> <p>(3) 2.3において、「文字列の最後の文字」とはその文字より後方にスペースしか存在していない文字を指す。</p>																																																							

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRP1F01

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRP1F01	項目処理	氏名(漢字)チェック	LXRC1F01	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-SHMKJ	N(10)	氏名(漢字)	I
03	I-SHR-KBN	X(1)	処理区分	C
			'1':空白を全角空白にする その他:空白を半角空白にする	
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=O , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-SHMKJ	N(10)	氏名(漢字)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
			SPACE:正常 LXREB001:全角文字として正しくない LXREF001:スペースが間がない LXREF002:スペースが2箇所以上ある LXREF005:全てがスペースである	
処 理 基 準			例	
1. 入力した氏名(漢字)のチェックをする。 1.1 I-SHMKJを(漢字コードチェック:LXRP1B01)を呼び、チェックする。 1.2 リターンコードがスペースの時、I-SHMKJ内のスペースの箇所を数えてチェックする。 2. エラーでなければ以下の編集処理を行う。 2.1 処理区分が'1'の時半角空白を全角空白に置換する。その他のとき全角空白を半角空白に置換する。 2.2 出力する氏名(漢字)は氏と名の間を空白1文字(空白の種類は処理区分に従う)にし、氏の前スペースは左詰めにして除く。			1. I-SHMKJ : '△△山田△太郎' I-SHR-KBN : SPACE ↓ O-SHMKJ : '山田△太郎' O-RTN-CD : SPACE	
<注意事項> (1) 本サブルーチンから(漢字コードチェック:LXRP1B01),(漢字データ左詰め:LXRP1B04),(不要空白削除(漢字データ):LXRP1B09),(漢字データ有効桁数算出:LXRP1B07),(全角空白→半角空白置換:LXRP1B13),(半角空白→全角空白置換:LXRP1B14)を呼び出す。 (2) エラーの場合、I-SHMKJをそのままO-SHMKJに転記する。 (3) 入力する氏名(漢字)の空白は、半角2文字・全角1文字のどちらでも可。				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRP1F02

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRP1F02	項目処理	氏名(半角カナ)チェック	LXRC1F02	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-SHMKN	X(20)	氏名(半角カナ)	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-SHMKN	X(20)	氏名(半角カナ)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
			SPACE:正常	
			LXREA007:半角文字コード以外あり	
			LXREF001:スペースが間がない	
			LXREF002:スペースが2箇所以上ある	
			LXREF005:全てがスペースである	
処 理 基 準			例	
<p>1. 入力した氏名(半角カナ)のチェックをする。</p> <p>1.1 I-SHMKNを(文字コードチェック:LXRP1A01)を呼び、チェックする。</p> <p>1.2 リターンコードがスペースの時、I-SHMKN内のスペースの箇所を数えてチェックする。</p> <p>2. エラーでなければ以下の編集処理を行う。</p> <p>2.1 出力する氏名(半角カナ)は氏と名の間をスペース1文字にし、氏の前スペースは左詰めにして除く。</p>			<p>1. I-SHMKN : '△△ヤマダ△タロウ'</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>O-SHMKN : 'ヤマダ△タロウ'</p> <p>O-RTN-CD : SPACE</p>	
<p><注意事項></p> <p>(1) 本サブルーチンから(文字コードチェック:LXRP1A01), (文字列左詰め:LXRP1A06), (不要空白削除:LXRP1A16), (有効桁数算出:LXRP1A09)を呼び出す。</p> <p>(2) 半角カナ以外の文字でも、半角文字として正しければエラーとはしない。</p> <p>(3) 氏名(半角カナ)の属性は、EUC対応版ではX(40), Unicode対応版ではX(60)である。</p>				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPIF03

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRPIF03	項目処理	氏名(漢字)分離編集	LXRCIF03	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-SHMKJ	N(10)	氏名(漢字)	I
03	I-SHR-KBN	X(1)	処理区分	C
			'1':空白を全角空白にする その他:空白を半角空白にする	
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-SHKJ	N(10)	氏(漢字)	O
03	O-NMKJ	N(10)	名(漢字)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
			SPACE:正常	
			LXREB001:全角文字コード以外あり	
			LXREF001:スペースが間がない	
			LXREF002:スペースが2箇所以上ある	
			LXREF005:全てがスペースである	
処 理 基 準			例	
1. I-SHMKJ を(氏名(漢字)チェック:LXRPIF01)を呼び、チェックする。 2. リターンコードがスペースのとき、氏名(漢字)の分離編集をする。 2.1 氏名(漢字)を氏(漢字)と名(漢字)に分離する。スペースで区切られた前半を O-SHKJ, 後半を O-NMKJ に転記する。 * 氏名(漢字)のスペースは全角1個, 半角2個のどちらでも可。 * 氏名(漢字)の左端のスペースは, 左詰めする。(氏と名の区切りとはみなさない) * 氏(漢字), 名(漢字)のスペースの種類は処理区分に従う。			1. I-SHMKJ : '△山田△太郎' I-SHR-KBN : SPACE ↓ O-SHKJ : '山田' O-NMKJ : '太郎' O-RTN-CD : SPACE	
<注意事項> (1) 本サブルーチンから,(全角空白→半角空白置換:LXRPIB13),(半角空白→全角空白置換:LXRPIB14),(氏名(漢字)チェック:LXRPIF01)を呼び出す。 (2) サブルーチンでエラーとなった場合, リターンコードをそのまま返し, 氏(漢字), 名(漢字)にはスペースを返す。				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRP1F04

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRP1F04	項目処理	氏名(半角カナ)分離編集	LXRC1F04	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-SHMKN	X(20)	氏名(半角カナ)	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-SHKN	X(20)	氏(半角カナ)	O
03	O-NMKN	X(20)	名(半角カナ)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
			SPACE:正常	
			LXREA007:半角文字コード以外あり	
			LXREF001:スペースが間がない	
			LXREF002:スペースが2ヶ所以上ある	
			LXREF005:全てがスペースである	
処 理 基 準			例	
1. I-SHMKN を(氏名(半角カナ)チェック:LXRP1F02)を呼び、チェックする。 2. リターンコードがスペースのとき、氏名(半角カナ)の分離編集をする。 2.1 氏名(半角カナ)を氏(半角カナ)と名(半角カナ)に分離する。スペースで区切られた前半を O-SHKN, 後半を O-NMKN に転記する。 * 氏名(半角カナ)の左端のスペースは、左詰めする。(氏と名の区切りとはみなさない)			1. I-SHMKN : '△△ヒタチタロウ' ↓ O-SHKN : 'ヒタチ' O-NMKN : 'タロウ' O-RTN-CD : SPACE	
<注意事項> (1) 本サブルーチンから、(氏名(半角カナ)チェック:LXRP1F02)を呼び出す。 (2) サブルーチンでエラーとなった場合、リターンコードをそのまま返し、氏(半角カナ)、名(半角カナ)にはスペースを返す。 (3) 氏名(半角カナ)、氏(半角カナ)、名(半角カナ)の属性は、EUC 対応版では X(40)、Unicode 対応版では X(60)である。				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRP1F05

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRP1F05	項目処理	氏名(漢字)結合編集	LXRC1F05	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-SHKJ	N(10)	氏(漢字)	I
03	I-NMKJ	N(10)	名(漢字)	I
03	I-SHR-KBN	X(1)	処理区分	C
			'1':空白を全角空白にする その他:空白を半角空白にする	
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-SHMKJ	N(10)	氏名(漢字)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
			SPACE:正常 LXREB001:全角文字コード以外あり LXREF003:切り捨てが発生した LXREF005:全てがスペースである	
処 理 基 準			例	
<p>1. I-SHKJ, I-NMKJを(漢字コードチェック:LXRP1B01)を呼びチェックする。</p> <p>2. リターンコードがともにスペースの場合、氏名(漢字)の結合編集をする。</p> <p>2.1 氏(漢字)と名(漢字)を結合する。 氏名(漢字)は 氏+空白1文字+名+空白n文字 となるように編集する。</p> <p>2.2 氏名(漢字)の空白の種類は処理区分に従う。</p> <p>*LXREF003:氏名が長すぎる場合は、超えた分を切り捨てて氏名(漢字)にセットする。</p>			<p>1. I-SHKJ : '日立' I-NMKJ : '花子' I-SHR-KBN : SPACE ↓ O-SHMKJ : '日立△花子' O-RTN-CD : SPACE</p> <p>2. I-SHKJ : '日立' I-NMKJ : '花子' I-SHR-KBN : '1' ↓ O-SHMKJ : '日立▲花子' O-RTN-CD : SPACE</p> <p>△:半角空白2個 ▲:全角空白1個</p>	
<p><注意事項></p> <p>(1) 氏(漢字), 名(漢字)のそれぞれの空白は削除する。</p> <p>(2) 本サブルーチンから,(漢字コードチェック:LXRP1B01),(空白削除(漢字データ):LXRP1B08),(全角空白→半角空白置換:LXRP1B13),(半角空白→全角空白置換:LXRP1B14)を呼び出す。</p> <p>(3) エラーの場合、氏名(漢字)にはスペースを返す。</p>				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRP1F06

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRP1F06	項目処理	氏名(半角カナ)結合編集	LXRC1F06	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-SHKN	X(20)	氏(半角カナ)	I
03	I-NMKN	X(20)	名(半角カナ)	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-SHMKN	X(20)	氏名(半角カナ)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード SPACE:正常 LXREA007:半角文字コード以外あり LXREF003:切り捨てが発生した LXREF005:全てがスペースである	R
処 理 基 準			例	
<p>1. I-SHKN, I-NMKN を(文字コードチェック:LXRP1A01)を呼びチェックする。</p> <p>2. リターンコードがともにスペースの場合、氏名(半角カナ)の結合編集をする。</p> <p>2.1 氏(半角カナ)と名(半角カナ)を結合する。 氏名(半角カナ)は 氏+半角空白1文字+名+半角空白n文字 となるように編集する。</p> <p>*LXREF003:氏名が長すぎる場合は、超えた分を切り捨てて氏名(半角カナ)にセットする。</p>			<p>1. I-SHKN : 'ヒタチ' I-NMKN : '知ウ' ↓ O-SHMKN : 'ヒタチ△知ウ' O-RTN-CD : SPACE</p>	
<p><注意事項></p> <p>(1) 氏(半角カナ), 名(半角カナ)のそれぞれの空白は削除する。</p> <p>(2) 本サブルーチンから, (文字コードチェック:LXRP1A01), (空白削除:LXRP1A15)を呼び出す。</p> <p>(3) 氏名(半角カナ), 氏(半角カナ), 名(半角カナ)の属性は, EUC 対応版では X(40), Unicode 対応版では X(60)である。</p>				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPIF07

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRPIF07	項目処理	郵便番号チェック/入力編集	LXRCIF07	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-ZIPCD	X(6)	郵便番号	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-ZIPCD	X(5)	郵便番号	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
			SPACE:正常	
			LXREF004:入力データの形式不正	
処 理 基 準		例		
<p>1. 郵便番号のチェックを行う。</p> <p>1.1 入力として正しいのは、</p> <p> [数字3桁]</p> <p> [数字5桁]</p> <p> [数字3桁 + '-' + 数字2桁]</p> <p> [数字3桁 + 'Δ' + 数字4桁]</p> <p> の4通りとする。</p> <p> (前後のスペースはあってもよい。)</p> <p>2. 郵便番号が正しければ、以下の編集を行う。</p> <p>2.1 I-ZIPCDが数字3桁または5桁の場合は、左詰めする。</p> <p>2.2 I-ZIPCDが数字の間に '-' または空白を含む場合は、それを取り除く。</p>		<p>1. I-ZIPCD : '102-99'</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>O-ZIPCD : '10299'</p> <p>O-RTN-CD : SPACE</p>		
<p><注意事項></p> <p>(1) 本サブルーチンから (文字列左詰め:LXRPIA06) , (指定文字列削除:LXRPIA14) , (空白削除:LXRPIA15) を呼び出す。</p>				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRP1F08

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRP1F08	項目処理	郵便番号チェック/出力編集	LXRC1F08	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-ZIPCD	X(5)	郵便番号	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-ZIPCD	X(6)	郵便番号	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード SPACE:正常 LXREF004:入力データの形式不正	R
処 理 基 準		例		
<p>1. 郵便番号のチェックを行う。</p> <p>1.1 入力として正しいのは、 [数字3桁+空白2桁] [数字5桁] の2通りとする。</p> <p>1.2 その他はエラーとする。I-ZIPCD をそのまま O-ZIPCD に転記し、エラーコード'LXREF004'をリターンコードとして返す。</p> <p>2. 郵便番号が正しければ、以下の編集を行う。</p> <p>2.1 I-ZIPCD が数字3桁の場合は、I-ZIPCD をそのまま O-ZIPCD に転記する。</p> <p>2.2 I-ZIPCD が数字5桁の場合は、 「先頭の3桁」+「-」+「残りの2桁」 となるようにする。</p>		<p>1. I-ZIPCD : '00101' ↓ O-ZIPCD : '001-01' O-RTN-CD : SPACE</p> <p>2. I-ZIPCD : '123' ↓ O-ZIPCD : '123' O-RTN-CD : SPACE</p> <p>3. I-ZIPCD : '1234' ↓ O-ZIPCD : '1234' O-RTN-CD : 'LXREF004'</p>		
<注意事項>				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPIF09

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRPIF09	項目処理	金額編集	LXRCIF09	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-TYP	X(1)	タイプ ('X', 'Z', 'N' に限定)	O T
03	I-LENG	9(2)	長さ (タイプが 'X', 'Z' : 1以上60以下に限定 'N' : 1以上30以下に限定)	O L
03	I-MINUS-CHR	X(6)	マイナスキャラクタ	C
03	I-KNGK	P(18)	入力金額	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-KNGK	X(60)	出力金額	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード SPACE: 正常 LXREF006: NUMERIC エラー LXREF009: タイプが 'X', 'Z', 'N' 以外 LXREF004: 入力データ不正 LXREF008: 機能キャラクタ不正 LXREF007: 頭切れが起こった	R
処 理 基 準			例	
(次紙参照)			1. I-TYP : 'X' I-LENG : 5 I-MINUS-CHR : '-' I-KNGK : -123 ↓ O-KNGK : '△-123' O-RTN-CD : SPACE 2. I-TYP : 'Z' I-LENG : 5 I-MINUS-CHR : '-' I-KNGK : 123456 ↓ O-KNGK : ' 3,456' O-RTN-CD : 'LXREF007' 3. I-TYP : 'N' I-LENG : 4 I-MINUS-CHR : '▲' I-KNGK : -12 ↓ O-KNGK : '△▲12' O-RTN-CD : SPACE	
<注意事項> (1) 本サブルーチンから、(文字列右詰め:LXRP1A07)、(空白削除:LXRP1A15)、(半角→全角変換:LXRP1C01)、(漢字データ右詰め:LXRP1B05)、(空白削除(漢字データ):LXRP1B08)を呼び出す。 (2) リターンコードがスペースでない場合、出力金額にはスペースを返す。ただし、リターンコードが'LXREF007'の場合は処理を続行し、出力金額には編集結果文字列をそのまま返す。 (3) EUC対応版、Unicode対応版で出力金額に半角カナが含まれる場合、文字数は実バイト長(EUC: 2バイト/文字、Unicode: 3バイト/文字)で指定する。				

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIF09	項目処理	金額編集	LXRCIF09

1. 以下の順でチェックを行う。

NO	チェック	リターンコード
1	長さ、金額が数字のみである	LXREF006
2	1 ≤ 長さ ≤ 60 (30)	LXREF004
3	タイプが'X', 'Z', 'N'のどれかである	LXREF009

エラーの場合、出力金額はスペースとする。

2. タイプが'X'の場合、以下の処理を行う。

- 2.1 入力金額を ZZZ, ZZZ, ZZZ, ZZZ, ZZZ, ZZ9 編集する。
- 2.2 マイナスキャラクタの先頭と末尾が X'0A42', X'0A41' の場合
入力金額が負数の場合、数値の前方にマイナスキャラクタを付加する。
入力金額が正数の場合、数値の後方に X'0A41' 2個を付加する（出力位置を揃えるため）。
- 2.3 マイナスキャラクタ中に機能キャラクタが存在しない場合
入力金額が負数の場合、数値の前方にマイナスキャラクタを付加する。
- 2.4 マイナスキャラクタ中に機能キャラクタが不正に存在する場合(*1)
リターンコードに' LXREF008' を送る。
出力金額に SPACE を送る。
- 2.5 (文字列右詰め:LXRPIA07) を用いて長さ (I-LENG) に合わせて編集する。この際文字列の頭切れを起こすとリターンコードに' LXREF007' を送る。

3. タイプが'Z'の場合、以下の処理を行う。

- 3.1 入力金額を ----, ---, ---, ---, ---, --9 編集する。
- 3.2 (文字列右詰め:LXRPIA07) を用いて長さ (I-LENG) に合わせて編集する。この際文字列の頭切れを起こすとリターンコードに' LXREF007' を送る。

4. VOS3 版ではタイプが'N'の場合、以下の処理を行う。

- 4.1 入力金額を ZZZZZZZZZZZZZZZ9 編集する。
- 4.2 マイナスキャラクタの先頭と末尾が X'0A42', X'0A41' の場合
入力金額が負数の場合、数値の前方にマイナスキャラクタの中央2バイトを付加する。
- 4.3 マイナスキャラクタ中に機能キャラクタが存在しない場合
入力金額が負数の場合、数値の前方にマイナスキャラクタを付加する。
入力金額が正数の場合、数値の後方に X'0A41' 2個を付加する（出力位置を揃えるため）。
- 4.4 マイナスキャラクタ中に機能キャラクタが不正に存在する場合(*1)
リターンコードに' LXREF008' を送る。
出力金額に SPACE を送る。
- 4.5 (半角→全角変換:LXRPIA01) を用いて全角コードに変換する。
- 4.6 (漢字データ右詰め:LXRPIB05) を用いて長さ (I-LENG) に合わせて編集する。この際文字列の頭切れを起こすとリターンコードに' LXREF007' を送る。

4. PC・UNIX 版ではタイプが'N'の場合、以下の処理を行う。

- 4.1 入力金額を ZZZZZZZZZZZZZZZ9 編集する。
- 4.2 (半角→全角変換:LXRPIA01) を用いて全角コードに変換する。
- 4.3 入力金額が負数の場合、数値の前方にマイナスキャラクタを付加する。
- 4.4 (文字列右詰め:LXRPIA07) を用いて長さ (I-LENG) に合わせて編集する。この際文字列の頭切れを起こすとリターンコードに' LXREF007' を送る。

*1: マイナスキャラクタの先頭に X'0A42' があるが後方に X'0A41' がない、または先頭に X'0A42' がないが後方に X'0A41' がある場合。

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPIF10

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRPIF10	項目処理	郵便番号チェック/入力編集 (5桁及び7桁)	LXRCIF10	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-ZIPCD	X(8)	郵便番号	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-ZIPCD	X(7)	郵便番号	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード SPACE:正常 LXREF004:入力データの形式が不当	R
処 理 基 準		例		
<p>1. (郵便番号チェック/入力編集(7桁):LXRPIF12)を呼び出して、郵便番号の7桁チェックを行う。リターンコードがスペースなら、出力をO-ZIPCDに設定する。</p> <p>2. リターンコードがスペースでない場合、以下の処理を行なう。</p> <p>2.1 (郵便番号チェック/入力編集:LXRPIF07)を呼び出して、リターンコードがスペースなら、出力をO-ZIPCDに設定する。</p> <p>2.2 2.1の結果リターンコードがスペースでないとき、エラーコード'LXREF004'をリターンコードとして返す。</p>		<p>1. I-ZIPCD : '123-4567' ↓ O-ZIPCD : '1234567' O-RTN-CD : SPACE</p> <p>2. I-ZIPCD : '123 4567' ↓ O-ZIPCD : '1234567' O-RTN-CD : SPACE</p> <p>3. I-ZIPCD : '102-99' ↓ O-ZIPCD : '10299' O-RTN-CD : SPACE</p>		
<p><注意事項></p> <p>(1) 本サブルーチンから(郵便番号チェック/入力編集(7桁):LXRPIF12), (郵便番号チェック/入力編集:LXRPIF07)を呼び出す。</p>				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPIF11

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRPIF11	項目処理	郵便番号チェック／出力編集 (5桁及び7桁)	LXRCIF11	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-ZIPCD	X(7)	郵便番号	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-ZIPCD	X(8)	郵便番号	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード SPACE:正常 LXREF004:入力データの形式が不当 LXREF010:入力データの形式が不当 (郵便番号7桁)	R
処 理 基 準			例	
<p>1. (郵便番号チェック／出力編集(7桁):LXRPIF13)を呼び出して、郵便番号の7桁チェックする。リターンコードがスペースなら、出力をO-ZIPCDに設定する。</p> <p>2. リターンコードがスペースでない場合、以下の処理を行なう。</p> <p>2.1 I-ZIPCDの6,7桁目が全てスペースであるかチェックする。</p> <p>(1) 6,7桁目が全てスペースである場合 (郵便番号チェック／出力編集:LXRPIF08)を呼び出して、リターンコードがスペースなら、出力をO-ZIPCDに設定する。リターンコードがスペースでないとき、I-ZIPCDをそのままO-ZIPCDに転記し、エラーコード'LXREF004'をリターンコードとして返す。</p> <p>(2) 6,7桁目がスペースでない場合 I-ZIPCDをそのままO-ZIPCDに転記し、エラーコード'LXREF010'をリターンコードとして返す。</p>			<p>1. I-ZIPCD : '00101' ↓ O-ZIPCD : '001-01' O-RTN-CD : SPACE</p> <p>2. I-ZIPCD : '0010101' ↓ O-ZIPCD : '001-0101' O-RTN-CD : SPACE</p>	
<p><注意事項></p> <p>(1) 本サブルーチンから(郵便番号チェック／出力編集(7桁):LXRPIF13), (郵便番号チェック／出力編集:LXRPIF08)を呼び出す。</p>				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPIF12

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRPIF12	項目処理	郵便番号チェック/入力編集 (7桁)	LXRCIF12	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-ZIPCD	X(8)	郵便番号(7桁)	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-ZIPCD	X(7)	郵便番号(7桁)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード SPACE:正常 LXREF010:入力データの形式不正 (郵便番号7桁)	R
処 理 基 準			例	
<p>1. (文字列左詰め:LXRPIA06) を呼び出して、郵便番号を左詰めする。</p> <p>2. 郵便番号のチェックを行なう。</p> <p>2.1 入力が以下の3通りのとき、次の処理を行なう。 [数字7桁 + ' '] [数字3桁 + '-' + 数字4桁] [数字3桁 + ' ' + 数字4桁]</p> <p>(1) I-ZIPCDが数字の間に '-' または空白を含む場合は、それを取り除き、出力する。</p> <p>2.2 入力がどれにもあてはまらないとき、エラーコード 'LXREF010' をリターンコードとして返す。</p>			<p>1. I-ZIPCD : '123-4567' ↓ O-ZIPCD : '1234567' O-RTN-CD : SPACE</p> <p>2. I-ZIPCD : '123 4567' ↓ O-ZIPCD : '1234567' O-RTN-CD : SPACE</p>	
<p><注意事項></p> <p>(1) 本サブルーチンから (文字列左詰め:LXRPIA06) , (指定文字列削除:LXRPIA14) , (空白削除:LXRPIA15) を呼び出す。</p>				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRP1F13

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRP1F13	項目処理	郵便番号チェック/出力編集 (7桁)	LXRCIF13	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-ZIPCD	X(7)	郵便番号(7桁)	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-ZIPCD	X(8)	郵便番号(7桁)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード SPACE:正常 LXREF010:入力データの形式不正 (郵便番号7桁)	R
処 理 基 準		例		
<p>1. 郵便番号のチェックを行なう。</p> <p>1.1 入力が以下のとき、次の処理を行なう。 [数字7桁]</p> <p>(1) I-ZIPCD を [先頭の3桁 + '-' + 残りの4桁] となるようにし、O-ZIPCD に設定する。</p> <p>1.2 入力がどれにもあてはまらないとき、I-ZIPCD をそのままO-ZIPCD に転記し、エラーコード'LXREF010'をリターンコードとして返す。</p>		<p>1. I-ZIPCD : '0010101' ↓ O-ZIPCD : '001-0101' O-RTN-CD : SPACE</p> <p>2. I-ZIPCD : '12345 ' ↓ O-ZIPCD : '12345 ' O-RTN-CD : 'LXREF010'</p>		
<p><注意事項></p>				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPIF14

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRPIF14	項目処理	氏名(漢字)チェック (含外字)	LXRCIF14	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-SHMKJ	N(10)	氏名(漢字)	I
03	I-SHR-KBN	X(1)	処理区分	C
			'1':空白を全角空白にする その他:空白を半角空白にする	
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-SHMKJ	N(10)	氏名(漢字)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
			SPACE:正常	
			LXREB006:全角文字(含外字)コード 以外あり	
			LXREF001:スペースが間にない	
			LXREF002:スペースが2ヶ所以上ある	
			LXREF005:全てがスペースである	
処 理 基 準		例		
<ol style="list-style-type: none"> 入力した氏名(漢字)のチェックをする。 <ol style="list-style-type: none"> I-SHMKJを(漢字コードチェック(含外字):LXRPIB02)を呼び出し、チェックする。 リターンコードがスペースの時、I-SHMKJ内のスペースの数を数えてチェックする。 エラーでなければ以下の編集処理を行なう。 <ol style="list-style-type: none"> 処理区分が'1'の時半角空白を全角空白に置換する。その他のとき全角空白を半角空白に置換する。 出力する氏名(漢字)は氏と名の間を空白1文字(空白の種類は処理区分に従う)にし、氏の前スペースは左詰めにして除く。 		<ol style="list-style-type: none"> I-SHMKJ : '△△山田△太郎' I-SHR-KBN : SPACE ↓ O-SHMKJ : '山田△太郎' O-RTN-CD : SPACE 		
<p><注意事項></p> <ol style="list-style-type: none"> 本サブルーチンから(漢字コードチェック(含外字):LXRPIB02),(漢字データ左詰め:LXRPIB04),(不要空白削除(漢字データ):LXRPIB09),(漢字データ有効桁数算出:LXRPIB07),(全角空白→半角空白置換:LXRPIB13),(半角空白→全角空白置換:LXRPIB14)を呼び出す。 エラーの場合、I-SHMKJをそのままO-SHMKJに転記する。 入力する氏名(漢字)の空白は、半角2文字・全角1文字のどちらでも可。 				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRP15

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRP15	項目処理	氏名(漢字)分離編集 (含外字)	LXRCIF15	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-SHMKJ	N(10)	氏名(漢字)	I
03	I-SHR-KBN	X(1)	処理区分	C
			'1':空白を全角空白にする その他:空白を半角空白にする	
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-SHKJ	N(10)	氏(漢字)	O
03	O-NMKJ	N(10)	名(漢字)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
			SPACE:正常	
			LXREB006:全角文字(含外字)コード以外あり	
			LXREF001:スペースが間がない	
			LXREF002:スペースが2ヶ所以上ある	
			LXREF005:全てがスペースである	
処 理 基 準			例	
1. I-SHMKJを(氏名(漢字)チェック(含外字):LXRP15)を呼び出しチェックする。 2. リターンコードがスペースのとき、氏名(漢字)の分離編集をする。 2.1 入力した氏名(漢字)を氏(漢字)と名(漢字)に分離する。スペースで区切られた前半をO-SHKJ,後半をO-NMKJに転記する。 *入力する氏名(漢字)のスペースは全角1個,半角2個のどちらでも可。 *入力する氏名(漢字)の左端のスペースは,左詰めする。(氏と名の区切りとはみなさない) *出力する氏(漢字)と名(漢字)のスペースの種類は処理区分に従う。			1. I-SHMKJ : '△山田△太郎' I-SHR-KBN : SPACE ↓ O-SHKJ : '山田' O-NMKJ : '太郎' O-RTN-CD : SPACE	
<注意事項> (1) 本サブルーチンから,(全角空白→半角空白置換:LXRP13),(半角空白→全角空白置換:LXRP14),(氏名(漢字)チェック(含外字):LXRP15)を呼び出す。 (2) エラーの場合,リターンコードをそのまま返し,氏(漢字),名(漢字)にはスペースを返す。				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRP16

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRP16	項目処理	氏名(漢字)結合編集 (含外字)	LXRCIF16	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-SHKJ	N(10)	氏(漢字)	I
03	I-NMKJ	N(10)	名(漢字)	I
03	I-SHR-KBN	X(1)	処理区分	C
			'1':空白を全角空白にする その他:空白を半角空白にする	
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-SHMKJ	N(10)	氏名(漢字)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
			SPACE:正常	
			LXREB006:全角文字(含外字)コード 以外あり	
			LXREF003:切り捨てが発生した	
			LXREF005:全てがスペースである	
処 理 基 準			例	
1. I-SHKJ, I-NMKJ を(漢字コードチェック(含外字):LXRP1B02)を呼びチェックする。 2. リターンコードがともにスペースの場合, 氏名(漢字)の結合編集をする。 2.1 入力した氏(漢字)と名(漢字)を結合する。 出力する氏名(漢字)は 氏+空白1文字+名+空白n文字 となるように編集する。 2.2 出力する氏名(漢字)の空白の種類は処理区分に従う。			1. I-SHKJ : '日立' I-NMKJ : '花子' I-SHR-KBN : SPACE ↓ O-SHMKJ : '日立△花子' O-RTN-CD : SPACE 2. I-SHKJ : '日立' I-NMKJ : '花子' I-SHR-KBN : '1' ↓ O-SHMKJ : '日立▲花子' O-RTN-CD : SPACE △:半角空白2個 ▲:全角空白1個	
<注意事項> (1) 入力した氏(漢字), 名(漢字)のそれぞれの空白は削除する。 (2) 本サブルーチンから,(漢字コードチェック(含外字):LXRP1B02),(空白削除(漢字データ):LXRP1B08),(全角空白→半角空白置換:LXRP1B13),(半角空白→全角空白置換:LXRP1B14)を呼び出す。 (3) エラーの場合, 氏名(漢字)にはスペースを返す。 (4) 氏名が長すぎる場合は, 超えた分を切り捨てて氏名(漢字)にセットする。				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRP1G01

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRP1G01	コード変換	性別コードチェック/変換	LXRC1G01	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-SEX-CD	X(1)	性別コード	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=O , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-SEX-AL	X(6)	性別 (英字)	O
03	O-SEX-KJ	N(1)	性別 (漢字)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
			SPACE: 正常終了	
			LXREG001: コード変換エラー	
処 理 基 準		例		
1. JISコード表により性別コードを変換する。 (JIS X 0303)		1. I-SEX-CD : ' 1' ↓ O-SEX-AL : ' MALE' O-SEX-KJ : ' 男' O-RTN-CD : SPACE 2. I-SEX-CD : ' 2' ↓ O-SEX-AL : ' FEMALE' O-SEX-KJ : ' 女' O-RTN-CD : SPACE 3. I-SEX-CD : ' 3' ↓ O-SEX-AL : SPACE O-SEX-KJ : SPACE O-RTN-CD : ' LXREG001'		
<注意事項> (1) エラーの場合, 性別(英字), 性別(漢字)にはスペースを返す。				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPIG02

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRPIG02	コード変換	学歴区分コードチェック/変換	LXRCIG02	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-GRKBN-CD	X(2)	学歴区分コード	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=O , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-GRKBN-NMKJ	N(30)	学歴区分名(漢字)	O
03	O-GRKBN-NMKN	X(30)	学歴区分名(半角カナ)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
			SPACE:正常終了	
			LXREG001:コード変換エラー	
処 理 基 準		例		
1. JISコード表により学歴区分コードを変換する。 (JIS X 0407)		1. I-GRKBN-CD : '2' ↓ O-GRKBN-NMKJ : '短大卒' O-GRKBN-NMKN : 'タンダイツ' O-RTN-CD : SPACE		
<p><注意事項></p> <p>(1) JIS X 0407 は平成3年10月1日で廃止となった。</p> <p>(2) エラーの場合、学歴区分名(漢字)、学歴区分名(半角カナ)にはスペースを返す。</p> <p>(3) 学歴区分名(半角カナ)の属性は、EUC 対応版ではX(60)、Unicode 対応版ではX(90)である。</p>				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRP1G04

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRP1G04	コード変換	地目コードチェック/変換	LXRC1G04	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-CTGL-CD	X(2)	地目コード	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-CTGL-NMKJ	N(30)	地目(漢字)	O
03	O-CTGL-NMKN	X(30)	地目(半角カナ)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
			SPACE:正常終了	
			LXREG001:コード変換エラー	
処 理 基 準		例		
1. JISコード表により地目コードを変換する。 (JIS X 0411)		1. I-CTGL-CD : '10' ↓ O-CTGL-NMKJ : '宅地' O-CTGL-NMKN : 'タチ' O-RTN-CD : SPACE		
<注意事項> (1) エラーの場合、地目(漢字)、地目(半角カナ)にはスペースを返す。 (2) 地目(半角カナ)の属性は、EUC対応版ではX(60)、Unicode対応版ではX(90)である。				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPIG05

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRPIG05	コード変換	勘定科目コードチェック/変換	LXRCIG05	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-ACCNT-CD	X(4)	勘定科目コード	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-ACCNT-NMKJ	N(30)	勘定科目名(漢字)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
			SPACE:正常終了	
			LXREG001:コード変換エラー	
処 理 基 準		例		
1. J I Sコード表により勘定科目コードを変換する。 (JIS X 0406)		1. I-ACCNT-CD : '2000' ↓ O-ACCNT-NMKJ : '固定資産' O-RTN-CD : SPACE		
<注意事項> (1) エラーの場合、勘定科目名(漢字)にはスペースを返す。				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRP1G09

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRP1G09	コード変換	フラグチェック/変換	LXRC1G09

入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-FLG	X(1)	入力フラグ	I

出 力 (区分: OUTPUT-PARM=O , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-FLG-AL	X(3)	出力フラグ(英字)	O
03	O-FLG-KJ	N(1)	出力フラグ(漢字)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード SPACE:正常終了 LXREG001:コード変換エラー	R

処 理 基 準	例																				
<p>1. 以下の仕様でフラグを変換する。</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>I-FLG</th> <th>O-FLG-AL</th> <th>O-FLG-KJ</th> <th>O-RTN-CD</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>SPACE</td> <td>'OFF'</td> <td>'無'</td> <td>SPACE</td> </tr> <tr> <td>'0'</td> <td>'OFF'</td> <td>'無'</td> <td>SPACE</td> </tr> <tr> <td>'1'</td> <td>'ON'</td> <td>'有'</td> <td>SPACE</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>SPACE</td> <td>SPACE</td> <td>'LXREG001'</td> </tr> </tbody> </table>	I-FLG	O-FLG-AL	O-FLG-KJ	O-RTN-CD	SPACE	'OFF'	'無'	SPACE	'0'	'OFF'	'無'	SPACE	'1'	'ON'	'有'	SPACE	その他	SPACE	SPACE	'LXREG001'	<p>1. I-FLG : '1' ↓ O-FLG-AL : 'ON' O-FLG-KJ : '有' O-RTN-CD : SPACE</p> <p>2. I-FLG : '0' ↓ O-FLG-AL : 'OFF' O-FLG-KJ : '無' O-RTN-CD : SPACE</p> <p>3. I-FLG : '3' ↓ O-FLG-AL : SPACE O-FLG-KJ : SPACE O-RTN-CD : 'LXREG001'</p>
I-FLG	O-FLG-AL	O-FLG-KJ	O-RTN-CD																		
SPACE	'OFF'	'無'	SPACE																		
'0'	'OFF'	'無'	SPACE																		
'1'	'ON'	'有'	SPACE																		
その他	SPACE	SPACE	'LXREG001'																		

<注意事項>
 (1) エラーの場合、出力フラグ(英字)、出力フラグ(漢字)にはスペースを返す。

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRP1G10

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRP1G10	コード変換	都道府県コードチェック/変換	LXRCIG10	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-TDFK-CD	X(2)	入力都道府県コード	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=O , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-TDFK-NMKJ	N(4)	出力都道府県名(漢字)	O
03	O-TDFK-NMKN	X(10)	出力都道府県名(半角カナ)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
			SPACE:正常終了	
			LXREG001:コード変換エラー	
処 理 基 準		例		
1. JISコード表により都道府県コードを変換する。 (JIS X 0401)		1. I-TDFK-CD : '40' ↓ O-TDFK-NMKJ : '福岡県' O-TDFK-NMKN : 'フクオカケン' O-RTN-CD : SPACE 2. I-TDFK-CD : '48' ↓ O-TDFK-NMKJ : SPACE O-TDFK-NMKN : SPACE O-RTN-CD : 'LXREG001'		
<注意事項> (1) エラーの場合、出力都道府県名(漢字)、出力都道府県名(半角カナ)にはスペースを返す。 (2) 出力都道府県名(半角カナ)の属性は、EUC対応版ではX(20)、Unicode対応版ではX(30)である。				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPIG11

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名																
LXRPIG11	コード変換	有無チェック/変換	LXRCIG11																
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)																			
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分															
03	I-UM	X(1)	入力有無	I															
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)																			
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分															
03	O-UM-KJ	N(1)	出力有無 (漢字)	O															
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード SPACE: 正常終了 LXREG001: コード変換エラー	R															
処 理 基 準		例																	
<p>1. 以下の仕様でフラグを変換する。</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>I-UM</th> <th>O-UM-KJ</th> <th>O-RTN-CD</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>SPACE</td> <td>'無'</td> <td>SPACE</td> </tr> <tr> <td>'0'</td> <td>'無'</td> <td>SPACE</td> </tr> <tr> <td>'1'</td> <td>'有'</td> <td>SPACE</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>SPACE</td> <td>'LXREG001'</td> </tr> </tbody> </table>		I-UM	O-UM-KJ	O-RTN-CD	SPACE	'無'	SPACE	'0'	'無'	SPACE	'1'	'有'	SPACE	その他	SPACE	'LXREG001'	<p>1. I-UM : '0' ↓ O-UM-KJ : '無' O-RTN-CD : SPACE</p> <p>2. I-UM : '1' ↓ O-UM-KJ : '有' O-RTN-CD : SPACE</p> <p>3. I-UM : '3' ↓ O-UM-KJ : SPACE O-RTN-CD : 'LXREG001'</p>		
I-UM	O-UM-KJ	O-RTN-CD																	
SPACE	'無'	SPACE																	
'0'	'無'	SPACE																	
'1'	'有'	SPACE																	
その他	SPACE	'LXREG001'																	
<p><注意事項> (1) エラーの場合、出力有無(漢字)にはスペースを返す。</p>																			

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRP1G12

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名																					
LXRP1G12	コード変換	可否チェック/変換	LXRC1G12																					
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)																								
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分																				
03	I-KAHI	X(1)	入力可否	I																				
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)																								
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分																				
03	O-KAHI-AL	X(2)	出力可否(英字)	O																				
03	O-KAHI-KJ	N(1)	出力可否(漢字)	O																				
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード SPACE:正常終了 LXREG001:コード変換エラー	R																				
処 理 基 準		例																						
<p>1. 以下の仕様で可否を変換する。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>I-KAHI</th> <th>O-KAHI-AL</th> <th>O-KAHI-KJ</th> <th>O-RTN-CD</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>SPACE</td> <td>'NG'</td> <td>'否'</td> <td>SPACE</td> </tr> <tr> <td>'0'</td> <td>'NG'</td> <td>'否'</td> <td>SPACE</td> </tr> <tr> <td>'1'</td> <td>'OK'</td> <td>'可'</td> <td>SPACE</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>SPACE</td> <td>SPACE</td> <td>'LXREG001'</td> </tr> </tbody> </table>		I-KAHI	O-KAHI-AL	O-KAHI-KJ	O-RTN-CD	SPACE	'NG'	'否'	SPACE	'0'	'NG'	'否'	SPACE	'1'	'OK'	'可'	SPACE	その他	SPACE	SPACE	'LXREG001'	<p>1. I-KAHI : '1' ↓ O-KAHI-AL : 'OK' O-KAHI-KJ : '可' O-RTN-CD : SPACE</p> <p>2. I-KAHI : '0' ↓ O-KAHI-AL : 'NG' O-KAHI-KJ : '否' O-RTN-CD : SPACE</p> <p>3. I-KAHI : '3' ↓ O-KAHI-AL : SPACE O-KAHI-KJ : SPACE O-RTN-CD : 'LXREG001'</p>		
I-KAHI	O-KAHI-AL	O-KAHI-KJ	O-RTN-CD																					
SPACE	'NG'	'否'	SPACE																					
'0'	'NG'	'否'	SPACE																					
'1'	'OK'	'可'	SPACE																					
その他	SPACE	SPACE	'LXREG001'																					
<p><注意事項> (1) エラーの場合、出力可否(英字)、出力可否(漢字)にはスペースを返す。</p>																								

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRP1Z03

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRP1Z03	演算	平方根算出	LXRC1Z03	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-NUM	P(10,1)	数値	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-NUM	P(10,1)	数値	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
			SPACE:正常終了	
			LXREZ009:NUMERICエラー	
			LXREZ010:入力数値が負である	
処 理 基 準		例		
1. 入力された数値データの平方根を求める。		1. I-NUM : 1234567890.1 ↓ O-NUM : 35136.4 O-RTN-CD : SPACE		
<注意事項> (1) 算出した結果は、小数第2位で四捨五入する。				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRP1Z04

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名																																					
LXRP1Z04	項目処理	チェックディジット計算	LXRC1Z04																																					
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)																																								
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分																																				
03	I-LENG	P(2)	長さ	I L																																				
03	I-NUM	X(37)	数字列	I																																				
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=O , RTN-CODE=R)																																								
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分																																				
03	O-STR	X(38)	文字列	O																																				
03	O-CHK-DGT	X(1)	チェックディジット	O																																				
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R																																				
			SPACE:正常終了																																					
			LXREZ009:NUMERIC エラー																																					
			LXREZ011:入力長さが範囲外																																					
			LXREZ008:入力数字列に数字以外がある																																					
処 理 基 準		例																																						
1. 入力された数値データ (最大 37 バイト) より, チェックディジット (モジュラス 11) を求め出力する。		1. I-LENG : 5 I-NUM : '12345' ↓ O-STR : '123455' O-CHK-DGT : '5' O-RTN-CD : SPACE (計算例) <table style="margin-left: 40px;"> <tr> <td>データ</td> <td>重み</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>× 6</td> <td>=</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>× 5</td> <td>=</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>× 4</td> <td>=</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>× 3</td> <td>=</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>× 2</td> <td>=</td> <td>10 (+)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: right;">50</td> </tr> <tr> <td>50</td> <td>÷ 11</td> <td>=</td> <td>4...6</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>- 6</td> <td>=</td> <td>5</td> </tr> </table>			データ	重み			1	× 6	=	6	2	× 5	=	10	3	× 4	=	12	4	× 3	=	12	5	× 2	=	10 (+)				50	50	÷ 11	=	4...6	11	- 6	=	5
データ	重み																																							
1	× 6	=	6																																					
2	× 5	=	10																																					
3	× 4	=	12																																					
4	× 3	=	12																																					
5	× 2	=	10 (+)																																					
			50																																					
50	÷ 11	=	4...6																																					
11	- 6	=	5																																					
<p><注意事項></p> <p>(1) 1 ≤ 入力バイト長 ≤ 37 の範囲外の場合は, 結果は評価しない。</p> <p>(2) 重みは, 最右端より上位桁に向かって 2, 3, 4, 5, 6, 7 の繰り返しとする。</p> <p>(3) 剰余が 0, 1 の場合, チェックディジットは 0 とする。2~10 の場合は, (11-剰余) をチェックディジットとする。</p>																																								

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRP1Z05

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRP1Z05	単位変換	インチ→センチメートル変換	LXRC1Z05	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-DSTIN	P(6,2)	距離 (インチ)	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-DSTCM	P(7,4)	距離 (センチメートル)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
処 理 基 準		例		
1. インチ単位の数値データをセンチメートル単位の数値データに変換する。		1. I-DSTIN : 12.15 ↓ O-DSTCM : 30.8610 O-RTN-CD : SPACE		
<p><注意事項></p> <p>(1) 1インチ=2.54cmとして変換する。</p> <p>(2) 結果は、小数点以下5桁で四捨五入する。</p>				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRP1Z06

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRP1Z06	単位変換	センチメートル→インチ変換	LXRC1Z06	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-DSTCM	P(6,2)	距離 (センチメートル)	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-DSTIN	P(6,4)	距離 (インチ)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
処 理 基 準		例		
1. センチメートル単位の数値データをインチ単位の数値データに変換する。		1. I-DSTCM : 12.15 ↓ O-DSTIN : 4.7835 O-RTN-CD : SPACE		
<p><注意事項></p> <p>(1) 1インチ=2.54cmとして変換する。</p> <p>(2) 結果は、小数点以下5桁で四捨五入する。</p>				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRP1Z07

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRP1Z07	単位変換	ヤード→メートル変換	LXRC1Z07	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-DSTYD	P(6,2)	距離 (ヤード)	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-DST	P(6,4)	距離 (メートル)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
処 理 基 準		例		
1. ヤード単位の数値データをメートル単位の数値データに変換する。		1. I-DSTYD : 12.15 ↓ O-DST : 11.1097 O-RTN-CD : SPACE		
<p><注意事項></p> <p>(1) 1ヤード=0.91438mとして変換する。</p> <p>(2) 結果は、小数点以下5桁で四捨五入する。</p>				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRP1Z08

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRP1Z08	単位変換	メートル→ヤード変換	LXRC1Z08	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-DST	P(6,2)	距離 (メートル)	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=O , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-DSTYD	P(7,4)	距離 (ヤード)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
処 理 基 準		例		
1. メートル単位の数値データをヤード単位の数値データに変換する。		1. I-DST : 12.15 ↓ O-DSTYD : 13.6705 O-RTN-CD : SPACE		
<p><注意事項></p> <p>(1) 1ヤード=0.91438mとして変換する。</p> <p>(2) 結果は、小数点以下5桁で四捨五入する。</p>				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRP1Z09

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRP1Z09	単位変換	キログラム→ポンド変換	LXRC1Z09	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-WT	P(6,2)	重量 (キログラム)	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=0 , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-WTLB	P(7,4)	重量 (ポンド)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
処 理 基 準		例		
1. キログラム単位の数値データをポンド単位の数値データに変換する。		1. I-WT : 12.15 ↓ O-WTLB : 27.5573 O-RTN-CD : SPACE		
<注意事項> (1) 1ポンド=0.4536kgとして変換する。 (2) 結果は、小数点以下5桁で四捨五入する。				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRP1Z10

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRP1Z10	単位変換	ポンド→キログラム変換	LXRC1Z10	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-WTLB	P(6,2)	重量 (ポンド)	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=O , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-WT	P(6,4)	重量 (キログラム)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
処 理 基 準		例		
1. ポンド単位の数値データをキログラム単位の数値データに変換する。		1. I-WTLB : 12.15 ↓ O-WT : 5.67 O-RTN-CD : SPACE		
<p><注意事項></p> <p>(1) 1ポンド=0.4536kgとして変換する。</p> <p>(2) 結果は、小数点以下5桁で四捨五入する。</p>				

2. 標準サブルーチンの仕様

LXRPIZ11

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名	
LXRPIZ11	文字列処理	パラメータ解析	LXRCIZ11	
入 力 (区分: INPUT-PARM=I , CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	I-PARM	X(50)	入力パラメータ	I
出 力 (区分: OUTPUT-PARM=O , RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明及び設定値	区分
03	O-PARM-TBL		パラメータ (テーブル)	O
05	O-PARM	反復	OCCURS 10 TIMES.	
			出力パラメータ	
07	O-NAME-1	X(10)	名前1	
07	O-NAME-2	X(10)	名前2	
07	O-NAME-3	X(10)	名前3	
07	O-VALUE	X(10)	値	
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
			SPACE: 正常終了	
			LXREZ012: 半角文字コード以外あり	
			LXREZ013: パラメータ構文誤り	
処 理 基 準			例	
<ol style="list-style-type: none"> 0-PARM-TBL, 0-RTN-CD を SPACE で初期化する。 I-PARM を (文字コードチェック:LXRPIA01) を用いてチェックする。 <ol style="list-style-type: none"> LXRPIA01 のリターンコードが'LXREA007'の時, 0-RTN-CDに'LXREA012'を返す。 その他の時, 0-RTN-CDにSPACEを返す。 0-RTN-CDがSPACEで, かつI-PARMがSPACE以外の時, 以下の処理を行う。 <ol style="list-style-type: none"> I-PARMを, ','を区切り文字として二つの文字列に分割する。ただし, '('と')'とで囲まれた','は区切り文字として認識しない。 分割した文字列それぞれを, '='を区切り文字として更に分割し, 以下に従い, 名前1 (O-NAME-1), 値 (O-VALUE) に転送する。 <ol style="list-style-type: none"> 分割の結果, 右辺のパラメータが1つの場合 (例: 'A=B' を分割→左辺'A', 右辺'B') O-NAME-1 (01)に左辺, O-VALUE (01)に右辺のパラメータ 分割の結果, 右辺のパラメータが2つの場合 (例: 'A=(B,C)' を分割→左辺'A', 右辺'(B,C)') O-NAME-1 (01)に左辺, O-VALUE (01)に右辺のパラメータ1 O-NAME-1 (02)に左辺, O-VALUE (02)に右辺のパラメータ2 : 0-PARMの各文字列に対し (文字列左詰め:LXRPIA06) を呼び出すことにより左詰め編集を行う。 			<ol style="list-style-type: none"> I-PARM : 'A=B' ↓ O-NAME-1 (01) : 'A' O-VALUE (01) : 'B' I-PARM : 'A=(B,C)' ↓ O-NAME-1 (01) : 'A' O-VALUE (01) : 'B' O-NAME-1 (02) : 'A' O-VALUE (02) : 'C' I-PARM : 'A=(B,C), D=E' ↓ O-NAME-1 (01) : 'A' O-VALUE (01) : 'B' O-NAME-1 (02) : 'A' O-VALUE (02) : 'C' O-NAME-1 (03) : 'D' O-VALUE (03) : 'E' I-PARM : 'A=B, A=C' ↓ O-NAME-1 (01) : 'A' O-VALUE (01) : 'B' O-NAME-1 (02) : 'A' O-VALUE (02) : 'C' 	
<p><注意事項></p> <ol style="list-style-type: none"> 入力パラメータの構文が下記以外の場合, リターンコードに'LXREZ013'を返し, 0-PARM-TBLにはSPACEを返す。 ① 'A=B' ② 'A=(B,C)' ③ 'A=B, C=(D,E)' ④ 'A=(B,C), D=E' ⑤ 'A=B, A=C' (A, B, C, D, Eは1個以上10個以下の英大文字並び) O-NAME-1, O-VALUEの重複チェックは行わない。例の4番目のように処理する。 本サブルーチンから, (文字コードチェック:LXRPIA01), (文字列左詰め:LXRPIA06), (文字列有効桁数算出:LXRPIA09) を呼び出す。 				

付録

付録 A EUC 対応版の仕様

付録 B Unicode 対応版の仕様

付録 C 祝祭日・休日の有効期間

付録 A EUC対応版の仕様

EUC (Extended Unix Code) 対応版標準サブルーチンでは、文字列に対するチェック及び編集を EUC のコード体系に基づいて行います。このため、SJIS 対応版と出力結果が異なることがあります。

また、EUC では半角カナを 2 バイトで表現するため、半角カナを含む文字列を取り扱う場合には注意が必要です。詳細は、マニュアル「COBOL2002 言語 標準仕様編」および「COBOL2002 言語 拡張仕様編」を参照してください。

標準サブルーチンの EUC 対応版の仕様について、次に示します。

A.1 SJIS対応版との処理の違い

(1) 文字コードチェックの違い

表 A.1-1 に示すサブルーチンでは、EUC のコード体系でチェックを行います。

表 A.1-1 文字コードチェックの範囲

サブルーチンID	サブルーチン名	SJIS	EUC	KEIS
LXRPIA01	文字コードチェック	(20~7E) (A1~DF)	(20~7E) (8E : A1~DF)	—
LXRPB01	漢字コードチェック (漢字)	(81~9F : 40~FC) (E0~EF : 40~FC)	(A1~FE : 21~7E) (A1~FE : A1~FE)	(A1~FE : A1~FE)
LXRPB02	漢字コードチェック (含外字)	(81~9F : 40~FC) (E0~EF : 40~FC) (F0~FC : 40~7E) (F0~FC : 80~FC)	(A1~FE : 21~7E) (A1~FE : A1~FE)	(A1~FE : A1~FE) (41~A0 : A1~FE)

※ (上位 1 バイトの範囲 : 下位 1 バイトの範囲) を表しています

(2) 半角カナ文字の違い

半角文字列を扱うサブルーチンにおいて、文字列の長さを指定する場合の単位はバイト数です。このため表 A.1-2 に示すサブルーチンで入力文字列中に半角カナ文字を含む場合は、半角カナ 1 文字につき 2 バイトとして長さを指定してください。同様に、表 A.1-3 が示すサブルーチンにおいては、半角カナ 1 文字につき 2 バイトとして長さを出力します。

これより、SJIS 対応版と処理結果が異なる場合があります。

表 A.1-2 長さを入力するサブルーチン

サブルーチンID	サブルーチン名	長さを指定する項目
LXRPIA05	文字列シフト	I-SHFT-LENG
LXRPIA06	文字列左詰め	I-LENG
LXRPIA07	文字列右詰め	I-LENG
LXRPIA08	文字列中央揃え	I-LENG
LXRPIA13	文字列前後反転	I-LENG
LXRPIA14	指定文字削除	I-LENG I-DEL-LENG
LXRPIA15	空白削除	I-LENG
LXRPIA16	不要空白削除	I-LENG
LXRPIA17	第 1 文字列取得	I-LENG
LXRPIA19	文字列交互挿入	I-1ST-LENG I-2ND-LENG
LXRPIA28	文字列切断	I-LENG
LXRPI01	半角→全角変換	I-LENG

表 A.1-3 長さを出力するサブルーチン

サブルーチンID	サブルーチン名	長さが返される項目
LXRPIA09	文字列有効桁数算出	O-LENG
LXRPIA17	第 1 文字列取得	O-LENG

EUC 対応版と SJIS 対応版で処理が異なる例を、以下に示します。

(例 1) 文字列シフト (LXRPIA05)

入力文字列	出力文字列	
'アイエ'	'ウエ'	(SJIS 対応版)
シフトする文字列	'ウエ'	(EUC 対応版)
-2		

(例 2) 文字列右詰め (LXRPIA07)

入力文字列	出力文字列	
'アイ△エカキ'	'△△△アイ△エカキ'	(SJIS 対応版)
	'ウ△エカキ'	(EUC 対応版)
出力フィールドの長さ	リターンコード	
12	SPACE	(SJIS 対応版)
	'LXREA018'	(EUC 対応版)

(例 3) 文字列有効桁数算出 (LXRPIA09)

入力文字列	有効桁数	
'△△アイ△エカキ△△'	11	(SJIS 対応版)
	18	(EUC 対応版)

A.2 インタフェーステーブルの変更

表 A.2-1に示すサブルーチンでは、インタフェーステーブルの項目のうち半角カナ文字専用のものについては、項目長を2倍に拡張しています。

表 A.2-1 インタフェーステーブルを変更したサブルーチン

サブルーチンID	サブルーチン名	項目名	SJIS 対応版の属性	EUC 対応版の属性
LXRPID35	曜日コードチェック／編集	0-YB-KN	X(3)	X(6)
LXRPIF02	氏名(半角カナ)チェック	I-SHMKN O-SHMKN	X(20) X(20)	X(40) X(40)
LXRPIF04	氏名(半角カナ)分離編集	I-SHMKN O-SHKN O-NMKN	X(20) X(20) X(20)	X(40) X(40) X(40)
LXRPIF06	氏名(半角カナ)結合編集	I-SHKN I-NMKN O-SHMKN	X(20) X(20) X(20)	X(40) X(40) X(40)
LXRPIG02	学籍区分コードチェック／変換	0-GRKBN-NMKN	X(30)	X(60)
LXRPIG04	地目コードチェック／変換	0-CTGL-NMKN	X(30)	X(60)
LXRPIG10	都道府県コードチェック／変換	0-TDFK-NMKN	X(10)	X(20)

A.3 注意事項

(1) 文字列前後反転 (LXRPIA13)

文字列は文字単位で反転します(半角カナ文字の上位バイト、下位バイトは反転しません)。

(2) 全角→半角変換 (LXRPIC02)

編集結果が出力文字列に入りきらない場合、リターンコードに'LXREC009'を返し、超えた分を切り捨てて出力します。

付録B Unicode対応版の仕様

Unicode 対応版標準サブルーチンでは、文字列に対するチェック及び編集を Unicode のコード体系に基づいて行います。このため、SJIS 対応版と出力結果が異なることがあります。

また、Unicode(UTF-8)では半角カナを3バイトで表現するため、半角カナを含む文字列を取り扱う場合には注意が必要です。詳細は、マニュアル「COBOL2002 ユーザーズガイド」を参照してください。

Unicode 対応版標準サブルーチンの仕様について、次に示します。

B.1 SJIS対応版との処理の違い

(1) X, Nタイプインタフェースの符号化方式

インタフェース項目のうち属性がX, およびNタイプのものについては、表 B.1-1に示す符号化方式でエンコードして使用してください。それ以外の符号化方式として扱った場合の動作は保証しません。

表 B.1-1 属性別の符号化方式

属性	符号化方式	備考
Xタイプ	UTF-8	ASCII は1バイト/文字 それ以外は可変
Nタイプ	UTF-16	2バイト/文字, または 4バイト/文字

(2) 文字コードチェックの違い

表 B.1-2に示すサブルーチンでは、Unicode 体系でチェックを行います。

表 B.1-2 文字コードチェックの範囲

サブルーチンID	サブルーチン名	SJIS	Unicode
LXRPIA01	文字コードチェック	(20~7E) (A1~DF)	(20~7E) (EFBDA1~EFBDBF) (EFBE80~EFBE9F)
LXRPB01	漢字コードチェック (漢字)	(81~9F : 40~FC) (E0~EF : 40~FC)	JIS X 0213:2004 で定義された 11233 文字。ASCII (U+0020~U+007E) および半 角カナ (U+FF61~U+FF9F) は含まれませ ん
LXRPB02	漢字コードチェック (含外字)	(81~9F : 40~FC) (E0~EF : 40~FC) (F0~FC : 40~7E) (F0~FC : 80~FC)	LXRPB01 の範囲に UCS-2 における私用 領域 (U+E000~U+F8FF) と第 15 面および 第 16 面を加えた範囲

※ (上位1バイトの範囲 : 下位1バイトの範囲) を表しています

(3) 半角カナ文字の違い

半角文字列を扱うサブルーチンにおいて、文字列の長さを指定する場合の単位はバイト数です。このため表 B. 1-3に示すサブルーチンで入力文字列中に半角カナ文字を含む場合は、半角カナ1文字につき3バイトとして長さを指定してください。同様に、表 B. 1-4に示すサブルーチンにおいては、半角カナ1文字につき3バイトとして長さを出力します。

これにより、SJIS 対応版と処理結果が異なる場合があります。

表 B. 1-3 長さを入力するサブルーチン

サブルーチンID	サブルーチン名	長さを指定する項目
LXRPIA05	文字列シフト	I-SHFT-LENG
LXRPIA06	文字列左詰め	I-LENG
LXRPIA07	文字列右詰め	I-LENG
LXRPIA08	文字列中央揃え	I-LENG
LXRPIA13	文字列前後反転	I-LENG
LXRPIA14	指定文字削除	I-LENG, I-DEL-LENG
LXRPIA15	空白削除	I-LENG
LXRPIA16	不要空白削除	I-LENG
LXRPIA17	第1文字列取得	I-LENG
LXRPIA19	文字列交互挿入	I-1ST-LENG, I-2ND-LENG
LXRPIA28	文字列切断	I-LENG
LXRPIC01	半角→全角変換	I-LENG

表 B. 1-4 長さを出力するサブルーチン

サブルーチンID	サブルーチン名	長さが返される項目
LXRPIA09	文字列有効桁数算出	O-LENG
LXRPIA17	第1文字列取得	O-LENG

Unicode 対応版と SJIS 対応版で処理が異なる例を、以下に示します。

(例1) 文字列シフト (LXRPIA05)

入力文字列	出力文字列	
'アウエ'	'エ'	(SJIS 対応版)
シフトする文字列	→ 'ウエ'	(Unicode 対応版)
-3		

(例2) 文字列右詰め (LXRPIA07)

入力文字列	出力文字列	
'アウ△エ△カキ'	'△△△アウ△エ△カキ'	(SJIS 対応版)
	'エ△カキ'	(Unicode 対応版)
出力フィールドの長さ	→ リターンコード	
13	SPACE	(SJIS 対応版)
	'LXREA018'	(Unicode 対応版)

(例3) 文字列有効桁数算出 (LXRPIA09)

入力文字列	有効桁数	
'△△アウ△エ△カキ△△'	→ 11	(SJIS 対応版)
	25	(Unicode 対応版)

B.2 インタフェーステーブルの変更

表 B.2-1に示すサブルーチンでは、インタフェーステーブルの項目のうち半角カナ文字専用のものについては、項目長を3倍に拡張しています。

表 B.2-1 インタフェーステーブルを変更したサブルーチン

項番	サブルーチンID	サブルーチン名	項目名	SJIS 対応版の属性	Unicode 対応版の属性
1	LXRPID35	曜日コードチェック/編集	0-YB-KN	X(3)	X(9)
2	LXRPIF02	氏名(半角カナ)チェック	I-SHMKN	X(20)	X(60)
			0-SHMKN	X(20)	X(60)
3	LXRPIF04	氏名(半角カナ)分離編集	I-SHMKN	X(20)	X(60)
			0-SHKN	X(20)	X(60)
			0-NMKN	X(20)	X(60)
4	LXRPIF06	氏名(半角カナ)結合編集	I-SHKN	X(20)	X(60)
			I-NMKN	X(20)	X(60)
			0-SHMKN	X(20)	X(60)
5	LXRPIG02	学歴区分コードチェック/変換	0-GRKBN-NMKN	X(30)	X(90)
6	LXRPIG04	地目コードチェック/変換	0-CTGL-NMKN	X(30)	X(90)
7	LXRPIG10	都道府県コードチェック/変換	0-TDFK-NMKN	X(10)	X(30)

B.3 注意事項

(1) 文字列前後反転 (LXRPIA13)

文字列は文字単位で反転します(半角カナ文字内のバイトの並びは反転しません)。

(2) 全角→半角変換 (LXRPIG02)

編集結果が出力文字列に入りきらない場合、リターンコードに'LXREC009'を返し、超えた分を切り捨てて出力します。

付録C 祝祭日・休日の有効期間

C.1 祝祭日・休日

各祝祭日・休日は、2007年6月1日時点で公布されている「国民の祝日に関する法律」に基づくものとし、その有効期間は表C.1-1の通りとします。

表 C.1-1 祝祭日・休日の有効期間

日付	種別	有効期間
1月1日	元日	1949年(昭和24年)～
1月15日	成人の日	1949年(昭和24年)～ 1999年(平成11年)
1月第2月曜日		2000年(平成12年)～
2月11日	建国記念の日	1949年(昭和24年)～
春分日	春分の日	1949年(昭和24年)～
4月29日	天皇誕生日	1949年(昭和24年)～ 1988年(昭和63年)
	みどりの日	1989年(平成元年)～ 2006年(平成18年)
	昭和の日	2007年(平成19年)～
5月3日	憲法記念日	1949年(昭和24年)～
5月4日	国民の休日	1986年(昭和61年)～ 2006年(平成18年)
	みどりの日	2007年(平成19年)～
5月5日	こどもの日	1949年(昭和24年)～
7月20日	海の日	1996年(平成8年)～ 2002年(平成14年)
7月第3月曜日		2003年(平成15年)～
9月15日	敬老の日	1966年(昭和41年)～ 2002年(平成14年)
9月第3月曜日		2003年(平成15年)～
秋分日	秋分の日	1948年(昭和23年)～
10月10日	体育の日	1966年(昭和41年)～ 1999年(平成11年)
10月第2月曜日		2000年(平成12年)～
11月3日	文化の日	1948年(昭和23年)～
11月23日	勤労感謝の日	1948年(昭和23年)～
12月23日	天皇誕生日	1989年(平成元年)～
—	振替休日	1973年(昭和48年) 4月12日～

*1) 上記一覧表の「振替休日」は、「国民の祝日に関する法律」の第3条第2項の定義に準じます。「国民の休日」については、第3条第3項の定義に準じます。

*2) 上記一覧表のうち、振替休日を除く日については祝祭日区分(0-FEST-KBN)として祝祭日('1')を返します。(1986年～2006年における5月4日の「国民の休日」についても、日曜日や5月3日の「憲法記念日」の振替休日であっても祝祭日として判定します。)

*3) 振替休日については祝祭日区分(0-FEST-KBN)として休日('2')を返します。

C.2 春分の日・秋分の日

「春分の日」・「秋分の日」については、毎年2月の官報にて正式決定されますが、本サブルーチンでは計算から算出した仮の値を保持しています。保持している値はそれぞれ表 C.2-1、表 C.2-2の通りです。

表 C.2-1 サブルーチンが保持する春分の日

—	19490321	19500321	19510321	19520321	19530321
19540321	19550321	19560321	19570321	19580321	19590321
19600320	19610321	19620321	19630321	19640320	19650321
19660321	19670321	19680320	19690321	19700321	19710321
19720320	19730321	19740321	19750321	19760320	19770321
19780321	19790321	19800320	19810321	19820321	19830321
19840320	19850321	19860321	19870321	19880320	19890321
19900321	19910321	19920320	19930320	19940321	19950321
19960320	19970320	19980321	19990321	20000320	20010320
20020321	20030321	20040320	20050320	20060321	20070321
20080320	20090320	20100321	20110321	20120320	20130320
20140321	20150321	20160320	20170320	20180321	20190321
20200320	20210320	20220321	20230321	20240320	20250320
20260320	20270321	20280320	20290320	20300320	20310321
20320320	20330320	20340320	20350321	20360320	20370320
20380320	20390321	20400320	20410320	20420320	20430321
20440320	20450320	20460320	20470321	20480320	20490320
20500320	20510321	20520320	20530320	20540320	20550321
20560320	20570320	20580320	20590320	20600320	20610320
20620320	20630320	20640320	20650320	20660320	20670320
20680320	20690320	20700320	20710320	20720320	20730320
20740320	20750320	20760320	20770320	20780320	20790320
20800320	20810320	20820320	20830320	20840320	20850320
20860320	20870320	20880320	20890320	20900320	20910320
20920319	20930320	20940320	20950320	20960319	20970320
20980320	20990320	21000320	—	—	—

表 C.2-2 サブルーチンが保持する秋分の日

19480923	19490923	19500923	19510924	19520923	19530923
19540923	19550924	19560923	19570923	19580923	19590924
19600923	19610923	19620923	19630924	19640923	19650923
19660923	19670924	19680923	19690923	19700923	19710924
19720923	19730923	19740923	19750924	19760923	19770923
19780923	19790924	19800923	19810923	19820923	19830923
19840923	19850923	19860923	19870923	19880923	19890923
19900923	19910923	19920923	19930923	19940923	19950923
19960923	19970923	19980923	19990923	20000923	20010923
20020923	20030923	20040923	20050923	20060923	20070923
20080923	20090923	20100923	20110923	20120922	20130923
20140923	20150923	20160922	20170923	20180923	20190923
20200922	20210923	20220923	20230923	20240922	20250923
20260923	20270923	20280922	20290923	20300923	20310923
20320922	20330923	20340923	20350923	20360922	20370923
20380923	20390923	20400922	20410923	20420923	20430923
20440922	20450922	20460923	20470923	20480922	20490922
20500923	20510923	20520922	20530922	20540923	20550923
20560922	20570922	20580923	20590923	20600922	20610922
20620923	20630923	20640922	20650922	20660923	20670923
20680922	20690922	20700923	20710923	20720922	20730922
20740923	20750923	20760922	20770922	20780922	20790923
20800922	20810922	20820922	20830923	20840922	20850922
20860922	20870923	20880922	20890922	20900922	20910923
20920922	20930922	20940922	20950923	20960922	20970922
20980922	20990923	21000923	—	—	—

C.3 国民の休日

「国民の休日」に関しては、本Ver完成時点では祝日と公布されていない秋分の日が関連して休日となる見込みの場合も、表 C.2-2で示した秋分の日に基づいて休日として判定します。9月の「国民の休日」として見込まれる日は表 C.3-1の通りで、祝祭日区分(0-FEST-KBN)として休日('2')を返します。

表 C.3-1 9月の「国民の休日」

20090922	20150922	20260922	20320921	20370922	20430922
20490921	20540922	20600921	20710922	20770921	20880921
20940921	20990922	—	—	—	—

C.4 その他休日

表 C.4-1に示す日については、休日とします。

表 C.4-1 その他休日

日付	もとなる法律
1959年(昭和34年)4月10日	皇太子明仁親王の結婚の儀の行われる日を休日とする法律
1989年(平成元年)2月24日	昭和天皇の大喪の礼の行われる日を休日とする法律
1990年(平成2年)11月12日	即位礼正殿の儀の行われる日を休日とする法律
1993年(平成5年)6月9日	皇太子徳仁親王の結婚の儀の行われる日を休日とする法律